



即刻開悟の鍵 4

スプリームマスター チンハイ

即刻開悟の鍵 4

スプリームマスター チンハイ

私は仏教にもカトリックにも属しません。私は真理に属し、真理を伝えているのです。それを仏教、カトリック、道教と呼んでも、あるいはあなたの好きなどんな名前でも構いません。何でも結構です。

スプリームマスター チンハイ

内面の平和を得ることにより、私たちは他のすべてのものを得るでしょう。この世界や天国の願望を満足させたり、実現させたりするものすべてが神の王国から来るのです。それは私たちの永遠の調和、永遠の智慧、そして万能のパワーを内面で認識することです。これらを手に入れなければ、たとえどれだけお金や権力があっても、どんなに高い地位にいたとしても、私たちは決して満足することはできません。

スプリームマスター チンハイ

私たちの教えというのは、あなたがこの世界でしなければならぬことは何でも行うこと、心を込めて行うということです。責任を持ち、そしてまた毎日メデイテーションをするのです。そうすれば、あなたは自分自身とこの世界に役立てるために、さらに知識や智慧や平和を手に入れることでしょう。あなたの内面にあなた本来の善良さが備わっていることを忘れてはいけません。あなたの体に神が宿っていることを忘れてはいけません。あなたの心の中に仏陀がいることを忘れてはいけません。

スプリームマスター チンハイ

スプリームマスター チンハイのプロフィール

マスターチンハイはオウラック（ベトナム）で生まれました。彼女の父親はとても評判の高い自然療法医でしたが、世界の文学を愛し、特に哲学について興味を持っていて、老子や荘子の書物を愛読していたので、彼女は幼い頃からこのような書物を手にすることができました。小学校に入る前からこのような本や、その他東洋、西洋の哲学書を読んでいました。

彼女は普通の子どもとは違い、他の子どもたちが宿題をしたり、遊んだりしている時に、哲学や文学の本を読んでいました。父親が心配して、このような本がわかるのかと尋ねました。彼女は「おとうさん、わからないなら、このように興味は持たないでしょう」と答えました。父親はそれでもなお心配しましたが、学校でいつも優秀な成績を収めていたので、その並外れた興味に対して応援するようになりました。

マスターチンハイの両親はカトリック教徒でしたが、仏教に対しても寛容でした。彼女の祖母は仏教徒で、仏典や礼拝について教えてくれました。彼女はそのような時間を過ごすのが好きでした。このような背景の下で、マスターチンハイは宗教に対してとても寛大な態度が養わ

れました。朝はカトリック教会に、午後は仏教寺院に行き、夜は神聖な教えの講話を聞きました。そのことが彼女に、「私たちはどこから来たのか」「死後の世界はどのようなものか」「なぜ、人はこんなに違うのか」といった精神世界についてのたくさんの疑問をもたらしました。

戦時中、彼女の住んでいた町では医師と看護婦が不足していたので、授業が終わってから病院で手伝いをしました。患者の体を洗ったり、病人の便器の始末をしたり、患者の苦しみを和らげるためにさまざまなことをしました。いろいろな国の友人が彼女のことをよく「在世仏」あるいは「おもしろい聖人」と呼んでいたのは、彼女にユーモアのセンスがあり、すべての人に対して親切だったからです。彼女は生涯ベジタリアンで、殺害の光景を見ることを常に拒み続け、傷ついた動物を家に連れて帰り、手当てをして、治ったらまた元に戻していました。動物が殺されるのを見ると泣き、この世界の苦しみをなくしたいと願っていました。

マスターチンハイが幼い頃、ある占星術師が、彼女は凡人ではなく、人並み優れた品と徳を兼ね備えた大変聡明な人物だと言いました。また、出家して悟りを開くか、もし結婚すれば幸せな親戚関係を持ち、素晴らしい夫を得るはずだと言いました。後の人生で、同じような予言が機会あるごとに繰り返されました。（違う国でさえもそう言われたのです）マスターチンハイが出家して、ヒマラヤに行く時、彼女の母親はあるお寺に行き、助言をもらうために祈りました。母親は誠実な参拝者のどんな質問にも答えてくれるという、観音菩薩のお寺を選びまし

た。母親は「あなたの娘は十億人に一人というとてもまれな高貴な子どもで、生きとし生けるものを苦難から救うという使命のため、観音菩薩と共にこの世界に来たのです」と告げられました。

彼女はある時期、ドイツで赤十字社の通訳として働いていました。自分の健康と快適さを顧みず、自発的にオウラック難民のために長時間奉仕していました。赤十字の仕事を通して、多くの国の難民の苦しみを知り、戦争や天災における苦しみと困難を見続けてきました。マスターチンハイは苦しみを和らげるよう奮闘しましたが、人間の苦しみに対してはどんな意味ある影響を与えることも、無用の行為であるとすぐにわかりました。この認識が彼女に「悟りを開く」という決意を強くさせました。これこそ人類の苦痛を和らげる最良の方法であると確信したので。それでヨーロッパで生活している間に、さらに真剣にメデイテーションに励み、新しい先生を探したり、手に入るすべての靈修行の本を読んだり、多くの方法で修行しました。しかしながら、どの方法も効果がなく、経典で読んだ靈的な現象を体験することができず、悟りの状態にも達していないと感じていました。この状況は彼女にとってますます耐えがたいことでした。

ドイツにいた時、マスターチンハイはドイツ人の科学者と幸せな結婚をしました。彼は二つの博士号を持ち、優しく思いやりのある、協力的な夫でした。彼はベジタリアンになり妻と共

に聖地巡礼の旅をし、その上、彼女の慈善の仕事を支えてくれました。それでも、マスターチンハイは靈性のゴールを追究するために、いずれは結婚生活を捨てなければならぬと感じていました。マスターチンハイは長い時間をかけて、ついに許しを得て彼と別れました。この別れは二人にとって極めて困難な決断でしたが、彼女は悟りの追究のためには正しい判断であると強く感じていました。

別離後、マスターチンハイは一世で解脱できる完璧な法門を探しました。けれども、彼女の先生たちは誰もこの法門のことを知りませんでした。何千マイルも旅し、長い月日を経て、ついにヒマラヤに住むマスターを見つけ、観音法門の印心を受け、長年探していた神聖な伝法を授かることができました。観音法門を短期間修行した後、完全に悟りを開き、さらに修行を続け、理解を深めました。彼女はこの期間ヒマラヤに隠遁して、毎日修行を続けたのです。

マスターチンハイは偶然フォルモサ（台湾）に行きました。台風で大雨の夜、小さなお寺の裏にある小部屋でメデイーション（座禪）をしていたところ、戸をたたく音で遮られました。見知らぬ人たちが「観音菩薩が私たちの祈りに応えて、あなたのことを告げました。あなたは偉大なマスターであり、解脱に達するためには、あなたに祈らなければならぬと教えてくれました」と言いました。マスターチンハイは彼らを追い返そうとしましたが、彼らは帰りませんでした。結局、彼らの誠実さと忠誠心に感動し、彼らが数ヶ月の間浄化することに耐え、ベ

ジタリアンを守ることを承知したので、彼らに印心することを承諾しました。

マスターチンハイは本来恥ずかしがり屋で、弟子を探して教えることはしませんでした。実際、彼女を探し求めている人から逃げていました。インド、ドイツ、フォルモサ、そしてアメリカでも、小さなお寺で謙虚な生活を送っている時に、このようなことが起きました。今回、フォルモサで三度目の「発見」をされた時、この先、避けられない仕事から逃げてはいけないと認識したのです。彼女は真理のメッセージを聞きたいという人々に分かち始め、誠実な生徒たちに観音法門の印心を授け始めました。

マスターチンハイの宗教全般に対する並々ならぬ広い視野は、「在世のマスターが肉体の次元にとどまっているうちは、すべての宗教はみな同じである」という彼女の知識から生じています。彼女はキリスト、仏陀、老子の他、たくさんの方の教えを学びました。そして今、それを教えているのです。こういった偉大な教えの類似点を説明し、彼女の目を通して、どんな偉大なマスターたちも同じ真理を語っているということを見せてくれます。彼女はしばしば、異なる宗教観念は、それぞれの時代、世界の別の地域で、経典がさまざまに解釈された結果であると指摘しています。今日、さまざまな階層の人、さまざまな宗教の背景を持つ何百万もの人々が、彼女の教えに意義を見いだしています。そして、観音法門の修行者とメデイーションセンターは世界中のほとんどすべての国に存在しています。マスターチンハイは真理の追究者の

背景と文化によって、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、オウラック語で講義をしています。近年、彼女はアジア、アメリカ、カナダ、中米、南米、オーストラリア、ヨーロッパ、ロシアを横断して講義をしました。マスターチンハイと一緒に観音法門を学び、修行を望む人には喜んで印心を授けています。

霊修の布教活動とは別に、スプリームマスターチンハイは世界中で人道的活動を通して、人々を肉体的苦痛から救うことも重点的に行っています。それをここに紹介します。アメリカ中西部、オレゴン、カリフォルニア、マレーシア、フィリピン、タイ、カンボジア、オウラック、ネパール、パキスタン、バングラデッシュ、チリ、ベネズエラ、オランダ、ベルギー、フランスの洪水による被災者、中国の中央西部大洪水の被災者、フィリピンのピナツポ火山の大噴火で家屋を失った人々、南カリフォルニアとフロリダの火災の被災者、カナダのひょうの被災者、アフガニスタンの吹雪の被災者、ホンジュラスとニカラグアのハリケーン・ミッチ、メキシコのハリケーン・パウリナ、バングラデッシュ、アラバマ、オーストラリアの竜巻、フィリピンとバハマの台風、これらによって家を壊された人々、チリ、アフガニスタン、イラン、中国、ロサンゼルス、日本、ロシアのサハリン、そしてギリシャでの地震の被災者、この他にも戦争、テロ活動、事故による災害、南スーダン、カンボジア、北朝鮮の飢饉、オクラホマ市の爆撃、韓国の大浦ト崩壊、チェチェン、ボスニア、ルワンダ、スーダンなどの戦争による

国土破壊、というようなことで苦しんでいる人々に対しても、人道的な救援活動が行われています。財政的、またその他の援助は次のようなところに分配されました。アルバニアの Kosovo 難民、アジア全土の抑留キャンプのオウラック難民、ブラジル、インド、アルメニア、象牙海岸、オウラックの孤児院と病院、スターライト児童基金とセントジュード小児研究病院、ハワイ・モロカイ島、フィリピン・クリオンのハンセン病患者の居住区、アメリカ、イギリスにおけるエイズとガンの医療研究所の設立、インド、ドイツ、ウガンダの霊修団体、アメリカ退役軍人などです。二〇〇一年、アメリカで発生した九・一一事件の時には、スプリームマスターチンハイは近隣の州の弟子たちに、救援隊を作り、現場での救助活動を行うようにすぐに指示しました。その時、被災現場の地域に入ることができたのは、赤十字と救世軍の他に民間団体では唯一、マスターチンハイの救援隊だけでした。このような具体的な救済の寄贈の他に、マスターチンハイの愛と慈悲にあふれる生き方は、弟子たちに彼女を手本として見習うよう奮起させるのです。観音法門の修行者たちは、全世界のホームレス、貧困、老人、そして援助を必要としている人々に、救いの手を差し伸べています。

彼女はいかなる承認も求めませんが、世界中の政府はマスターチンハイの人道的活動を認め、栄誉を贈っています。例えば、ハワイホノルル市長は一九九三年十月二十五日を「スプリームマスターチンハイデー」として宣言しており、イリノイ州、アイオワ州、ウイスコンシン州、

カンサス州、ミズリー州、ミネソタ州の州知事は、一九九四年二月二十二日を同様に「チンハイデー」として宣言しました。マスターはホノルルで「世界平和賞」を受賞し、シカゴの式典で「世界精神指導者賞」も受賞しました。シカゴの式典では当時のクリントン大統領、ブッシュ前大統領、レーガン元大統領をはじめ、世界中の多くの政府官僚から祝電が送られました。また、「アメリカ名誉市民賞」の称号も許されました。

近年、マスターチンハイは自ら楽しみとする、美の表現や創作にも専念しています。彼女の靈感あふれる作品は絵画、装飾扇子、灯籠、室内装飾、ガーデンデザイン、服飾デザイン、ジュエリーのデザイン、音楽、歌、詩の創作です。こういった芸術作品は人道的活動を目的とした基金のために、たびたび作られています。

一九九六年以来、三年間続けて年末に、チャリティ音楽会がロサンゼルスとワシントンDCで開催されました。一九九八年には「音楽を通して、平和な一つの世界を」という音楽会が数々のアカデミー賞の受賞会場であるシユラインオーデトリウムで開かれました。魅惑的で思考を鼓舞させるスプリームマスターチンハイの詩が、有名なハリウッドのアーティストや、国際的な音楽家による素晴らしい演奏と溶け合い、愛と平和のメッセージが多くの人々の心に深く伝わりました。スプリームマスターチンハイは自らの芸術性を通して、神と融合する美と喜びを描き、「芸術を通して真理を分かち合う」ということにおいて、パイオニアとなったのです。

マスターチンハイは、自分は昔から悟りを開いていたわけではないと、私たちに言いました。世俗的な生活を送ったことにより、その経験から、私たちの悩み、心の痛み、熱愛、欲望、疑いがわかるのです。そしてまた、神の王国の境界（きょうがい）も知っています。ここから、どのようにしてそこにたどり着けるかも知っています。彼女の人生のこの時期、唯一の任務は、私たちの無明による苦難や混乱から脱する旅の手助けをすることです。完全な神の認識を完全に明らかにし、無上の喜びを得る手助けをすることです。あなたの準備ができた時、彼女はあなたを家に連れて帰ります。

メッセージ

靈性の師であり、芸術作家でもあるスプリームマスター チンハイは、内面の美を表現することとを、こよなく愛しています。そういうわけで、彼女はベトナムを「オウラック」、台湾を「フオルモサ」と呼んでいるのです。オウラックはベトナムの古称で「幸福」を意味し、また、フオルモサの名はその島と人々の美をより完全に表しています。マスターはこれらの名称を使うことで、その土地と住人の靈性を上昇させ、福報をもたらすと感じているのです。

ビーガンのライフスタイル

スプリームマスター チンハイは講義の中で菜食について言及しています。二〇一〇年からは「ビーガン食生活」を人類の理想的なライフスタイルとして力強く、熱心に、強く推進していきます。これも博愛の精神によるもので、ビーガン生活は動物たちが受けている大きな苦しみをなくし、人々が病気による苦しみから免れるためでもあります。また二〇一〇年四月十四日からビーガン食生活を印心の条件の一つに定めています。（ビーガンとは全く動物性成分も含まれていない食べ物のことを指します。つまり乳製品、魚、鶏と卵（受精卵、未受精卵を含む）などです）

目 次

スプリームマスター チンハイのプロフィール

- 1 この世を涅槃に変える 一七
- 2 神からもらった豊かな生活を大切にしよう 四九
- 3 真理の会話 六五
- 4 超世界の奥義 一五七
- 5 私たちは本来すでに解脱している 二二一

6	万物は一体である	一三五
7	常に涅槃にいる方法	一五三
8	老子、莊子と天国の音楽	一六一
9	自分自身を許しなさい	一八五
	印心—観音法門	三三三
	出版物の紹介	三七
	私たちへの連絡方法	三三三



この世を涅槃に変える

一九九二年二月二十三日 マレーシア・ペナンにおける英語講演

ひどい話です。生産過剰の果物でも腐らせて肥料にすれば再利用できます。なぜ海中に投棄するのでしょうか。例えば、それを天然肥料にして有機栽培をすればいいのです。どうして投棄してしまうのでしょうか。とにかく全く計画的ではありません。どの国も利己主義です。すべての国とは言いませんが、ほとんどがそうです。各国とも警戒してそれぞれのいわゆる機密を守っています。そんなことは全世界がとつくに知っていて、すべての仏陀もとつくに知っています。彼らだけが機密と思っているのです。自分たちの機密は守っていても互いにそれほど助け合っていません。ある国が援助をすると、他の国々はその国につけこんでからかい、圧力をかけるので、もう助けられなくなりません。それで、それ以上の援助ができなくなったり、多くの問題を引き起こしたりするのです。

私たちの世界はすべての面でとても豊かです。地球全体を養うことができます。さらに、耕す土地がなかったり、鉱物が破壊されてしまったり、「スターウォーズ」か何かで（マスター笑

う) 大気が汚染されてしまった三十三以上の惑星に供給できません。彼らに輸出できるはずです。新鮮な果物や野菜を送り、その代わりに彼らのUFOを輸入するのです。ええ、交換できます。彼らの優れた設備や機械を輸入し、こちらからは豆腐(笑い)、小豆、米、麦など、それどころかネコや犬や観賞用の鳥なども輸出できます。こういった惑星の中にはそれほど多くの物質がない所もあるのです。大気が破壊されてしまったので、そこでは人が生存するのは難しいので、人口を抑制しているのです。というのも、大気や酸素といったすべての物質をリサイクルさせなければならぬからです。ペットを飼う余裕などありません。ですから私たちは空気でさえ輸出できます。地球から愛を込めて、彼ら一人ひとりに酸素を一袋ずつ贈ることができます。ええ、そうすることができます。

世界の指導者たちが、利己主義であることがいかに有害か、つまり、そうした態度が彼ら自身をどれほど短命にし、それが結局彼ら自身や後の世代、また彼らの子どもたちにとつてどれほど有害であるかということだけでも認識したなら、そして、全宇宙の中には他にも惑星や文明が存在し、その人々と相互関係を保ち、コミュニケーションを試み、学び合おうとし、互いの助けとなるべきだと認識したなら、彼らは互いに論争したり、戦ったりすることをやめるでしょう。少なくとも、戦争をする代わりに、努力して平和を築く方法を見つけ出すことにすべ

けれども、今、私は誰にどう話すことができるでしょうか。大統領一人ひとりにあたってみるべきでしょうか。私たちの愛に満ちたエネルギー光線「やさしい愛の思いやり」(笑い)で、彼らを撃ち落とすのです。「やさしい愛の思いやり」で撃ちましよう。彼ら一人ひとりに愛を三袋ずつ贈るのです。けれども、もし、彼らがそれを早合点してしまつたら……。もし、私が世界の指導者に接近したら、彼らから何かをもらいたいからだと思われるかもしれませんが。誰もがお互いに相手から何かをもらいたいと思つているので、彼らもこういうふうを考えるかもしれません。ある人が何かをして、それに対して何の見返りも求めないのは非常にまれです。そうですね、私も見返りに何か欲しいですね。彼らに人々の面倒を見てもらいたいし、自分の国やこの地球全体の利益のために、本当に彼らの命をささげてもらいたいのです。そして、間違つてしてしまつたことを改善し、この地球を美しくしてもらいたいのです。そして、できることなら、私たちの技術や機械、理解力やライフスタイルを向上させ、この世界と他の世界の苦しみを減らすために、この世界を越えて他の世界と交流してもらいたいのです。

世界や国家の眞の指導者なら、広い視野を持ち、大きなスケールで物事を行わなければなりません。小集団、政治家、一部の国家、関心を持つてくれる人々の団体や自分たちの援助者、仲間、支持者、自分の国の面倒を見るだけではなく、大きな視野で考えなければなりません。私たちが考え方を大きく、心を広くする代わりに、そんな小さな範囲で考えるなら、自分自身

の品格を下げてしまいます。これはとても難しいことですが、私たちはやり遂げられるかもしれません。ある程度まで世界がひどくなれば、人々は目覚めて協力するようになり、私たちは団結するでしょう。というわけで、私たちが目覚めていなければ、神は私たちを眠りから揺り起こすために、結果として、または治療薬として、時には災害という手段を使わなければならないのです。けれども、この方法はあまりにも悲惨で、後遺症が長期間続きます。天災が来る前に、私たちは自分自身で目覚める方がいいのです。

私たちはしばらくは揺り動かされませんが、その後、再び元の悪い習慣に戻ってしまいます。向上するために、過去や以前の教訓から学ぶことができないのです。私は、世界の指導者たちが自分のライフスタイルを変えなければならぬと実感するのに十分なほど、墮落してしまうことを望みます。彼らは日常生活以上に大きな事を考えなければなりません。国境を超え、この惑星の大気圏を超えて考えなければならぬのです。さもないと、動物やアリのように、ただ自分たちの胃袋を満たすためにだけに考え、働き、暮らすようでは、つまり、自分たちの周囲のことや親戚、友達、国の面倒を見るだけでは、自分自身の偉大さを無駄にすることになります。アリアやハチはそうしていますね。それでも、ある人たちよりは組織的です。互いに協力し、愛があり、手に入れたものはそれぞれ平等に分け合います。共に働き、物を共有し、互いに分け合うのです。私たちには物が十分にあります。多すぎます。この世界は依然として豊かで、

鉱物やあらゆる資源など、すべての面で豊かです。たとえ石油がなくても、車を走らせるための別の何かを見つければ良いでしょう。UFOは石油使いません。必要ありません。火星からここまで必要な石油を運べますか。七千八百万キロも離れています。そうですね。一番近い惑星は火星でしたね。いずれにしても、私たち自身の燃料で行って帰って来られるくらい近いのです。実際にはそれほど近くはなく、ここから香港へ行くようなわけにはいきませんが。これは誰でも知っています。

目的によって使う燃料が違います。高度な世界では石油は必要ありません。やっかいですし、重すぎます。彼らは他の種類の燃料を使いますが、太陽エネルギーとは限りません。大気中には他の種類のエネルギーが存在しています。ある科学者たちは次第にそれを発見するようになってきたと思いますが、まだ使用するに至ってはいません。というのは、時々科学者が何かを発見すると、誰かが彼をつぶしにかかり、その発見を公に知られないようにし、彼を支援しないようにするのは、誰かが彼をつぶしにかかり、その発見を公に知られないようにし、彼を支援しないようにするのは、誰かが彼をつぶしにかかり、その発見を公に知られないようにし、彼を支援しないようにするのです。たぶん、経済的支援が断たれてしまうのでしょうか。それで、それ以上実験ができなくなったり、彼の後に続く誰かがその特許を盗んで破壊したり、非常に悪い目的に使ったり、売ろうとするのかもしれない。ただし、高額なので買いたい人はいませんが。それで、誰の手も届かない所で滞ってしまい、何の役にも立たなくなるのです。わかりますか。依然としてこういう考え方の人々がいる限り、私たちのこの地球に未来はありませんし、文

明的な世界になるとか、真に威厳があり、尊厳ある人間生活といった価値ある人生の世界になる望みはありません。そうでしょう。とても難しいことです。ですから、私たちの仕事はそれほど悪くないと思います。私たちは人々に、少なくとも正直になり、勤勉で自分自身に頼り、自分の智慧を探し求めるよう教えることができます。そうすれば、彼らはどんな小さな仕事をするにも心から献身的に行います。たとえ仕事ができなくても、とにかく社会に対して誠実です。他人をだましません。トラブルを起こしません。忍耐強く尽くします。あるいは、少なくともトラブルのもとになることはありません。それに、彼らは他の人の成功を嫉妬したり、破壊したりしないでしよう。それが、彼らがたまたま仕事上見つけた、科学的分野やどんな分野の成功であつてもそうなのです。

私たちの弟子の多くは、どこで他の弟子に会つてもお互いに兄弟だと感じます。通りや、どこか別の場所とか、たとえ初めての場所ではつたり出会つたとしてもそう感じます。そして、その人は信用できるとわかるのです。その人が自分を助け、愛し、少なくとも害を与えないだろうということがわかります。そうですか。(聴衆答える…はい) ですから、世界全体がこうならどうでしょう。私はあえて言います。このような兄弟関係を築いている宗教団体は他にありませんか。名前をあげてごらん下さい。見つからないでしょう。そうですね。私たちのように互いに信頼できる、いわゆる兄弟関係のある団体を見つけないのは難しいです。(聴衆答える…そ

うです。(拍手)

もちろん、私たちにはまだ欠点も個性もありますが、お互いに信用でき、自分たちに愛があり、愛を与えられることも知っています。私たちが持っているものは何でも与えられることを知っています。こういうことでお互いに信用し合うのです。もし、私たちがこのような世界を造れば、天国に行く必要はありません、涅槃について論じる必要はありません。まさにここにいればいいのです。(拍手) ですから、私たちは涅槃からスタートしますが、最後にはこの世界が涅槃になるのです。それでいいのです。実際、私たちの目的は自分の義務やこの世界から逃げることではありません。もし、私たちがここにいられないとか、この世界を変えられないというのなら、あの世に行かなければならないだけのことです。(マスター笑う)

ですから、あなたがこの世界を愛するのなら、あなたが地球に降りて来た人なら、そして地球の人類だと思えば、この世の人々にまだ価値があり、信用する価値があると思うのなら、彼らを救うことです。あなたの智慧を使い、靈修行、慈悲、愛、観音法門において、あなたが知ったことを使って彼らを救うのです。それが私たちの義務です。すべての人々が観音法門を修行し、菜食をしてもなおこの惑星が好きになれないなら……。いいでしょう。別の惑星が用意されています。他の惑星があなたを待っています。たくさんあります。「私の父の家にはたくさん部屋がある」のです。それは確かです。けれども、上に行ける人はいつでも下に降りて来ら

れますが、下のレベルの人は必ずしも上の世界に行けるわけではありません。

みなさんが私たちのこの法門や目的、私の教えについて疑問がある場合、みなさんはまだ新しく入ったばかりの人か、まだ隣の人が話したような素晴らしい、震えるような体験をしていないからか、ずっと別の法門や修行法を行っていたからか、あるいは、故意に間違った食べ物を食べたからなのです。固い信念を持ち、新たに始めるよう、私はみなさんに気づいてもらいたいです。あなたが受け取る栄光の言葉は、決して私の利己心によるものではありません。

私は自分の体や身内の利益について、一秒たりとも考えることはありません。いつもそう言っていますし、誰もがそのことを証明できます。例えば、私が二十七年前に離れたオウラック（ベトナム）にいる家族は、つい二カ月前に初めてテレビを買ったのです。わかりますか。私が家族に数千ドルを送金したからです。どうして彼らがテレビを買ったかという点、私のビデオが見たかったのです。（拍手）このことから、私が利己的でも、家族の利益を考えているでもないことがわかってもらええると思います。

もちろん家族が助けを求めれば助けます。彼らが呼ばなければ知らんぷりをします。彼らは十分暮らしていけると思っていますし、物質面での快適さに関してはいあまり心配していません。生活している以上は大丈夫です。私は神に彼らの面倒を見てもらっています。けれども、もちろんひもじい思いをさせたり、死ぬようなことはさせません。他の人々を助けられるなら家族

も助けられますが、金持ちにさせるとか、名声を与えるということではありません。私はみなさんと同様に無力です。決して弟子たちに私の両親に会いに行ったり、おじぎをしたり、私の家を見に行ったりさせません。たとえ、それが私の榮譽とか、親の榮譽であったとしても、私は弟子たちに行くことを禁じています。行った者は、私に会いに戻って来ることを禁じているのです。

物質的存在や、二、三の体に榮譽を与えても何の役にも立ちません。最高の榮譽は、みなさんがメデイテーション中に見つけるでしょう。自分自身をさらに良くし、この世界のとても素晴らしい市民にするのです。これが、みなさんが私に榮譽を与える方法です。他に方法はありません。ということ、みなさん自身が選んだのは素晴らしい道であり、良いマスターであり、正しい教えであるということをもう一度信じてください。みなさんは私をマスターと呼ぶことができます。物ごとと呼ぶなら、私はもうたたえられません。けれども、みなさんは私をマスターと呼んでいます。それはみなさんが、この人は自分たちが知りたいことや理解したいことを知っている人だということをはっきりと理解できたからです。これこそ私たちが目指すゴールです。わかりますか。その人は私たちがなりたいたいのの手本です。その人は自分自身をマスター（主宰）しているのです。そういうわけで、私たちはその人を「マスター」と呼ぶのです。

いずれ、私たちが自分自身をマスター（主宰）した時には、自分のことを「マスター」と呼

んでも構いません。自分自身をマスター（主宰）した人が本当のマスターです。そして、これこそ私を「マスター」と呼ぶ唯一の目的です。そうでなければ、私にはこの仕事を引き継ぐ前よりも榮譽を与えられることはありません。同じです。私利私欲はありません。私たちの道は正しく、人々に最も利益をもたらし、最も早いものです。私たちの弟子は、私が今までに知っている世界中の他のどんな団体の弟子よりも早く進歩しています。

私はすべて誠実に話すので、みなさんはその方法を見つけ出そうとすることができるのです。別の方法を学ぶために時間を費やしても構いません。私は嫉妬しませんし、恐れもしません。みなさんが私から離れていくことを恐れませんが、みなさんが自分の時間を浪費し、再びここに戻って来た時、後悔して「何と無駄なことをしたのか」と言うのを恐れるだけです。（拍手）ですから、自分の知りたいものを見つけ出し、そして足元をしっかり固めることです。本当に私から見つけ出さなければならぬなら、ぜひそうしてください。それより良い方法があるかどうか本当に見つけ出したいなら、どうぞすぐにそうしてください。ためらったままそこに座ってはいけません。お互いに時間の無駄です。みなさんが別のもっと良いものを見つけたなら、私はもう喜んで行ってもらいます。弟子が少なければ私はあまり疲れなくてすみません。そして、私も仲間に加わるかもしれません。共に修行仲間になれます。私は今のみなさんのように、そこに座って弟子の立場を楽しむことができるでしょう。すべてが素晴らしく、面

倒を見てもらい、愛されていて、何の責任もありません。そして、みなさんがしているように、グルをあちこち追いかけて回すこともできません。とてもロマンチックで健康的です。

「ご存じの通り、私はみなさんに信じるように強制したことはありませんし、この「クレージ」な」集団に無理やり入れるために、決して超能力を使ったり、非論理的な話をすることはありません。（笑い）みなさんが選択してやって来たのです。そうですね。あなたが選んだのなら、それが良いものかどうか確かめることです。悪いものを選んでしまったとしても、それも一つの選択です。利益のないものに従うのはエネルギーと時間の浪費にもなります。いったん従ったなら、それが大丈夫か、良いものか、正しいかを確かめなければなりません。そして、それが正しく、かつ利益があると確信したら、そこから最大の利益が得られるようにずつとしがみついていることです。全エネルギーを注ぎなさい。そうでないと、利益は半分しか得られず、時間の無駄です。それならいつそのこと離れた方がいいです。そうですね。（聴衆答える…はい）

それはちょうど結婚のようなものです。いったん相手を選んだら、結婚生活を守るために、お互い努力することです。というのは、この結婚生活が不幸せなら、あなたは外で働くこともできないからです。その活力も興味も起きないのです。二人とも結婚生活のために努力しなければなりません、一生懸命努力したなら、あなたは良いパートナーを選んだと思うのです。

けれども、良い効果が上がらなかったり、二人とも改善したくないなら、努力しないほうがいいですね。お互いの時間とエネルギーを無駄にして苦しめ合ってははいけません。自分にとって良いことであるとか、結婚生活がなければ生きられないと思うなら、努力しなければなりません。何事も維持するためには全力を尽くさなければならぬのです。

私たちの世界は涅槃と同様に美しく変えられます。世界中の人々がそれに向かって努力しないからこんなふうなのです。そうでなければ、どんな浄土にも負けないくらい美しくできます。兵器や戦争、相互の殺戮、争奪、追放のために浪費される世界中のすべてのお金を使って、この地球上の道路を舗装したり、さまざまな美しい木々やエキゾチックな花々やとても栄養価の高い果実や食べ物を植えたり、そればかりか、観賞用のものを植えられます。食べる必要はありません。たくさんあるなら見るだけでいいのです。そしてその果実が落ちて、やがて腐敗し、再びその木の肥料となります。私たちはその良い香りをかぐことができ、この地球を美しい天国に変えられるのです。

私たちの道路は、阿弥陀仏の世界のように瑠璃や金で舗装する必要はありません。セメントやアスファルトで十分満足できます。きれいですし、これで十分です。私たちは泥がない所を歩けますが、泥でさえも美しいです。その辺にごみも落ちてなく、そこら中に放射能を出す電池もころがってなく、至る所にプラスチックやゴムもはびこってなく、自動車の排気ガスが私

たちの鼻を汚染しないならそれでいいのです。私たちはお金や資源やエネルギーを科学に投入できます。今よりも良い車の走行方法や、人類の安全確保、公平な分配方法を発見するために使用できるのです。それは何々制度とか、いわゆる何々主義といった、人々を貧困に陥れるようなものではなく、むしろ貧困から豊かなレベルに引き上げる方法です。こういう方法でなければいけません。他のどんな方法でもだめです。私は政治家ではありません。ただ論理を話しているのです。私は政治が好きではありませんが、時には、政治といわゆる宗教や道徳的な教えは切り離すことはできません。なぜなら、昔は賢者だけが国家を統治できたからです。

ですから、かつて中国に堯舜の時代があり、エジプト黄金時代、ギリシャ黄金時代があったのです。修行者は政治にかかわるべきではないと言う必要はありません。私たちはかかわりませんし、そうしたくもありません。かかわっても私たちには何もできません。けれども、私たちは論理的に話し、なぜ政治が失敗するのかをみなさんに理解させることができます。つまり、それは真の政治ではないからです。真の政治は長続きし、国家と世界に利益をもたらすでしょう。現在、世界には数名の大変素晴らしい指導者がいます。私自身も彼らが好きです。支持しようと思えばできますが、それは、彼らの所へ行って握手して、私はあなたの支持者ですと伝えることではなく、私のやり方でします。そうすれば彼らは権力の座に長くいられるのです。私は目に見えないやり方で彼らを援助するかもしれません。そうすれば、少なくともこの世界

に多少の光があり、神のために働き続ける良い道具が存在することになり、世界は地獄にならずにすみます。(拍手)

他に世界を救う方法がないなら、私たちはメデイーションをすべきです。自己を改善し、道徳的な常識を持つのです。それも大いに役立ちます。世界中、欠点と不公平だらけです。素晴らしい人々からなるグループが世界中にたくさんあれば、例えば、殺生をせず、菜食でも控えめに食べ、すべてに食欲ではなく、印心しているかいないかにかかわらず、できる時にできる範囲で人々を助ける、そんなグループがあれば、それはすでにこの世界に対して大きな貢献をしていることになります。将来、他の人々もゆつくりと私たちを手本として従うようになるでしょう。言葉ではなく、身をもって模範を示して教えるのです。

もちろん、私は言葉でも教えます。なぜ私がこうするのか、みなさんがなぜそうしなければならないのかというのを、みなさんは言葉によって知るからです。それもまた有益ですが、私たちが話をするだけで何もしなければ、それは役に立ちません。害になることさえあります。私たちのエネルギーと、私たちのくだらない話を聞く人々の時間を無駄にするからです。果物が果物に見えても栄養がなければ、それはゴミです。違いますか。そうでしょう。自身の修行力や行動力を伴わない空論なら、それもまたゴミです。エネルギーと時間を無駄にする空っぽの言葉です。

人々はその時間にもっと価値のある話を聞くことができたでしょう。あるいは、もっと良い話が聞ける他の人を探せたでしょう。でなければ、その時間を睡眠などもっと有意義に利用できたでしょう。それとも、おそらく偶然良い本を見つけて、良いことを読んだかもしれません。または、無意味な話を聞くことより、マスターや修行仲間に出会ったり、彼らにとってもっと有益なことを見つけたかもしれないのです。そういうわけで、私たちが話す時は、自分が知っていること、自分が本当に確信していることを話さなければなりません。そうすれば、パワーがあり、エネルギーがあり、人々の利益になるのです。

そういうわけで、ほとんどの人の祈りは実現しないのです。エネルギーがないからです。ただ口先だけで話すか、その弱く微かなエネルギーでほんの一瞬考えるだけなので、人々の思いは実現せず、祈りはかなわないのです。祈りに必要なエネルギーとそれを支える精神力もありません。これは本当の祈りではありません。本当の祈りなら常に実現します。エネルギーがあったら、望む対象を引きつけるからです。引きつけるエネルギーがなければ何も起こりません。二つのものを一緒に置いたとします。一つは磁石で、もう一つは磁石に似せて着色した木片だとすると、この二つが物を引きつける力は同じではありません。本物の磁石だけが鉄や金属を引きつけるのです。決して、もう一方が何かを引きつけることはありません。どんなに長く置いておこうと、どんなに磁石に似ていようと関係ありません。わかりますか。

ですから、みなさん観音法門の修行者が祈ると実現するのです。パワーがあるからです。今では自分の欲しいものを祈るパワーまであります。今まではありませんでした。みなさんは祈りの本当の意味を知りませんでした。「ああ、神様、これを下さい。あれを下さい」と言っているだけです。神がそんなに安っぽいものだと思いますか。(笑い) 一本の針でさえ、木片やただの鉄に引きつけられることがないのに、どうして神がみなさんのつまらない、無意味な言葉に引きつけられるでしょうか。わかりますか。それに、みなさんは自分が言ったことの意味もわからず、自分が祈ったことさえ信じていないのです。ですから、祈りはマスターを知ってから始まるのです。マスターはあなたの中に、祈りのパワー、祈るためのパワー、考えるためのパワー、物事を実現させる自分自身のエネルギーを使うためのパワーを目覚めさせるからです。(拍手)

そういうわけで、印心後祈ることは、それがみなさんにとって良いことなら、ほとんどは実現します。良くないならマスターは与えません。(笑い。拍手) そうです。ちょうど子どもたちがキャンディーをたくさん欲しがると、親が「だめ」と言うようなものです。そうでしよう。一つや二つ欲しがるのはまだいいのですが、夕食や昼食に比べて多すぎるなら「だめ」です。時々、子どもたちは火遊びをしたがりますが、やはり、親は「だめ! あなたは火を使ったり、火で遊んだり、火が良くないという体験をするほど成長していない」と言うのです。わかるま

で待つても遅すぎることはありません。大きく成長すれば、火を使え、体験できます。わかりますか。今はまだ幼すぎます。火が良くないことはわかっています。その良くないものを取り扱ひ方を知りません。成長したら火が危険であることを知り、どう扱うべきかがわかります。それで火で遊べるのです。火それ自体は同じものですが、みなさんが違うのです。

ですから、ある人にはできても、他の人にはできないことがあります。マスターにはできても、みなさんにはできないことがあるのです。マスターは印心を授け、人々のカルマを取り除くことができますが、みなさんはまねをしてはいけません。(笑い。拍手) マスターは、みなさんにはできないたくさんのことができます。けれども、みなさんでもできるようになるのです。将来そうなります。みなさんが強さ、パワー、そして悟りにおいて成長すれば、マスターがするのと全く同じことができます。それどころか、それ以上にできるかもしれません。神がみなさんにもつと責任を与えたいと思つたら、みなさんは何でもできるのです。それは、マスターの外面的な行動ではなく、内在の智慧です。マスターにはなぜ自分がそうしたのかを知る方法があるのです。私たちにはわかりません。時にはわかることもあります。わからないこともあります。私たちはただ、「ああ、マスターはただ話をしている、人々を夕食に招いている、お茶を飲んで、あの人たちの額に触っている。私だってこんなこと全部できるし、それ以上でできる」と考えるのです。(笑い。拍手) 「五つの聖名を唱えることもできる。それに、彼女の

本はみんな、私にだって書けるかもしれない」。けれども違います。重要なのは物事の表面的なことではありません。その背後に隠された、目に見えないパワーなのです。

今日にしても、私たちが外でジャーナリストと話していた時に、みなさんは誰かが言ったことを偶然耳にしたでしょう。例をあげると、今コスタリカにとっても修行熱心な弟子がいるのですが、彼は私のことが大好きで、私が行った時も帰る時も、いつも赤ちゃんのように泣くのです。とても良く修行し、大変良い体験があります。最良というわけではありませんが、かなり良く、早く進歩しています。けれども、彼は私を知らずいぶん前に、別のいわゆるマスターから印心を受けています。たぶん同じ方法で同じ法門ですが、彼には恐ろしい反応があり、それでやめてしまいました。わかりますか。そして、その後彼は進歩しました。印心後、私に会ってからも早く進歩しました。

アメリカにも別の例があります。彼もまた、インドの有名なグルの一人から印心を受けました。そのグルも私同様、音と光の法門を教えています。ただし、彼は十年か十二年の間進歩しませんでした。そして、やがて彼は別の法門にのめり込み、だまされてしまい、いろいろなことが起きて、そして前より悪い状態に陥ってしまいました。それで、彼はすっかり自信を失い、修行もすべてやめてしまいました。たぶん気の毒な、後悔するようなことさえもしたのでしょう。けれども、私に出会ってから彼は自信を取り戻し、修行を再開すると、とても早く進

歩しました。それで、彼は私に「どうしてですか。実際には同じ教えなのに、どうして効果が違うのですか」と尋ねました。(拍手)

たとえ彼らが同じ、いわゆる音と光の法門を教えていたとしても違うのです。これは私自身もわかっていきます。ある人はお金のためにこの音と光を教えています。一回の授業料はいくらでしょう。授業を受けるためには、まずお金を払わなければなりません。毎月多額のお金を納め、二、三年してから、ようやく光と音の体験の保証もない印心をしてくれます。たぶん、一人や二人は体験があるかもしれませんが、低いレベルの音です。私は誰かを非難しているわけでもなく、その人の名前を言うつもりもありません。けれども、私が言いたいことは、ただ私たちが判断したり、まねしてもよいのは、外面的な行為ではなく、内在のパワーだということです。それは、すべての事を成し遂げるために、特に精神面において成し遂げなければならぬ内在のパワーです。マスターはこう歩いているとか、あんな服を着ているということをまねすることでありません。ここを触って、あそこを触って、ここで手を振って、あそこで手を振って、キャンディーをあげて。(笑い)これがマスターのすべてではありません。もつと多くのことがその背後に存在するのです。愛であり、パワーであり、加護なのです。神からの、愛と慈悲の大海からの、完全な心遣いと配慮があるのです。(拍手)もし修行をしなければ、得るのは難しいのです。レベルが十分に高くないと、こういうことは理解できません。

けれども、みなさんはマスターから何かをもらった時と、他の人から何かを受け取った時とは、何か違う感じがするかもしれません。全く何も感じないかもしれないかもしれませんが、やがて助けになるでしょう。例えば、私たちの修行者の一人は、奥さんが光を見るまでに、マスターに三回も加持してもらわなければならなかったと言いました。一回目、見えません。二回目も見えませんが、三回目に、「わあ!」。彼女は言いました。「見えた、見えた」。そうです。ある人はゆっくりです。私が知っている修行者は、印心の時は何も聞こえなかったと言いました。彼は他の宗教団体の指導者の一人でした。彼は私たちの所に来て印心を受けました。けれども、それまでのこと、おそらく先入観が原因で、どこかに引っ掛かって身動きがとれずにいたのかもしれない。初めて音が聞こえるまでに一週間かかりました。けれども、一生懸命努力し、たくさんメデイテーションをして、ついに「上のあそこ」まで這い上がりました。彼の努力は評価に値します。今では彼は一番の支援者で、一番誠実な修行者の一人です。印心後はとても修行に励んだのです。とても努力しました。

けれどもそれは珍しいことです。印心後、彼は一週間何も聞こえませんでした。それで、とても腹を立てました。というのも、彼はいわゆる指導者で、誰でも体験があったのに自分は頂点にいたのにもかかわらず、何の体験もなかったからです。彼は落胆し、自分自身に腹を立てました。けれども、その地位こそ障害となっていたのです。自分は世界中でずば抜けた知性の

持ち主だと思っていました。それに彼は雄弁ですべての經典に精通し、そしてたくさんのお話を知っていてよどみなく話せました。長い間、卵を除けばベジタリアンだったので、たぶん自分は大丈夫だと考えていました。それで、彼は一〇〇%、一〇八%、準備万端整っていると思っていました。そういうわけで、とても失望したのです。

私たちが自分のことをとても素晴らしいか、優秀だとか思っている時は、頭脳にだまされているのかもしれませんが。頭脳は栄光、称賛、幻想が好きで、そして「私は素晴らしい」と考えることが大好きです。その一方で、頭脳は私たちが墮落させることもあります。意気消沈させ、劣等感に陥れ、そして虚栄心を利用して私たちをだまします。これが頭脳が私たちをだます二つの方法です。この世で人をだます最悪の方法は、拝むべきでないものを人々に拝ませることです。木を拝み、石を拝み、あらゆる種類の生命のない物体を拝み、その上、仏陀はこのことを知っていると思うことです。仏陀は知っているかもしれませんが、私たちは知らないかもしれません。というのは、私たちは内面のつながりを探し当てていないからです。ですから、たとえ仏陀が私たちに語りかけたいと思ったとしても、私たちには聞こえません。電話がつながっていないのに、どうやって相手の話を聞けるでしょう。そこにある電話に向かって何度頭を下げて関係ありません。(拍手)

これは、魔の仕掛けたわなですが、誰もそのことを知りません。人々は何かにしがみついて

いることや、自分たちは敬虔である、哲学を理解している、何かを学んでいるなどと、自分自身を称賛することを好みます。ですから、魔、幻想の王は、彼らが自分自身に満足し、永久にそこにとどまらせるために、わなを仕掛けるのです。「私は礼拝している。私は信心深い。私は仏教徒だ。私はああだ、こうだ。私はすべてのものだ。私は忙しい。私は修行している」と。

宗教に関するいろいろな資料は頭脳を満足させるだけのものです。もっと良いことを考えたり見つけたりさせないために、貴重な時間をだまし取るのです。それで、彼らはみなさんに木像を拜むよう言い続け、ある日みなさんはそれが仏陀であると認識してしまうでしょう。ええ、そうかもしれません、それは木製です。木の仏陀です。(笑い) 釈迦牟尼仏はいつも「仏陀はあなたの中にいる」と言いました。そして、キリストは「神は汝の内に宿っている。汝が神の殿堂である」と言いました。彼らは何を言いたいのでしょうか。みなさんはこうあって欲しいという形に神を造り、こうあって欲しいという形に仏陀を造っているのです。わかりますか。みなさんの認識、レベル、パワーにより、仏陀はそうなるのです。(拍手)

例えば、私はみなさんに観音法門を教えています。法門などないのですが、法門と呼ばなければなりません。そうでなければ、私の人々に「ここにいらつしやい。でも私は何もあげません。法門もありません」と言ったら、誰も来ないでしょう。けれども、しばらくすると、みなさんは本当に法門などないことを理解します。みなさんを助けているのは、マスターのパワー

だけです。そうですね。さもないと、誰かが法門を一〇〇ドルで売っていたとしても、みなさんは何も得ることはないでしょう。または、他の学校でいわゆるグルが同じ法門を授けたとしても何も得られないでしょう。いいですね。彼らもみなさんに、ここに座り、そこに集中するように指示しますし、彼らもみなさんに触れます。二千年間も触つても、みなさんの頭は依然としてみなさんの頭です。(笑い) 仏陀の頭にはならないでしょう。なぜなら、みなさんのものはみなさんのものだからです。

さて、私が観音法門を伝授した後で、みなさんはメデイテーションをしたとします。みなさんは、自分がどんなパワーを持っているのか、自分が忘れてしまったのはどんな能力なのか、自分には使ったことのないどれほどの智慧があるのか、自分は誰なのか、この宇宙の中で自分がどんな地位にいるのかということを自分の内面で見つけ出そうとします。くりかえし見つけます。そして、やがて第一界を見つけると、自分が今ではとても愛があることに気づくでしょう。前よりストレスが減ったと感じ、こう思うのです。「ああ、これが神だ。神は私を助けてくれている。神はストレスを除き、私の病気を癒して助けることができる」と。第一界ではいくらか病気が治ります。時には、みなさんが誰かに触れるとその人も癒されます。ヒーリングパワーがあるのです。みなさんは、「ああ、神にはヒーリングパワーがある。これが神だ。神には愛がある。神は私に愛を下さる。私は今愛されていると感じる。私も他の人を愛していると感

じる」と言うでしょう。

けれども、その愛は依然弱いレベルのもので、気にすることはありません。みなさんは前より良いと感じます。そして、菜食して体も良くなったと感じます。前より良く考えられるし、今は隣人のことももっと愛せます。それで「私の仏陀は愛である。私の仏陀はヒーリングパワーである。私の神はヒーリングパワーであり、不思議なパワーである」と明言し始めるのです。わかりますか。神は多くの不思議なことができるのです。あなたは神がそこにいることを知ります。神の存在や、神にはどのような本質があるかを知ります。そして、もう少し時間が経つと、修行を積み第二界へ到達します。すると突然誰がいつ質問しても、あなたは雄弁に話せるようになります。今まで聞いたことがないような言い方や、今まではあなた自身も答えられるとは夢にも思わなかった言い方で彼らに答えられるのです。世界中のすべての経典や聖典を理解し、五大宗教すべてが同じことを語っていることを理解します。そうです。ひとりで言うなら、あなたは本当に雄弁であることを認識したので、

時には自分の過去、他の人の過去、未来を見ることが出来ます。自分たちがなぜお互いこのように結びついているのかを知ります。あなたと他の人々との有形、無形のカルマの結びつきを調整できるのです。それで急に人間関係が順調になります。突然、二人の敵が戻って来て愛し合うかもしれません。なぜなら、無形の、あなたの修行のパワーが、マスターのパワーが、

あなたの人生や人間関係から生まれた過去の憎しみを円滑にするからです。それで、あなたは「神には智慧がある。神は仏陀だ。神は悟りだ。神は雄弁だ。これが神だ」と明言するようになるのです。それで、あなたの神は少しばかり背が高く成長したのです。(笑い) これが、あなたがどのように神を造り、仏陀を造るかという方法です。あなたは、「ああ、神は一種の記録装置を持っているので、私たちはその中のすべてを見ることができると言うのです。

やがて、あなたには聞こえてきます。雷の音とか、大水の音が聞こえます。それで聖書には神は雷の音や、大水の音のような声で話すと書かれています。これが、当時の人々が神を表現した方法です。彼らが巨大な炎を見た時、「神は巨大な炎の中から現れる。神とは巨大な炎のようだ」と言いました。ですから、彼らの神は異なるのです。今のあなたの神は今までの神とは異なります。第一界に達しただけの修行仲間や、第三界に達した修行仲間の神とも異なります。その人の神はあなたの神とは異なるのですが、同じ神です。かわいそうに、神は違った目で、違った角度から見られているのです。まるで、釈迦牟尼仏が生存中に語った、象を触つて、象を表現した四人の盲人の話のようです。象の耳に触った人は、「わあ、象はうちわみたいだ。大きなうちわだ」と言いました。足に触ったもう一人は、「ああ、象は大きな柱のようだ」と言いました。鼻に触った一人は「ああ、象はまるでホースのようだ」と言いました。そして、しっぽに触ったあと一人は「わあ、象はほうきみたいだ」と言いました。これが、普通の人々

の神の見方です。これが修行者と違うレベルの人々が神を見て、自分自身の神を造り出すやり方なのです。

ですから、「神はあなたの内にある」「仏陀はあなたの心の中にいる」と言われているのです。これがその真意です。(拍手) さあ、みなさんは仏陀や神が造れることがわかりましたね。私はみなさんが最高の神を造り出すようアドバイスしましょう。私たちの神は無上であり、至高でなくてはいけません。私たちの時間やエネルギーや注意力に値するものでなければなりません。時は金なりです。私たちがまた、最高の神を買う必要があるようです。(笑い) さあ、神はみなさんが拝むために存在するのではなく、私たちが神のパワーを使うことを要求していることがわかりましたね。私たちが自分自身のパワーでこの神を最大限に利用しなければ、祈っても何も起こりませんが、誰も責めることはできません。天上界の一番上から地獄の一番底まで、責めなければならぬのは自分だけです。みなさんは間違った道に進んで、間違った道を歩いてしまったのです。間違った方角のものに、間違った方法で近付いてしまったのです。

観音法門は、みなさんに自分が神であること、そして自分が神を造る方法を理解させるものです。自分のレベルが虫程度なら、神は虫と同じくらい低いレベルにもなれます。自分のレベルを虫より高くしなければ、神は永遠に虫のレベルにとどまります。自分のレベルをより高くすれば、みなさんの神もより高くなり、より高いレベルの神をたたえられます。ということ、

自分自身のメデイテーションと悟りのパワーによって神をたたえるのです。それが最高の祈りです。それが神への最高の賛美であり、最も有意義な祈りであり、神のためにみなさんができる最も有意義な仕事です。(拍手) もし、私たちが神、仏陀、アラ、あるいはみなさんの言うどんな人でも崇拜すると言うなら、私たちは無明のレベルにとどまるのです。本当に神を侮辱し、本当に神や仏陀の榮譽を汚すことになるのです。

ですから、釈迦牟尼仏は「あなたが仏陀を信じていても、仏陀を理解していないなら、それは仏陀の榮譽を汚している」と言いました。これは真実です。どのように仏陀の榮譽を汚すのでしょうか。あなたが無明のレベルにとどまることで、あなたは無明な神であり、もう神のことを信じていないということの人々に見せることになります。なぜなら、あなた自身の無明な考えや見解によって、神を無明な神にしてしまっているからです。あなたは神をこのようなものだと考えるのです。「私は神に祈るけれど、神は聞いてくれない。私はここで神にひざまずいているのに、神は見てくれない」と。神が見ていないのではありません。あなた自身が、神が見ているのを知らずに、神の加護を直接受け取らないでいるのです。あなたが自分の周りにたくさん障害を築いて、あなた自身が神からの福報や加護を拒絶しているのです。世々代々積み重ねられた偏見で、「私は価値がない。私は悪い。私は無明である。私は自分の神性に反するあらゆる過ちを犯している」と考えるからです。

ですから、今でも祈る時に、こういう考えが、自分が神であることや、神からの恩恵を知ることが潜在的に妨げるのです。それであなたは、神はこんなものにすぎないと思うのです。あなたにとって、神は単に祈ったり、不平を言ったり、要求したりする存在にすぎませんが、実はそうではありません。神はそれぞれ違います。あなたがどのように考えるかということ、あなたのレベルによって神は違ってきます。神がそんなにたくさんいるということではなく、私たちの観点が違うので神も違うのです。わかりましたか。本当に神を崇拜していると言うためには、神を理解し、悟らなければならないのです。(拍手) ですから、釈迦牟尼仏の言ったことは間違っていないです。もし、理解していないなら、盲目的に信じてはいけません。さもないと、仏陀の榮譽を汚すことになるのです。

いずれにせよ、みなさんは正しい道にいます。みなさんは今までにこのことを理解していると私は思います。そうでなければ、みなさんは私に会いに来ないでしょう。失敗した人でさえも私に会いに来たり、とにかく私に会いたがっています。彼らには来る面目がないのかもしれないが、私に会えることはありません。もし、彼らが管理されず、誰かに始終注意されたり、小言を言われたりせずに他でゆつくり修行したいなら、家でゆつくりやっついていてもいいです。私に早く付いて来たい人は、一生懸命修行し、何事も早くなければなりません。私は早い人が好きです。みなさんは私にとって決して早すぎることはありません。(拍手) なぜなら、世界

はそのように早く働ける人々を必要としているからです。世界にはそのように早く考える、智慧のある、良心的で、道徳的で正直な人々が絶望的に不足しています。ですから、多ければ多いほど良いのです。

あなたの神がどれほど偉大か、より早く知ることには良いことです。あなたは愛を伝播することができずし、他の人にあなたの神を見せることもできません。人々はあなたを見る時、神を見るかのように、畏れで震えるかもしれませんが。愛で高貴になったと感じるかもしれませんが、ただちよつと違う感じを受けるだけかもしれません。これが、あなたを通して神が人々を祝福する方法です。あなたははゆつくりと神のレベルに上がって行くからです。わかりますか。これが、私たちが世界を祝福する方法です。これが、私たちが神を崇拜する方法です。これこそ、私たちが真に祈る方法なのです。

たとえ私たちが祈っていない時でも、それでも神はあなたやすべてのもの、そしてあなたを見る人々を祝福しています。わかりますか。その時あなたはすでにマスターなのです。あるいは、まだマスターのレベルに達していません。すでに多少の、あるレベルの、こういった種類のパワー、愛、祝福があります。ですから、これが、私たちが世界に貢献する方法です。そういうわけで、神は真の愛であると言えるのです。(拍手) そして人々はあなたを称賛するでしょう。いいですね。理論は十分です。(笑い) けれども、私の理論は単なる理論ではありません

せん。みなさんはパワーを感じます。力を感じます。なぜでしょう。それは、私が言っていることを私自身が悟っているからです。本で読んだものではありません。わかりますか。私は自分自身の内面で悟ったのです。ですから、私が話すことはすべてみなさんの利益になります。説得するパワーがあるので、みなさんは信じるのです。他の人が私の言葉を繰り返し返しても、それは空っぽの言葉にすぎません。そうです。ですから、私たちは自分で修行し、理解しなければなりません、そうすれば、私たちがマスターの言葉を繰り返し返したとしても、そこにはいくらかのパワーがあります。それは私たち自身のものになるからです。(拍手)

私をここに招いてくださったことに感謝します。また、空港でのみなさんの熱烈な愛と、そして、今日と、ここにいるあと三、四日間の愛に感謝します。私の旅のゴールに到達するため、一生懸命働いてくださることに感謝します。私の旅はみなさんの旅でもあり、私の仕事はみなさんの仕事でもあるからです。恩恵や利益を得た人はみな、私やみなさん、そして、この仕事に協力し、助け、精神的、肉体的に援助してくれたすべての人から恩恵を受けたのです。ですから、すべての人が人類に恩恵を与えているのです。これが菩薩の道です。これが聖人の道です。他に道はありません。剃髪する必要はありませんし、ヒマラヤにも執着しません。何も必要ありません。釘のベッドに寝ることもありません。そうです。普通でいながら、智慧を持つのです。

みなさんは美しいです。私はみなさんが進歩したことや、信心がしっかりしていることをうれしく思います。いくつかのテストを通過して来たことも知っています。けれども、それは自分のレベルを知る方法です。自分の判断力が鋭いかどうか、本物と偽物のマスターの違いがわかるかどうか、マスターの内在の徳を認識する方法を知っているかどうかを知る方法です。うわさやゴシップを聞いただけで、私たちの心は汚染されてしまうのです。私たちがそれを繰り返して他の人に言ったら、その人の心も汚染されてしまい、伝染病のように広がってしまうでしょう。ですから、話す時は良いことを話すべきです。どうしても何か話さなければいけない時は、人々に教えたり、彼らが進歩するためでなければなりません。そうでないなら、その内容が真実かどうかにかかわらず、否定的なことを話すのはよくありません。そういうことをまき散らす人は、真つ先に最も影響を受けます。そして、聞く人も、それを聞き入れたり、信じたりすれば影響されるのです。いいですね。おやすみなさい。



神からもらった豊かな生活を大切にしよう

一九九二年 三月十一日 日本・東京における中国語講演

仏教經典の中では、「ある人がとても裕福で、生活が順調ですべてに満足していても、神や万能のパワーを思い修行をするなら、その人は高い智慧を持つ人です」と言っています。この世のほとんどの人は、満足な生活を送っていると超世界のことなど考えません。私たちの多くは困難な時にこそ神を思い、精神的なよりどころがわかるのです。何も不足していなければ考えません。けれども、実際どんな状況においても、神が下さった最大の恩恵こそ素晴らしいということに気づいておかなければならないのです。というのも、この世の富や安全は永遠のものではないからです。いつでも私たちを満足させてくれるものではありません。

修行を始める前、私は良い生活を送っていました。夫は二つの博士号を持つ科学者で、私は赤十字で通訳の仕事をしていました。車があり、プールやサウナなどがついた家に住んでいました。夫は若くてハンサムでした。生活はこんなにも幸福だったのですが、内面では幸せだとは感じていませんでした。内面の幸福こそ私が真に求めるものだったのです。幼い頃から、私

がこの世に來たのは何か特別な目的があるような気がして、物質的な豊かさでは私の心は満足できなかったのです。

私は世界の歴史をたくさん読みましたが、多くの裕福な強国が突然貧窮することもありました。貴国、日本も波風を乗り越え、そして新たに再建しました。これはとても良い教訓で、いい経験でした。神は永久に人類をかわいがり、多くの方法で面倒を見てくれます。災難も一つの恩恵であり、強烈な教訓の一つであり、私たちにこの世界の無常を思い起こさせてくれるのです。そのことがわかると、神は物質面や財産面で私たちの面倒を見てくれます。けれども、生活が楽になっても神の教えを忘れてはいけません。それがわからなければ、もう一度学ばなければならぬからです。神の恩恵によってあらゆるものが与えられる時、私たちは神や宇宙の法律をもっと大切にし、もっと尊重しなければなりません。そうすると生活はますます豊かで快適になるのです。

大昔、モーセの時代に、彼の民族は他民族に支配されていました。彼らは神に助けを求めました。神はモーセを通して彼らを苦しみから解放し、安全な所に連れて行き、自由と自由の権利を与え、あらゆる生活の必需品を与えました。けれども、彼らは裕福で快適な生活の中で、また怠けて神の規則を守らず、とても墮落した生活を送りました。神はそれでも彼らを愛してくれましたが、別の方法で彼らを教育しました。それからの生活は以前に比べてそれほど快適

ではなくなり、そしてさまざまな所へ分散させられ、不安定な放浪の生活をさせられたのです。

世界にはこれと似たような物語がたくさんあります。多くのきらびやかな朝廷、富強な国家が突然滅亡しました。それはその人たちが宇宙の法律を尊重せず、神に感謝しなかったからです。ノアの時代も大体同じです。聖書の中にはつきりと書いてあります。あの時代は世界全体が墮落し、完全に物質に偏り、道徳がなくなつたため、神は大洪水で地球全体をきれいに浄化したのです。

もちろん、立派な人間になることは難しく、私たちは神より物質を頼りにしています。私たちにとつて物質的なことは比較的是つきりしていますが、神のことはよく知りません。実際、神は私たちの身近にいます。神は私たちの内面にいます。けれども、私たちのこの地球のある事情により、私たちは神を見ることができません。他の惑星の衆生は簡単に神を見ることができます。けれども、私たちにも神の存在を証明する方法はあるのです。（神―仏教ではこれを仏性と言い、他の宗教では別の言い方をしています）

観音法門を修行すると、神、あるいは仏性と通じ合うことができます。そして、私たちのレベルは他の惑星の衆生と同じように非常に高くなります。高くなつた後、高いレベルの惑星に住みたいと思うなら、それは可能です。というのは、一部の高いレベルの境界（きょうがい）にくらべ、地球は智慧と文明のレベルが低いので、苦しみが多く、喜びが少ないのです。けれ

ども、観音法門を修行すると自分自身を浄化する方法がわかり、もっと文明的な衆生になったり、もっと高い境界（きょうがい）に住んだりすることができるのです。

地球上にはさまざまな国家があります。貧しく未開発の国もあれば、豊かで文明的な国もあります。宇宙にも多くのさまざまな境界があり、高い境界には高い智慧の人が住んでいます。たとえ私たちの智慧が高くなっても、この地球に住み続けることができます。私たちに智慧があり、高いレベルの幸せな人になります。私たちはこの地球をさらに高いレベルにする手助けができるのです。

私たちが他の惑星に行きたいとか、高いレベルの衆生と住みたいと思うならそれも可能です。外国人が日本に住むには大変優れた才能があるか、日本の生活レベルについていけなければ、容易ではありません。そうでなければ、日本の生活は物価が高く、とても進んでいるので、普通の人では日本に住めるほどのお金を稼ぐことができないのです。他にも、日本人と結婚すれば日本に住めるそうですね。そうしても、日本に住むためには日本の精神や日本の思想を持たなければなりません。そうでないと私たちはとても孤独に感じ、大変悩みます。日本の生活はとても規則正しく、とても清潔で生活レベルが高いからです。私たちはこんな日本の精神を養わなければなりませんし、規則を守らなければいけません。

同様に、宇宙のある惑星、ある境界の衆生は比較的文明的で、規則正しく、その生活も比

較的文明的で高いレベルです。そこに住みたければ、私たちはまず自分の智慧を養わなければなりません。アジア、そして地球の中でも、日本はとても文明的で、高いレベルの国家と言えます。けれども、これはただ物質面から見たことで、修行面、精神面から見れば、地球上のどの国も高いレベルとは言えません。私たち地球上のあらゆる国家はその文明がいかに高くても、上の境界（きょうがい）と比較することはできません。

上には多くの世界があります。彼らの家は私たちの家と違い、瑠璃、黄金、真珠、宝石で出ています。彼らの家と比べると私たちはまるで貧乏人のようです。物質的財産を求めめるために修行するわけではありませんが、私は地球と高いレベルの世界の違いを話しただけです。私たちが黄金、瑠璃、真珠、宝石の家に住むのが好きだからではありません。その境界の生活はとも自由自在で、とても心地よく、とても気軽で幸せです。生、老、病、死などの苦痛を知ることありません。この境界では永久に聡明で、美しく、若く、裕福でいられます。

私はこのような物語をテーマにした日本の映画をたくさん見ました。日本ではわりと精神世界について比較、研究されているようです。みなさんは見たことがありますか。私があります。日本のテレビではこういった精神世界について、また他の世界の境界についての話題が公開討論されていました。日本はこんなに裕福なのに霊修行に興味があり、すっかり物質に頼っているわけではないのを見て、私は大変うれしく思いました。私たちが引き続きこのように神を信

じ、道徳を重んじるなら、私たちの国家は必ず裕福であり続けるに違いありません。けれども、このような映画やテレビで討論されている境界（きょうがい）はあまり高いレベルのものではありません。高いレベルでなくても、とてもきれいで輝いていて、私たちの地球とは比べものにならないのです。その彼らの討論を聞いたり、映画を見たりしていると、まるで彼らがそのような境界に行ったことがあるかのようです。本当に行って理解しないと、あれほどリアルで、素晴らしい映画はできないでしょう。

私たち修行者は正しい法門を修行すれば、高いレベルの境界に行くことができます。私たちはこの世にしながら、メデイテーションしている時や寝ている時に、つまり、時間さえあればこの体をここに置いたままそこに行けます。死ぬのを待つことはないのです。映画の人物のように往生してからしか行けないではありません。

また、努力して観音法門の修行をすればもっと高い境界に行けます。そして往生した後、どんな境界に住むか選択することができます。実際、まだ高い境界に到達する前から、私たちはすでに心身共に幸せに感じてください。今までわからなかったたくさんのが、今は理解できようになるのです。それで、現在全世界の私たちの修行仲間が一生懸命修行しています。成果のあることが明らかなので、好んで努力し続けています。ビジネスと同じで、利息と利益があるなら私たちは続けられるでしょう。この世の人は何をやるにしても成果がなければ興味

もなくなるでしょう。日本人は素晴らしいビジネスマンです。身を入れて行うので成功し、成功すればするほどもっと一生懸命仕事をします。そういうわけで、多くの日本人は個人の生活を犠牲にして仕事に励み、工場や国のために多くの時間と精力を貢献しなければならなかったのです。というのも、日本はゼロから再建しなければならなかったからです。人々の苦勞と多大な努力によって、国は再建されて豊かになりました。こうなったのも、日本人が仕事に努力するばかりでなく、誠実さや団結心があるからです。このように仕事をすれば成功し、国家はますます豊かになり、人々の仕事に対する興味も高まり一生懸命やるようになります。勤務時間が過ぎてても、手当てをもらわずに残業して工場に貢献します。そうすることが国家に対して有益だと思っっているからです。本当に利益がありません。このような公の仕事で我を忘れる精神は世間では貴重なものです。夜また出掛けてビジネスの話をし、仕事が終わって帰って来てから、また出掛けてビジネスの話をするという具合です。みんなで力を合わせて相談し、どうすれば工場の生産やビジネスがうまく運営できるかを考えています。貢献の精神があり、団結心があります。こんなふうに個人の利益を犠牲にすることができているのですから、日本が短期間にとても豊かで強力になったのも当然のことでしょう。

原因があれば結果があります。同様に、私たち観音法門の修行者はごく短期間にこの法門を世界中に広めることができましたが、それは私たち修行仲間がこの法門は世界に利益をもたら

すことができると感じたからです。世界に利益のあることは自分にも利益があります。それは私たちがこの世界に住んでいるからです。例えば、私たちは住んでいる家が壊れると修理しますが、それは自分自身を守るためです。これは日本人の精神とよく似ています。日本人は自分の時間や個人の生活を犠牲にして、工場、ビジネス、国家にさらに利益をもたらすために働いているようですが、自分たちにとっても利益になると言えるのです。それは日本の国家が裕福であれば人々も安楽になり、そして日本の名譽は高まり、世界の人々は日本人と日本を尊重します。私はこういうやり方は大変聡明で正しいと思います。

私たち修行者も同じです。修行の目的は、智慧を開き、衆生を救い、地球の文明を向上させるためなのですが、おのずと自分自身、自分の家族、過去、現在、未来の祖先、親戚、友達にも利益をもたらします。ですから、私たち修行仲間が修行を始めると、祖先も解脱、超生できることがわかります。彼らの生活も順調で豊かで幸せです。

全世界の人がみな修行をすれば、私たちの地球は他の惑星と同じように文明的で高いレベルの惑星になります。その時私たちはどんなものでも発明でき、あらゆる物質的な面で満足できます。というのは、私たちの精神は幸せで、智慧が向上すると何でもできるからです。

他の惑星にはなせUFOや高度な機器があるのでしょうか。それは彼らの智慧が私たちより高いレベルだからです。他の惑星ではどうしてガソリンを使わずに自動車を運転しているのです

よう。それは、彼らが私たちより聡明だからです。彼らは多くのさまざまな原料を発見しました。現在地球上にもあるかもしれませんが、私たちはまだ発見していません。なぜなら、私たちはまだこのような原料や、その使い方を知らないからです。けれども、私たちは次第にその一部分を知るようになりました。

それで今、テレビ、電話、コンピュータ、多くの高度な医療機器や科学機器があるのです。けれども、他の世界のものとは比べるとそのような機器はゴミのようなもので、他の世界では使わない時代遅れのもです。これらは決して高いレベルのものではないのです。高いレベルであっても最高のものではありません。また他に、さらに高い境界（きょうがい）では、UFOを使わなくても飛べ、言語や電話を使わなくとも通じ合い、テレビがなくても見たいものがすべて見られるのです。

そのような世界では、彼らの使っている智慧の割合は私たちの世界より多いのです。彼らと私たちとの違いはこれだけです。地球では最も聡明な人でさえ知能の4%しか使っていません。みなさん想像できますか。たった4%だけです。それで地球はこんなに遅れているのです。

高いレベルの境界の人は、より多くの智慧や知能を使う方法を知っています。大昔、高いレベルの惑星の人が降りて来て、私たちにその方法を教えました。一部の人は中ぐらいのレベルの世界から降りて来ました。ある人々は比較的高いレベルの世界から降りて来ました。また

ある人々は最高の世界から降りて来ました。中くらいのレベルの衆生は、私たちに文明的な機械や神秘的な超能力を教え、私たちの生活がもっと楽になるように、裕福で文明的になるように教えました。例えば、アトランティスの時代のような、地球にかつてあった輝かしい時代には、中くらいのレベルのマスターが高いレベルの境界（きょうがい）から降りて来て、私たち地球人に教えたのです。その時、私たちの地球はとても文明的でした。時々、現代の考古学者が当時の文明の証拠品を発見しているそうです。

テレビや新聞で報道されています。私はあまりテレビや新聞を見ませんが、みなさん、新聞にこういう記事は載っていますか。テレビではこういう報道はありますか。（聴衆答える…あります）ありますね。それならOK、私の言ったことは正しいですね。当時地球は文明的でしたが、一部の人が道徳的でなかったために、その後文明的な機械は自分たちを破壊する道具になってしまったのです。その文明的な道具が自分たちの文明的機構を消滅させ、互いに殺し合い、また高い境界の師たちに感謝もせず、欲望がますます増大し、本分も守らなかったので、惑星間の戦争となったのです。その時地球は他の惑星に敗れました。その後、私たちの世界はあまり文明的でなくなり、それから長い間他の惑星の文明的な衆生は、あえて再び降りて来て私たちを教えようとはしないのです。

けれども、最も高いレベルの何人かの人物は、降りて来て私たちに教えています。彼らは私

たちに文明的な機器や文明の道具を作ることを教えるのではなく、どうやって自分の智慧を開発し、より文明的な所に行つて住むかを教えています。一部の人は平穩で文明的な幸せな生活を渴望しているからです。けれども、この世界ではそういう所は探しにくく、しかも、地球上のすべての人を同じような文明的なレベルに教育するのはとても難しいことです。それで彼らは一部の人を教育して、その人たちを平穩で文明的で幸せな所へ連れて行くのです。

そういった文明的な道具を私たちの世界に持つて来たなら、おそらく悪いことばかりで、良いことは少ないでしょう。例えば、黄金や瑠璃の家を地球上に建てたら、たぶんすぐになくなつてしまふでしょう。また、とても文明的な道具をこの世界に持つて来たなら、しばらくすると、私たちはその道具を使つてお互いに殺し合うでしょう。私たち地球人はまだそのような高いレベルの、犠牲的で文明的な精神に達していないからです。最高のレベルから来た人物は、私たちがその道具を個人の利益や名声のために使うのを恐れています。たとえ最良の道具でも、最も危険なものになつてしまふからです。それで文明的な師たちは私たちの所へ来て、私たちが彼らの所へ連れて行きます。同時に、まず私たちの精神、智慧をよく訓練し、それから、私たちを穩やかで安全な境界（きょうがい）へ連れて行くのです。

それで釈迦牟尼仏、イエス・キリストが降りて来た時、彼らは上の天国、仏土、涅槃を宣伝したのです。私たちにここに残りなさいとは言いませんでした。

まるで良い弁護士か良い友人のように、彼らは私たちの味方になり自由を保証します。早く自由な人になり、刑務所にとどまらないようにすることが、私たちにとって最良なのです。

たとえ、私たちの良き友人が私たちを愛していても、彼らの持っているベンツやトヨタなどの高級車を刑務所に持って来て、私たちに使わせることはしないでしょう。彼らはそれを刑務所の外に置いておき、私たちが自由になった時にくれるのです。というのは、刑務所の中ではこういうものは役に立たないからです。その上、彼らがお金をたくさん持っていて、黄金、真珠、宝石を刑務所に持って来て、私たちのポケットの中に入れたりはしません。そうすると私たちをさらに危険にするからです。このような貴重な宝物は、私たちがここを出て安全な所に着いてから渡してくれるのです。けれども、彼らは私たちが刑務所においても、生活がなるべく快適であるように面倒を見てくれます。

同様に、私たち観音法門の修行者に対して、万能のパワーや神は、当然私たちの生活が楽になるよう私たちの面倒を見てくれます。でも、それは私たちには何でもあるということではありません。本当に永久に自由自在、解脱、裕福で長生きすることを望むなら、他の高いレベルの境界（きょうがい）に行つて、それを享受することができます。もちろん私たちがこの世にいても、たまにそういう境界に行つて、少しの間その境界をかいま見ることができます。そして、この世を去つた後、私たちは永久にそこに住むことができます。このように、この

世にいる時にたまにそういう境界（きょうがい）が見えると、それは私たちに信仰心を与えてくれます。これは私たちが観音法門を修行している結果と証拠です。証拠がなければ、私たちはこの法門に良いところがあるかどうかわかりません。

イエス・キリストはこう言っています。「私の父の家にはたくさんの部屋があります」。その意味は、弟子が彼について修行すると、多くのさまざまな境界や、さまざまな感応が得られるということです。イエスはこの世にいる時、弟子に少しの境界を見せることができませんでした。釈迦牟尼仏は、「宇宙には多くの仏土（天国、神の国、涅槃）があり、十方には多くの仏土があります」と言いました。弟子が彼について修行すると、やはりさまざまな境界が見られました。たまに見えるか、いつも見られるかは、私たちの誠心誠意さと修行の努力によって違います。今、私たちはイエス・キリストと釈迦牟尼仏の法門をみなさんにお伝えしているのです。観音法門を修行している人はみな、イエス・キリストと釈迦牟尼仏が修行している時と同じ感応が得られます。修行者は生きていく時にすでに釈迦牟尼仏を見ることが出来ます。寝ている時にそこへ行って見るかもしれません。この世を去った後はそこに住むことが出来ます。もうこの世界に戻って苦しみを味わわなくてもいいのです。

私たちはこの法門を無条件で提供しています。金銭や地位、経験、宗教的な背景は何もありません。この法門を修行すると、自分自身だけでなく家庭や国家を助け、祖先を助け、超生さ

せることができます。私たちがこの世を去る時、永久に仏土に住むことができます。または天国に行けます。私たちとこの法門を学びたい方はどなたでも歓迎いたします。今日の講演はここまでにさせていただきます。みなさんの愛と、集中してのご清聴に感謝いたします。

質疑応答

Q 六道輪廻は本当のことですか。
 マスター（以下M） 本当です。新聞にも輪廻の物語を証明する文章が載っていました。例えば、インドに八歳の男の子がいて、彼は小さい頃、外出したことがないのに、前世で住んでいた家を知っていました。彼はそこから転生して来たと言いました。彼は前世での彼の夫と子どもはまだそこにいて、家もまだそこにあると言いました。そして名前と住所をはっきりと話しました。その後、人々がそこに行つて調べたら、本当にそうだったのです。世界中に似通った物語がたくさんあります。釈迦牟尼仏は天眼で自分の輪廻の過程を見ることができました。印心したばかりの弟子たちの中にも、最初のメデイーションでもう見ることができている人がいます。これは本当のことです。

Q どのようにして観音法門を修行するのですか。

M 菜食、ベジタリアンでなければなりません。菜食をすることは日本人にとってあまり難しいことではありません。日本ではとてもおいしい菜食ハム（ベジタリアン用ハム）が生産されているからです。その上、多くの日本人は海藻を食べています。肉は少ししか食べません。日本食はあっさりしていて、量も少ないです。日本人は食べることにあまり熱中したり、こだわったりしません。ですから、清廉で簡素で、観音法門の修行に適していると思います。

Q どのくらいの期間修行すれば、マスターのおっしゃった境界（きょうがい）が見えますか。
M 印心したらすぐに見える人もいますし、一人ひとり違います。多くの、または半分の修行仲間は印心した後、ごく短い期間内にあのような境界が見えます。ある人は何週間、何カ月、何年といろいろです。

Q 私たちが印心して修行すれば、飼っている子犬が死んでも何らかの利益がありますか。
M ああ、なんて愛があるのでしょうか。利益はありますとも。私たち自身のパワーが不思議なくらい発展するので、どんな人、どんな生き物に対しても、私たちが彼らを想い愛していたら利益をもたらすのです。



真理の会話

一九九一年六月二日 コスタリカにおける英語講演

この会話はスプリームマスターチンハイと、古い友人との間で交わされたものです。マスターがヒマラヤで初めて彼女に会ったのはずっと前のことで、二人とも真理を探し求めている頃でした。彼女は世界各地のたくさんの有名なマスターから多くの修行法を学んできました。現在、彼女は観音法門の修行者です。彼女の真理への渴望や知識に対する熱望に心を打たれ、マスターチンハイは彼女と気兼ねなく自由に話をしました。二人の大変まれな問答は、まさに「真理の会話」となりました。

(文章中のMはマスターチンハイ、Qは友人、Pは質問をした他の修行仲間)

悟ったマスターの吸引力

P もしこの世界で自分の体の状態がとても悪いと感じている人がいたとして、その人の魂を臓器移植するかのように他の人の体に移し変えて使うことはできますか。

M 何のために。もっと苦しむためですか。

P そうではありません。もしかしたら、その人はとても素晴らしく、大事な仕事をしているので、みながその人にもっとその仕事を続けてほしいと思うのかもしれない。

M そんなに必死になって誰かが必要とする人はいません。そんなに重要な人などいないのです。たとえあなたのマスターがいなくなってしまうても、他のマスターが来ます。でも、たぶんあなたはその人が好きではないでしょうね。(笑い) なじみのある顔とずっと一緒にいたので、他の顔に変わると、あなたは「違います、この人ではありません」と言うのです。(笑い) それが唯一の問題です。それこそ、みんながずっとイエスを待ち続けている理由です。他の救世主が来ても、その人が写真のイエスとそっくりでなければならぬと思っっているのです。誰かがマスターチンハイを紹介しても、彼らは「違います、彼女ではありません」と言うのです。

P なぜ、みな外見が違うのですか。例えば顔が違いますが、顔は何を意味するのですか。人の顔は何を表しているのでしょうか。

M あなたはみな同じように見えた方がいいと思うのですか。それではつまらなすぎます。それだと、あなたは決して恋愛もしないでしょうし、赤ちゃんも生まれません。それが違います。それが、少なくとも顔が違う方がいいという理由の一つです。いいですか。あなたの両親がそっくりだったら、あなたは決して生まれて来なかったはずですよ。

P 私は、修行生活において、「顔」にはどんな意味があるのか知りたいのですが。

M 意味はありません。ただ雰囲気にすぎませんが、普通修行をしていると、ほとんどの人の外見はとも輝いて見えます。雰囲気は重要なことです。人々はよく修行している人の周りにいたがりますが、それは顔のせいではありません。例えば、あなたが一九七〇年度ミスワールドに会いに行ったとして、人が「いつも彼女の周りにくっついていて、彼女をずっと見ていない」と言っても（笑い）、あなたはそうしないでしよう。わかりますか。しばらくするとつまらなくなるからです。たとえどんなにきれいな人でも、しばらく見ていたらとても疲れることに気づきます。私たちは疲れて休みたくなります。けれども、私は何人かのいわゆるマスターを知っていますが、彼らはあまりきれいでもハンサムでもありませんが、人々は彼らをじっと見つめていても決して疲れません。時には人々は一日中歩き回り、マスターをたった一目見るためにずっと待つこともあります。それに彼らが長旅をするのも、ただマスターに会うためなのです。そして、そこから立ち去る時にはとても離れがたく感じます。なぜこの質問をしたのですか。

P 私は非常に良い光を発している人を見ることがあるからです。例えば、あなたのように。あなたの魂から光が放たれていて、あなたの顔を見ると平和が感じられるのです。あなたにはとても感謝しています。あまり良くない私のことをこんなにも愛してくださるからです。あり

がとうございます。

M 私の顔と他の人の顔にどんな違いがあるのですか。同じではないのですか。もちろん、私はみなさん修行者とは似ていませんが、顔のつくりには何の違いもありません。愛というのは人が発するものであつて、顔が美しいとか醜いとかではありません。

P それこそが私の質問です。みんなにこの事を知ってほしかったのです。あなたは顔を見ずに、心だけを見るのです。

M ああ、わかりました。あなたは私の心臓が見たいのですか。(笑いのため息) 数人の大変年をとったマスターがいます。彼らは顔中しわだらけで肉体的にはもう魅力がないのですが、修行を積んで徳があり、愛にあふれているので、人々は彼らのことが好きなのです。人が私を好きになるのは、私の声が心地よいからとか、顔が良いからとか、あるいは目がきれいだからだと言う人がいますが、そうではありません。私には目や耳の不自由な弟子がいるからです。彼らは私がここにいる時には毎週来ます。たとえ七日間のリトリート(禅会)でもやって来ます。彼らは私の顔を一度も見たことがありませんが、私の内面を見るのです。彼らが描写したものは、まさにみなさんが今見ている私と同じです。当然、内面はもつときれいです。(笑い) そうですね。

目の不自由な人は弟子になれるか

Q インドのビアスという所にチャラン・シンという大変偉大なマスターがいました。もうすでに往生していますが、彼は目の不自由な人以外、すべての人に印心を授けました。

M どうしてですか。

Q それは私が伺いたいことです。あなたが目の不自由な弟子がいるとおっしゃったからです。私には目の不自由な弟子がいます。誰もがそのことを知っています。マスターから印心を受けるためには、五感が完全であることが一般的な決まりです。それは昔からの一般的な決まりです。釈迦牟尼仏もそう言いました。でも、誰かが彼らに印心を授けなければならないのです。そうではありませんか。

Q ある日、一人の弟子が自分の母親に印心を受けさせたくて、母親の目が不自由なことをマスターに言わずに、「マスター チャラン・シン、私の母が印心を受けに来てもよろしいですか」と尋ねました。「よろしい。彼女を連れて来たなら、私が印心してあげよう」とマスターは答えました。でも、その弟子が母親を連れて来た時、マスターは彼女の目が不自由なのを見て、「目の不自由な人には印心できないと言ったはずだ。だから、おまえの母親には印心できない」と言いました。弟子はとても取り乱して、「マスターお願いです。私の母です。印心してやってください」と言いました。それで、マスターは奇跡を起こし、印心の間だけ母親の目を見えるよう

にして、印心を授けました。

M その時だけは見えたのですか。

Q 印心の間だけです。

M その後は。

Q その後、再び見えなくなりました。

M フォルモサ（台湾）で私の講義を聞きに来た人たちも、印心のために来たのではないのですが、視力を取り戻したそうです。後で彼らは印心を受けに来て、そのことを手紙に書いて来たり、話をしたりしてくれました。

Q ずっとそのままですか。

M そうです。ある女性は幼い頃から二十年以上、ずっと盲目でした。

Q 彼らの目が不自由でもあなたは印心を授けましたか。

M ええ。彼らの見た境界（きょうがい）はみな同じです。内在のマスターを見たのです。（笑い）それに、この目の不自由な人は、いつも私が彼女の近くに行くと私の存在を感じます。私がそばにいる時にいつも感じるのです。彼女がほほ笑むのでわかります。私が彼女の肩をポンとたたくと彼女は気づきます。ですから、私たちはとても親密に感じるので。

マスターは弟子のカルマを背負う

Q マスターたちが印心を授けないのは、その個人のカルマを受け取ってしまうからですか。

M そうです。

Q マスターチャラン・シンが目の不自由な人に印心を授けないのは、盲目が最も重いカルマだと、彼が言っていたからだと思います。

M おや、それよりも重いカルマがありますよ。

Q それよりも重いのですか。どんなものですか。

M 肉体的な盲目は、精神的な盲目よりまだましです。マスターが見えなくてもマスターの偉大さを認識している人は、マスターが見えてもその偉大さがわからない人よりもいいのです。

Q あなたは目の不自由な人に印心を授ける時、彼らの罪を背負うのですか。

M どんな時でも背負っています。人が家で私に祈るだけでカルマを受け取ります。人が私の名前を知った時にも受け取ります。人が私のことを知った時にも受け取ります。どこでも受け取りますし、私が人を見れば受け取るのです。

Q では、あなたはどうかやってこのカルマを解消するのですか。

M それが私の仕事です。(笑い) マスターになるまで待ちなさい。その時が来たら教えましょう。今はまだ理解しにくいことです。私は靈修行で解消します。それは何十億年、何十兆年

もの修行による功德や、信じ難いほどの肉体的忍耐、そして無限の愛によって解消するのです。

Q わかりました。ありがとうございます。

M 仏教の戒律の中にも、五感が正常でなかったり、その中の一つでも正常でなかったら、印心は受けられないとあります。釈迦牟尼仏の生存中、印心を受ける条件は他にもたくさんありました。けれども、私は最悪の状況の人も救うと誓ったので、私の所に来る人で望みのない人はいません。私たちの弟子の中にはあなたの想像もつかないような最悪な状況の人もいます。十方三世の仏陀でさえ彼らを救えませんでした。

Q 釈迦牟尼仏は、私たちには許されることのない五つの罪があると仰いました。例えば、仏陀を殺したりすることですが。

M そうです。仏陀を殺したり、仏陀に血を流させたりすることです。

Q 阿羅漢を殺したり、父母を殺したり、僧団を分裂させたりすることです。これらは許されない罪だと釈迦牟尼仏は言いました。こういった罪を犯した人々でも、あなたは受け入れるのですか。

M 受け入れます。私がしなければ誰が彼らを受け入れるのですか。

Q そうですね。誰も受け入れられないでしょうね。けれども、釈迦牟尼仏が彼らの罪は許されな
いと言っているのに、どうやってこの人たちは救われるのですか。

M 私は自分の愛で彼らを変えます。

Q たぶん、それはあなたのキリスト教徒としての面なのでしょう。主イエスはいつでも最も罪深いどんな犯罪者でもみな許したからです。では、あなたはこの人たちのカルマを背負わなければならぬのですか。

M そうです。因果（カルマ）の法則は尊重されなければなりません。でも、マスターがカルマを背負うのと弟子がカルマを背負うのは同じではありません。例えば、イエスが迫害され、はりつけにされた時、彼のたくさんの弟子や信者の罪が許され救われました。けれども、あなたが路上で誰かをつかまえて、「みんなの罪を救うためにはりつけになるのだ」と言っても誰も救われませんし、誰も利益を得られません。わかりますか。同じように見えますが、マスターの体は他の人の体とは違うのです。例えば、車はどれも同じように見えますが、ベントツやロボの構造や耐久性は、他の車とは違うといったぐあいです。

あなたはマスターが何千、何百もの人に印心を受ける時のことを想像できますか。マスターは少なくとも一人ひとりに与える十分な加持力を蓄えなければなりません。いいですか。人数にもよりますが、それを何千、何百もの人に与えるのです。少なくとも、一人が一人分のパワーをもらおうと、その人の智慧眼が開かれ、内在の体験があり、星、天国、地獄、その他さまざまなものを見ることができなのです。一人だけでも何千万年分のカルマをきれいにしなければ

ならないのですから、そのパワーは強力でなければなりません。釈迦牟尼仏は「一人の罪やカルマを形にしたら、全宇宙でさえそれを収めることはできない」と言いました。一人の罪やカルマを燃やすために、少なくとも五代の親族を超生させるのですから、いったいどれだけ多くのパワーが必要かわかりますね。そうでなければ、光を見ることも音を聞くこともできません。というのは、自己の重いカルマを背負い、閉じ込められているからです。その加持力はマスターの体を通じて伝達されなければなりません。そして、大勢の人に印心する時には、さらに莫大なパワーが必要です。普通の人々にはこのようなパワーを蓄えることはできないのです。たとえ良いパワーであっても、あなたには耐えられません。わかりますか。

電球が発光するためにはたくさん電圧が必要です。この電球は他の電球と似ていても、内部の構造は違います。そのような明るい光を供給するためには、より多くの電力が蓄えられ、この種の電圧に持ちこたえられなければなりません。ですから、マスターの体は間違いない他の人と違うのです。でも、たいていの場合、マスターは尋ねられなければ、こういう事について何も話しません。ほとんどのマスターは大変謙虚で、適切な時に、適切な聴衆に対してでなければ、このような事について話す必要はないのです。わかりますか。

マスターは一人ひとりに違うことを教える

Q もう一つの事について教えていただけますか。かつて釈迦牟尼仏は聴衆に合わせて、四つの違うレベルに教えました。でも主イエスはいつも同じレベルに教えました。彼は決して違うレベルの教えがあるとは言いませんでした。

M 四つのレベルとは何ですか。

Q ラマに学んだ時、四つのタイプがあると彼らは言いました。その中の一つはとても高かったのですが、それで釈迦牟尼仏はその人の理解力に応じて違う事を教えたのです。

M そうです。それは内面だけです。印心は同じです。マスターは内面で一人ひとりに違うことを教えます。ですから、たとえ親友でも知りません。たとえ夫婦でも内面の教えは違います。四つのレベルだけではなく、四千も、四百万もあるのです。それ以上です。

Q それではイエスも同じように教えたのですか。

M そうです。同じです。

イエスと釈迦牟尼仏の歴史的背景

M イエスには人に教える時間がそれほどありませんでした。はりつけにされる前の三年半だけでした。それに、イエスが教理を伝えるのに大変苦労したことも知らなければなりません。

その当時の過敏な政治背景は、彼と弟子が自由に教理を伝道することを妨げました。その頃有

名人はみな、教会や国王の政府にねたまれていたのです。当時の人々の靈性のレベルは大変低かったということを知らなければなりません。すべての教会では、いけにえにするためだけに、いつも動物を殺していました。煙が天まで舞い上がり、あらゆる寺院の天井が真っ黒に染まり、牧師たちの手はみな血まみれでした。ひどいにおいがエジプトやパレスチナの空の隅々まで立ち込めていたのです。

Q 釈迦牟尼仏はどうでしたか。教えてください。

M 彼は幸運でした。彼が生まれたインドは靈修行の戒律がすでに根強く、ほとんどの人が肉食で、人々は聖人を崇拜していたからです。その当時の政治抗争もそれほど危険ではありませんでした。ましてや、釈迦牟尼仏は王子として生まれたのです。彼が自分の国を捨てたことをみんなが知っていました。ですから、誰も彼に対抗して王になろうとは思いませんでした。けれども、イエスの出身はそれほど高貴ではなく、また、ユダヤの王になる者が生まれるという噂もありました。人々はみなイエスが革命を起こし、ユダヤの王になることを恐れたのです。それで政府はとてども神経質になっていたのです。

また、あなたはその歴史的背景も見なければなりません。なぜ釈迦牟尼仏とイエスは教える方法が違ったのか、なぜキリスト教がある方法で発展し、仏教が別の方法で広まったのかを。それは世俗のレベルで、さらに考慮しなければならぬ別のレベルがあるのです。それは天の

手配とか、その当時の人々の霊的な理解力のようなことです。けれども、十字架にはりつけになった時、イエスは幸運でした。彼は栄光のうちに、生涯の絶頂期に亡くなりました。たとえ、彼がもつと長く生きたとしても、たぶん彼の尊厳にかかわるような、さらに多くの苦しみを受けたことでしょう。

Q イエスはいつも、自分はただ聖書に従って実行しているだけだと言いました。彼が行ったこと、彼が話した言葉、行動は何であれ、聖書に従って実行していただけです。

M 「私は法を破壊するためではなく、従うために来ました」ということですね。どんなマスターも同じことをします。彼らはやって来て、人々に経典をもつと理解しやすいように解説するだけです。本当に開悟したマスターがいなければ、経典が何について語られているのかわかる人はそれほどいません。それで誤解が生じているのです。

ほとんどの経典に肉食禁止の記述がありますが、教会では地位の高い人から低い人まで、牧師から信者までみな肉を食べ、ワインを飲んでいきます。聖書の中で神はこう言っています。「誰がお前たちにこれらの小羊、雄牛を殺して私にささげるように求めたか。お前たちの手は罪なきものの血にまみれている。これらすべての悪を行うことをやめなさい。さもなければ、お前たちが祈っても、わたしは目を覆い、決して聞かない。懺悔し、その行いをやめなさい。さもなければ、わたしはお前たちを許さないだろう」と。そうではありませんか。神は、神にささ

げるためださえ殺すことを禁じるというのに、どうして私たちは自分自身で食べたり、自分のために殺したりすることなどできるでしょうか。違いますか。論理にかなっていません。この質問を、この文章だけでいいですから、カトリック教会の全役職者に尋ねてごらん下さい。聖書すべてを話す必要はありません。

在世のマスターがいなければ、みな靈的に盲目なのです。ですから、肉体的な盲目など何でもありません。目の見える他の何百万もの人より、私に会いに来るこの盲目の人たちの方が非常に悟っていると思います。ですから、聖書に、「見るには見るが、知覚できない。聞くには聞くが、理解しない」と書いてあるのです。印心を受けると、彼ら一人ひとりにとって、すべてのことがよりよくわかります。彼らはそれまではそのことを知りませんでした。これを「悟り」あるいは「開悟」と言います。私たちは開悟します。私たちは真理を知ります。というのは、マスターは真理に光をあて、すべての聖典や経典の中の明らかにされていない部分に光をあて、その内面にある真理を私たちに理解させてくれるからです。ちょうど今話した聖書の文章のような簡単な例でも、いったいどれだけのキリスト教徒がわかっているでしょう。理解していないことは言うまでもなく、彼らのうち何人が知っているでしょう。彼らは毎日聖書を読み、教会の牧師は聖書を暗記しています。試験に合格するために覚えなければならないからです。けれども、もし彼らが聖書に反することをしたら、天国のテストには合格できません。「おなかの

ために肉を食べ、おなかは肉のためにあるなら、神はその人と肉を破滅させるだろう」(笑い)

女性に対する盲目的な差別

Q マスター、聖書や法句経(ほっききょう)のことをどう思いますか。どちらも女性のことについて記載があります。私たち二人とも女性なので、これは大変重要なテーマです。法句経の中で、釈迦牟尼仏は僧団に女性を入れたくなかったと述べています。

M 私は彼を責めません。女性は危険です。あなたは想像できますか。僧団の全員が独身男性で、ハンサムで、強健で精力がある肉体なのです。そこに数人の女性を入れたら、あなたは どう思いますか。彼らは自分自身と戦うだけでもすでに十分難しいのに、そこに誘惑が加わるのです。どう思いますか。さらに難しいことになりますね。けれども、いずれにせよ、釈迦牟尼仏は当時のインド社会の習慣についても考え、僧団での生活の難しさも考えたのです。というのは、彼らはいつともとても困難で厳しい状況の中で行動しなければならなかったからです。たぶん女性には耐えられなかったでしょう。男性でさえ耐えられなかったのですから、女性と言うまでもありません。私について来た弟子の男性出家者は、「マスターにはついて行けません。速すぎます。もうたくさんです」と言いました。彼らはみな文句を言いましたが、しばらくしたらみな慣れました。きつい時もあるのです。

フィリピンにいた時、私は二、三人の男性出家者や数人の一般の人と一緒にいました。その中には、新しく修行仲間になったばかりの男女が一人ずついました。その男性の弟子は一日中寝てばかりでしたが、女性の弟子は何とかついて来ることができました。その集団には印心していない一人の男性もいました。彼は政治家でした。私はその当時オウラック（ベトナム）難民のことに対処しなければならなかったのです。私たちは印心してない政治家たちと共に働かなければならなかったのです。彼は私の行動を見て恐れました。（マスターは彼が息を切らしているようにあえいでみせる）彼はこんなふうに分ぶん怒ったり、あえいだりしました。

ある日、私は彼にその女性の事を聞きました。「私の弟子の彼女はどこにいるのですか」と尋ねたのです。「死にました」。（笑い）「彼女は死にかけています」と彼は言いました。「何ですって。私が出発するのに空港に見送りにも来ないのでですか。何という弟子でしょう。彼女は何をしているのですか。ほとんど何もしてないのに」と私は言いました。すると、彼は大変つらそうにため息をつき、こう言いました。「ああ、マスター、彼女はただ普通の女性です」。（笑い）私は、「ただ普通の女性というのはどういう意味ですか。では、私はどうなのですか」と言いました。私は、本当はややくしくするつもりはなかったのです。ただ驚いただけです。私がいなくなつた後であることを、彼女に伝えたかったのですが、彼女はそこにいませんでした。それで私は大変驚いたのです。すると、彼は「いやあ、誰もあなたのようにはできませんよ」と、

このようにストレートに言いました。(笑い)「あなたは女性なんかではありません。この世界の人ではないんです。あなたについていける人はいません」と。こんなふうに、私に面と向かってストレートに言いました。「男性だってあなたにはついていけないのだから、女性は言うまでもないでしょう」と言いました。私は大変驚いて、考えなければなりません。それで、何も言えませんでした。私はその時からずっと、それが本当かどうか考え続けています。

Q ある時、私はヒマラヤのジョーティルマットにいました。そこにシャンカラチャリヤの修行団体がありました。彼はヒンズー教の一派の教主です。ご存じのように、そこは女人禁制で、女性が滞在することは許されません。私は僧衣を着て剃髪していたので、彼らは私を男性だと思っただけでしょう。

M それで彼らは許したのですね。

Q 彼らが入れてくれたので、私は何も言いませんでした。私は彼らとゲームをしただけです。私は他の僧たちと一緒に生活して、一緒に食事をしました。私の声は男性のようで、彼らの背中をたたいたりして、男性のように行動し、完全に受け入れられました。シャワーを浴びる時には、他の僧がドアを開けて、私が僧ではなく尼僧であることを見破られないように、このようにドアに足を掛けて押さえていました。六時頃になると、私たちはシャンカラチャリヤと共に数時間過ごし、彼は講義をしてくれました。私には彼は本当に開悟した人のように思えまし

た。その時、私は自然にこのヒンズー教の教主はまさに開悟していると感じていたのです。でもその後、私は階下で女性の声ができるのに気がつきました。その時ジョーティルマットはみな巡礼の最中で、何千もの巡礼者がいたのです。この尼僧はサラスワティ派の人で、シャンカラチャリヤと同じ僧団でした。数人の男性がそこにいましたが、女性は彼女一人だけでした。彼らに攻撃され、彼女はそれに答えている最中でした。彼女ははだして巡礼して歩いて来たので、足が血まみれでした。彼らは彼女をその場所から蹴り出そうとして、とても残酷に扱っていたのです。

M 大変残酷です。わかります。彼らは本当に女性を嫌っています。彼らは女性が危険であると思っていますが、その理由は理解していません。論理的ではないのです。ただ盲目的に規則に従い、そこに来る女性はみな殴られ、蹴り出されます。彼らはあなたがどうなるかなど気にせず、規則を守らなければならないのです。そういうことです。彼らは盲目的に、何も考えずに理解もしないで戒律を守るのです。

Q シャンカラチャリヤの教理を理解もせず、しかも、それに従わないのです。初代シャンカラチャリヤは「私たちはみな一体である」と言いました。

M 彼らは、女性がそこにいるだけで僧団が汚され、不純になると思っています。彼らは女性が男性より劣っていると思っっているのです。

Q 彼らは女性が悪魔だと思っています。彼らの理解力はそんなものです。ですから、もうすっかり暗くなり、雪で凍えるような寒さだったにもかかわらず、彼らは当然、彼女をさげすんで無慈悲に扱ったのです。その尼僧はもうへとへとに疲れ、血まみれだったので、それ以上歩けませんでした。

M そうです。過激です。

Q もう一人、彼女と同じサラスワティ派の僧が同行していましたが、彼は何も言いませんでした。それで、彼女は攻撃してくる二十人もの男性の前に一人で立ち向かっていました。そういうわけで、私はその快適な僧侶のベッドで朝まで眠ることも、予定通りに翌朝の九時にシヤンカラチャリヤに会うこともできませんでした。私も女性なので、彼女を守らなければなりませんでした。それで私は出て行きました。

M それだけのためにですか。ただ彼らに教訓を与えるためですか。

Q そうです。私は彼らがみな、私が僧だと思っているのを知っていました。

M あなたはそこにいるように手配されたのです。

Q 神が手配したのです。おわかりでしょう。

M そうでなければ、あなたが僧(monk)に変装したことがわからない人はいないでしょう。たぶん一匹のサル(monkey)に見えたのかもしれない。

- Q 彼らはみな、全員私が僧だと思っていました。僧だと信じていました。私が男性であり、決して女性だとは思っていませんでした。私は彼らをわざとだましたかったのではなく、ただ彼らが私に与えた役を演じ続けただけです。ですから、その女性が助けを求めて叫びながら出て来た時、私は自然に彼女を守りに行きました。私は僧全員に、「みなさんは女性から生まれたのです」と言いました。この事は私にはよく理解できないことだったのです。というのは、ヒンズー教徒は母親をととても敬い、聖母は彼らにとって大変重要な人だからです。
- M そうです。
- Q でも、彼らは彼女にどんな場所も与えようとはしませんでした。トイレの近くの風雨をしのげる場所できえも。私たちは高い丘の上にいたので、彼女は血まみれの足と瀕死の体で、その丘を降りなければならなかったのです。
- M それでも彼らは聖母を崇拜しているのですか。
- Q 彼らは確かに聖母を崇拜しています。でも、彼らはこの哀れな尼僧をそう見なしませんでした。ですから、私は自然に彼女の面倒を見る責任を感じたのです。彼女が食べたり、寝られる場所を探そうと思ひ、それで、私は男性ではなく女性であると、彼らに事実を話しました。
- M 戒律は修行者を守るためのものです。柔軟に対応しないでそれに執着すると、害を及ぼす原因になります。それであなたはとにかく自分の戒律を守るのですね。

Q そうです。その後私はこのかわいそうな尼僧とサラスワティ派のもう一人の僧を連れて出て行きました。他の僧たちは怖がっていたので、それで私は彼らにジャンカラチャリヤに会わないと言いました。

M 怖がっていたのですか。

Q ええ、そうです。それから、私は彼らに「ジャンカラチャリヤが私たちはみな一体であると教えてくれたのなら、私たちもそれを行動に表さなければなりません」と言いました。そして、もう一人の僧と一緒に、このかわいそうな尼僧を連れて行きました。ご存じのように、どこもかしこも何千もの巡礼者であふれていました。このヒンズー教の尼僧のための場所はどこにあったと思いますか。シーク教徒と一緒にの所でした。

M 何ですって。ああ、そうですか。

Q ご存じのとおり、ヒンズー教徒とシーク教徒はいつも互いに戦い、殺し合いをしています。他にどこも場所がない時に、シーク教徒が受け入れてくれたのですね。

Q そうです。シーク教徒だけが、このヒンズーの尼僧のためにドアを開けてくれました。その時は宗教のばからしきを見た気がしません。

M そうです。重要なのは愛だけです。宗教ではありません。シーク教徒は個人的にはいい人たちです。

Q 彼らはいいい人たちです。私は彼らと過ごし、シーク教の聖人に学びました。

M そうです。私が会った限り、ヒンズー教の人たちも個人的にはいい人たちです。けれども、あなたが会ったような過激な人もいます。

天国には男も女もない

Q 男女の分け隔てをしないヒンズー教の聖人たちもいます。でも、女性の聖人を見つけるのは難しいことです。あなたは私の人生でわずかに出会った二人目の女性の聖人です。聖人の地位を得るのはいつも男性ばかりで、女性はなかなかないからです。

M 男性の方が強いので、すべての地位を独占してしまいます。女性は男性と争えないので降参するのです。それに普通、女性はエゴがあまり大きくありません。もし誰かが競争を挑んできても、彼女はむしろ「わかりました。ではあなたに譲りましょう」と言うでしょう。女性は家庭では脇役であることを訓練させられるのです。そして聖人の世界であつても同様です。男性は普通とても攻撃的でエゴがあります。それも大きなエゴです。彼らはすべての地位を独占するのですから、聖人の地位を独占したとしても何の不思議もありません。それが今起きています。女性はみな人類に偉大な貢献をしてきています。女性がいなければ男性は決して生まれて来ませんが、生まれると彼らは女性を攻撃し、軽蔑し続けます。それも女性が彼らを

支え、養い、育て、教育した後でなのです。とにかく、それはエゴの戦いです。天国には男も女もいません。私は女性だと思いたい時は女性ですし、男性だと思いたい時は男性なのです。

Q 本当です。私も同じです。

M 状況に合わせるのです。そして、その時の必要性にも合わせます。そうでなければ、私は男性でも女性でもありません。私が男性なら仏陀にはなれませんし、女性なら、やはり仏陀になれません。というのは、枠に縛られていると仏陀にはなれないからです。臨機応変でなければなりません。

Q でも、ご存じですか。とても大勢の仏陀がいましたが、それはみな男性だと言われていました。女性の仏陀は一人もいません。仏陀の名前はみな男性の名前です。

M あなたは仏教の法華経を読まなかったのですか。釈迦牟尼仏の生存中、文殊師利（もんじゅしり）という菩薩がいました。すべての菩薩が一堂に会した時に、彼らは文殊師利にこう尋ねました。「あなたは多くの場所で教えていますが、あなたの教えで仏陀になった人はいいますか」。文殊師利は、「はい、います。龍の女の子です。彼女は仏陀になりました。彼女はたったの八歳でした」と答えました。ですから、これはすべての男性に対するのろいです。今までにその若さで仏陀になった男性はいません。釈迦牟尼仏を含めてもいません。彼らは三十歳以上で、男性の体で、人間の体を持っていて仏陀になったのです。それなのに、その龍の少女は八

歳で仏陀になったのです。彼らは時々冗談を言います。「龍の女の子が仏陀になれるのなら、どうして私は仏陀になれないのだろう。彼女がたった八歳なら、彼女はどのぐらいの期間修行できただろう。長くて八年間修行して、八歳で彼女は仏陀になれたんだ。私は三十年、四十年以上だ。それなのに、どうして仏陀になれないのだろうか。論理に合わない」。わかりますね。彼らは自分自身と戦っているのです。

弟子が違えば教えも違う

M 私は経典であっても気にしません。というのは、釈迦牟尼仏は別の時に、別の場所で、別の弟子に違う事を話したからです。彼はたくさんのお話を話しました。それにいくつかの経典は地球上で話されたものではないので、そのレベルが違うのです。例えば、地藏王菩薩本願経ですが、これは天国で話されたものです。その経典を聞くとすぐに、釈迦牟尼仏がこれこれの天国に行き、すべての菩薩がそこに集まって来たということが説明されています。いいですか。レベルの高い弟子がそこに行き、すべてを聞き、戻って来て記録したのです。ですから、どうして私たちに経典間の違いや、矛盾を説明することなどできるでしょうか。というのは、釈迦牟尼仏の地球人に対する教え、天人に対する教え、菩薩に対する教えはそれぞれ違うのです。地球上で話したのではない経典はたくさんあります。例えば華嚴経ですが、これはこの世界の

ことについて話したものではありません。

Q 般若心経はどうですか。

M ええ、それは別の経典ですね。般若心経は弟子の一人、舍利弗（しやりほつ）だけに話したものです。

Q ああ、舍利弗ですね。彼はただ一人、釈迦牟尼仏の話すことが理解できたからですね。

M その通りです。他の人は何も理解せずに、ただそのまま大声で読み、毎日それを唱えたのです。その人たちは舍利弗のレベルではありませんでした。

Q 法華経を勉強し始めた頃、私も理解できませんでした。

M おや、それはとても簡単ですよ。

Q いいえ、難しかったです。

M 今なら簡単です。もう一度読んでごらん下さい。

Q わかりました。読んでみます。

M 私はよく法華経について話します。特に観音菩薩普門品（ふもんぼん）の章です。中国語がわかれば、はつきりとわかるでしょう。私は同じことを話すことはできません。違う言語ですから。

Q ええ、でも話してください。

M いいえ。今はその気分ではありません。ふさわしい時でなければなりません。それは中国語で録音されていますし、特にリトリートの時のものですから。誰かにスペイン語に翻訳してもらったらどうですか。そのリトリートのビデオカセットテープが見つかったら、彼らにその部分を説明してあげなさい。(マスターが一人の修行仲間に指示する) わからないことがあつたら聞いてください。

Q 例えば、ある時神を信じる男性が釈迦牟尼仏に、「神はいますか」と尋ね、神を信じない別の男性もまた、「神は存在していますか」と尋ねました。そして、そこに座っていた一人の菩薩も答えを待っていました。やがて、釈迦牟尼仏は…。

M 三つの違う答えを出しました。

Q そうです。三つの違う答えです。ですから、彼はまるで鏡のように反応したのです。決して一つの答えを出したわけではありません。その意味を説明してください。

M どの答えがわからないか言ってください。そうしたら答ええますから。

Q 最初の神を信じる男性には、釈迦牟尼仏はただその男性が信じていることを答えただけです。「そうです。神はいます」と言いました。神を信じない男性には、「神はいません」と答えました。最初の答えと矛盾することを言ったのです。もちろん、菩薩には何も言いませんでした。

M 大変思いやりがありますね。その菩薩はたたかれて当然です。菩薩のレベルに達した者がまだそのような愚かなことを尋ねるなんて。わかりますか。神がいると信じている男性ですが、彼の信心はともしっかりしていて、いわゆる神は彼の生活を快適にし、きちんと規律のある生活を保たせているのです。ですから、彼が神に対して新しいイメージを作る時間を費やさなければならなくなるので、釈迦牟尼はその型を破りたくなかったのです。例えば、私もいつも神のことについて話します。人々が神を信じ、ずっと純粹で規律のある生活を送り、神に対してメデイテーションしているなら、どうして私は神がいらないなどと言えるでしょうか。それは彼らにとつて良くありません。そうすると彼らを混乱させ、これまで大事に築き上げてきたものや、生活の基本にしているものすべてを壊すことになります。いいですか。

そして、神がいないと信じている男性ですが、たぶん彼は悟つていたのでしよう。彼は、私たちが想像するような神はいないとわかっているのです。けれども、神とは、パワー、愛、智慧であることを理解するために悟らなければなりません。神とは、ほとんどの人が信じているようなものでも、人間が想像するようなものでもないのです。彼はそういうことが言いたかったのです。二番目の男性は、そのような神はいないと言いたかったのです。もちろん、釈迦牟尼は彼の言いたいことや、彼のレベルを理解していたので、そのことを認めたのです。「ええ、神はいません」と。その人はすでに神がどういふものか理解していました。神は人々が想像す

る一人の人間のようなものではありませんし、私たちの要求通りにあれこれしてくれる人や物や、そのようなものでもありません。それで釈迦牟尼仏は認めて、「その通り。あなたは正しい。よろしい」と言いました。

それは釈迦牟尼仏が無神論者であるということではありません。神が何であるかわかっていたのです。単なる名称ではなく、真の神なのです。「神」と呼ばなければならぬことなどありません。わかりますか。神は智慧、愛のパワー、そして完全な慈悲のパワーです。

Q それは全宇宙であって、一人の人間、一個人ではないのですね。

M そうです。神はほとんどの人が考えているようなものではありません。

Q そう思います。

M それから三人目の菩薩、彼が菩薩を自称するなら、当然こんな愚かな質問をすべきではありませんでした。

Q 菩薩が尋ねたかどうか確かではありません。彼はちょうど隣に座っていたので、釈迦牟尼仏はほほ笑みました。

M そうです。三度ほほ笑んだのです。

Q 彼は尋ねるべきではなかったのですね。

M そうです。その菩薩は釈迦牟尼仏に、「どうしてあなたは最初の人に『神はいる』と答え

て、二番目の人には『神はいない』と答えたのですか」と尋ねたのです。もちろん愚かな質問です。第一、それは彼には関係のないことです。釈迦牟尼仏が「いる」と言おうが、「いない」と言おうが、彼がとやかく言うことではありません。彼は理解すべきでした。他に何かありませんか。わかりましたね。

マスターの体は犠牲のためにある

Q イエスの事についてですが、彼は完全にユダヤ教の古い經典に精通していたようでした。それで彼は救世主としてのメッセージを伝えることになりました。私はイエスについて疑問があるのです。イエスは苦しみに満ちた死に方でこの世を去らなければならないことを知っていました。イエスはかつて神に、「主よ、この杯を取り去ってもらえますか」と頼みに行ったからです。そんなふうに死にたくなかったのです。

M それは「この苦杯を取り去ってもらえますか」という意味です。イエスはそれを飲みたくなかったのです。あるいは、それはどんなマスターにもある人間的な部分なのでしょう。私が十字架にはりつけにされるとしたら、同じことを願うでしょう。神が私のしたくないことを命令すれば、私も同じように求めます。もちろん、最終的にはその通りにするのですが。マスターというのは多くの超人的なことを行い、あらゆる状況に耐え、無限の忍耐力や愛があります

が、喜んでそうしているわけではありません。恐れているのです。喜んでしているのではなく、そうしなければならぬのです。彼らが何でも喜んでしているなら、彼らの犠牲にどんな価値があるのでしょうか。わかりますか。

Q はい、わかります。

M 例えば、あなたはお金がとても好きだとします。お金のことばかり考えてたくさん稼ぎ、お金のために一生懸命働いたとします。けれども、お金が必要な人がいればその人にあげます。それはあなたが好きではないからではありません。そうでないなら、どうしてそんなに一生懸命働くのでしょうか。あなたは別の人にあげたのです。ですから、あなたがあげたお金はより価値があります。なぜなら、あなたはお金が好きだからです。好きでないものや捨てたものをあげたのなら、いったい何の価値があるのでしょうか。

Q でも、どうして神はイエスにあのような死に方を望んだのでしょうか。

M そうしなければ、彼の弟子の罪は洗い流せなかつたからです。マスターの体が存在するのには二つの理由があります。一つ目は、物質世界の弟子が見ることができるところです。彼らにはマスターの霊体は見えないからです。二つ目は、マスターの体は犠牲のためにあるのです。弟子が清算しなければならぬあらゆる罪を受け取り、そのカルマを集め、そして、それを浄化しなければならぬのです。例えば、ゴミ収集者のことを考えてみてください。まず、彼ら

はゴミを収集し、ゴミを自分の体の上に持ち上げ、自分の手でゴミの缶を持ち上げ、車に乗せなければなりません。それから、それを海の中とかゴミ集積所に捨てます。けれども、その間に彼らの体は汚れ、ゴミのにおいがするに違いありません。ゴミが彼らのところに残るわけでも、においがずつと残るわけでもありませんが、家に帰って洗い流すまで待たなければなりません。少なくとも、たとえそれが五分か五秒だけでも、ゴミを収集する時にはゴミは彼らの所にあります。わかりますか。

Q 釈迦牟尼仏にも弟子がいましたが、そのように死なずにすんだのはなぜですか。

M それにはいくつかの理由があります。一つ目は、釈迦牟尼仏はインドで生まれたからです。当時インドは聖地でした。何千年間も人々は菜食をし、経典を読み、修行をして、聖人を崇拜し続けていました。人々の心が純粹なのです。二つ目の理由ですが、実は釈迦牟尼仏も苦しんだのです。けれども、イエスと違うのは、それが精神的な苦しみだったということです。ある日、彼は耐えられなくなり、弟子から離れて、たった一人で三ヶ月間ジャングルの中に入って、出て来ませんでした。もちろん、マスターは内面の苦しみについて、そうたびたび口に出すこととはないのですが、苦しみは確かにあるのです。それから逃げるマスターはいません。時には内面の苦しみがあまりにもひどく、あまりにも多いと体に現れます。何の理由もないのに病氣にかかったり、外からの攻撃や批判を受けたりするのは知っていますか。内面の苦しみは

外面の苦しみよりもひどいのです。時には地獄よりもひどいのです。時々マスターはほほ笑んだり、冗談を言ったり、ダンスをしたり、食べたりしています。たえその時弟子と一緒にいても、マスターの内面で何が起きているかということは誰にもわかりません。多くの場合、マスターは人知れず苦しむのです。あなたはミラレバを覚えていますか。

Q ええ。覚えています。

M 彼にはそれほど大勢の弟子がいたわけではありません。その頃彼はそれほど有名ではなく、ヒマラヤの洞窟に隠れ住んでいました。大きな町に行つて大衆に講義することさえしませんでした。ほんの数人が口伝てで彼の所に来ました。ご存じのとおり、その当時でさえ、彼に会いにヒマラヤに行くというのは驚くべきことでしたから、それほど多くの人が行つたわけではありません。ヒマラヤがどれほど近づきにくいかわ知っていますね。ですから、彼に会いに行つた人はあまり多くなかつたと想像できます。それでも彼は毒で苦しんだのです。ある人が彼に嫉妬し、毒を盛りました。彼はそれで死んだのです。ミラレバはそのことを知っていました。それでも受け入れたのです。ちょうど、イエスが十字架にかけられるのを知っていたにもかかわらず、受け入れたのと同じです。選択の余地はありません。まったくありません。神がそう望むなら、選択の余地はありません。

Q どうして神はそのようなことを望むのですか。

M 弟子の罪をきれいにするためです。

Q 神は弟子の罪をきれいにする肯定的な方法を考え出せなかったのですか。

M できませんでした。というのは、この世界は肯定的ではないからです。ここは否定的なパウーの世界です。いったんこの世界にやって来たら、カルマの法則に従わなければならないのです。さもないと、この物質世界は大変乱れて、無秩序になってしまいます。みんなはただ自分のしたいことをし、いつも捕まらずに逃れることになってしまいます。殺人、窃盗などあらゆる悪事を働いても、誰も処罰されないので。

Q ご存じのように、ラーマナ・マハルシも、スワミ・シヴァナンダもガンで亡くなりました。彼らも弟子のカルマを背負ったのですか。

M そうです。それはただ、人生という劇の最終幕にすぎません。彼らが生きている間には、もつと劇的なことがあります。

Q スワミ・ヴィヴェーカーナンダはどうですか。彼はそんな死に方はしませんでした。

M どのように死んだのですか。

Q 知りません。彼がガンやハンセン病とか、そのような病気だったとは聞いていません。

M でも、彼には他の苦しみがあったのでしょうか。マスターがみなガンや十字架にかけられて死ぬわけではないのです。違いますか。

Q シュリ・オーロビンドと彼の母親はただ往生しました。

M 内面での苦しみや、精神的な苦しみは、肉体的な苦しみよりもっとつらいものです。でも、先ほど話したように、マスターのレベルはいろいろです。弟子に印心せず、弟子のカルマを背負わないなら、苦しむ必要はありません。ヴィヴェーカーナンダはそういうレベルのマスターではなかったのです。

Q シュリ・オーロビンドは？

M 私に聞かないでください。さもないと、みんな私をしかるでしょう。マスターと先生は違います。

Q でも、彼らはみなメディテーションの修行をしなければなりません。マスターになる鍵は常にメディテーションです。

M いろいろなメディテーションがあります。

イエス・キリストは観音法門の修行をした

Q 例えば、イエスはどんなメディテーションをしたのですか。

M 観音法門です。

Q どうしてわかるのですか。

M 私にはわかりません。

Q では、イエスにも全知能力があったのですね。

M そうです。ありました。

Q あったのですか。

M ああ、どうか私に聞かないで下さい。私はたくさんの真実を話しました。いいでしょう。

聞いても構いません。あなたは聡明な質問をしていますから続けてください。他の人の質問は聞きたくありません。他の人はもう何千回も質問して私を酷使しました。二度とそういうことはさせません。

Q イエスはエッセネ派という、死海のほとりに暮らす神聖な宗派と共にいました。そのことはご存じですか。

M ええ。彼はエッセネ派の出身です。何千年もの間菜食をしていた彼らには、その当時、法脈が伝授されていきました。彼らは光や音を伝授する「ホワイトブラザーフード（白色同胞団）」でした。当時、その団体に入ることは大変難しかったのです。独身でいることと、伝授された教えを決して公開しないことを誓わなければなりません。入りたい人は、その団体の先輩の紹介が必要で、さらに最終段階である印心を受ける前に、何年もの試験をくぐりぬけなければなりません。それで初めて白い礼服が着られたのです。

この団体の誰もがみな素晴らしく、まさしく「愛の化身」でした。イエスは秘密の誓いを破った唯一の人ですが、もちろんそれは神の命令によるものでした。彼は内なるメッセージを受けとったのです。そうでなければ、今まで彼の団体には決して公に伝道する人はいませんでした。第一に、誓いをたてていましたし、その上、危険だったからです。ですから、イエスが公に伝道し、はりつけになる前に「ホワイトブラザーフッド」の全員が彼の近くで見守り、あらゆる方法で彼を守ろうとしたのです。けれども、彼らは助けられませんでした。十字架や洞窟からイエスを奪おうとしたのは彼らなのです。いずれにしても、私はあまりにも話しすぎました。必要でないことを話しすぎました。他の質問をしてください。

Q わかりました。それでは、エジプト人のことを話してください。エジプト人も高いレベルの修行者でした。

M そうです。その頃、彼らにはモーセという真の在世のマスターがいたからです。モーセがいた頃、彼らは印心を受けました。彼らの何人かが印心を受けたので、その法脈がしばらくの間残ったのです。当時、エジプト人は自分たちが神の子であることを信じていました。ちょうどみなさんが印心後に聖徒の仲間入りをし、今自分たちが神の子であることを信じるのと同じです。真の在世のマスターと一緒にいたので、みな高いレベルの修行者なのです。そうでなければ、エジプト人もパレスチナ人も誰であっても、高いレベルの修行者ではありません。重要なのは

マスターを通して内面のパワーが開かれることであって、外面的な経典や儀式ではないのです。Q では、どうしてモーセが二つの過ちを犯したのか教えてください。彼がエジプト人を殺したことで、その後、砂漠を四十年間放浪したことです。

M それは彼が開悟する前のことです。

Q それにもう一つ、天の父に背いたことです。神が水のことについて話した時、彼は信じませんでした。

M ええ、それはモーセの人間的な部分です。ばかばかしいことがたくさんあります。この経典にはあまりにも無意味なことがたくさんありますが、このことについては話したくありません。あなたが構わないなら話してもいいですか。

Q はい。

M 聞きたくなければ外に出てください。神はたった六日間で世界を造りました。けれども、その後神が十戒を作りたいと思った時は四十日間もかかりました。その十戒は大変神聖で、不可侵の、つまり尊重すべきものでした。けれども、モーセが下りて来た時、みんなが浮かれて酒を飲み、愚かなことをするのを見たので、十戒を壊してしまいました。神が四十日間かけて作った戒律を壊したのです。彼は神の戒律が刻まれた石板を割りました。それは神の手によって書かれたはずです。違いますか。けれどもその後、人々が懺悔したので彼は再び来て作った

のです。今度はもっと早くできました。あなたがまた私に尋ねたら、私たちは困るでしょうね。話すかもしれませんが、教会やその関係者には気に入らないでしょう。時には、私は話さないこともあります。人々の感情を害したくないからです。

Q いいえ、彼らはそうは言いません。

M いいでしょう。みなさんは全員キリスト教徒ですから。私はどうすればいいでしょう。

Q 私は仏教徒でも、キリスト教徒でもあります。どうして神が自分の民を怒ったのか知りたいのです。

M これは人間が解釈したものです。神が怒ると言うのは、カルマの法則が働いたことを意味します。カルマの神が怒ったのであって、全能の神のことではありません。

Q それでモーセはただ約束の地を見るだけで、そこに足を踏み入れられなかったのですかね。そういう理由ですね。それは、彼自身のカルマが表れたということですか。そうなのですか。

M それはユダヤ人共有のカルマのようなものです。というのは、神は多くの災害の間ずっと彼らを助け、それから「出エジプト」の際には、たくさんの奇跡を見せました。彼らを手伝い、助け、食料や飲み物を与えたので、彼らは決して何も心配する必要がありませんでした。それなのに、彼らは神に従わなかったのです。彼らは神の命令に反するものばかりを要求しました。彼らは神の戒律に背いたのです。そういうわけで、彼らが拒んだものは二度と得られません。

した。あるいは、少なくともその事は、ずっと後で再び考え直さなければいけなかったのです。例をあげて話しましょう。あなたが緊急事態で医者に行くと、医者はすぐにあなたの手当てをしようとしめます。でも、医者が治療するのを見て、それが気に入らないとか、助けてもらったのに感謝もしないで、「ああ、あなたにはもう見てもらいたくない。あっちの医者がいい、こっちの医者がいい」と言ったとします。もちろん、医者は他の人の面倒も見なければなりませんから、あなたとそう長く言い争っていられません。後になって、あなたはすまないと思い、また治療してもらいたいと思えますが、だめです。他の人が並んでいるので、待たなければなりません。あなたは断ったのです。今、医者は他の人の手術をしていて、傷口を開けたまま、治療が終わらないうちに、あなたの面倒を見ることはできません。あなたがいたのは前のことだからです。あなたが予約を断ったのに、医者があなたを怒っていると言うのです。でも、それは事実ではありません。

Q それでは、ユダヤ人とアラブ人の間の争いについて話してください。それは今日まで続いています。神はユダヤ人を罰するのは、彼らが神に背いたからだと言いました。それで、神は彼らを世界中に分散させ、この世の末日までずっとアラブ人と戦わせ続けているのでしょうか。

M そうです。それは彼らが嫉妬の神を崇拜したからです。第二界のカルマの神を崇拜したので、その神が彼らを処罰したのです。彼らが全能で至高の神を崇拜したなら、あるいは、彼ら

のマスター、モーセがとても高いレベルの聖人だったなら、彼らはこんな目に遭わずにすんだでしょう。それに、一度チャンス逃したら、それは何世代も、何千年も苦しまなければなりません。その周期が終わるまで、本当にすべてに飽き飽きするまで、本当に懺悔するまで続くのです。そうしたらマスターが現れ、あなたを救いに来ます。

私たちの修行仲間の一人は講演を聞きに来て、初めて私に会いましたが、家に帰ってしまいました。彼は印心を受けたくなかったのです。必要ないと思ったので彼は断りました。彼は自分を善人だと思っていました。修行をし、時々メデイテーションをし、良いことしかしないので、彼にはマスターは必要なかったのです。しかも女性のマスターです。仏教経典では、女性は仏陀にはなれないと述べています。それで彼はいらなと言ったのですが、彼は前世から良い修行者でしたので、仏陀に会い、開悟する福報がありました。エゴは大きいですが、それでも彼には良いところがありました。講演を聞きに来た時に、彼は感じ、知り、体験がありました。たくさんの光や仏陀を見たのです。彼はいわゆるマスターチンハイは普通の人ではないとわかったのです。わからなかったのではなく、わかっていたのに拒否したのです。マスターは必要ない、一人で十分だと言いました。彼には功德があり、いつも仏教の寺に供養し、布施をし、一人で修行してすべてがうまくいっていたので家に帰ったのです。すると、弟子の何人がやって来て強く勧めました。「どうして印心を受けないのですか。とても良いチャンスですよ。

印心を受けずに死んでしまったら、先のことはわかりません。マスターがいつ来るか決してわからないのです。何が起きるかわかりませんよ。印心を受けに行ってください」と。それで、彼は自分の信念が揺らいだのです。

異なるレベルの神

Q 全能（スプリーム）の神は人の姿で現れることができますか。

M できません。

Q ささまざまな宗教の弟子が神に祈る時、彼らはみな誠心誠意に、すべてを神にささげます。彼らは本当に第五界の神と交信できますか。

M ほとんどは、カルマ（因果）の神と交信しています。

Q カルマの神は第二界の神です。ユダヤ人は彼をエホバと呼びますが、でもそれは死の神である閻魔（えんま）と同じではありませんね。

M 違います。死の神は地獄の領域、第一界にいます。

Q それでは、全能の神は、さまざまな神にさまざまなレベルの仕事させますね。

M 閻魔はカルマの神と仕事をします。

Q それでは、彼らはここ地球の末日までしか働かないのですね。

M そうです。彼らは自分たちの任務が終わるまで働きます。

Q それは、例えば一劫が終わるまでという意味ですか。ヒンズー教で言う四劫ですか。

M 彼らのカルマがなくなるまでです。

Q それは任務であり、浄化であり…。

M それは複雑です。けれども、彼らはその地位にいる時、仕事を遂行するための神のパワーを備えています。

Q では、聖仙や聖人たちがそういった法律を変えるのですか。

M そうです。マスターたちはすべての因果律を超えたところにいます。通常マスターは、マスターという地位を利用してその世界の主を抑えたりしません。ただ彼らと協力して、魂を彼らの領域を通過させますが、決して抑圧しません。ちようど、大統領の顧問と同じです。彼はあらゆる大臣や守衛よりも権力があります。けれども、彼は「おい、おまえ。おまえはただの守衛じゃないか」とは、決して言いません。おわかりでしょうか、そんなことはしません。彼は守衛を尊重して、身分証明書を見せ、守衛がドアを開け、入るのを許可されるまで待つでしょう。たとえ、彼が大統領官邸では大変知られていたとしても、黙ってただゲートを車で通り抜けたりはしないでしよう。一人ひとりの職務を尊重します。けれども、もちろん彼は普段大統領官邸に入ることが許されない人を連れて入りたい時にはそれが可能です。また彼の保証が

あつたり、彼と一緒になら、守衛は誰でも大統領に会いに行かせられます。そうでなければ、誰も大統領官邸に入ることはできません。わかりますか。有力者と一緒なら誰でも大統領官邸に入れるのです。

悟ったマスターは論理で人を救う

Q 釈迦牟尼仏は、かつて「私が見なさん全員を苦しみや無明の中から連れ出し、解脱させられるなら、すぐにそうしよう。けれどもできないのだ」と言いました。

M そうです。

Q それでは、彼は全能ではないということになります。でも、仏陀というのは全能であるはずで。

M 仏陀は全能ですが、私たちは自分の意志を使わなければなりません。

Q どうして彼は私たちすべてを解脱させられないのですか。

M それでは楽しくないでしょう。

Q でも、この世界では楽しさよりも苦しみの方が多いです。(笑い)

M 人々は苦しみが好きなのです。彼らについてくる意志がないなら、釈迦牟尼仏やイエスは強いることはできません。人々には自由な意志があります。それが難しいところなのです。こ

これは否定の世界であり、マスターたちはこの世界の法則に従って仕事をしなければなりません。何でも壊せるわけではないのです。ここはカルマ（因果）の神の王国で、この王国に入ったなら、それに従って仕事をしなければなりません。

聖人は人々のためにここに入ることを許されたのです。人々に論理的に話し、超能力や睡眠術ではなく、人々が自分の選択や智慧、意志でここから抜け出すのを導くためです。そういうわけでマスターの仕事は難しく、苦しみに満ちているのです。そうでなければ、誰でもマスターになれるし、全世界の人を連れ出してここを空っぽにするには、マスターが一人いれば十分でしょう。でもそれは許されません。もつと多くの聖人が出現し、天国とつながるために、いつもいくらかの人々がここに残らなければならないのです。なぜなら、この世界に人間がいる限り、他の衆生が進化できるからです。

植物、動物、そして人間

M 旧約聖書を覚えていきますか。神は人間に、動物の王として動物を統治する任務を与えました。それは、私たちが彼らの面倒を見て教育し、進化させなければならないという意味です。他の動物が人間に進化した時、この生まれたばかりの人類を教えるために、すでにより進化し、より聡明な別の人間が現れるはずですか。わかりますか。樹木、岩石、鉱物は進化し、人間にな

らなければならぬのです。彼らが進化して人間になっても、教える人がいなければ、彼らは再び鉱物や樹木レベルの王国に逆戻りしてしまいます。

Q 植物はどのように学ぶのですか。例えば、何が善悪かとかですが。

M 彼らはゆっくり学びます。何千年も経験を積み、エネルギーや周りの雰囲気から教えを吸収していくのですが、彼らの理解力や消化システムは遅いので、何千年もの間、そういう雰囲気の中に存在しなければならぬのです。そしてやっと、「ああ、そういうことか」と気づき、目覚めるのです。そうして、彼らは人間の体を与えられます。彼らは若い魂です。どうするか兄や姉に聞くのは簡単ですが、あなたがしてもらいたいことを幼い子どもに説明するのは難しく、あなたの言うことを理解するには長い年月がかかります。大学に入るには長い年月がかかりますし、大学に入ったら彼らを教える教授がいなければなりません。誰もが卒業し、大学を出て行けるわけではありません。新入生を迎える人も必要です。誰もがみな大学の教授になるべきだということではなく、小学校の先生も大事です。そうではありませんか。私は話しすぎましたね。もう十分だと思いませんか。(聴衆はもっと話してくださるようお願いする)

魂

Q 「魂」論について話してください。釈迦牟尼仏は、「実際、魂はない」と言い、イエスは

「魂はある」と言いました。

M ちょうど、誰かが「神はいる」と言い、そしてまた他の誰かが「神はいない」と言ったのと同じです。それは彼らの事であり、私たちは気にすることはありません。彼らはさまざまな人、さまざまなレベルに話しますので、いろいろな名前を使わなければならないのです。

Q それで、釈迦牟尼も他の場所では「魂はある」と言ったのですね。

M そうです。彼はそれを「偉大な本性」と言いました。あるいは「真我」とか「真のあなた」と言いました。それは魂のことです。同じことです。彼はただ、人々の言葉に対する執着を打ち破りたかっただけなのです。人は、魂というのは何かに包まれているものだと思像している、彼はそれを壊し、「そんなものはない。ただ、あなた自身がいるだけだ」と言わなければならないなかつたのです。

Q それでは、輪廻するのは一人の人ではないのですか。

M 習慣が輪廻するのです。習慣のエネルギーです。私たちの考え方、行い方、期待の仕方が巨大なエネルギーになり、輪廻するのです。考えるエネルギーである魂はこの巨大な習慣のエネルギーに包まれているのです。それで、魂は輪廻するエネルギーと共に苦しまなければなりません。魂がその包まれているエネルギーから抜け出したら、もう苦しむことはありません。**Q** 開悟しなければならぬのですね。出て行くためには、それが唯一の方法なのです。

M そうです。

Q なぜですか。その魂はそういった習慣に執着しないのですか。

M そうです。誰も魂が独立しているとは教えてくれません。体にいつもすべてのゴミを抱えている必要はありません。そういった服を着ている必要はありません。服は破ることができません。服を脱ぎ捨てて自由になることができます。しばらくの間はゴミを抱えていなければなりません。ずつとというわけではありません。以前にも話したと思いますが、海に潜る時、私たちは酸素マスクや醜い装備一式と、カエルみたいなダイバースーツが必要です。けれども、私たちは本来そのような姿ではありません。いいですか。海に潜るためにはこういったものが必要です。海はまったく違う世界だからです。この不恰好な装備がなければ、私たちは生きられないのです。

さて、海に潜り、しばらく経ったら、あなたは海面上がって来なければなりません。海中にとどまっていたら装備にトラブルが起きるでしょう。本来あなたを助けるはずのものですが、あなたが海の中に長くいすぎて、すっかり壊れてしまったこの装備に執着すると困ったことになります。あなたは死んでしまうでしょう。装備に執着すれば死ぬのです。「いやだ、いやだ。上がって、この酸素マスクをはずせと言うなら、私はどうやって生きていけるんだ。ずつとこの酸素マスクをつけているのに、今上がって外せと言うのか。どうしてそんなことができるん

だ。いやだ、いやだ、いやだ。私はここにいます。これなしでどうやって泳ぐんだ」と言っている代わりに、あなたは上がって来るべきなのです。

あなたは陸に上がったら、泳ぐ必要がないことも知らないのです。酸素マスクは必要ありません。あなたには何でもありません。おまけに見栄えもいいのです。これは例えですが、はっきりわかりましたね。私たちが海に潜る時はほんの短時間のことなので、あなたは地上の生活を忘れることはありません。けれども、この物質世界という海に潜り、何回も生まれ変わると、私たちはこの苦海の中のあらゆる魚に執着するようになります。海の中の美しい景色に見とれてしまい、二度と陸に上がりたいとは思わなくなります。それで、私たちは海に潜る時と同じように、装備が不可欠だと思おうのです。酸素マスクにあたる頭脳や、潜水服にあたる肉体が必要だと考えてしまうのです。

マスターが、「さあ、霊体のために肉体を捨てなさい。死を恐れることはありません。物質的なものを忘れて私について来なさい」と言うと、あなたは「だめです。だめです。物質的なものは私たちのすべてです。私の家族が、私の友人が、私の家が、私の子どもが……。(笑い) 私の銀行口座が、私のクレジットカードが……」などと言うのです。これらは実際、私たちが天国に行く時には必要のないものばかりです。陸に上がったら、私たちは酸素マスクなどすべて取り外さなければなりません。そうでなければ自殺行為になります。今私たちは聖人の道に足を

踏み入れたのです。こういった酸素マスクなどすべて、ゆつくりと取り外さなければなりません。今までは必要でしたが、今は必要ないのです。けれども、ある人は着ていたものに執着しています。あまりにも長く着ていたので、体にとってもびったりしていて暖かいからです。彼らは「構いません。具合がいいんです。どうして脱がなければいけないんですか」と言います。けれども、急いで外さないと彼らは死んでしまいます。酸素マスクは一時的に使うだけのものです。陸に戻った時、それに執着し、普通の酸素を吸わないでいたら、以前役に立ったものに殺されてしまうのです。

Q あなたが「彼らは死んでしまう」と言うのは、イエスが「死者に死者を埋めさせよう」と言ったのと同じですね。それは、こういった人たちは服、家具、車、お金に執着しているので、その体では決して修行生活が送れないということでしょうか。

M そうです。そういうわけで、イエスは「死者に死者を埋めさせよう」と言ったのです。というのは、生きている人も死んでいるからです。彼らの霊体は死んでいます。マスターが信じられなかったり、マスターから印心を受けていかなかったりすると、私たちはみな死んでいるのです。動く死人であり、動けない死人です。

Q こういうすでに死んでいる人や、霊体のない人が死ぬと、彼らの肉体が腐敗するだけで、習慣はそのまま再び輪廻するのでしょうか。

M そうです。

Q それ以外の人、つまり靈修行をしている人、マスターに奉仕する人、マスターについて学んでいる人、神を崇拝している人、神を愛する人はみな、靈性の光や光り輝く体があります。

それで、彼らが死ぬ時は、光り輝く靈体が習慣や執着の上を超越して行きます。それで、靈体はマスターと共に、さらに高いレベルに行くのでしょうか。

M そうです。そういうことです。

Q マスターが人間の体というこのゴミから人々を救い出したいと切望するのは、この体がただの腐敗した肉体にすぎないからですか。

M そうです。

Q マスターと弟子の間には絆がありますか。インドでは、私たちは永遠にマスターと共にいると言われています。

M そうです。そういうわけで、イエスはこう言ったのです。「この世の終わりまで、決してあなたがたから離れたり、見捨てたりしません」。釈迦牟尼仏が生存中、彼にはさまざまなレベルの弟子がいました。彼のパワーによって一世で解脱する人もいれば、来世で解脱する人もいました。さらに四世かかる人もいれば、七世かかる人もいました。私は戻って来たくないのに、現世でみなさんすべてを連れて帰ります。(拍手。笑い)

私たちはみな一体である

Q 私たちがみんな一緒に解脱すると、仏教徒、ヒンズー教徒、イスラム教徒、スーフィー派、シーク教徒、キリスト教徒はみなそこで一緒になるのでしょうか。

M もちろん、そうです。宗教はありません。実際、古代のマスターから残されたマスターの教えしかないのです。

Q イエスは「宗教はない」と言いました。それでは、どのようにお互いを知るのですか。私たちがみな死んだら、もう宗教もなく、もう体もないのですから…。

M それは一般の人のことですか、それとも印心を受けた人についてですか。

Q 印心を受けた人です。

M 印心を受けた人はマスターと一緒に上がって行きます。それなのに、まだそこに座って、「あなたはシーク教徒ですか。それともキリスト教徒ですか」と聞くのですか。何とくだらない。私たちはもうそんな質問をしません。今聞かないのに、どうして後で聞くのでしょうか。私たちはもう一体であることを知っているのに、どうして死んだ後で聞かなければならないのでしょうか。

Q その通りです。それでは、その後永遠に、私たちは一緒に何をするのでしょうか。

M 学びます。マスターの領域、マスターのレベルに達するまで、学ばなければならぬこと

を学ぶのです。

Q それでは、私たちは印心は受けたけれど、まだ開悟していないということですか。

M 開悟はしましたが、マスターのように完全に開悟したわけではありません。例えば、あなたが大学生になって大学に入学する時は、あなたは大学教授でも卒業生でもありません。さらに勉強しなければなりません。

Q それでは、私たちは死んだ時卒業できるのですか。

M 今です。私たちは今、卒業できるのです。もし、あなたが十分学んだなら……。でも、すべての人ではありません。一世で成し遂げた人は、釈迦牟尼仏、イエス、龍の女の子、それにミラレパです。あなたも彼らの仲間入りできるかもしれません。

Q みんながなれるのですね。そうでない人はどうやって学ぶのですか。そこには本などないのでしよう。

M ありません。彼らがこの世を去ったら、マスターは彼らのレベルに応じて教えます。彼らが仏陀に、マスターになるまで、マスターは彼らから離れることはありません。

Q それは本当ですか。

M そうです。

Q マスターは決して子どもを見捨てないのですか。

M 決して見捨てません。

在世のマスターの重要性

Q それは、イエスと彼の信者のような関係ですか。すべての真のキリスト教徒はみな、彼について行くのでしょうか。

M いいえ。現在のすべてのキリスト教徒ではなく、彼が生存中に教えた人々です。イエスの生存中に彼に従った人々です。彼らがマスターのレベルに達するまで、イエスが面倒を見ます。

真のキリスト教徒とは、イエスの生存中に彼に従った人々のことであり、真の仏教徒とは、釈迦牟尼仏の生存中に彼に従った人々のことです。真のシーク教徒とは、シーク教のマスターたちの生存中に彼らに従った人々のことです。そういうわけで、彼らは自分たちのことをシーク教徒、仏教徒、キリスト教徒と呼ぶのです。それは、彼らのマスターの名前だからです。私が死んだら、人々は「チンハイ教徒」を自称するでしょう。(笑い)

Q 今日あなたが、「在世のマスターだけ」と言ったのは、イエスがいない今のキリスト教徒は、在世のキリストを探す必要があるという意味ですか。

M 彼らはキリスト教徒ではありません。

Q キリスト教徒ではないのですか。

M 真のキリスト教徒ではありません。

Q それでは、誰がこのかわいそうな人々を救うのですか。とても大勢いますよ。

M そうです。そういうわけで、この世界はいつも混み合っているのです。もし、イエスやキリスト教を信じる人がみな天国に行つたなら、この世界はとくに空っぽになつていてでしょう。少なくとも人口の半分はなくなるでしょう。そうは思いませんか。

Q そうですね。それは、彼らはずっと戻つて来ているという意味ですか。

M 人口の半分はキリスト教を信じているのに、この世界はいつも人でいっぱいです。人口は増える一方です。それは、キリスト教徒は誰も天国に行つていないことを表しています。現在のキリスト教徒は、誰も天国に行つてないのです。

Q それでは、彼らがここから出て行くためには、イエス、つまり在世のイエスが必要だということでしょうか。

M もちろん、そういうことです。

Q それでは、イエスのいないキリスト教徒はみなどうなるのですか。

M イエスが生まれた頃の、ユダヤにおけるユダヤ人のようになります。彼らは救世主の再来を待つていました。そして実際、救世主はそこにいたのに、彼らは真の在世の救世主を拒絶したのです。決してやつて来ないであろう約束の人を待ちながら。

Q その人は決してやって来ないのですか。

M そうです。

Q 来るかもしれませんが。聖ヨハネの中には「雲の上に」と載っています。

M 雲の上ではありません。ああ、そうです。私は雲の上を歩きます。そうです。私は雲からやって来ました。いつも飛行機に乗って行きますが、彼らは私を信じません。(笑い) イエスは「雲に乗って来る」と言いました。違いますか。(拍手)

Q たぶん、彼は雲にかかわる何かを言いたかったのでしょうか。

M 違います。

Q 雲は何かの象徴ですね。

M 雲は雲です。雲の中から降りて来たのです。

Q 彼は雲の中から来るかもしれないとヨハネは言いました。

M そうです。私はいつも雲の中からやって来ます。

Q それはつまり、あなたとイエスが一体であるということですか。

M どう思いますか。

Q ええ、そう思います。(笑い)

M では、私が少なくとも彼と同じであるかどうか知りたいなら、彼が生存中に言ったこと、

行ったことをよく考えてみなければなりません。そして、私が彼のしたように行ったかというその条件を満たすかどうかも考慮しなければなりません。そうしたら、私が彼と同じレベルかどうか、あるいは、彼と一体かどうかがわかるでしょう。

Q ええ、そうです。あなたは彼と一体です。というのは、あなたは純粋で、純粋な人は神を見ることができからです。イエスは「私と天の父は一体である」と言いました。ですから、あなたは神と一体です。

M イエスは「私がこの世にいる限り、私は世の光である」と言いました。光のある人は他の人を照らすことができ、光を与えることができます。今はつきりわかったでしょう。

Q ええ、わかりました。それでは、私たちは宗教を超えた、真理に向かう道程にいるわけですね。

M 宗教はただ真理を指しているだけです。私たちは在世のマスターと共に真理を見つけなければなりません。真のマスターがいなければ、私たちは宗教を理解することさえできないのですから。

Q そうです。私自身の人生を考えてみてもよくわかります。

M そうでしょう。あなたはヒマラヤやインドで、それから他の国で多くのマスターに会ったのに、あなた自身が見つけて選んだ、あらゆる有名なマスターに会ってきたのに、まだ經典の

一部分も理解していません。マスターがいなければ、どうやって理解するのでしょうか。

Q その通りです。理解できませんでした。

M 出家してから何年間もいくつもの学校で学び、とても神聖な人生を送ってきました。ばかなことや罪深いことをしたわけではないのに、それでも、こういったあらゆる犠牲や苦行はあなたに悟りを与えられませんでした。何としてもマスター、良いマスターが必要なのです。(笑い。拍手)

グル・ナーナク

Q それでは、グル・ナーナクを知っていますか。彼は伝道を始めた頃、「こんなにたくさん
の僧や尼僧や在家の人々がいて、非常に多くの方法で神に祈り礼拝している。この地球上では
二十四時間、誰かが必ず神に礼拝している。けれども、それにくらべると何とマスターの少な
いかどうか」と考えました。

M そうです。完全に開悟した人はどれくらいいるでしょう。

Q どうしてですか。何百万人も神の崇拝者がいたのに、なぜグル・ナーナク一人だけがマ
スターになったのですか。

M おまけに、みな大変誠心誠意で、いろいろな犠牲を払い、苦行をしていたのに。

Q 何年間も苦行しました。

M そうです。釈迦牟尼仏の時と同じです。その時代に一人か、多くとも二人です。イエスも一人だけでした。みな神を崇拜し、祈り、神を認識するためにあらゆる犠牲を払いますが、誰もなれなかったのです。イエスだけです。釈迦牟尼仏だけです。グル・ナーナクだけです。彼らのようなマスターだけです。

Q どうしてですか。それはすでに運命付けられていたのですか。例えば、グル・ナーナクが開悟して、それでシーク教の創始者になったのも運命ですか。

M そうです。

Q 運命付けられていたのですね。

M 彼は天に選ばれ、任務を与えられたのです。そのため、グル・ナーナクは幼い頃からすでにみなと違っていたのを知っているでしょう。

Q 彼はハンサムで聖人でした。

M いいえ、ハンサムだったわけではありません。彼が木の下で寝ていると、太陽が移動しても木陰は動きませんでした。というのは、その木は寝ている彼を守りたかったからです。それから、イエスも幼い頃からすでに慈悲深い人でした。彼は母親に貧しい人に服をあげるように言いました。彼女が最後の服をあげるべきかどうかまだ考えている時、彼は「あげて」と言い

ました。その時彼はまだ子どもでした。そして、釈迦牟尼仏は聡明で思いやりがありました。Q 彼は小鳥の命も救いました。

M 彼は慈悲深い人でした。小鳥や他の生きものも救いました。彼らは凡人とは違っていたのです。彼は兜率天（とそつてん）から来た菩薩であると言われていました。彼は凡人ではありませんでした。普通の人を故郷に連れ帰るために、彼は普通の人として生まれました。それで、イエスは神の息子、釈迦牟尼仏は兜率天から来た菩薩、グル・ナーナクは天国の生まれで神聖であると言われたのです。彼は若い頃からすでに聖人の品性を見せていました。これもまたうわさではなく、その中に真実の一面が表れています。

Q グル・ナーナクがメッカに行き、そこで黒い岩に足を向けていたという話があります。

M そうです。その黒い岩は神の神聖な象徴と考えられていたものでした。

Q 彼は岩には触れませんでした。ただ足を伸ばし、その黒い岩に向かって足を下ろしました。

M その岩はとても…。

Q とても神聖な岩です。

M そうですね。ですから、誰もそんなことはしなはずです。

Q そうです。すると、すぐに一人の男が来て、「だめだ。その黒い岩に足を向けてはならない」と言いました。それでグル・ナーナクは「わかりました。では神のいない所に私の足を

向けてください」と言いました。

M そうです。岩がそこにあるので、神はそこにいると思われていたのです。それで、彼は「それでは神のいない所を教えてください。そうしたら私はそこに足を向けられます」と言いました。するとその人が反対の方向を指したので、彼がそこに足を向けると、その岩が飛び上がりました。

Q 岩が動いたのですか。

M そうです、移動しました。彼の足と共に移動しました。あなたは何を知りたいのですか。
Q 彼は空を飛んだと言われています。かつて、彼はサウジアラビアかどこかにいたことがあって、メッカに向かって飛んだというのですが、それは本当ですか。グル・ナーナクと共に演奏し、曲を作り、神のために歌ったマールダーナという弟子と一緒にでした。

M 本当かもしれないし、そうではないかもしれませんが。あなたも飛行を学べますよ。
Q 空中浮揚ですか。

魅惑的なミラクルパワーの世界

M そうです。でも、あまりにも一生懸命学びすぎると…。アレクサンドラの本を読んだ時に書いてあったのですが…。

- Q あなたがおっしゃるのは、インドに渡ったアレキサンダー大王ですか。
- M いいえ、違います。チベットに渡ったフランス人の女性です。
- Q ああ、知っています。アレクサンドラ・ニールですね。
- M ニールです。
- Q ええ、知っています。彼女の本は読みました。
- M 彼女がチベットに行った時…。
- Q 男性のように、貧乏人のように変装しました。
- M 彼女はヒマラヤでたくさんの全裸の男性を見ました。例えば、体中に鉄の鎖を巻きつけたチベット人です。彼らはどこへ飛ぶ時でも、いつも鎖を持っていなければなりませんでした。
- Q というのは、彼らはあまりにも長い間飛行の訓練をしたので、体がとても軽くなったからです。こういった鎖がないと、彼らはずっと空中に浮いたままなのです。それで、彼らは体重をコントロールし、時には地上に降りて食べ物を取るために、鎖を使わなければなりませんでした。
- Q そうです。時々彼女は「チャリン、チャリン」という音を聞きました。わかりますか。その人たちが地上に着陸する時の鎖の音です。(笑い) ですから、もしあなたが習いたいなら、チベットに行って修行することができます。この飛行技術を習得するには何年もかかるそうです。
- Q ラマが体熱を保存する丹田発熱法の三年間のリトリートに参加するよう誘ってください

ましたが、私は「結構です、行きません。何のために行くのですか」と言いました。私にはそれにもどんな意義があるのかわからなかったからです。

M 私たちの体には発熱システムがあります。

Q 発熱システムもありますが、私はただ神を知ることだけに興味があります。

M 発熱法には興味ないのですか。そうですね。でも、あなたはそれを修行すべきです。

Q 何のためですか。

M たくさんの服の乾燥機代を節約できます。数秒で服を乾かせます。洗濯してから乾燥機に放り込む必要はないのです。そうですね。乾燥機の費用を節約できます。とても経済的ですね。

Q でも日光で乾かせます。

M チベットはとても寒く、陽もそれほど射しませんよ。ですから、彼らは学ぶ必要があります。凍えてしまいます。想像してみてください。仮に家族がいて、あなたに丹田熱があったなら、あなたはその能力を使って体の上で家族全員の服を乾かせ、たくさんのお金が節約できます。服を洗濯したら、彼らはただ「ねえ、来て。体の上ののせて！」と言うだけです。そうしたら、全部数秒で乾きます。

Q でも、ヒマラヤに三年以上もいたら凍え死んでしまうでしょう。三年間の凍結の苦しみに値しません。

M それは、あなたが丹田発熱法を習わなかったからです。私はヒマラヤの雪山で、たくさんのヨギを見ましたが、彼らは裸で靴も履かず、はだしでしたが、彼らの体は赤みがさし、温かかったですよ。

食事と睡眠は必要か

Q シヴァ神の祭りの時、二人のヨギが人前に姿を見せていました。彼らは小さなあばら家に住んでいて、決して食事も睡眠もとりません。毎年シヴァ神の祭りの一日だけ、人々が訪れるのを許しています。彼らは外に座っていましたが、とても大きなおなかをしています。なぜでしょう。私にはわかりませんでした。それに、彼らの首はとても太くて髪の毛はとても長いです。彼らは決して食事も睡眠もとっていません。

M 彼らは空気を食べるのです。「気食主義者」です。あなたも習えますよ。

Q どうやってですか。

M 彼らのところに習いに行くのです。

Q でも彼らは教えてくれません。いつもその二軒の小屋に隠れていて、誰も彼らと話したり、会ったりできません。

M 彼らは人とあまり長く話すと死んでしまうのです。

Q 彼らは話をしません。外に出る日も彼らは話しません。ただそこに座っているだけです。人々は十二時間彼らを見ることはできません、彼らは話をしません。

M フォルモサに一人の女性の出家者がいて、彼女は死ぬ前二十数年間ずっと食事をしませんでした。ドイツのババリアの修道女、聖テレサも食事をしませんでした。

Q 彼女は聖餐用のパンだけ食べました。

M そう、ほんの少しだけです。私たちは食べる習慣をなくすよう訓練できます。インドにいた時、ある男の人の話を聞きました。彼はごく普通の人で、修行者ではなかったのですが、毎日わずかな塩水を飲むだけでした。それだけです。何も食べませんでした。これは決して霊的な意味ではありません。私たちの体はとても柔軟に、いろいろな状況に合わせて訓練できます。一度、私はもう少しで食べる習慣をやめるところだったのですが、神は望まなかったのです。神が「だめだ」と言ったので、私は食べ続けなければなりませんでした。

Q そんなに少ししか食べなかったのですか。

M その頃、私は食べ物をとっても恐れていました。食べたものすべてが体に影響し、病気になるような感じでした。それで、もうそれ以上食べたくなかったのです。長い間食べずにいました。けれども、その後神は「だめだ。ずっと普通にしていなさい。さもないと、あなたが食べないからということだけで、人はあなたに会いに来るだろう」と言いました。そして、「彼らは

悟りのことなどすっかり忘れてしまい、ただおなかを満たすことについてだけ聞くだろう」と言いました。フォルモサにも何も食べずに亡くなった尼僧がいましたが、彼女も話をしませんでした。インドにもやはり有名な別の女性がいて、彼女も食べませんでした。話しました。

Q ええ、彼女のことは聞いたことがあります。以前彼女の所を訪ねるつもりでした。

M もう彼女はいないと思います。

Q そうです。もう亡くなったに違いありません。

M 彼女にとって良いことです。

Q ですから、神を探し求める人々は、彼らのマスターが食事するかどうか、服を着るかどうかは気にしません。それはまったく重要ではないのです。

M そうです。気にすべきではありません。

Q それでは、食べ物が必要なのは、体の規則なのですか。

M そうでないともいえます。一般的にはそうですが、もし私たちが自分を訓練できたら食事しなくてもいいのです。食事をしない運命だったり、前世で食べるといふ福報を使い果たしたのなら、現世でもう食べるべきではありません。私たちの倉庫に食べる福報が残っていないなら、食べるべきではないからです。まだ残っているなら、食べなければなりません。そうでないと、私たちはそれを食べ尽くすために、来世また戻って来なければなりません。ですか

ら、ただ普通にしていなさい。いいですね。

- Q 睡眠も同じですか。というのは、私はマスターのほとんどが寝ないことを知っていますが。
- M ああ、寝るか寝ないかですね。寝るのは体だけで魂は決して寝ません。私は寝ても寝なくてもいられます。何の違いもあります。寝ないなら、私はどうやって時を過ごせばいいのでしょうか。寝られる時、私はいつも感謝します。というのは、時間がより速く過ぎるからです。寝ているか起きているかにかかわらず、私はいつもサマデーの中にいます。その違いは何なのでしよう。

「気のふれた菩薩」だけがここに下りて来ることを選ぶ

- Q 例えば、ある菩薩が何回もこの世界に戻って来て、肉体を持たなければならぬとしたら、睡眠は他の人の苦しみを見ることからのちよつとした逃避のようなものですか。
- M どうしてですか。なぜ菩薩が何度も戻って来なければならぬのですか。
- Q それは大乘仏教学校で教わったことです。みんなが仏陀になるまで、菩薩は何度も戻って来なければならぬと聞きました。
- M そうです。でも、全員ではありません。普通、菩薩は交替でやって来ます。ある菩薩は決して天国を離れません。

Q それは彼らの選択ですか。ずっと上にとどまっていることもできるのですか。

M そうです。頭のおかしい、気のふれた菩薩だけがここに下りて来ることを選びます。(笑い)

Q ただずっと天国で平和に暮らし、經典を学び、幸せな菩薩もいるのですか。

M そうですが、そうだと、ここにはマスターがいないので、みなさんが苦しみを受けるのです。すべてのマスターが幸せに天国にとどまっていたら、みなさんがここで苦しむのです。

Q ああ、その通りです。もしマスターがいなかったら。ええ、その通りです。

M そうです。マスターがいなければ、みなさんはここで苦しみます。ですから、一部の気のふれたマスターがここに下りて来なければならぬのです。

Q マスターは自分がいつ下りて来るか、あなたのように前もってご存じだということですか。
M 当然です。マスターがただやみくもに下りて来たり、間違つて飛び降りたり、ひよつとして間違つたバスに乗つてしまうとでも思うのですか。(笑い)

Q でも、もしマスターに未来がわかるなら、例えばシーク教の第十代のグルであるグル・ゴビンダ・シンは、彼の子どもたちが壁にぶつけられ、生き埋めにされるのを見た時、それが起こることを前もって知っていたはずです。それなのに、どうして彼はそれを受け入れたのですか。彼らがそんなふうに死なないように事態を変えられなかったのですか。

M はい、変えられませんでした。変えられましたが、そうしたくなかったのです。なぜ、神の意志に背かなければならないのでしょうか。なぜ、魂よりも肉体のことを気になければならないのでしょうか。神はあなたや他の人の体をもう使いたくないなら、何としても奪い取ります。死んで埋められようと、生き埋めであろうと同じことです。いずれにしても、私たちは生死にかかわらず、いつかは埋められるのです。マスターにとって、去るのは早ければ早いほどいいのです。苦しみがより少なくなります。いったい、この肉体で存在することの、何がそれほどいいのでしょうか。この物質世界はマスターにいったい何を提供できるのでしょうか。

寝ている僧と座禅をしている僧

Q けれども、自分が神と共にいるという聖人意識が、マスターを幸せにさせているのではないのですか。

M ある面ではそうですが、別の面では彼自身はずっとそのレベルにとどまることを許しません。彼は人間の罪のために苦しまなければならないのです。釈迦牟尼仏の弟子でとてもレベルの高い人がいましたが、名前は何と言いましたっけ。

Q 阿難（あなん）ですか。

M いいえ、いいえ違います。在家の人です。

Q 迦葉（かしょう）ですか。

M いいえ。迦葉は出家僧です。その人は在家の人で、釈迦牟尼仏のとても有名な弟子です。気にしないで。知っているのですが、忘れてしまいました。いいでしょう。（マスターは「維摩（ゆいま）」のことを言おうとしていた）彼は他の僧たちよりもレベルが上でした。大変聡明で悟っていました。すべての僧が彼のことを恐れていました。けれども、彼は病気で具合が悪かったのです。ある人が彼に「どうしてあなたは病気なのですか。あなたは聖人でしょう。カルマがないのに、どうして病気になるのですか」と尋ねました。すると彼は、「衆生が病気だから、私も病気になるのです」と言いました。聖人は大変敏感で、すべての衆生と一体だからです。それで、すべての衆生の苦しみを感じられ、その苦しみを少し背負うのです。傷ついた心の声は静かで、誰にも聞こえませんが聖人には聞こえるのです。

面白い話があります。中国に二人の僧がいました。一人は山にこもっていつも座禅をしていました。彼は大変純粹で神聖な暮らしをしていました。そして、もう一人の僧はいつも出かけて歩き回り、決して座禅をしているように見えませんでした。ある日、座禅をしない僧が山の座禅をしている僧の小屋に行き、そこで一夜を過ごしました。座禅している僧は普段とても神聖で、誰ともかかわりたくなく誰も受け入れたくなかったのです。けれども、もう一人の僧はただそこに入り込んで来て眠ってしまいました。座禅している僧はいったい何ができたでしょ

う。座禅しない僧は一晩中いびきをかいていました。翌朝、神聖な僧が寝ている僧の所に行き、「お前は一晩中いびきをかき、人の座禅の邪魔をした。お前は騒々しい最低の僧だ。座禅もせずに座禅を邪魔しおつて」と、しかりました。すると、寝ていた僧がしかり返して、「おまえこそ悪いやつだ。座禅の時禪定（サマディー）に入ることさえできないではないか。お前は動き回ってアリのを一匹殺し、もう一匹のアリの足を一本折ったんだぞ。そいつが一晩中泣いていたから、寝られなかったんだ」と言いました。（笑い）

Q それはとてもいい物語ですね。

M レベルが違うのです。いいですか。そういうことです。さあ、家に帰って、アリの足を折ったり、私に面倒をかけたりにしないでください。

Q これは座禅力の違いとの関係を示しているのですか。

M そうです。もう一つ、中国の臨済禅師の物語があります。彼がまだ弟子の頃、いつも寝てばかりいました。どこでも横になります。まねしちやだめですよ。いいですね。私が話しているのは臨済のことで、みなさんのことではないのですから。ある日、彼は座禅堂の片隅で寝ていました。すると、マスターがやって来るのが見えたので、彼は怖がっているふりをして、座布団や寝袋を持って他の隅に行つて隠れ、寝続けていました。マスターは臨済をよく知っていました。彼らはお互いにとてもよく理解し合っていました。マスターはまっすぐに座禅堂に行

き、そこで座禅をしている別の僧を見ました。マスターは彼を蹴とばしてこう言いました。「おい、居眠り坊主。何のまねだ。おまえもあそこにいる臨済のように座禅の仕方を学ぶべきだ」。

(笑い)

その僧は信じられませんでした。彼がどのように座っていたか知っていますか。きちんとして僧衣を着て、仏像の前に威厳をつけて座っていたのにお尻を蹴られたのです。(笑い) 前に火のついた線香を置いて、線香が燃え尽きるまで決して動かなかったのです。けれども、彼の内面は動いていました。それでマスターは、寝袋にくるまっていたにもかかわらず、臨済は座禅している、そして、その僧は寝ていると言ったのです。わかりますか。それはレベルが違うからです。臨済は寝ていたけれども、決して眠りませんでした。彼の体が寝ただけです。彼の心はいつも開悟していました。どんなことをしていても、いつも自分自身の内面に集中していたのです。決して中心からそれません。けれども、木の塊のようにそこに座っていた僧の心は乱れ、何もしていませんでした。

ですから、内面に集中するように努め、他人の外見を批判しないことです。修行仲間の中にも外見とは違う人もいます。さつき誰かが「顔の違いとは何か。そして、顔の違いにはどんな意味があるのか」と尋ねましたが、そう、何の違いもありません。誰かが毎日私のそばにいたなら、きっとこう思うでしょう。「ああ、マスターは何をしているのでしょうか。食べて寝て

いるだけで何もしていません」と。けれども、他の弟子たちはみなさまざまな体験を報告してきます。そして、「マスターは何と忙しいのだろう。二十四時間、世界中のいろいろな場所で仕事をしなさい」と言うのです。わかりますか。いいですね。ですから、マスターがどう見えるかということと、マスターのしていることとは違うのです。マスターがどう見えるかは、私たちのレベルによります。唯一、私たちがマスターのレベルや、それに近いレベルに達した時、初めてマスターを理解できるのです。

外見は人をだますことがある

Q もう一つ物語があります。二人の禅僧が歩いている時、一人の僧が女性を見つけました。

M ええ、知っています。有名な話です。

Q その女性は子どもを抱えて川を渡ろうとしていました。でも、彼女は渡れないだろうと思いき、怖がっていました。それで、彼女を見つけた僧はすぐにそこへ行き、彼女と赤ちゃんを肩に乗せて川を渡らせて向こう岸に下ろすと、もう一人の僧の所に戻って来ました。彼らは禅僧なので、あまり話をしませんでしたが、二時間後もう一人の僧が彼にこう言いました。「女性の体に触れるなんて、何と大胆なことをしたのだ。おまけに彼女を抱きかかえて、川を渡すなんて」。それから二時間後に、最初の僧が「私は彼女を渡らせそこに下ろしたのに、お前はまだ彼女を

抱えている」と言いました。

M そうです。「お前はまだ彼女を抱えている。ここまですつと抱えて来た」。執着です。

Q 執着ですか。

M 内面の戒律と外面の戒律の違いです。聖人やマスターは、何をするにしてもそれに執着しません。彼らはただ、しなければならぬ事をするだけです。けれども、他の人々が仕事をするのは、彼らの習慣や欲求がそうするよう彼らに強いるからです。外面は同じように見えるのですが、違います。昔、中国に一人の有名なマスターがいました。国王は彼のが大変気に入り、彼に十三人ほどの妻を与えました。国王は気に入った者には美人を与えるのが習慣でした。それに、国王の好意を受け取らなければ死刑になるのです。絞首刑です。(笑い)ですから、マスターは女性を受け取りました。それで弟子たちはみな興奮していました。当然、男の弟子です。彼らは「マスター、もしあなたが十三人の妻をもらうなら、私たちも二人か三人、少なくとも一人はいただけるでしょう」と言いました。そこで、マスターは一つかみの針を取り出して飲み込み、「お前たちに同じ事ができるなら、二十人でも、もらえるぞ」と言いました。弟子はみな舌を出しても、二度と話はしませんでした。

けれども、もちろんこれはマスターにしては極端です。彼は超能力を見せびらかすために、そんなことをする必要はなかったのです。彼は論理を使えました。それで十分です。マスター

と弟子の間には当然違いがあります。たとえそうであっても、マスターは大変謙虚で、決してそういうことを感じさせたり、見せたりしません。けれども、私たちは観察や直感でわかるべきです。そして、マスターにできることと、私たちにはできないことを理解しなければなりません。そのマスターが弟子に感動を与えるために超能力という手段を使うのなら、その人とはとんでもないマスターに違いありません。そうでなければ、彼はそんな事をする必要はなかったのです。二、三回の印心後には、弟子はマスターのパワーを知るべきです。たとえ、その人に体験や高いレベルの体験がなくても、他の弟子からの体験の報告を聞くことで、マスターのパワーを知るべきです。わかりましたか。いいですね。

お金、贈り物の問題と、純粹さの維持

M もう一つ、インドのマスターの話があります。彼には五百人の弟子がいました。彼は普通の教師で、あまりレベルの高くないマスターでしたが、未来を予知することができました。たぶん第二界レベルのマスターだったのでしょう。普段、誰かが供養するために彼を宴会に招いた時には、決して弟子を一緒に連れて行きませんでした。ある日、弟子たちはとうとう我慢できなくなり、「マスター、宴会に行く時、あなたはいつも一人で行きます。私たちは働くばかりで、あなたは決して私たちに同じ楽しみを分けてはくありません。今度連れて行ってください

らなければ、私たちはここから出て行きます」と言いました。そういうわけで、その時から彼はいつも弟子たちと一緒に連れて行きました。

次の人生で、そのマスターはより高德で、より有名な一派の高潔な僧に再び生まれ変わりました。そして、彼がどこに行っても、その後ろにはいつも五百羽のフラミンゴが飛んでいました。それは、前世での五百人の弟子たちでした。弟子たちは人々からの供養を消化できなかつたのです。というのは、彼らにはそれを楽しむのに十分な福報も、十分な純粋さも、十分な修行の功德もなかったのです。マスターと弟子に違いがあるだけではなく、人と人にも違いがあります。ですから、私はみなさんに質素で欲ばらず、また分相応にしなさいと教えてきました。必要な時に必要な分を取り、使います。必要がなければ使わないようにします。そうしないと、問題が起こるかもしれません。時には病気になる、それが不治の病だったりすることがあります。

私の知っている修行者は、他人の稼ぎに頼って生活しようとするので、いつも下痢をしているのです。それは不純な供養だからです。私たちが不純な動機の人から贈り物をもらうと、それにも影響されます。そういうものが自分たちに影響を及ぼすことさえ知らないこともあります。けれども、それは私たちを、その人やこういった人たちから何かを借りているという感じにさせるので、彼らに縛られているという感じがして、どうして抜け出せないのかわかりませ

ん。時々そういうことがあります。それは、私たちがそういう人からの贈り物を受け取ったからなのです。

Q グル・ナーナクと二人の男についての話があります。お金持ちと貧乏な人がグル・ナーナクにお金をささげようとなりました。けれども、彼は貧しい男のお金しか受け取りませんでした。それで、お金持ちは大変悩んで、グル・ナーナクに「どうして私のお金は受け取ってくださらないのですか。お金があれば、たくさんのことができますでしょう」と尋ねました。

M それは血のお金だからです。

Q グル・ナーナクがお金持ちの男のチャパティを取って握ると血が出てきました。そのお金はお金持ちの男が一生懸命働く人々から搾取したものだからです。次にグル・ナーナクが貧しい男のチャパティを取って握るとミルクが出てきました。それはなぜですか。例えば、マスターチャラン・シンや他のマスターたちが、決して人から贈り物を受け取らなかったのは、それに汚染されると知っていたからですか。

M 当然です。

Q 彼は仕事のためなら受け取ります。例えば、それが飢饉とか、人にあげるための食べ物なら受け取ります。けれども、個人的な贈り物や道場のためには決して受け取りません。それにまた、彼はある人々からは、決して何かを受け取ることはありませんでした。

M 彼はいつも自分が食べるものや弟子からもらったものにお金を支払います。彼は個人的なカルマを受け取ってしまうことを心配したからです。彼はとても心配しました。

Q まあ、彼は心配したのですか。

M ええ、もちろんです。そうでなければ、彼は弟子からでも受け取ったでしょう。彼はどんな家で食事しても、たとえ弟子の家でも、毎回自分の分を払いました。

Q 弟子の家でもですか。それは知りませんでした。

M たぶん、彼は自分の功德がそれほど十分でないことを知っていたのでしよう。そして、おそらく弟子に模範を示しなかったのです。そういうわけです。このようなマスターでさえ、あえて供養を受け取らないのですから、どうして私たちが受け取る必要があるでしょう。それで、私は弟子の出家者たちに、決して何も受け取ってはならないと教えたのです。

Q では、出家していない一般の人が、生活の中でいつもプレゼントを交換し合うのは構わないのですか。

M 必要のない時は物を受け取らないように、そして誰かがみなさんに何かをくれたら、必ず何かを返すように、たとえ親戚でもそうするように努めなさい。印心の後にあげた小冊子の中で、私はみなさんにそう教えています。

Q 私はまだ読んでいませんが、あなたが教えてくださったので、今、知りました。

M 小冊子は読まなければなりません。

Q はい、読みます。

M 印心の前に受け取ったものは大丈夫です。その時、あなたはまだ知らなかったからです。けれども、印心後は自分の食べるもの、受け取るもの、それから触る人にも気をつけなければなりません。

Q 今日私はお茶に招待されましたが、大丈夫でしょうか。カモミールティーをいただいたのですが。

M 誰かがあなたの隣に座ったり、あなたに触ったりすることは、あなたに多くの影響を及ぼします。あなたがきちんとメデイテーションをし、そしていつも中心に集中し、神を思うなら、誰があなたに何をあげようと、それは大したことではありません。そんなに重大なことではありません。誰かがあなたに触ったり、抱きしめたりしてもあまり影響されません。けれども、きちんとメデイテーションもせず、また、まだこの道に新しく入ったばかりで、何に対しても不注意で、何でも食べ、会う人誰でも抱きしめたり、触ったりするなら、いつもトラブルが起ることになります。もちろん、あなたに福報やパワーがたくさんあるなら、あなたが触るのはすべて変わります。

けれども、あなたがまだそれほど安定していないなら、それらがあなたを変えてしまいます。

わかりますか。ですから、修行をしていない人たちが周りにいると、重苦しく、レベルが落ちていくのを感じます。そして、あつという間に、ほとんど彼らと同じようになってしまいます。これは本当です。

Q 本当にその通りです。そういう体験があるのでわかります。

M そういう個人的な体験があるのですね。そうです。私は真実でないことは言いません。マスターでさえ一時的に汚染されるのですから、普通の人ならなおさらでしょう。けれども、大人と子どもでは当然違いがあります。子どもが泥沼の中に落ちてしまったら、彼らは自分では洗い流せないでしょう。けれども大人だったら、すぐに自分で抜け出し、きれいに洗い流すことができます。それが違いです。わかりますか。

Q わかりました。

M ですから、私は弟子の出家者たちに、運転する時、お金を扱う時、そして人に触る時でも、手袋をはめるべきだと教えたのです。

Q 手袋ですか。

M そうです。ですから、昔の僧も、現代の僧も決してあなたに触りません。インドの人は加持物を与える時、二キロメートルも離れた所から、あなたの手の中に落とすのです。

Q そうです。その通りです。

M 彼らは一般の人だけでなく、僧や尼僧に対してもそうします。彼らは私にもそうしました。彼らは天国から加持物を与えてくれました。天井からです。誰が誰を加持するのかもわからないのに。その後、私は牛と加持物を分け合って食べました。それはインドの習慣「触るべからず」に由来するのです。これは悪い事ではなく、印心者に対して印心していない人々からの悪影響を最小限にし、避けようとしたものなのです。ところが、今日では無意味な習慣になっってしまったのです。実際、彼らはお互いに汚染し合っているのです。いずれにしろ、触ることが何だというのでしょうか。わかりますか。触る人も触られる人もみな同じなのです。

真のバラモン教徒とは、昔、マスターが生存中に印心を受けた人たちのことです。マスターの死後、後継者も亡くなり、法脈は失われてしまいました。このバラモン教徒の家庭に生まれた赤ちゃんは、マスターもいなくて印心も受けられず、清浄でもなく、何もありません。みんな汚いのに、彼らが人に触ろうとしないのは習慣のせいです。そのため、たくさんの習慣が修行の伝統によって残されています。それはそれほど悪いわけではありませんが、もはや本来の意味はすっかり失われてしまっています。それはちょうど聖ヨハネの話と同じです。彼は偉大な聖人で、たとえ水で人に洗礼を施す時でも、彼には神から与えられたパワーがありました。けれども、現在の教会では、ただそれをまねしても、何のパワーもない水を人に振りかけるだけです。

内在の光と音による真の洗礼

Q なぜ、イエスは「あなたがたは水と聖霊の両方によって洗礼されなければならない」と言ったのですか。

M いいえ、彼はそうは言いませんでした。

Q それは、教会が捏造した話だという意味ですか。

M 彼は決してそう言ったわけではありません。

Q そうですか。「あなたは水と聖霊によって洗礼されなければならない」と言ったのです。

M いいえ。イエスが洗礼を受ける時、聖ヨハネは「だめです。マスター、なぜあなたは私から洗礼を受けなければいけないのですか。あなたは私より上なのに」と言ったのです。すると、イエスは「神の法に従い、事を進めましょう」と言いました。つまり、普通の方法で行うということです。

Q 洗礼者ヨハネは、「私の後からあなたを洗礼するもう一人の方が来られる」と言いました。

M そうです。「私は水で洗礼を授けますが、私の後から来られる方は、私よりパワーも強く、偉大です。彼はあなたを聖霊によって洗礼します」と言いました。つまり内面の伝達を使うということです。聖霊のパワーです。

Q イエスが言いたかったのは、キリスト教徒は必ず「火」によって洗礼されなければならない

いというようなことですか。

M そうです。火と聖霊です。つまり「光」です。

Q ああ、それが光なのですね。それでは、舌で話すということはどういうことですか。

M それは音です。「聖霊は舌で話す」と言われるのは、内面で話すこと、つまり「音」のことです。火は光を表します。当時、神が現れる時、それは大きな火のようだと言われていました。覚えていきますか。それはその頃の人々の表現方法です。それで、今、あなたはなぜ私が、イエスが観音法門を修行したことを知っているかがわかったはずです。やっと答えがわかりましたね。中国にも同じような話があります。昔は「伝灯—明かりの伝達」と言われていました。「灯」とは内面の明かりです。「灯」は「光」を表します。そうですね。それは「光」を意味します。その当時の人々は、その言葉を内在の「光の伝達」の象徴として使ったのです。けれども、それから何千年もたった現在では、人は寺に灯明を置いたり、お互いにそれをあげたりして、「明かりを見れば悟りを得る」と言うようになってしまいました。それで、今日になっても、悟るという望みのために、ろうそくを見つめる人がいるのです。（笑い）あまりにも長く見つめたら、目が見えなくなってしまうでしょう。

それにまた、亡くなったばかりの有名なモダンマスターはたくさん論争を引き起こしました。彼は印心の時、小さな懐中電灯を使いました。彼は額に懐中電灯をこのように当てて、（マ

スターがそのしぐさをする。そして、あなたの第三の目のあたりをパツと照らします。目を開いて、光をパツとあてて、それが開悟だったのです。

Q あなたは冗談を言っているではありませんか。

M いいえ、冗談ではありません。

Q 本当ですか。

M 私は自叙伝を読みました。冗談ではないはずです。彼らに聞きなさい。教えてくれます。冗談ではないはずです。

男女の肉体関係と多少開悟したマスターの教え

Q 彼にはたくさんの聡明な弟子がいました。お金持ちや専門家も大勢いました。

M 彼らはインテリで、そのマスターの知的な見方や話が好きだったからです。

Q 彼は開悟したマスターだったのですか。

M ええ、多少は。

Q 彼の「秘伝の心理学」という本を読みました。その中で彼は「開悟はただ起こる。開悟のために何かをしたり、気にしたりすべきではない」と言っています。

M 誰でもそう言います。彼はたくさんの本を読み、そしてその本の半分か、四分の三をその

まま書いたのです。同じようなことが書いてある本は一ダースも見つかります。けれども、その背後にパワーがあるかどうかが違うのです。彼自身が開悟しているかどうかということですね。彼の本は何冊か読みました。

Q どう思いますか。

M ええ、彼はくだらないことをあまりにも話しすぎました。女性や平凡な主婦のようです。

Q そんなにたくさん話したのですか。

M いつも同じようなことです。いつも男女の肉体関係についてです。性について話すことは悪いことはありませんが、どうしていつもそればかり強調するのでしょうか。他にないのですか。それは寝室ですべきことで、その後は忘れるべきです。新聞や本に印刷する必要はありません。というのは、それは食べることや寝ることのようにとっても普通のことだからです。毎日の食事を大きさにすべきでしょうか。なぜいつも性の問題を大きにする必要があるのでしょうか。

好きならすればいいのです。これは個人的なことですから誰も止めません。いつもそれを美化したり、好きでない人をからかう必要はありません。公平ではありません。個人の好みの問題です。それに動物は私たちよりもうまく行っています。どうして大きな問題なのですか。実際、性行為はほとんど動物から学んだのです。ですから、そのどことが重要なのでしょう。違

いますか。私はそれは間違っていると思います。

Q 彼がそれほど強調したのは、フロイトと同じで、世界中であまりにも多くの人が性ということに抑制されているからだと思います。多くの僧やスワミたちでさえ同性愛者です。彼らはみな女性と関係を持ちたいのですが、全くチャンスに恵まれません。ですから、彼らは自分自身を抑制するのです。それで彼はあのようなマスターになったのだと私は思います。たぶん人々にこのことをはつきりさせるために、神が彼を道具として使ったのだと思います。

M そうかもしれません、やりすぎだと思います。

Q ええ、ちよつとやりすぎました。つまり、フロイトと同じで極端に走りすぎたということ。キンゼイ博士は人間の性に関する二つの報告書を書きました。それによると、ほとんどの家庭で夫婦は性生活に満足していないという事です。ですから、私たちの社会はこのような墮落した問題をかかえているのです。

M そういったことを教える本はもうすでにたくさんあります。マスターが指導する必要はありません。本、映画、マスメディアなど何でもあります。どこでも学べます。なぜマスターのもとに行つて、それだけを学ぶのですか。そんなことはみな口実です。マスターにより強い影響力があるので話すというなら、僧や他の人はみな彼の話を聞くはずで、けれども、僧たちは誰も彼の話を聞きません。僧たちはみな拒絶したのです。ですから、この僧たちは彼の教え

には納得していないので、彼らが抑制されていたかどうかではありません。性行為が好きでない人には役に立ちません。性行為が好きでない人は、決して彼の所に行かないでしょう。それでは彼は誰を助けるのでしょうか。誰も助けません。性行為が好きで、すでに知っている人だけが彼の所に来るのです。それで、何の役に立つのでしょうか。すでにたっぷり母乳がもらえ、おなかがいっぱいの赤ちゃんにミルクを与え、他のおなかをすかせた赤ちゃんには与えないようなものです。わかりますか。すべての僧が彼を拒絶したのです。

Q 彼は中世の多くの修道院のばかげた規則についても暴露しました。つまり、彼は新しい時代に多くの真相をもたらしたと私は思います。

M そういうことは本を読めばわかります。もちろん、どの宗教団体にも常に腐敗があります。でも、これほど男女の肉体関係についてだけ極端に取り上げることはないでしょう。

Q けれども、私は彼が神の道具だったと思います。

M 性行為は人間が自分自身でいられるための唯一のものではありません。

Q もちろん全人間性の中のほんの一部です。

M ほんの一部です。性行為をしない人はたくさんいますが、とても単純で幸せです。また、性行為の多い人は惨めで愚かです。言い訳は必要ありません。ばかげています。性行為に反対なのではありません。いいですね。私はただ、人が普通のことや些細なことを大げさにするの

が好きではないだけです。すべてを日常の教えとしなさい。普通のやり方で、自然の流れに任せればそれでいいのです。

Q ええ、私もそう思います。

M 実を言うと、人に性行為を教える必要はありません。昔は人々はとても若くして結婚しましたが、誰も彼らにどのようなかを教えませんでした。それでも彼らは成長し、子どもが十人もできました。それに、誰が動物に交尾の方法を教えるのでしょうか。本や映画など必要ありません。動物は人間よりも賢いとは言えませんが、動物はいつも相手構わず、無秩序な交尾をします。それで彼らはちっとも良くなりません。開悟することはありません。仏陀は何百人もの女性と性交渉がありました。彼は王子だったので、本妻以外に少なくとも五百人もの美人の側室がいたからです。彼は開悟しませんでした。けれども、その後彼は開悟したのです。たとえそんなに性交渉があつた後でも開悟したのです。それは彼の妨げにはなりません。彼の開悟に影響を及ぼしはしませんでした。彼は悟るべき時に悟りました。わかりますか。それに、幼い頃から年を取るまで一日中メデイテーションをし、菜食で一日一食しか食べない人たちがみな完全な悟りを得るとは限りません。ですから、法則などまったくくないのです。決してありません。

Q その通りです。

M 仏陀には何百人もの妻がいましたが、開悟しました。イエスには一人もいませんでしたが、彼も開悟しました。ということは、何を意味しますか。私たちは論理的にならなければなりません。いいですか。狂信的にならないことです。いいですね。中庸がいいのです。

Q そのマスターはおそらく車のことでも極端でした。一台あれば十分なのに、彼はたくさんロールスロイスを所有していました。それで、彼の行為もたぶん極端だったのでしょうか。彼はあまりにも性のことを強調しすぎました。彼には三十六台のロールスロイスがありました。それも少し極端です。マスターと同じで一台あれば十分です。行き来する必要があるのなら…。

M ええ、極端なことをするのが好きな人もいるのです。それで、たくさんの人が驚き、注目しますから。たぶん彼は十分に注目されていなかったのだと思います。

Q つまり、マスターは開悟しても、同時にその行為がとても奇異になることもあるのですか。

M その通りです。彼らは開悟したら何でもできます。このことは彼らには影響しません。

Q 彼らはもうカルマを引きずらないのですか。クリヤマナ・カルマ（現世のカルマ）や、サンチッタ・カルマ（前世からの集積されたカルマ）が燃やされたので自由なのでしょうか。

M そうです。けれども、まず開悟しなければなりません。

Q 開悟しなければならぬのですね。そうでないと、何をしてもその影響を受けるのですね。そうですね。けれども、私はそのマスターが開悟していたとは思えません。

Q 彼は完全には開悟してないのですか。

M 完全には開悟していません。最高でも第二界のレベルです。

Q では、弟子のインド人女性が彼を毒殺しようとしたのは、彼の過去のカルマですか。

M 知りません。愚かな人はたくさん愚かなことをします。

Q まったく関係がないということはあり得ないでしょう。

真のマスターは遍在でなければならない

M 真のマスター、本当に完全に開悟したマスターは遍在でなければなりません。それが唯一の証明です。マスターが同時に別の場所に現れることができるということです。

Q 化身ということですか。

M 印心の時には、少なくともいくつかの化身を現さなければなりません。少なくとも五人か十人の弟子に内在のマスターやそのようなものが見えるはずで、印心の時はいつも、少なくとも何人、あるいは半分くらいの人に見えなければいけません。この遍在のパワーがなければ、マスターではありません。遍在のパワーがなければ、その人は神と一体ではないからです。神は遍在なのです。わかりますか。

Q このマスターが言ったように、このパワーは自然にやって来るのですか。それとも訓練し

たり、何か運動したりして得られるのですか。

M そうであるとも違うとも言えます。どんなものからでもパワーは得られます。あなたがしばらくの間とても激しく踊ると、酸欠になり、あるパワーを感じるでしょう。

Q 何かをしなければならぬのですか。

M 何かをしなないと悟りが得られないなら、それは真の悟りではありません。

Q それでは、運動しても効果がないのですか。

M 釈迦牟尼仏は菩提樹の下で、イエスは砂漠へ行ったので、悟りを得たのだと思いますか。彼らはただそこで座り続け、悟りは自然にやって来たのです。

Q 悟りが彼らの所にやって来たのですか。

M そうです。

Q つまり、それはシュリ・オーロピンドや彼の聖母が主張したことです。彼らは、「人々は何の運動も必要なく、ただ座っていれば、頭頂に千枚の花びらの蓮の花が現れ、それを通して、光は自然にやって来るだろう。ただじっと座り続ければいいのだ」と言いました。

M そう、そういうふうになります。

Q けれども、私たちはここを見なければなりませんね。(頭頂を指す)

M そうではありません。すべて同じです。

Q 同じですか。

M 私たちが見るのは、光を見るためです。私たちは智慧眼で見ます。頭頂を見ることはできません。ここには目がありません。

Q けれども、ここに開いている目があり、そして光もやって来ます。これは何ですか。

M それが智慧眼です。(マスターが額の中心を指す) いいですか。

Q ああ、それが智慧眼ですね。それでは、その光とはどんなものですか。どんな種類の光なのですか。私は以前、あるマスターと一緒に光を見ました。

M 神です。

Q それが神なのですか。

M 印心の時にすでに言ったと思いますが、さまざまな種類の光がさまざまな境界(きょうがい)を表しています。あなたが忘れたのなら、もう一度出家者に聞きなさい。

Q ではその時、私は神と人間のように話ができますか。私が今あなたと話しているように、神と一緒に座り、話ができますか。

M あなたが彼のレベルに達したら可能です。けれども、神は一人の人間ではありません。一人の人がやって来て、差し向かいで話することは期待しないことです。

Q 神は父親のように見ることができないのですか。

M 見えます。神はそのように化身することができます。いいですか。けれども、あなたは今だんだん悪くなってきています。レベルが徐々に下がっていますから、帰って寝なさい。充電して、この次また聞きなさい。いいですね。終わりにしましょう。明日、私の声はかかっていることでしょうかね。

Q 私のせいです。お祈りします。

M 明日私はアメリカに発ちますが、すぐに戻って来ます。私のために祈ってください。

Q いつ戻っていらっしゃいますか。

M 二、三日のうちに戻って来たいと思います。ですから、私のために祈ってください。

Q みんなで祈っています。

M うまくいくよう祈ってください。これは神の意志です。いいですね。ではおやすみなさい。

Q うまくいきますとも。ご成功をお祈りします。

M ありがとうございます。



超世界の奥義

一九九二年六月二十六日 ニューヨーク国連本部における英語の講演

みなさん、ようこそ国連にいらっしやいました。どうぞ、ご自分の信仰の仕方と一緒にお祈りください。私たちが所有しているもの、与えられたものに心から感謝いたします。また、満ち足りていない人々にも、私たちと同様に与えられますように。世界中の難民、戦争の犠牲者、軍人、各国政府の指導者、もちろん国連の指導者の望みもかかれますように。共に平和に暮せますように。望むものはすべて与えられると信じています。聖書にそうありますから。

ありがとうございます。今日の講演のテーマは、「超世界の奥義」です。この世界の事については、みなさんすべてご存じですから、これ以上話したいとは思いません。けれども、この世界を超えたものが存在するのです。ここに来られた方全員が知りたいと思っていることでしょう。それは、先程私の弟子が話した神秘的な体験や、信じ難い幻想のようなものではなく、非常に科学的で論理にかなっていて、その上、非常に重要なものです。

私たちはみな、その事についてさまざまな種類の宗教の聖典や経典で知っています。七つの天界、異なる意識レベル、内在の神の王国、仏性があると述べられていますが、これらは超世界の事です。けれども、それほど多くの人が経典に明記されたこのような境界（きょうがい）に到達するわけではありません。全くいないとは言えませんが、それほど多くありません。世界の人口と比較しても、内在の神の王国に到達した人や、いわゆる「超世界」を経験した人は非常に少ないのです。あなたがアメリカにいるなら、超世界の事を書いた多くの本を読む機会がたくさんあるでしょう。また、アメリカ人が撮った映画はすべてがフィクションだというわけではなく、日本人が撮った映画も全部フィクションだということでもありません。そういう人々は、おそらく超世界から戻って来た人が書いた本を読んだことがあるか、あるいは、彼ら自身神の王国を垣間見たことがあるのかもしれませんが。

それでは神の王国とはどんな所でしょう。私たちにはすでにこの世での仕事や職業があり、安らげる家があり、愛する家族がいるにもかかわらず、なぜ神の王国の事が気になるのでしょうか。それはまさに、私たちにはそれらすべてがあるので、あとは神の王国を心配するだけだからです。神の王国というと非常に宗教的ですが、実際は高い、ある意識レベルの事にすぎません。ですから、古代の人々はそれを天国と呼びましたが、科学的には高いレベルの知識と智慧と言えます。方法がわかりさえすれば、私たちはそこに到達できるのです。

最近、アメリカでサマディーに入るための機械が発明されたようですが、みなさんは使ったことがありますか。今、アメリカで売り出し中で、値段はみなさんの望むレベルによって異なり、四〇〇ドルから七〇〇ドルです。これはメディテーションはしたくないが、すぐにサマディーに入りたいという怠け者のための機械です。ご存じなければ簡単に紹介しましょう。

この種の機械はあなたをリラックスさせ、精神状態をリラックスさせて、それで高いIQレベルに到達できるのだそうです。高い知識と智慧をもたらしてくれるそうですから、とても素晴らしいと感じるでしょう。選ばれた何曲かの外在の音楽を使いますので、イヤホンが必要です。それから、弱い電流を流してその刺激を受け、閃光を見るそうです。ですから、目隠しも必要です。イヤホンと目隠し、サマディーに必要なものはそれだけです。とてもいいですね。四〇〇ドルはとても安いです。けれども、私たちのサマディーはもつと安く、費用はかかりません。しかも永続します。そして、バッテリーの充電や電気も必要なく、コンセントを差し込んだり抜いたりする必要もなく、機械の故障の心配や修理の必要もありません。

たとえ人工の光と音楽であっても、こんなにもリラックスさせ、賢くするので、人々を使うはずですよ。私は新聞で読んだだけで試したことはありませんが。そういう理由で非常

にブームになり、売れ行きもいいそうです。こういった人工のものでさえ、私たちをリラックスさせ、IQを高めることができるのですから、本物なら私たちの智慧に対してどれほどの助けになるか想像できますか。本物は超世界のもですが、接触したいなら、誰にでも可能です。これが内在の天国の音楽であり、内在の天国の音です。この音楽、内在の音と光の強さに応じて、私たちは超世界へと押し上げられ、より深い意識レベルに入って行けるのです。

それは物理の法則と同じだと思います。ロケットが地球の引力から脱出する時、背後からの非常に大きな推進力が必要です。そして、ロケットがとても速い速度で飛行する時にも多少の光が放たれます。ですから、私たちが高速で超世界へ入る時も、私たちは光を放ちます。ええ、いくらかの光で輝きますし、音も聞こえます。その音は振動力の一種で、私たちを高いレベルに押し上げます。雑音もなく、故障もなく、お金もかかりませんし、不快感もありません。これが超世界へ入る方法です。

私たちの世界より素晴らしい超世界とは何でしょう。私たちが想像できるもの、できないものすべてです。いったん体験すればわかります。実際、誰一人正確に話すことはできません。けれども、私たちはそれを根気よく持続させ、本当に誠実にならなければいけません。そうする以外、誰も私たちの代わりに体験することはできないのです。誰もあなたの代わり

に国連で仕事をして、給料だけをあなたにあげたりしないのと同じことです。同様に、あなたの代わりに食事をして、あなたを満腹にさせられる人などいません。ですから、修行は自分でしなければなりません。体験した人の話は聞けますが、そこからはさほど多くの体験を得ることはできません。一回か二回、あるいは数日は体験があるかもしれませんが、それは神を体験した人のパワーによるものなので、努力しなくても、とても自然に光を見たり、音を聞いたりするかもしれませんが、多くの場合それほど長くは続きません。ですから、私たちは自分で体験し、修行しなければなりません。

私たちの世界を超えると、たくさん異なる世界があります。例えば、私たちの世界より少し高い世界の事を、「アストラル（阿修羅）世界」と言います。アストラル界だけでも一〇〇以上のレベルがあり、各レベルが一つの世界を造り、それが私たちの意識レベルを表しています。ちょうど私たちが大学に進むのと同じです。大学を卒業するまで、進級の過程でそれぞれの学年があります。それは大学の授業への理解度を表していて、徐々に卒業へと向かっていくのです。アストラル界では、たくさんいわゆる超能力を目にするでしょう。そして、おそらく私たちはその超能力に誘惑され、それを手に入れるかもしれませんが、そうすれば、病気を治せて、他人の見えないものが見えることもあります。少なくとも六種類の超能力があります。普通の境界（きょうがい）を超えた境界を見ることができ、時空の制限を

超えた音を聞くことができます。私たちは距離の制限を受けません。これが、いわゆる天耳、天眼というものです。そして、他人の考えを見抜き、何を考えているかわかることもありま
す。時々、こうしたパワーが得られるのは、私たちが神の王国の第一界に到達した時です。

この第一界にはすでにお話ししましたように、もっとたくさんの異なるレベル、言葉では
表せないたくさんのレベルがあります。例えば、印心の後メデイーションをして、私たち
のレベルが第一界に到達すると、たくさんの能力が身に付き、以前にはなかった文学的な才
能を発達させることができます。また、他人の知らないたくさんの事を知り、たくさんのも
のが私たちにもたらされます。多くの能力は天からの贈り物のようなもので、時には経済的
に、時には仕事上での智慧、時には他の多くのものだったりします。私たちは詩を書いたり、
絵を描いたりできるようになり、今までできなかった事ができるようになります。前はそれ
のような事ができるとは考えもしなかったのです。これが第一界です。そして、美しい詩や文
章が書けるようになります。これは一例ですが、今まではプロの作家ではありませんでした
が、今は筆を下ろせば文が書けるのです。このような事は実に物質的利益ですが、第一界の
意識レベルで得られます。こういったものは、実際には神の贈り物ではなく、本来私たちに
備わっているもので、それに気付いただけのことです。気が付けば動き出し、使うことがで
きます。これが第一界のちょっとした情報です。

さて、より高いレベルへ行くと、私たちはさらに多くのものを見たり、手に入れたりします。もちろん、時間の関係ですべてをお話しすることはできませんし、すべての美しいもの、ケーキやキャンディーや食べたことのないものについてまで聞く必要はないでしょう。ですから、私はほんの少しお知らせするだけです。みなさんが自分で味わいたいなら、また別の話です。後で本物の食べ物を提供しましょう。ええ、みなさんがそれを食べたい場合だけです。

さあ、このレベルを少し超えると第二界へ行きます。「第二界」と呼ぶのは、ただわかりやすくするためです。第二界に行くと、超能力も含めて、第一界にいた時以上のたくさんの能力が身につきます。けれども、第二界で最も顕著に上達するものは「雄弁さ」です。討論能力です。第二界に達した人に、口で勝てる人はいないでしょう。なぜなら、彼には優れた弁舌のパワーが備わり、その知力は最高に達しているからです。

普通の頭脳を持った一般の人の知能は平凡ですから、この種の人を敵にすることはできません。その人の知能は非常に高いレベルに通じているからです。肉体の頭脳が発達するだけではなく、私たちの内に本来備わっている智慧、神秘的なパワー、天のパワーが開かれるのです。インドでは、このレベルを知性のレベルを意味する、「菩提」と呼びます。菩提に到達したら、「仏陀」になります。「仏陀(ブツダ)」という言葉は、「菩提(ブツテイ)」からきて

います。ですから、仏陀のレベルは、まさにそういうことです。これで終わりではありません。まだあります。私はみなさんに仏陀だけを紹介するつもりはありません。もっとたくさんあります。ですから、たいいていの人は開悟した人を仏陀と呼びます。その人がまだ第二界を超えていなかったら、おそらく非常に傲慢になるでしょう。ええ、自分が生き仏であると自認し、弟子たちは彼を仏陀と呼び、誇らしく思います。けれども、実際は第二界に到達しただけです。それは、見たい人の過去、現在、未来が見え、完全な弁舌能力がただけです。まだ、神の王国の終点ではありません。

ですから、誰もこの能力を自慢すべきではありません。過去、現在、未来が見えても、それは西洋の言葉で、よくご存じの「アカシック・レコード」にすぎないのです。ヨーガやある種の瞑想をしている人なら、みなその事を理解しています。それは一種の図書館で、国連にあるのと同様、そこにはあらゆる言語が揃っています。アラビア語、ロシア語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語など何でもあります。あなたの近くの近くの図書館にも、すべての言語のものがあります。これらの言語がわかれば、その国で何が起こっているかがわかります。いいですか。ですから、同様に、第二界に到達した人なら理解できるのです。自叙伝を見るように、非常にはつきりと、その人の記録を解釈できます。

第二界の意識レベルではもっと多くの事が得られます。何はともあれ、第二界に達したら、

たいしたものです。素晴らしいです。すでに在世仏です。なぜなら、「菩提」の智慧が開かれているからです。そして、形容し難い多くの事がわかります。望む、望まないにかかわらず、いわゆる、すべての奇跡が私たちの身に起こります。なぜなら、私たちの智慧が開かれたので、より高度な癒しと、私たちの生活をもっと順調にし、良くすることができるような手配を与えてくれる源と、どのように通じるかがわかるからです。そして、私たちの知性、あるいは「菩提」の智慧が開かれたので、あらゆる情報にアクセスでき、過去や現在から必要なものを取り出して調整し、やり直し、私たちの犯した過去の間違いを清算することができまう。わかりますか。間違いを正すと生活は良くなります。

例えば、今までは無意識に隣人を傷つけていたとしても、今ならわかります。いいですか。とても簡単な事です。私たちが知らなかったとしても、隣人が私たちに反抗していたり、時には背後から私たちを傷つけようとしたりするのは、それは誤解か、私たちがその人に何か失礼なことをしたからです。それが今はわかるのです。その起こった理由がわかるのです。ですから非常に簡単です。私たちは隣人を訪問するか、電話をするか、パーティーに招待して誤解を解けばいいのです。同様に、私たちがいったん菩提のレベルを手に入れると、無意識にすべての事柄を理解し、無言で処理します。また、私たちの助けとなるパワーの源と通じて、それらを処理します。それで、私たちの生活は良くなり、生活上のたくさんの事故や

望ましくない状況や不都合な条件などは最小限になり、第二界に到達すると、もうそれだけで素晴らしい事なのです。

ですから、私が説明することは非常に科学的で論理的な事です。ヨーガや瞑想をする人を神秘的な人、あるいはET（異星人）だと考える必要はありません。彼らも私たちと同じ地球人です。ただ、かなり進んでいて、その方法を知っているのです。アメリカではすべての事はノウハウ（方法）によりますから、私たちは何でも学べます。違いますか。これは超世界の科学の一種で、これも学べるのです。非常に不思議な気がしますが、高いレベルになるほど単純です。私たちが高校や大学で学ぶ、非常に複雑な数学の問題よりも簡単な事です。

第二界にも異なるレベルがたくさんあります。けれども、天国の秘密は詳しくは説明できませんので、簡単に紹介します。とにかく、天国へ行ったことがあるマスターに同行すれば、すべてがわかります。秘密ではありません。けれども、ご存じのようにそれは非常に長くかかります。たくさんレベルにたくさんさんの付属のレベルがあるので、各レベルで止まり、すべてを調べるとなると、非常に長い時間がかかります。ですから、時々マスターはみなさんを通して、あるレベルから次へと素早く通り過ぎるだけです。あなたがマスターにならないのなら、そんなにたくさんさんの事を学ぶ必要はないからです。さもないと、頭が痛くなります。

ですから、私はただみなさんをまっすぐに天国に連れ帰るだけです。それでさえ長い時間

がかかり、時には一生涯を費やすこともあります。悟りはすぐ手に入りますが、それはほんの始まりにすぎず、入学手続きのようなものです。初日に大学の入学手続きをすれば、すぐに大学生になれますが、まだ博士にはなれません。六年か四年後、あるいは十二年後によく卒業できるのです。それが本当の大学で、あなたが手続きをしたなら、すぐにあなたが本当に望んでいる大学生になれるのです。そうでしょう。ですから、双方の協力が必要です。

同様に、私たちがこの世界を超越したいのなら、例えば、冗談ですが、私たちはニューヨークではもう他に行く場所はどこにもありません。マンハッタン、ロングビーチ、「シヨート」ビーチやどこのビーチもすっかり知り尽くしてしまいました。そこで、私たちは宇宙に行つて、何が起つていくか見たいと思つたと思つたします。私たちはたくさんのお金を使ってフロリダのマイアミに行きますが、せいぜい海水浴をするくらいです。それなら、なぜ時にはこの世界を超えて違つた世界に行き、隣の惑星がどんな様子か、その人々がどうやって暮らしているか見てみようと思わないのでしょうか。私はそれが不思議な事だとは思いません。そうですね。ただ少しばかり遠い旅、肉体の旅に代わる心霊の旅というだけのものです。

旅行には二つの方法があります。それは非常に論理的でわかりやすいものです。私たちはこの世界にいながら、同時に他の世界の知識を得られるのです。わかりますか。それは旅行のおかげです。ちょうど、あなたがアメリカ国民か、世界のどこの国民でも、いろいろな国

を旅行すれば、隣国の状況がわかるのと同じ事です。みなさん万国連の大部分の人は、アメリカ出身ではないと思いますが、違いますか。ですから、もうおわかりだと思えますが、同じ事です。私たちが隣の惑星や他のレベルを理解するために旅行ができるのです。ただ、距離があまりにも遠いので、歩いて行くことも、ロケットを使っても、たとえUFOに乗ったとしてもたどりつけません。

UFOが飛んで行けないほど遠い世界もあります。UFOとは未確認飛行物体のことです。いいですね。私たちの内面にはどんなUFOよりも速く飛べる、ある装置があります。それは私たちが自身の魂で、霊魂と呼ぶこともあります。私たちがこれを使って燃料なしで飛ぶことができます。警察もいませんし、交通渋滞など何もありません。アラブが石油を売らなくなる日を心配する必要もありません。自給自足できるからです。私たちが宇宙の戒律に背いたり、天国と地球の調和を乱したりして、霊魂にダメージを与えたいと思わない限り、決して故障もしません。それはとても簡単に避けられます。興味があれば、私たちがその方法をお教えしましょう。例をあげて簡単に説明しましょう。いいですね。私は牧師ではありませんので、ご心配なく。みなさんを教会へ連れて行ったりはしません。例え話をするだけです。

宇宙には知っておくべき、いくつかの法則があります。ちょうど車を運転する時に、交通法規を知らなければならぬのと同じで、赤は止まれ、青は進め、車は左側通行、または右、

高速道路での制限速度はどれぐらいか、などです。ですから、宇宙の物質的世界には非常に単純な法則があります。わかりますか。私たちの世界、この物質的世界を超越すると、そこには法則は存在しません。その時私たちは自由になり、自由人になります。けれども、自由になるにはそれを超越しなければなりません。肉体があり、まだこの世で生きている間は、できる限りこの法則を守らなければなりません。そうすれば問題は起きないのです。そして、私たちの乗り物はダメージを受けず、故障もなく、より速くより高く飛べるのです。

ですから、キリスト教、仏教、ヒンズー教の経典にはこの法則が書かれているのです。最も簡単なものは、他人を傷ついたり、殺したりしないという「不殺生」です。さらに邪淫も盗みも許されません。また飲酒も麻薬もいけません。おそらく、仏陀は二〇世紀にコカインのたぐいが発明されるのを知っていて、「麻薬もダメ」と言ったのでしょう。その中にはギャンブル全般など、頭脳に靈修行の旅を忘れさせ、物質的快樂に執着させるものが含まれています。私たちが安全に、より速く、より高く飛びたいなら、物理の定理のような物質の法則が必要です。ロケットを飛ばす時、科学者はいくつかの定理を守らなければなりません。それだけのことです。いいですか。ですから、私たちがそれ以上に速く高く飛びたいのなら、ロケットやUFOよりも速く高く飛びたいのなら、もっと注意しなければなりません。みなさんが興味を持ったなら、細かい点について印心の時にもっと詳しく説明しましょう。今は

こういった戒律でみなさんをうんざりさせたくはありません。みなさんは「もう知っています。わかっています。聖書で読みました。十戒のことですわね」と言うでしょう。

実際、ほとんどの人がこういった戒律を読んではいても、それについて深く考えたり、深く理解したりしていないか、おそらく、自分の見方で理解しようとしているだけで、真の意味で理解してないのです。ですから、当たり障りのないものになり、注意を促したり、より深い真意に再び耳を傾けたりしないのです。例えば、旧約聖書の第一章で、神は「あらゆる動物を創造して、お前たちの友とし、お前たちを助けよう。お前たちは動物を治めなければならぬ」と言っています。また、動物のためにも、それぞれ異なった食べ物を創造したと言っています。けれども、動物を食べてもよいとは言いませんでした。そうです。神はまた、「私はすべての食べ物を創造した。野の草、樹の果実、いずれもおいしく、私たちの目を楽しませてくれる。これらがお前たちの食べ物となる」と言いました。けれども、この点に注意を向ける人はあまりいません。ですから、聖書の信奉者の多くはいまだに肉を食べ続けています。神の真意を理解していないからです。

科学的により深く研究すれば、私たちは肉食には向いていないことがわかります。私たちの体の器官、胃腸や歯などすべて科学的にはビーガン食（完全菜食）のためだけに造られているのです。多くの人が病気になり、老化が早くなり、疲れやすく、いわゆる鈍くなるのも

不思議ではありません。生まれた時はとても輝いて聡明であっても、日増しに鈍くなり、老いてますますひどくなっていくのです。それは私たちの乗り物、飛行道具のUFOを傷つけているからです。ですから、少しでも長く安全にこの乗り物を使いたければ、正しい方法で手入れをしなければなりません。例えば、車を一台持っているとしたら、みなさんは運転しますね。もし、ガソリンを入れ間違えたらどうなるでしょうか。何が起ころうでしょう。おそらく数メートル走っただけで止まってしまおうでしょう。これは車が悪いのではなく、私たちのミスです。間違った燃料を入れてしまったからです。あるいは、ガソリンの中に水が混じっていたらどうでしょう。しばらくは走っても、たぶんすぐに故障してしまいます。また、エンジンオイルが汚れていても交換しなければ、少し走るとすぐに故障してしまおうでしょう。適切な方法で車の点検をしないと、爆発することもあります。そうですね。

同様に、私たちの体もここから永遠の地へ、非常に高い科学的智慧のレベルへ飛んで行ける乗り物のようなものですが、私たちは時々それを傷つけ、正しい目的で使わないことがあります。例えば、車は本来何キロも走って、私たちを会社に送り届け、友人を訪ね、景色のよい他の場所に連れて行ってくれますが、手入れを怠ったり、間違った燃料を入れ、オイル交換をせず、冷却水やいろいろな手入れを怠ると、それほど速く走りませんし、長く使うこともできません。ただ、ちよつと芝生の中を走り、裏庭をグルグル回るだけになります。それ

もまたいいでしょう。わかりますか。けれども、それでは車を買った目的から外れ、お金と時間とエネルギーの浪費になるだけです。そういうことです。あなたを責める人もいなければ、そのことで警察があなたに罰金を課すわけでもありません。本来なら遠くまで行って、たくさんのものを見て、いろいろな風景を楽しめたのですが、あなたはただ、自分の車とお金を無駄にしたのです。

同様に、この肉体があるからこそ、私たちはこの世で生きていけるのです。ですから、きちんとその世話をしなければなりません。その体の中には、この世を超えて飛んで行ける別の道具があるからです。宇宙飛行士がロケットに乗っているようなもので、ロケットは彼の道具です。彼が物理の法則に背かず、ロケットの手入れをよくすれば、ロケットは安全に速く飛べます。けれども、中の宇宙飛行士が重要です。ロケットは彼を目的地に連れて行きませんが、ロケットが重要なのではなく、宇宙飛行士と目的地が重要なのです。ロケットがロングアイランドをグルグルと飛んでいるだけなら、時間の無駄です。わかりますか。国費の浪費です。

ですから、私たちの体は貴重です。そこにはマスター（主人）が内在しているからです。それで聖書では、「お前が神の殿堂であり、その内に全能の神がいることをお前は知らないのか」と言っています。聖霊も同じことです。私たちの内に聖霊や全能の神が宿っているなら、

それがどんなにすごいことで、どれほど意味深いことなのか想像できますか。けれども、多くの人はさっと読むだけで、この言葉の重大さを理解せず、追及しようとしません。それで、私の弟子は喜んで私の教理に従うのです。私たちの日々の努力、つまり、お金を稼いだり、現実問題を解決したりすることはさておき、自分たちに内在するものを見つけ、超世界にあるものが何か理解できるからです。私たちの内側はもっと美しく、自由で、聡明です。それと通じ合う適切な方法を見つけさえすれば、すべてが私たちのものになるのです。もともと私たちに内在しているのに、その鍵のありかを知らないで、長い間その家には鍵がかかったままで、今ではこの宝物があることさえ忘れてしまっているのです。それだけのことです。ですから、いわゆるマスターとは、その扉を開く手助けをし、本来私たちに備わっているものを教えてくれる人です。けれども、私たちは自分で時間をかけてその中に入っていく、私たちが持っているものをつつとチェックしなければなりません。

さて、とにかく、今第二界でしたね。もつと前に話を進めますか。(聴衆答える：はい、お願いします) みなさん、楽に全部知りたいのですね。(マスター笑う) いいでしょう。たとえみなさんがその国に行ったことがなくても、そこに行ったことがある人なら、少なくともその状況を教えられるから。そうでしょう。とにかくみなさんはたぶん興味があつて、行きたいでしょうね。はい。では第二界を後にしましょう。すべて話し終わってはいませ

んが、おわかりのように、ここに一日中座っているわけにはいきません。第二界を過ぎると、私たちにはより大きなパワーが身につきます。みなさんが決心し努力すれば第三界に行けます。

いわゆる第三界はより高い段階です。第三界に行こうとする人は、少なくともこの世での借金を完全に清算していなければなりません。わかりますか。もし、この物質世界の王に借りがあれば、私たちは上がっては行けません。それは、ちょうどあなたがどこかの国の犯罪者だとしたら、その記録が残っているので、国境を越えて他の国に出て行けないのと同じです。ですから、この世界の債務の中には、私たちが過去、現在に作ってしまった多くのものだけではなく、未来の物質生活のものもあるかもしれません。ちょうど税関を通過するように、それらすべてを清算しなければ第三界に行くことはできません。けれども、第二界にいる時から、私たちは返済し始めるのです。わかりますか。残っている過去と現在のカルマを返済するのは、というのは、過去のカルマなしでは、私たちは現世では存在できないからです。

マスターには異なる二つのタイプがあります。一つは、カルマがないのに他人のカルマを借りて来る人。もう一つは私たちのように普通の人ですが、修行によりカルマを清算するタイプです。ですから、誰でも未来のマスターになれるのです。それに、時にはカルマを借り

て、より高い世界から降りて来るマスターもいます。カルマを借りると聞いて、みなさんはどう思いますか。(マスター笑う) それは可能です。例えば、あなたはこの世界に来るずっと前に、ここにいたことがあったとします。あなたは何世代も何百年もの間、この世界でいろいろな人に与えたり、与えられたりということを繰り返して、やがて、あなたの住まいである天国に帰るのです。そこは非常に遠く、いろいろなレベルがありますが、少なくとも第五界に帰ります。その五界はマスターの住まいですが、そこを超えてもたくさんのレベルがあります。いいですね。

さて、ですから、私たちは慈悲で、あるいは神の天命を受けて、再び戻って来たいと思つて降りて来るのです。過去にこういった人々と縁があったので、少しだけカルマを借りられたのです。彼らとは借りがあるだけで良い縁は何もありません。カルマを借りてきて、そしてそれを支払うのです。わかりますか。修行で得たパワーで、この世界での使命を果たすまでゆつくりと支払うのです。ですから、これが借金返済型のマスターです。もう一つは、この世界で修行し卒業して、ここですぐにマスターになるタイプです。ちょうど大学に教授と学生がいて、学生が卒業後に教授になるようなものです。わかりますか。古くからの教授もいれば、卒業したての新米教授もいます。同様に、そういう種類のマスターもいるのです。それで、今、私たちが第三界に行きたいのなら、すべてのカルマを完全に消さなければな

りません。カルマとは、「まいた種は刈り取らなければならぬ」という法則です。オレンジの種をまけばオレンジを収穫し、リンゴをまけばリンゴを収穫するということです。それがいわゆるカルマです。サンスクリット語でいう「因果応報」です。聖書ではカルマについては触れていませんが、「まいた種は刈り取らなければならぬ」とあります。これは同じ事です。

聖書はマスターであるイエス・キリストの教えを短くしたのですが、とにかく、彼の生命も短いものでした。そのため、聖書には詳しい説明はありません。しかも聖書の多くの版は、当時のいわゆる指導者に検閲され、政策に都合よく削除されてしまいました。もちろん霊修行をしている人々がかかわったものではありません。あらゆる方面で売買をしている人々、ブローカーがいます。生活のあらゆる面にブローカーが存在しているのです。ご存じのように、本当の聖書は少し違っていて、もう少し長く、より厳密で、よりわかりやすいものでした。とにかく、まあ、証明できないので触れないことにしましょう。そうでないと、神を冒涇したと言われてしまいますから、証明できることだけを話すことにしましょう。

そうしたら、みなさんは「では第二界や第三界、第四界の話をしたのに、どうやって証明するのですか」と質問するかもしれませんね。それは大丈夫です。証明できます。みなさんが私と一緒に同じ道を歩けば、同じものを見るはずですよ。わかりますか。けれども、この道

を歩かない限り証明できません。当然のことです。ですから、証明できるので私はあえてこう言うのです。世界中に証明できる何十万の弟子がいますので、知っている事を言えるのです。例えば、私たちが行くのなら、あなたは私と一緒に歩かなければなりません。そうしないで、「私の代わりに歩いてすべてを教えてください」などとは言えないのです。それはできません。

例えば、私が国連のこの会場に来たことがなければ、たとえ、みなさんがこの会場についてどう説明しようとも、私には実体験がないことになります。そうでしょう。ですから、私たちは経験ある導き手と一緒に歩かなくてはなりません。この会場にはいろいろな国から来た弟子がいますが、彼らにはこういった体験があります。今、私が話したこの一部、またはすべてを体験しています。そうです。そして第三界を超えても、決してこれがすべてではありません。私が話したことはごく一部分にすぎません。ちよつとした旅行記にすぎず、みなさんに関連した一部分で、それほど詳しいものではありません。ある国についての本を読んだとしても、それはその国そのものではありません。そうでしょう。ですから、世界にはさまざまな国の旅行のガイドブックがたくさんありますが、それでも私たちは実際にそこへ行きたいのです。

スペインやテネリフェ島やギリシャについて知っていても、それは映画や本からのものに

すぎません。私たちはそこに行かなければなりませんし、そこで楽しいことを体験し、出される食べ物、素晴らしい海、心地よい気候、親切な人々など、本では経験できないあらゆる雰囲気味わわなければならないのです。

とにかく、第三界を超えたとしたら、次は何でしょうか。もちろん、さらに高いレベルの第四界へ行きます。第四界は、はるかにけた外れのレベルです。簡単な言葉だけでは、世間の人にこの境界（きょうがい）について説明できません。それは、その世界の主に失礼のないようにと思うからです。というのは、その世界は非常に美しいのですが、非常に暗い部分もあって、それは停電したニューヨークの夜より暗いのです。みなさん、都会の真っ暗やみを体験したことがありますか。それよりも暗いのです。光に到達する前は、それよりも暗いのです。そこは一種の「禁断の都市」です。神の真理に到達する前に、私たちは暗やみに阻まれますが、経験のあるマスターと一緒にならそこを通過できます。さもなければ、私たちはその世界で道を見つけ出せません。

別の世界に到達すると、私たちは精神面だけではなく、心身、知力、そして生活全般が変化してきます。生命に対して違った見方をし、違った歩き方をし、違った働き方をします。日々の自分の仕事にさえ、違った意義が生じます。なぜ、こういうふうの仕事をし、なぜその仕事にかかわり、なぜ仕事を変えなければならないのかがわかります。生命の目的がわか

っているので、もはや焦りや不安を感じたりしません。ただ穏やかに辛抱強く、この地上での使命が終わるのを待つのです。それは、私たちが次に行く所がわかっているからです。生きていくうちにわかるのです。これがいわゆる「生きながら死ぬ」ということです。みなさんの中には、今までにこのようなことを聞いた人もいると思いますが、私はこれと別の説明ができるマスターを知りません。(マスター笑う) ただし、実際の内面の喜びは自分自身で体験しなければなりません。例えば、メルセデスベンツに、誰がどのように違った説明ができるでしょう。そうですね。同じでなければいけません。ベンツを持っている人やベンツの事を知っている人は、同じことを言います。わかりますか。けれども、それはベンツそのものではありません。

ですから、私がごく普通の言葉でみなさんに話していても、それは普通のことではなく、自分自身で体験しなければならぬことで、努力と誠実さ、そして導き手が必要です。そうすればより安全です。一人きりの修行では百万分の一の可能性しかなく、危険やリスクを伴い、結果が保証されることもないので安全とは言えません。過去の人々、例えば、スウェーデンボルグは自力で成功した人です。また、グルジェフもずっと一人で修行し、自力で成功したようですが、その人たちのことを読んでみても、一人で修行するのは危険や多くの問題がなかったわけではありません。そして、必ずしも彼ら全員が最高レベルに到達するわけで

はないのです。

さて、その後はより高いレベルに行きます。第四界の後はより高いレベルへと進みます。マスターの住居である第五界です。すべてのマスターはそこからやって来ました。たとえ彼らのレベルが第五界より高くても、彼らはそこにとどまっています、そこがマスターの住居になっています。第五界を超えると、そこには神のさまざまな様相が見られます。それは理解し難いことです。みなさんが混乱してしまうのではないかと心配ですので、別の機会にお話ししましょう。あるいは、印心の後みなさんにもう少し準備ができてから、想像できないような事についてお話ししましょう。どうしても、時々神について間違った概念が生じてしまいますから。

では、質問をお受けしましょう。

質疑応答

Q マスターは人々のカルマを借りられるとおっしゃいましたが、その場合、借りた人のカルマは消せるのでしょうか。その人にはどんな影響があるのでしょうか。

マスター（以下M） ええ、できます。マスターがそうすることを選んでなら、どんな人のカルマも消すことができます。実際、弟子が印心する時、過去のカルマのすべてが消されま

す。ただ、現世のカルマだけを残します。ですから、私たちはこの世で生活し続けられるのです。さもないと、すぐ死んでしまいます。カルマがなければここでは生きられません。マスターは蓄積されたカルマだけを消さなければなりません。それでその人はきれいになり、現世のために少しのカルマを残され、現世でやらなければいけない事を行うのです。それが済めば終わりです。これが帰って行ける理由です。そうでなければ、どうやって帰れるのでしょうか。たとえ現世ではきれいだとしても、どれほどでしょう。前世はどうでしょう。わかりますか。

Q 修行の目的は何でしょうか。

M 何が目的か、ですか。お話ししませんでしたか。それは超世界に思いをさせ、神の王国に戻り、自身の智慧を理解し、現世でより良い人間になることです。

Q では、カルマはすべてのレベルにあるのでしょうか。

M すべてではありません。第二界までです。なぜなら、私たちの頭脳―このコンピュータ―は第二界の産物だからです。私たちははるばるより高い次元の世界から、あらゆる方法で、この物質世界に仕事をしにやって来ます。いいですか。たとえマスターであっても、第五界から物質世界にやって来るには、第二界を通らなければなりませんし、このコンピュータ―

を着けなければ、この世界では働けません。海に潜るダイバーと同じで、酸素マスクなどの準備をしなければなりません。たとえそれが似合わなくても。ダイバーは酸素マスクやダイバースーツを身に着けると、カエルのように見えますね。このコンピューターと体が障害になることがあるのも同じです。そうでなければ、私たちは完璧に美しいのです。たとえ、あなたが今自分を美しいと思っても、本当のあなたと比べたらとても醜いのです。わかりますか。仕事をするためにこの世界へ深く潜るには、私たちは完全装備をしなければなりません。ですから、第二界を経て、もっと高い次元に行く時には、私たちはこのコンピューターを置いていかななくてはなりません。そこではもう必要がないからです。岸に着いたダイバーが、酸素マスクや潜るためのすべての道具を外すのと同じことです。そして、彼本来の姿に戻ります。そうでしょう。

Q ありがとうございます、マスター。第二界を通過する時、すべてのカルマを置いて行くか、解消し、きれいにするとおっしゃいましたが、それは前世と現世のカルマのことですか。

M そうです。記録するコンピューターがないからです。私たちにカルマがあるのは、このコンピューター、頭脳があるためです。それは物質世界のあらゆる経験を記録します。ですから、私たちにはカルマがあるのです。悪い事も良い事も、すべてここに記録します。それ

がいわゆるカルマです。カルマとは何でしょうか。善悪の経験やそれへの反応、多くの生まれ変わりを通して学んだ経験のことです。私たちにはいわゆる良心があるので、良い事をすべきだとわかっていますが、時々悪い事をしてしまうのです。ですから、それをカルマと呼んでいるのです。その悪事が私たちに重くのしかかります。ちようど、たくさんのゴミや荷物があると重力の法則で下に引っぱられ、山に登るのが困難になると同じです。わかりますか。この世のたくさんの道徳規範や、いろいろな国々のたくさんの法律、風俗、習慣のために、私たちはこのいわゆる善悪、有罪と無罪という概念に縛られているのです。ですから、この世の人々と互いに影響しあう時に、私たちはその国の風俗、習慣、法律によって、善悪、有罪や無罪を経験するのです。わかりますか。そして、それが習慣になり、ある事をする罪悪感を覚え、また、ある事をすると思ってしまう。それは、常にここに記録されます。それが私たちを輪廻転生させ、この物質世界か、もう少し高い世界に縛りつけているのです。それほど高い世界ではありませんが。私たちは上にフワッと昇って行けるほど自由でもなく、十分に軽いわけでもありません。わかりますか。それはこの概念、すなわち先入観のためです。

Q 私たちが生まれる時に、その一生で到達できるレベルは決まっているのでしょうか。

M いいえ。私たちには速く走るか、ゆっくり走るか選べる自由意志があります。例えば、あなたの車に一〇〇リットルのガソリンを入れたとします。速く目的地に着けますし、ゆっくり行くこともできます。いいですか。あなた次第です。

Q 天使についてお伺いしたいのですが。天使のレベルは何でしょうか。

M 天使のレベルですか。それはその天使の種類にもよりますが。

Q 守護天使です。

M ああ、守護天使ですね。彼らは第二界まで行けます。天使のレベルは人間よりも低く、威光や信望も少なく、そこで私たちに仕えています。

Q 彼らは第二界を超えないのですか。

M 超えません。人間にならない限り超えられません。彼らは非常に人間をうらやんでいます。人間には神が宿っているので、神と一体になれるためのあらゆる装置がありますが、天使にはありません。非常に複雑な事なので、別の日に説明しましょう。彼らも私たちが使うために造られたものです。さまざまな天使がそうです。例えば、天使が神によって創造されたものなら、私たちに仕えるために造られたのです。彼らは第二界を超える必要はないのです。超えることもできますが、時には改良できないものが造られることがあります。例えば、あなたが家で快適に暮らすためのものを作ったとします。たとえそれが非常に素晴らし

いものだとしても、例えば、座ったまま、家や庭の明りや、テレビのスイッチをすべて操作できたとしても、それは自分のために発明したもので、あなたの役に立つだけのものにすぎません。それはある面では、あなたより優れています。それは座ったままですべてを制御できるのですが、人間の力ではそうすることはできません。けれども、それはあなたよりも優れているという意味ではありません。わかりますか。それは、あなたに仕える目的で作られたもので、たとえあなたより優れていても、あなた以上ではありません。いいですか。コンピューターは決して人間にはなれないのです。

Q マスターチンハイ、私たちには今、体がありますが、それは前世の過ちのために解脱することができなかったということでしょうか。私たちは常にこのレベルにいるのでしょうか。あるいは、以前は別のレベルに、もっと高いレベルにいたのでしょうか。それとも、このレベルなのでしょうか。さらに早く前に進むには、どのような態度や考えが必要でしょうか。

M この体を離れて前に進むためにですか。その方法を知ればできます。この体を捨て去り、超世界に到達するには、たくさんのいろいろな方法があります。あまり遠くへは行けないもの、非常に遠くまで行けるもの、終点まで行けるものもあります。それを比較するのに、私は若い頃からあらゆる探求をしてきました。今も若く見えますが、その時はもっと若かった

のです。ということ、私たちの法門が現在最高のもので、最も遠い境界（きょうがい）に到達し、終点にまで到達できるのです。他にもたくさんさんの法門がありますが、望むなら経験できます。マーケットにはアストラル界に行けるものや、第二界に行けるもの、もつと遠くの第三界や第四界へ行けるものなどたくさんありますが、第五界まで行けるものはそれほど多くありません。私たちが修行している法門は、あなたを第五界へ連れて行き、その後、あなたを自在にします。わかりますか。あなたを一人で行かせるのです。そして、第五界を超越すると、私たちは神のさまざまな面に近づけますが、それは常に楽しいとは限りません。私たちはいつも高ければ高いほど良いと考えますが、実際はそうでもありません。例えば、私たちが美しい邸宅に行つたとします。その主人の客間に招かれ、そこに座り、冷たい飲み物やおいしい物をいただきます。そして、家の中をもつと奥までのぞいて見ようと思いつて行くと、偶然ゴミが置いてある場所に出たりしますね。家の中にはさまざまなものがたくさんあつても、常に重要だとは限りません。さらに建物の裏や屋外にある発電室に入つて行つたとしたら、感電して、そこで死んでしまうかもしれません。ですから、奥の方に行くことが必ずしも重要で、お勧めできるとは限りません。けれども、冒険のためならそうすることもできます。

Q マスターチンハイ、二つ質問があります。まず、あなたに前世の記憶があるなら、それはどこから来るのでしょうか。次に、前世はどのようにカルマに関係するのですか。

M あなたの現在のカルマにですか。

Q 現在のカルマと人の現在の考えです。それらは超過手荷物のようなものですか。

M そうです。非常に関係があります。最初の質問は「カルマはどこから来るか」ですね。

Q 前世の記録です。

M 前世の記録は読むことができません、それは確かなことです。それはお話したように「アカシック・レコード」にあるのです。第二界の図書館のようなもので、そこにたどり着けた人なら誰でも入れます。誰でも国連の図書館に入れるわけではありませんが、私は大丈夫です。

今日国連から講演に招かれているからです。そうですね。誰でも入れるわけではありませんが、みなさんは入れます。この関係者だからです。ですから、同様に、私たちが第二界に到達した時は前世の記録を読むことができます。第一界でも場合によっては、ある人の前世を垣間見ることができませんが、それは高いレベルの完全な記録ではありません。それで、前世のこうした経験が現在のカルマにどう関連するかという質問でしたね。それは私たちが学んだ経験であり、現在の生活に対処するためだと言えます。わかりますか。あなたが前世で吸収したすべてが、現在の生活に影響します。同様に、前世であまりにも不愉快な事を経験

していると、その経験によく似たものを見ると、あなたは非常に怖がります。例えば、前世であなたが偶然に階段から落ちてひどいけがをして、そこは暗くて誰も助けられなかったとします。すると、今でも階段を降りる時少し怖いと思うでしょう。特に長い階段で下の方が暗い時、降りるかどうかと葛藤するでしょう。あるいは、あなたが前世で、ある科学分野において何か専門的な研究をしていたなら、現世でも同様にそれに興味を感じるに違いありません。たとえあなたが今科学者でなくても、やはりどんな科学研究にも心をひかれます。すべてがそういうことです。

モーツァルトが天才だったのはそういうわけです。四才にしてピアノの才能を發揮し、有名になり、現在に至ってもなお有名です。彼は天才でした。それはマイスターになるまで何世代も音楽の練習をしていたからです。でも、彼はその後死んでしまったのです。わかりますか。彼の生涯で音楽的な頂点に達する前に死んでしまいました。ですから、生涯を閉じ、そのキャリアを捨てることに満足していませんでした。音楽を愛していたからです。それで彼は戻って来ませんでした。過去の音楽的才能から学んだすべての経験が彼のところに戻ってきたのです。それは死ぬ時、音楽を続けたいと強く望んだからです。わかりますか。このような人々は、再びこの世に生まれ変わる前に、アストラル界や第二界から多くの事を学んでいます。ですから、彼らには生まれつきたぐいまれな科学的、音楽的、文学的才能や各種の発

明力があるのです。それは他の人が知らないような事です。ある種の並外れた発明力で、他の人には理解できません。夢にも思いつかないような発明です。いいですか。彼らはすでにそれを見たことも、学んだこともあるからです。この世での学習と超世界での学習と、二つの方法があります。生まれながらにして才能のある天才のような人は、超世界、アストラル界や第二界のような世界から来た専門家です。時には、その人が戻る選択をした時は、第三界から来ることもあります。みな優秀で天才です。

Q 印心の条件は明確にはどういうことですか。印心をしたら、日々どのように修行したらいいのでしょうか。

M まず、すべてが無料で何も拘束されません。あなたが修行を続けたいと思う時だけ、自分を拘束しなければなりません。条件として経験は何もいりません。事前にヨーガやメディテーションの知識も必要ありません。けれども、生涯ビーガンを貫かなければなりません。卵はダメです。殺生しなければすべて大丈夫ですが、卵は半殺生になりますので、たとえ無精卵であってもいけません。否定的なパワーを引き付ける傾向があるからです。それで黒魔術や白魔術を操る人や、いわゆるブードゥー教の人は、卵を使って霊に取りつかれた人々から霊を引き出すのです。こういう事を知っていますか。(ある人が答える…はい)知っている

のですか。すごいですね。即刻開悟ではないにしても、即刻証明はありましたね。(笑い)

印心の時、あなたは神の光と音を体験します。いいですか。この靈性の音楽は、あなたを高い意識レベルに引き上げます。サマデーの味わい、つまり深い安らぎと喜びを理解するでしょう。印心後、真剣に行くなら、家で修行を続けます。真剣に行わないなら、強要したり、これ以上煩わせたりはできませんから。あなたが引き続き修行し、私の助けが必要な時だけ、ずっと手助けします。そうしないなら、それまでです。毎日二時間半のメデイーションをします。朝早く起きましょう。就寝前に二時間、昼休みに三十分メデイーションをします。私がここで講演をしない時は、一時間の昼休みはどこかに隠れてメデイーションをします。それでもう一時間です。夜にあと一時間か三十分します。そして、朝一時間早く起きればいいのです。生活をもっと調整してみましよう。テレビを見たり、世間話をしたり、電話をかけたたり、新聞を読んだりするのに費やす時間を減らせば、たくさん時間を節約できます。実際、時間はたくさんありますが、時間を無駄にしています。ロングアイランドまでドライブする代わりに、裏庭を走っているようなものです。これで満足でしょうか。(質問者：はい) 生涯を通して、あなたが自分自身に修行を課する以外には、何の条件もありません。修行を続ければ日々生活は良くなり、いろいろな奇跡を体験します。願うことなく自然に起こるのです。わかりますか。あなたが本当に真剣なら、地上での天国とはどんなものか

体験するのです。そうやって、何十万もの弟子が私について何年もずっと修行しているのです。というのは、彼らはどんどん良い体験をしているからです。本当に真剣に修行しているからです。

Q 本性とは何でしょう。説明してください。

M 本性ですね、わかりました。説明するのは難しいですが、知識を使えば想像できます。本性とは一種の智慧の事で、あなたがある事を今までよりもっと理解したり、超世界の事を知ったり、今までは知らなかったこの世の事を知ったり、わからなかったたくさんの事を理解することです。それが本性です。この本性、いわゆる智慧をいったん開けば、自分は誰なのか、なぜここにいるのか、超世界には何があるのか、この世の住人以外に誰がいるのか、本当にわかります。たくさんの方がいます。意識のレベルとは一種の理解度の違いで、ちようど大学を卒業するようなものです。学べば学ぶほど理解が深くなり、それで卒業していきます。これで満足でしょうか。抽象的なものは説明しにくいのですが、やってみました。これは一種の悟りのことで、説明するのは難しいのです。さらに別の高い意識レベルに到達すれば、その悟りも異なってきました。違った理解をし、違った感じ方をします。ただ確実に安らぎと平穏と喜びに満たされるのを感じます。何も心配ありません。日常生活のすべての

事がよくわかるようになります。前よりも物事を上手に処理でき、問題の解決も上手になります。物質レベルにさえ利益が及ぶのです。あなたの内面でどう感じるかは、あなたにしかわかりません。こういうことを説明するのは本当に難しいのです。あなたが愛する女性と結婚するようなもので、その感覚はあなた自身にしかわかりません。他の誰にもわかりません。

Q 敬愛なるマスター、ご教示ありがとうございます。よろしければ私が心の中で感じていることについてお話しただけですか。今、地球上にたくさんマスターがいるのはなぜでしょうか。彼らはすぐに学べる機会を与えていますが、過去においてはとても難しかったのですか。そのことについて話していただけですか。

M ええ もちろん。現代の情報伝達は発達していますので、私たちはマスターについてより多くの情報を得ることができます。過去にはマスターが存在しなかったとか、探し難かったということはありません。もちろん、何人かは他のマスターより近づきやすかったのです。それは、そのマスター自身の選択、伝授することを望んだかどうか、また一般大衆との縁によつて違いました。けれども、いつの時代もだいたい一人から五人くらいのマスターはいました。その時代の必要性で決まるのです。ただ、現在私たちは以前よりも多くのさまざまレベルのマスターが出現していることを知っています。というのは、現代は幸運にもマ

スメディアがあり、テレビやラジオの情報網があり、各種の書籍があり、大量の本をわずかな時間で印刷できます。昔は一冊の本を印刷するには、まず粗末な斧で木を切り倒し、小さく切らなければなりません。しかも、その斧はすぐにダメになり、使いものにならず、石で研がなくてはなりませんし、いろいろ問題がありました。その上、一文字一文字彫っていかなければなりません。一組の聖書を運ぶには、護送隊がそっくり必要です。わかりますか。当時、トラックがあつたとしても大型が必要だつたでしょう。ということ、私たちはたくさんマスターを知っているのです。わかりますか。運がいいのです。シヨッピングができ、欲しいものが選べるのは大変良いことです。「私が一番だ」と言ってみなさんをだませる人は誰もいません。みなさんは比較し、智慧を使い、聡明な判断ができます。「これがいい」とか、「あちらの方が好きだ」「恐そうな顔だ」「あつちは醜い」などと。

Q 私の質問ですが、マスターはシヨッピングのお話をされましたが、あなたはすでに他のマスターから印心を受けている人にも印心を伝授なさいますか。

M 私の方が他の人よりもっと速く、より高いレベルに連れて行けると、本当に信じている人だけに印心を授けます。そうでなければ、前のマスターから離れない方がいいでしょう。前のマスターに非常に執着し、深く信じているのなら、すでにそのマスターが一番だと信じ

ているなら代えないでください。けれども、もしまだ疑っているなら、私が言う光と音の体験をしていないなら試してみるべきでしょう。なぜなら、光と音は真のマスターを測る基準になるからです。あなたに即座に光と音を与えることができない人は、真のマスターではありません。申し訳ありませんが、そういうことです。天国へ通じるためには光と音を備えていなければなりません。ちょうど、海に潜るのに酸素マスクなど装備一式が必要なのと同じです。それぞれ目的が違います。そうですね。ですから、聖人にはみな後光がさしているのです。それがすなわち光です。この法門を修行すれば、あなたもイエスの絵にあるのと同じ光を放ち、人々にはそれが見えます。超能力のある人にはその光が見えるので、後光がさしているイエスや、光に包まれた仏陀を描いたのです。あなたの智慧が開いていれば（マスターは額を指差す）、レベルの高い修行者にこのような光があるのが見えます。多くの人に見えます。誰か見える人はいますか。あなたは何が見えますか。

Q オーラが見えます。

M そうですか。でもオーラは光とは違います。オーラにはいろいろな色があり、時には黒、時にはコーヒ―色、また黄色や赤などで、その時のその人の人の気分によって決まります。けれども、修行のレベルが高い人の非常に強いオーラを見た時は、その違いがわかります。そうですね。

Q 質問ではないのですが、私は以前しばらくラージャ・ヨーガの修行をしていました。

M ラージャ・ヨーガですね。

Q 私が見たのもオーラだったと思います。当時、私はあまり知識がなかったので。

M 今は見えないのですか。時々は見えますか。

Q 今は見えません。もうメデイテーションをしていませんから。

M それでパワーがなくなってしまうたのですね。またメデイテーションをすべきです。どうですか。

Q はい。

M あなたがまだその法門を信じるなら、メデイテーションを続けるべきです。多少はあなたの助けになっています。害はないでしょう。いいですね。

Q 小冊子に五つの指針とありましたが、いったん印心したら、五つの指針を守らなくてはならないのでしょうか。

M ええ、そうです。それは宇宙の法則です。

Q 私には邪淫をしてはならないという意味がわからないのですが。

M あなたに夫がいるなら、二人目は探してはいけないということです。非常に簡単です。あなたの生活を複雑にせず、もっとシンプルにして、感情的な口げんかをなくすのです。人の感情を傷つけるからです。私たちはたとえ人の感情であろうと傷つけません。そういう意味です。私たちは誰に対しても、感情的、肉体的、また精神的な争いや苦痛を避けるよう努めます。特に愛する人に対してはなおさらです。すでに愛する人がいるなら、その人には言っただけでいいです。言えは傷つけるだけです。ただ黙ってゆっくり解決して、告白してはいけません。なかには浮気をしたら、家に帰ってすべてを妻や夫に告白することが賢明で正直なことだと思っている人がいますが、それはばかげたことです。よくありません。あなたはすでに過ちを犯しているのに、どうして家にゴミを持ち帰って、人に食べさせるのでしょうか。知らずにいれば、それほど苦しまずにすみます。わかりますか。事実を知ったら傷つきます。ですから、私たちは自分で問題を解決し、再び繰り返してはいけないのです。それだけです。このことはあなたのパートナーには話さない方がいいのです。パートナーを傷つけることになるからです。

Q 多くの靈修行のマスターには、素晴らしいユーモアがあると気付きました。修行とユーモアにはどんな関係があるのですか。

M ああ、わかりました。マスターたちは本当に幸せでリラックスしていて、何に対しても陽気だからだと思います。自分や他人を笑うことも、この人生のばかげた事を笑うこともできます。多くの人が深刻で緊張して、真剣にしがみついている時に笑えるのです。私たちが少し修行をするよりリラックスし、それほど深刻にはなりません。明日死ぬなら死に、生きるなら生きるということです。すべてを失ったら失ったで、それもいいでしょうし、すべてを得たなら、それも構いません。悟りを得ると、どんな状況でも自分の面倒を見るのに十分な智慧と能力が備わります。それで私たちは何も怖くなくなり、恐れたり、心配したりしなくなりません。それでリラックスし、この世に執着を感じなくなり、何を得ても失っても、もはや何の意味もなくなります。もし、たくさんのものを得たなら、ただ人々の利益のために、愛する人の利益のために提供します。私たちは自分自身や命でさえ重視しません。それを維持するために、あらゆる苦悩や苦痛をくぐり抜けたりしません。命を大切にすることはもちろん良いことですが、それは一日中針のむしろでメデイーションするということではありません。私たちは仕事をしなければなりません。わかりますか。例えば、私も仕事をしていきます。絵を描き、手工芸などで生活費を稼いでいます。誰からの寄付も受けません。私の稼ぐお金は人々を助けられるほど多額になることもあります。難民や災害の被災者やすべての人を助けることができます。私たちは多芸多才なのに、いったいどうして仕事をしないとい

うのでしょうか。悟った後は私たちの生活はもっと楽になり、何の心配もなくなります。わかりますか。私たちは自然にリラックスします。そうやってユーモアのセンスは生まれるのです。そういうことだと私は思います。私にユーモアのセンスがあるのですか。（聴衆答える…はい。笑いと拍手）それなら、私もきつと何かのマスターなのでしょう。（マスターと聴衆笑う）みなさんのためにもそうであることを望みます。悟りを開いていない人の話を二時間も聞く人はいません。時間の無駄です。

Q 魂の探求をしていると、常に浮かんでくる疑問がありますが、得られるのは理論や故事ばかりです。それで、私はあなたの見解が聞きたいのですが。まず、「私たちは誰か。私は誰か。なぜ家に帰らなければならないような苦境に追い込まれたのか」です。私たちはどうやって家を離れたのでしょうか。また家に帰るのはなぜ重要な事なのでしょう。マスターは第五界に帰り、それ以上行くことが重要だとは限らないと話されましたが、それなら、その上に世界があるのは何のためでしょう。私がいかにそこに戻る必要がないなら、その世界は私とどんな関係があるのでしょうか。こういった質問です。

M ユーモアが湧いてきました。（笑いと拍手）「私は誰か」という質問に関しては、ニューヨークの禅マスターの一人を訪ねて聞いてください。イエローページで捜せば見つかりま

す。(笑い) これに関して私は専門ではありません。二番目の、「なぜここにいるか」ですが、たぶんあなたはここにるのが好きなのでしょう。私たちは神の子ですから、そうでなければ、誰も私たちを無理にここにとどめておくことはできません。いわゆる神の子は神自身に似ています。違いますか。王子は国王に似ています。ある面において、多少なりとも国王に、あるいは未来の国王に似ています。それで、彼はどこか行きたい時だけ、その場所へ行くのです。とにかく、私たちには自由意志があります。天国にとどまるか、どこか他の場所へ行き、自分のために経験を積むかを選べるのです。

おそらくあなたはずっと前、最初にここにいることを選んだでしょう。もっとスリルのある刺激的なものを学ぶためです。ハラハラするような体験が好きなのもいます。例えば、王子は宮殿にいられますが、大自然の中を探検するのが好きなら、ジャングルの中を歩き回るに違いありません。そういうことかもしれません。私たちは天国では非常に退屈なのかもしれません。そこにはすべてが整い、サービスも充実しているからです。それで私たちは自分で何かをしたくなるのです。ちょうど皇室の人が自分たちのために料理を作りたくなるようなものです。従者の助けを借りず、全身ケチャップまみれになり、あたり一面を油で汚してもそれが楽しいのです。見た目には少しも優雅ではありませんが、そうするのが好きなのです。例えば、私には運転手がいます。どこに行くにも喜んで車を運転してくれるのですが、

時には自分で運転したくなり、私は小さな無煙のオート三輪を運転します。充電して時速一〇マイルで、いいえ、時速一〇キロで走ります。私はそうするのが好きです。というのは、どこに行っても誰かに見られているので、時には誰も私を知らない所に行ってみたいからです。

講演の時以外、私は非常に恥ずかしがり屋です。人々が私を見つけ出し、有名になってから講演は私の義務ですから、それほど頻繁には逃げ出せなくなりましたが、たまには逃げ出します。二、三ヶ月とか、ちようどわがままな妻が夫から逃げ出すように。それが私の選択です。ですから、あなたはたぶん、しばらくの間ここにいることを選んだのかもしれない。そして時間が来たので帰ろうと思っているのかもしれない。この世界からは十分に学んでしまったので、もう学びたい事は何も無い、旅することに疲れたと感じたからです。休みたいので家に帰り、まず休息します。そして、再び冒険の旅に出るかどうか考えるのです。いいですか。今、私が言えるのはこれだけです。それから、「なぜ家に帰らなければならないのか。なぜ第五界であって、第六界でないのか」ですが、それはあなた次第です。第五界を超えれば、行きたい所どこにでも行けます。その上にもたくさんレベルがあります。わかりますか。けれども、第五界は住むにはとても快適で中立の所です。もつと上に昇るとあまりにも力が強くなりすぎてしまい、しばらくは行ってみる事ができても、そこで休もうとは

しないでしよう。例えば、あなたの家がきれいでも、場所によってはそこがトイレだったりすると、そこでずっと休みたいとは思わないでしょう。あなたの家でさえそうです。あるいは、山は高い所ほど景色も美しいですが、高い山には休む場所がないというようなものですね。また、あなたの家の発電室は発電機がうなりをあげ、熱くて危険な場所なので、あなたの家にとっても貢献している場所にもかかわらず、あなたはそこにいたいとは思わないのです。わかりますか。それだけです。神には私たちが想像できないほどたくさんの様相があります。私たちはレベルが高くなればなるほど、愛の力も強くなると思います。けれども、愛の力にも激しいもの、強いもの、穏やかなもの、中庸なものなどたくさんの種類があります。それは私たちが受け入れられる程度によって決まります。神は私たちに程度の異なる愛を与えるのです。レベルが違えば、神からの愛の程度も異なります。いいですか。けれども、時にはあまりに強すぎて、引き裂かれるように感じることもあります。

Q 私たちの周りでは動物の虐待などの環境破壊が多く目につきます。この世からの精神的解脱をしたいという人々や、これらの環境に対抗する、すなわち彼らを取り巻くあらゆる破壊に対抗しようとする人々に対し、あなたはどのような考えをお持ちなのか、私は知りたいのですが。また、この世を超越するということは、私たちにとって忘れたものを思い出せば、

それで十分だとお考えですか。あるいは、私たちにはこの世の苦しみを軽減する義務があると思いますか。また、そのために何か良い方法はありますか。

M あります。自分が良い事をし、同胞の苦しみを軽減させるのに最善を尽くしていると感じれば、少なくとも私たちは安心できます。私も全く同じ事をしていきます。あなたが尋ねたことは、私がちょうど取り組んでいる事です。前からやってきましたし、今もやっています。今後もやっていくつもりです。すでにお話ししたように、私たちはいろいろな団体やいろいろな国の被災地にお金を届けたりしています。こういう事を少しも自慢したいとは思いませんが、あなたが質問したのでお答えするのです。例えば、去年私たちはフィリピンのピナツポ火山の被災者を救援しました。他にも、オウラック（ベトナム）や中国の洪水被災者の救援をしました。現在は国連の負担を援助するために、オウラック難民の救済活動をしています。国連が私たちの援助を必要とするなら、何はともあれ、私たちは全力を尽くします。わかっていただけでしたか。私たちは金銭面で彼らの援助をしています。国連の同意があれば彼らの住む所を探すこともできます。ですから、あなたが尋ねたことはすべて行っています。そのために私たちはここにいるのですから、環境をできる限りきれいにしなければなりません。ですから、私たちは苦しんでいる人々を助け、精神と物質の両面から世界の道徳基準を向上させようと努めています。というのは、私から精神面での援助を求めない人々もい

るからです。彼らはただ物質的な援助を必要としているので、私たちも物質面で援助します。これが私たちのやっている事です。そういうわけで、私はお金を稼ぐ必要があるのです。私は寄付に頼って生活したいと思いません。出家者も、弟子もみな、みなさんと同様働かなければならないのです。こういうことの他に、私たちは精神面での援助もします。この世界の苦しみから人々を救うために、私たちはこのような仕事もしなければなりません。一日中マディーの中に浸り、楽しみを享受していません。それは利己的な仏陀（悟りを開いた者）であり、ここでは必要とされません。（笑い）

Q 人があるレベルに達すると、意識を覚醒させるパワーを持つていることに気付くとお話してくださいました。今、もしそのパワーに気付いた時、それを使うか、使わないかをどうやって決定するのでしょうか。もし使わなかったら、周囲で起こる事にどのように耐えるのでしょうか。例えば、ある物事が世俗的なやり方でゆっくりと進められるのを目にした時、あなたは祈ることしかできないのでしょうか。それとも、問題の改善や早期解決のために何かをなさいますか。そして、もしそのパワーを使ったとしたら、どうなるのでしょうか。私の言いたいことをわかっていたいただけますか。

M わかります。あなたがおっしゃるのは、自分に物事を改善する能力があるのに、周囲の

物事が複雑になり、事がスムーズに運ばない場合、どうやってそれを我慢するかということですね。ただ神に祈るだけなのか、超能力を使って、ちょっと指でボタンを押すかのように物事を動かすかということですね。いいえ、とんでもありません。私には忍耐力があります。

この世界を混乱させないためにも、私たちはこの世界のペースで仕事をしなければなりません。例えば、子どもは速く走れません。あなたがいくら急いでも、走らせようと思ってもダメです。そんなことをしたら、その子はつまずいて転んでしまうでしょう。ですから、私たちは忍耐強くならなければなりません。たとえ私たちに走る能力があっても、子どもと共に歩くのです。それで時に私も欲求不満になり、忍耐が続かなくなりますが、自分に忍耐というものを教え込まなければなりません。そういうわけで、私は各国の大統領に、難民収容について一件一件お願いに行かなくてはならないのです。たとえ私たちが全財産を、数百万、数億ドルを差し出したくても、複雑なシステムを通さなければなりません。「シーザーのものは、シーザーに与えよ」です。わかりますか。私は超能力を使って国連を動かしたりはしません。そんなことはすべきではありません。物質的な超能力を使うと、この世に災難を引き起こしてしまいます。わかりますか。それは自然にまかせなければなりません。

けれども、私たちは精神面の癒しと修行で得た智慧や理解で、人々の意識を向上させられます。自ら進んで行い、協力し合うという知識を彼らに分け与えるのです。それが最良の方

法で、超能力は使うべきではありません。私は今までに生活の中で意図的に超能力を使ったことは一度もありません。けれども、修行者の周りでは奇跡が起こることがあります。それは意図的ではなく、ごく自然に起こるのです。わかりますか。無理強いをすれば、何事によらず悪い結果になります。子どもは速く走れません。そうでしょう。私の答えに満足していただけましたか。まだ満足していただけないなら、どうぞおっしゃってください。もう少し詳しく説明できます。私はみなさんがとても聡明であると信じています。みなさんは世界各国から選り抜かれてきたエリートです。ですから、あまり詳しくは説明しませんでした。ところで、みなさんに言っておきますが、国連の存在は私たちにとって非常に有益です。ただ完全にはなくすことはできないとはいえ、世界中で起こっている多くの紛争や戦争を減らしています。国連の本を読むと、私たち一人ひとりが国連の一員だと思えます。私自身も国連の仕事をしています。人質救出の努力と能力に関して、みなさんをたたえなければなりません。誰も救出することができず、全世界の力を動員しても救出できなかったものを、国連の委員はやり遂げたのです。災害救助や難民などに関するたくさんの問題があり、みなさんは一、二〇〇万の難民の責任を担っていると聞いていますが、そうですか。仕事は山ほどあり、戦争やあらゆる事があります。それで国連は非常に有益なのです。

Q マスター チンハイ、私たちに智慧をお分けくださりありがとうございます。世界の人口増加に関する質問があります。人口増加に伴い、乱開発による環境破壊や食糧需要の増加が問題になってくると思います。人口増加に関してお考えをお持ちでしょうか。これは世界共通のカルマですか。それとも、未来のカルマを作っていることになるのですか。

M この世にとつて人が多いのはとても良い事です。悪い事ではないでしょう。混み合つてくれば騒がしくなり、ますます面白くなります。実際、人口過剰が問題なのではなく、人口分布の偏りが問題です。世界のある特定の地域に人口が集中し、別の場所に移動しようとしていないのです。それだけのことです。まだまだ、使用されていない未開墾の荒れた広大な土地がたくさんあります。手つかずの島々、広々とした高原など、そこには緑豊かな森林以外何もありません。例えば、人々はニューヨークに好んで集まっています。(笑い) かなり面白い場所ですからね。政府が各地域に就業の機会を作り、雇用を確保すれば、人々はそこへ行き、その仕事に就くでしょう。彼らがここに集まっているのは、簡単に仕事が見つけられるか、安全だからです。各地域の安全が保証され雇用の機会が整えば、人々はそこへ行くはずで。人々が生計と安全性を得ようとするのは、ごく自然なことです。ですから、人口過剰を心配する必要はなく、世界の人々がもっと有利な雇用機会と居住環境と安全保証を得られるようにすべきです。こうして各地域が同じになれば、人口過剰の問題はなくなりません。

食糧問題については、あなたの方がご存じでしょう。なぜなら、アメリカにはどのようなに世界を保護するかに関しての資料がたくさんあり、ビーガン（完全菜食）は世界の資源を維持保存し、地球の全人口を養うに十分な最良の方法の一つだと述べられています。私たちはあまりにも多くの野菜やエネルギー、電気や薬を無駄にして動物を飼育しています。わかりますか。それを人々が直接食べることはできないのでしょうか。第三世界諸国の多くの国では、高たんぱく質のビーガン食品を安い値段で提供されていますが、これは他の地域の人口を助けることにはなっていない。食べ物や平均に分配し、ビーガンになれば、私たち自身や動物のためだけではなく、全世界の助けとなるでしょう。ある雑誌の研究報告によると、私たちがビーガン食を食べれば、世界に飢餓はなくなるそうです。私たちは組織化すべきです。私は米ぬかから栄養食品や乳製品さえ作り出せる人を知っています。前回私はこういうことを話しました。彼は「三〇万ドルあれば、スリランカの六〇万の貧しい人や、栄養不良の人や母親たちを養うことができる」と言っています。そうならば素晴らしいことです。世界各地の天然資源の無駄使いが問題なのであって、食糧不足が問題なのではありません。神は私たちが飢えさせたりしません。そうしているのは私たちなのです。ですから、考え直して組織を立て直さなければなりません。多くの国家政府の奨励が必要になります。真心と清廉さと気高い精神と、自分のためではなく大衆に奉仕する意志があれば、私たちに恩恵がもた

らされるのです。あらゆる政府の奨励が得られれば問題はなくなりません。私たちには優秀な指導者や優れた経済機構や人材管理、誠実な政府が必要です。多くの人々が、大多数の人が、あるいはすべての人が修行をすれば、この理想はもっと早く実現するはずで、彼らは教理を理解し、戒律を理解しているので、どのように誠実で清廉になるかわかります。自分の智慧の使い方もわかります。仕事をする時は周到に考え、私たちの生活も立て直すことができますでしょう。わかりますか。

Q それはとても難しい事だと思えます。今日の多くの環境問題は、みな人口問題と関連しています。例えば、人口が増加すればさらに多くの居住空間や家屋など、二〇世紀の私たちにふさわしい生活方式が必要になります。ブラジルのジャングルでも環境問題が起きています。森林破壊、熱帯雨林の破壊です。土地に枯葉剤が散布され、その結果水害が起きます。これと人口過剰の問題と関連しています。

M そうです。世界のすべての問題はそれぞれ関連があります。唯一の解決法は根本から行わなければならない、枝葉からでは解決しません。根本は魂の安定にあります。わかりますか。(拍手) ですから、私たちがすべき事は、この靈性のメッセージを広め、戒律を遵守させることなのです。それが人々には欠けているのです。もちろん電子器具を使えば、少しの光と耳鳴りのような音楽を体験でき、サマデーも得られるでしょう。けれども、あなたに道徳

的規律がなければ、時には力を悪い方面に使用し、コントロールできなくなることもあるのです。わかりますか。ですから、私たちのこの団体では、まず人々に指針を守ることを教えます。指針は非常に重要です。私たちはこの力をどんな所に使うかを知らなければなりません。愛や慈悲や正しい道徳感がなければ、たとえ力があっても役には立たず、それは黒魔術になり悪用されてしまいます。黒魔術はこのようにして生まれたのです。わかりますか。ですから、「悟りを得る」のは簡単ですが、「悟りを維持する」のは難しいのです。私たちの法門では戒律をきちんと守らず、道徳性に欠けてくると、マスターが部分的にそのパワーを取り去ってしまうのです。そうすれば、それを悪用したり、社会で悪事を働くことはできません。わかりますか。他の法門とそこが違います。マスターがコントロールできるのです。マスターパワーです。いいですね。みなさんの知的な質問をとでもうれしく思います。本当に知的ですね。人々がこういう事をするのは智慧が不足しているからです。あなたの指摘した土地乱用の件も、ただ彼らに智慧が欠如していることと関係しています。ですから、その根本的な解決法とは、智慧と魂の修行をすることです。悟りを開きましょう。よろしいでしょうか。これで終わりにしなければなりません。ご清聴ありがとうございました。みなさんのご幸運をお祈りします。仕事や願いや夢、日々の目標に神の恵みがありますように。



私たちは本来すでに解脱している

一九九二年十一月八日 フォルモサ・台北における中国語講演

みなさんはアニメ映画「みにくいアヒルの子」を見て、どんな印象を持ちましたか。時々、私たちは変わり者だとか、他の人たちとは違うと思われる、世間から受け入れてもらえないことがあります。実際は、私たちはとても貴重な存在なのかもしれません。あのアヒルの子は、本当はアヒルではなく白鳥だったのです。白鳥は最も貴重なもので、とても高い山に住んでいて、混じり気のない露を飲んでいきます。最も高い所にある、とてもきれいで人が汚染していない山の上の湖の水を飲んでいきます。話によると真珠を食べているそうです。それでインドの偉大な修行者は、自分を白鳥に例えるのです。白鳥がアヒルの群れと一緒に交じっていると、当然アヒルは白鳥を醜いと言います。というところで、修行者と世間の人との概念は時には同じではないこともあるのです。そうでしょう。

違う種類の人の中に交じっている時、私たちは人と違うと感じます。それでとても悲しみ、人々はみな私たちのことが好きではないなどと思うのです。実際は、私たちの方が彼らより優

れているので、彼らは私たちが好きではないのかもしれませんが。あのアヒルたちが白鳥を好きでないのは、白鳥にとっては良いことです。そうでしょう。アヒルが白鳥をとて暑い南方に連れて行って、そして一緒に住んで毎日けんかばかりしていたら、白鳥にとつてどんな良いことがあるのでしょうか。彼は残されましたが、それは結局白鳥にとつて良いことでした。というのも、白鳥は雪が降るのを怖れないからです。彼らは雪山のような所に住んでいて、きれいな水を飲んでいるので、雪を怖れるはずがありません。それに、彼らの生活はとても清潔で、とてもきれいで、下界でアヒルと一緒に生活できるはずがありません。彼らが下界でアヒルと一緒にいたら、当然アヒルは白鳥を嫌い、良くは思わないでしょう。白鳥も快適な生活ではなくなり、アヒルも心地よくないのです。アヒルをとがめているのではなく、彼らは白鳥と同じではないと感じています。何を見てもみな違います。白鳥の首はあんなに長し、くちばしはあんなにとがっていて、全然似ていません。

私は山の上にいる時、山から降りるべきではないと思いました。下に降りると、とてもうるさく、ごみごみしていて、とても退屈だからです。それに人に教えるのは難しいし、弟子を教えるのも難しいからです。山から下に降りて何をするのでしょうか。山の上にいると、とても素晴らしいのに。毎日チャパティを焼いて、お風呂を沸かし、アニメのビデオを見ていたらいいのですから。心地よい生活です。先週、西湖道場の方で少し変化がありました。みなさんは道

場が壊されたことを知っているでしょう。何でもありません。でも、悲しんだ人もいます。私にはわかりません。ですから、私は電話をしてみなさんと話したのです。結局、私はみなさんの気持ちに感動し、台北に来る約束をしました。そうしないと、みなさんは「道場がなくなつたから、マスターはもう帰つて来ない。私たちを見捨てた」と言うでしょう。なぜ泣くのですか。道場が壊されたことが何ですか。私にはとづくにわかつていました。ですから、ホールの下にコンクリートを敷きませんでした。それは、このような時にどうすればいいか、頭を悩ませることがあると思つたからです。木を植えればいいのです。道場はない方がいいです。今日のように、こんなのも悪くありません。何事にも執着してはいけません。

私はここ数日、出家者に僧衣を着ないように言い聞かせようと思つていました。というのも、彼らは特別な服を着ると、自分が特別だと思つたからです。彼らはもう少し謙虚さを学ぶべきだと思います。みなさんは彼らをあまりにもおだてすぎたのです。どうやっておだてたのでしょうか。例えば、「彼らは『観音使者』で、私たちは『追隨者』だ」というようにです。これは誤りです。私はこれを聞いて悲しくなりました。追隨している人などいません。同じでない人はいません。外面はみな同じです。ただ内面が違ふのです。一部の出家者にはまだ十分にその価値がありません。実際、価値のある人はいないのです。けれども、みなに価値があります。というのは、私たちが自分本来の仏性や本来の姿を見たとしたら、みな価値があります。私たちが

あのうるさい、いい加減に記録して、いい加減に再生する頭脳を見たとしたら、価値のある人はいません。けれども、この内面の本性を得るのは難しく、内面と通じ合うのもとても難しいことです。その後自信を持ち、私たちがもともと非常に素晴らしかったことを知るのは、大変難しいことです。それで価値がないと言うのです。マスターの見地によれば、みな価値があります。ある人たちの見地によれば、価値はありません。それぞれの出家者が僧衣を着て、自分は「出家者」だと思っていると大変です。出家していることは関係ありません。本来出家はとても良いことですが、出家していることと、出家していないことに違いなどないのです。

それで、私は彼らに服を着替え、在家の人と同じ服を着るように言ったのです。そして、一緒に交わればみな同じです。それぞれが内面で修行をして自分自身がわかればいいのです。人に見せびらかす必要はありません。そんなことをすると自分に障害をもたらすことになります。なぜでしょう。それは、私たちが枠の中に閉じこめれば、私たちの幻想はもっと大きくなり、もっと強固なものになるだけだからです。本来どんな「人」もいません。それなのに「出家者」と「在家者」がいると言うのですか。一部の出家者は特別な服を着ても構いません。その人は出家してもしなくても同じだからです。彼は出家の服を着ていても、とても自然です。ある人々はそれを着ると不自然です。彼らは人に見せるために着ているからです。私と一緒にいる一部

の出家者も大変優れているとはいえませんが、正しい概念がわからないからです。最も良いことは、まず自分の家をきれいに掃除することです。私たちがきれいに掃除しているのを見たら、隣の人も掃除するかもしれないかもしれません。そしてその時、私たちが助手になって手伝いをするのです。こうすればいいのです。自分の家も掃除していないのに他人の家の掃除に行くのはいけません。

本来、私たちの世界には一人の人もいません。みなさんは知っていますか。この体は金、木、水、火、土が合わさって作られました。少したつと、それはまた元の材料に戻ります。私たちが「人」とは何でしょう。朝から晩まで思案をめぐらせることですか。それが「人」ですか。いえ、違います。今「私」は楽しいけれど、少したつと「私」は悩み、もう少したつと「私」はまた楽しくなり、もう少したつと「私」は悩むのです。それが「私」なのです。いいえ。これはただの考え方にすぎません。海の波と同じように、波から次の波へと続いている、これは私たち「人」ではありません。当然、波は海から出て来ますが、それでもありません。波は風が吹いてできたのです。ですから、私たちがそれにしがみついてしまうと惨めです。私たちはどんなものもつかまえてはいけません。それなのに着る服に執着するなんて。本来、世界に「人」は存在しません。「彼（真我）」は永遠に見ている人にすぎないということを知っています。例えば、「彼」は、今私たちが苦しんでいて、少したつと楽しくなることを知っています。「彼」は、ある人がそういう状態だということがわかるのです。楽しい感じや苦しい感じがわ

かるのです。その人は「彼」がその悩みでも楽しさでもなく、永久の存在であることを知っているのです。それでは私たちはどうでしょう。毎日メデイーションしなかったり、自分のことをチェックしなかったりすると、自分はその悩んでいる人だと思ってしまうのです。

例えば、私がこのリンゴを食べたとします。このリンゴはとても甘く、私はリンゴが甘いことを知ります。けれども、この甘い味は「私」ではありません。すっぱい味も「私」ではありません。「私」はただすっぱさや甘さを味わったにすぎません。けれども、私たちはいつも忘れてしまい、自分がリンゴだと思ってしまうのです。これはとてもおかしいでしょう。本来、人はいないので、幻想を枠にはめては、さらに強固にすべきではありません。みなさんは何を着てもいいのです。大したことはありません。私は着替えてばかりで大変疲れました。それで今は着替えません。このままでいいでしょう。

私たちが理解すべきことは、「人」はいないということ。この「人」がどんなに偉大であっても、どんなに才能があっても、それは一種の現象にすぎません。これは彼自身が持っている性質であり、彼自身その性質を十分知っていて、そしてそれを使うことができるのです。彼はその人ではありません。私たちは生まれることもなければ、死ぬこともありません。ただその考え方が生きたり死んだりしているのです。もし、私たちがこういう考え方を放棄しないで、生老病死、喜怒哀楽をずっと追求し続け、私たち自身をその感覚だと認めてしまうと、当然私

たちは輪廻します。リンゴを食べる人とリンゴを別々に分けていないのです。ずっとリンゴに執着して、朝から晩までリンゴを探しまわっています。こちらで探し終わったら、あちらへ行って探し、ずっと探しているのです、ずっと輪廻するのです。私たちは自分の好きなものを探したり、嫌いなものを避けたりしているために、その悩みさえ「輪廻」しているのです。そうであれば、本来「本人」は輪廻しないのです。「彼（真我）」は証人です。永久に不生不滅で、ここでは永久に観客でしかありません。まるで映画を見ているようなものです。

私は映画を見て泣くことがあります。「星の王子さま」を見て、あの物語の中にはたくさんの道理があると思いました。例えば、笛を吹くのが好きな子どもがいましたが、彼のお父さんは彼が笛を吹くことを禁止しました。その子は泣き、笛を持って家出しようと思いました。それで、星の王子さまは彼にこう言いました。「あなたは笛を心の中にしまっておけばいいのです」。その子どもは理解して笛を置きました。その後彼は戻って来ました。その時になって彼のお父さんも、おなか一杯にならないけれど、笛を吹いてお金を稼ぐことも人々の心を癒すことができるので、やはり重要なことなのだとわかりました。というのは、その子どもが笛を吹かないと、みんなでたらしめな事をするからです。星の王子さまがいいかげんに笛を吹くと、その笛の音でみんながけんかをしたり、ニワトリやアヒルはお互いにかみついたり、何もかもめっちゃくちゃになって村全体が混乱しました。けれども、その子どもが笛を吹くと、みんなとても平和

でとても心地よくなったのです。

本当にそういう現象があります。とても優しい音楽を聞いていると、心の中がとても幸せになり、とても心地よく感じる場合があります。でたらめな音楽を聞くと、とても煩わしく、気が変になってしまい、怒りっぽくなります。本当にこういうことがあります。ある事は物質面から考えるべきではありません。それは本当に精神的な価値があるのです。

同様に、私たち修行者に、なぜ修行をするのですかと聞く人がいますが、彼らは私たちが座っているのを見て、食べていけるお金も稼げないと思うのです。けれども、私たちはメデイションをすればするほど、お金を稼ぐことができるのです。そうでしょう。私たちは今まではお金を稼ぐためにも忙しかったのですが、頭が明せきではないのでお金を稼ぐのも下手でした。けれども、私たちがメデイションをすると、多くの利益がもたらされます。インドの人はこう言っています。「一人が修行すると、百人、千人に物質面で利益がもたらされるだろう」と。自分自身の智慧が自然に表れ、そしてたくさんの物を作ることができ、多くの人に利益をもたらします。ですから、とても忙しくお金を稼ぐことが必ずしも良いとは限りません。私たちはお金を稼がないのはありません。みんな稼いでいます。今はもっとたくさん稼いでいます。みなさんの商売も良いようです。今まではこうではなかったでしょう。そうですね。

ある日、私たちは山の上でたき火をしていました。一部の出家者が私について来ました。私

は彼ら一人ひとりにテントとたき火の場所と鍋をあげました。そして、自分たちで乾いたまきを拾って、ついでに環境も整え、たき火をしてお湯を沸かし、料理を作って食べました。私はこういう生活が最良だとは言っていません。何でもいいのです。本当にそうです。ただ私たちはそういう状況に出会った時に楽しめるのです。みなさんが都会にいて、それを楽しめるのと同じです。私は山の上にいると降りたくないのです。そこで静かで、幸せな、何の心配もない生活を楽しみたいからです。

私たちはそこに住み慣れると、そこがいいと思います。みなさんが都会に住んでいるのも悪くないし、何でも便利だと思えます。台北の人たちが買った七階建ての出版物流通センターに住むのもとても理想的だと思います。コンピューターを置く小さな部屋は、私一人が住むにはちょうどいいでしょう。下へ降りるとバス停があつて、少しも歩かなくてもいいのでとても便利です。ですから、どこでも長所があります。

みなさんは都会の生活に未練があり、山に登ってたき火をする生活はしたくないのでしょうか。山の上へ登って一人で住んで、孤独な生活をしたい人はいますか。(答える…います) いいでしょう。みなさんは住んだ所がいいのです。私もそうです。私は山の上に住んでいて、山から降りると山へ登りたくなくなります。どこでもいいと思います。ただ、まだ行ったことがないと少し心配しますが、着いたらもう心配ありません。そうでしょう。たぶんみなさんは私とほ

とんど同じで、あまり違いはないようです。私はもともと自分はとても特別だと思っていきましたが、何とみんな同じだったのです。どんな境遇でも落ち着けます。どこへ行ってもいいのです。とても素晴らしいのです。

私は今、出家者をみな帰らせて、自由な生活を送ればいいと思っています。どうして自分を枠にはめ、型に入れようとするのでしょうか。けれども、そうしたい人がいるなら価値があります。構いません。ただ自分に強制しないように。私たちはどこでもいいのです。魚は水の中に属し、トラは山に属します。そうでしょう。ゾウは森の中で生活しています。サルはあっちこっち飛び回り果物を取って食べます。私たちはそれぞれの人を無理やり私たちと同じにすることはできません。いけません。ちょうど「みにくいアヒルの子」と同じで、白鳥はアヒルに属してはいないので、それで楽しくなく、そばにいる親戚や友達も楽しくないのです。なぜなら、外見が似ていないので人に圧迫感を与えるからです。同じ理由で、私たちはどこに住んでもいいのです。私たちがよければそれでいいのです。

一人で山の上に住んで、毎日とても一生懸命メデューシヨンの修行をしていれば、必ずしもいいとは限りません。そうとは言えません。私はこういう生活が好きだからこれでいいのです。決して私が大した者だというわけではありません。みなさんはこんなことで私を賛美してはいけませんし、同じような人を賛美してはいけません。それは彼が大した者であり、彼は世を

捨てた、と認めることになります。彼はこの世が好きではないのです。何を捨てたというのでしょう。例えば、あなたはあの女性が好きではないとします。彼女がどんなに美しくても、あなたは好きにはなれません。あなたは奥さんが好きなのです。それは大したことですか。それで、あなたが何かを捨てられるとか、好色ではないとは言えません。あなたはその女性が好きではなく、ただ奥さんが好きだけです。一緒に生活をして慣れたので、彼女がいなくてあなたは生きていられません。美女がいなくてもあなたは何ともないのです。それぞれの好みがあり、それぞれの方法があります。決して誰より誰が優れているということではありません。私たちは他人の真似をしなくてもいいのです。

私たちは心の中では、自分がどういふ種類の人かとてもはつきりわかっています。良くないところや嫌いな性格があるなら、当然それを「切る」べきです。それを少し短く切り、少しなくすように切れば正しいのです。そうでないと何にもなりません。あなたにはあなたの生活があり、あなたが心地よく幸せならそれでいいのです。あなたが、ご主人はハンサムだと思えばそれでいいのです。他人には関係ないことです。私たちは軽率に逃げ出すことはできません。わかりますか。例えば、ある人と夫婦の因縁があるのは前に借りがあるからです。今になって嫌だ、返済したくないと思うのです。借りる時は気持ちよく、返す時は当然ながらあまりいい気持ちではありません。それで、彼と別れる、彼が嫌いなどと言います。これはみな返済したく

ないという意味です。ですから、私たちの因縁はやはりここで断たなければなりません。そして、私たちは上へ行って仏土で続けて「清算」します。上で清算する方法は違います。その時、誰がメディテーションに励んでいるか、どのレベルか見るのです。私たちの真我のある所には男女の区別がなく、恋愛もないことを理解すべきです。本当に最高の場所はこのようなのです。

この世界では、私たちは一人の「観客」にすぎません。普段私たちが劇を見ているようなものです。ある時劇を見ていると、とても感動したり、感情が高ぶったり、涙を流したりすることがあります。私たちは劇の内容について感情的にこう言います。「撃て、殺せ、追いかける！」。その時、私たちは彼らと同じ劇中の役になります。そうでしょう。けれども劇が終わると、私たちはすべて何もないことに気づくのです。

ある劇がとてすてきだったり、とても真に迫っていたり、演技が絶妙だったら、私たちは見終わってから何日経つても、まだ劇の中の気持ちになつたままです。同様に、私たちは世々代々人類の役を演じてきたので、それに慣れてしまいました。私たちはそれをやめることはできません。この役でなかったらどうなるのか想像のしようがないのです。これだけのことです。まだ頭脳の中にこんなにも残っているのです。ごらんなさい。劇を見るだけでも、劇中の残虐さや、人をとて感動させることや、不公平な内容がまだ頭脳の中に残っていて、長い間影響を及ぼすのです。時には、私たちは映画や劇を見たために、帰って来てから私たちの生活が少

し変わることもあるでしょう。ですから、私たちが現世で、この時に一生目を覚まさないで演じ続け、追求し続け、まだ感情を引きずって、そのような喜怒哀楽の生活の中にいるなら、私たちは「輪廻」しなければならぬと言うのです。違います。輪廻する人は一人もいません。

本当に解脱していない人は一人もいません。本当に自由でない人は一人もいません。それは私たちがそういった気分や現象、今日はこうだ、明日はああだ、今日はいい、明日は悪いという現象を追求しているからです。それで私たちは、輪廻すると言うのです。どこに、「輪」とか「廻」があるのですか。その考え方が輪廻しているのです。その現象が輪廻しているのです。

その気分が輪廻しているのです。それらが変化し「輪廻」しているのです。私たち「人」が輪廻しているわけではありません。観客は輪廻しません。しかも、この「人」は本来「人」ではなく、何の影響も受けません。斬っても死にません。焼いても焦げません。溺れても死にません。それなら、どんな「人」が生死輪廻するのでしょうか。本当に誰もいません。ただこの体が輪廻するのです。私たちではありません。

けれども、私たちが修行しなければ、真剣に考えなければ、そして、冷静に理解しなければ、たとえ私がこのように言っても、みなさんはただこの事を知るだけで、やはりこの輪廻の感覚から離れることができず、そして私たちは解脱できないと言うのです。実際には、私たちは本来すでに解脱しているのです。



万物は一体である

一九九二年十一月二十二日 フォルモサ・西湖道場における中国語講演

みなさん、こんにちば。(聴衆答える…こんにちば、マスター) 陽明山は大変寒かったので私は帰って来ました。まだスポーツウエアに着替えていません。買わなければいけませんね。彼らはみなスポーツウエアを持っていて、私だけありません。以前、買ってくるように言っておいたのですが、まだ買ってくれません。それで私は着られないのです。もういいです。私はやはり出家者ですから。(笑い) 出家するとか、出家しないとと言うのは誰でしょう。出家するのですか。出家しないのですか。みなさんはその人が誰だかわかりますか。その人は出家はしませんが、剃髪しなくてもやはり出家しています。その人は生まれることも、死ぬこともなく、永遠に幸せで、永遠に悟りを開いていて、永遠に愚か者なのです。それこそ私たち本人です。私たちは愚かで、聡明で、くだらないと同時に有意義なのです。これこそ私たちの本性です。みなさんは自分が誰なのかわかっていますか。(ある人が答える…衆生です) まあ、大変。全くわかっていませんね。みなさんは仏陀なのです。

この電線を見てごらん下さい。中には同じ電力が流れていて、こことそこに分かれていきます。どれも外見は同じですね。それなのに、この人はその人を尊重し、この電球はその電球を尊重するのです。というのは、それがもつと良く、明るいからです。自分自身では自分がどんなに明るいか見られないので、隣の人の明るさだけが見えるのです。そして、「明るい。わあ、あなたはとても明るい。どうやってこんなに明るくなれたのですか。私に方法を教えてください」と言います。そして人々は毎日拝みます。この電線は、「みなさんも同じように明るいのです」と納得させようとしますが、みなさんはそれを信じません。「まさか。私たちは真つ暗で、あなただけが明るいのです。絶対私に教えてください」。朝も晩も、どうすれば明るくなれるか教えるように迫り、煩わせます。本来みな同じ明るさなのです。それだけのことです。私たちはみな同じなのです。

考えてごらん下さい。私たちが生まれて来る前、まだこの体がない時、私たちは自分の存在を感じていたでしょうか。生まれてからも、私たちは自分が生まれたとは感じていません。本当にそうです。誰か生まれたばかりの頃を覚えている人はいますか。そうです。突然、ある人が私たちに、「あなたは生まれました。これがあなたの体で、これがあなたです」と言うのです。それから、私たちは徐々に認識して、「いいでしょう。これが『私』です」と言うのです。「私」は今、子どもです。今「私」は大きくなりました。それから、「私」はこれが欲しい。「私」は

あれが欲しい。「私」は出家者です。「私」は在家者です。「私」は高級官僚です。「私」は無名の者です。わかりますか。本当は何もないのです。例えば、私たちは生まれる前、自分たちの存在を全く知りませんでした。そうでしょう。たとえ、この「私」が生まれて来たにしても、なぜこのように生まれて来たかも知らないのですから。誰かが私に、生まれて来たいか来たくないか、背の高さはどのくらいかと聞いたことはありません。またどんな人になるかと聞かれたこともありません。全くありません。それから、毎日指差して、「あなたはこれです。あなたは子どもです。あなたは誰々です」と言うのです。毎日このように言い続けているのです。例えば、「『何必問』(笑い。マスターの言葉遊び…人名でもあり、中国語で「聞くことないじやないか」という意味)、どうして今日はこんなに悪い子なの。洋服をすっかり汚してしまつて。早く顔を洗に行きなさい。早く宿題をすませなさい。急いで学校へ行きなさい。早く食器を洗いなさい。早くしなさい」と、毎日私たちの名を呼びます。それで、私たちの注意力はこの体の中に閉じ込められてしまったのです。ああ、至る所に存在するはずの私たちの能力は肉体の中に閉じ込められてしまったのです。私たちは本来、おじさん、おじいさん、小鳥、子ども、美女、美男などの中に存在しています。全部分散して、私たちは至る所に、どんな人にも、どんな物の中にもみな存在しているのです。それから徐々に訓練させられ、枠にはめられて、「あなたはこの枠です。あなたは誰それです」と言われます。そうして忘れてしまい、「私は誰？」

と問い始めるのです。

私たちの注意力をつかまれ、この体の中に押し込められたために、私たちは徐々にそのような人に変わるのです。他の部分はすべて忘れてしまい、完全にみんなと分かれ、万物から離れて、今日の私たちのように変わってしまいました。これはまだそれほど最悪というわけではありません。最悪なのはこういう事です。私たちがこの体に慣れて、他の体を見ると（本来私たちのものだったのですが）、それが「彼の」体や、「彼らの」体に変わり、それから、彼らがどうするかを見て、私もやってみるのです。彼らは彼らのことをやり、私は私自身のことをやり、一方では他人に学び、一方では自分の好きなものを学びます。思いがけなく、この体は誰かに抱かれると心地よく感じ、寒いと毛布が必要で、この服を着るといつそうきれいだとわかります。それはみんなが「ああ、きれい」と言うからです。みんなとてもうらやましがりますが、別の服を着ると誰も相手にしないのです。それでこのきれいな服を着たほうがいいということがわかるのです。これを着るとみな「私」に注目します。ああ、「私」一人が「私」に注目するだけでは足りず、他の人に注目されたいのです。

「その人」が誰なのかはわかった後は、この幻想はますますひどくなり、私たちの思想、注意力はますます強固なものになります。まるでカメラで壮大な景色を撮影し、それを小さな写真の中に収めたかのようです。それから、私たちは、「私はこの人だ。私はいたずらっ子だ。私

はとても慈悲深い。私はとても博愛心がある」と認めていくのです。すべてでたらめです。実際、すべて「私」なのです。わかりますか。私たちは一人の人間にすぎないということはあり得ません。私たちは電球と同じように、電流を受け取ることができません。他の電球と同じでないはずはありません。その電球が大きいとか小さいとかにかかわらず、みな同じ電力です。ですから、あなたが内面で理解し、知り、感じたものは、私が内面で理解し、知り、感じたものと全く同じものなのです。もし、内面にこの「本人」がなければ、理解したり、存在したりする人はいません。自分自身の存在を感じる人はいません。

私たちが理解し、知った、この「本人」が去った後、私たちの肉体は用がなくなるのです。そこに横たわり、「死にます」。私たちは死ぬと発電所に戻ります。それは、外面の電球が壊れたにすぎず、私たちの内面の電気が消えてなくなったのではありません。他の電球に取り換えると電気はまた戻ってきます。ですから、ごらんなさい。喜、怒、哀、楽の感覚を取り除くと、私たちはいったい誰なのでしょう。私たちは喜、怒、哀、楽の感情ですか。海と同じで、風がなかったらどうやって波が起ころるのでしょうか。この波も海の一部ですが、海そのものから発生したのではなく、風によってできたのです。縁によって生じたのです。

私たちの「本人」は存在と、知識と、観察能力です。それで私たちは他のことを観察できるのです。私たちが観察をしている時、私たちは主人ではないのでしょうか。例えば、今私があ

なたを観察します。すると、あなたはそこで鼻をほじっていたり（笑い）、かゆいところを掻いたり、本を読んだりしています。これは「私」が見たのです。そうでしょう。「私」には見る能力があり、「私」には観察する能力があるからです。私たちの体、感覚、頭脳も同様に、やはり観察されているだけです。それで、「私」の体、「私」の手、「私」の目と言うのですが、それは「私」ではなくて「私の」なのです。この「私の」は「私」ではなく、ただ「私の」財産、「私の」所有するものにすぎないということをはっきりと覚えておくべきです。

この「私」とは誰でしょう。それは他の人です。その人は単に観察するだけです。その人は私たちが今美しいものが好きなのを観察します。今、顔に赤や緑色を塗って化粧しているのを観察します。今日、この体が別の服を着るのを観察します。今日はこの体は気分が良くない、風邪をひいたと観察します。今日はこの頭脳の反応はわりと怒りっぽいとか、わりと穏やかであるとか観察します。それは外の環境によって影響されるからです。海と同じで、風があつて地球の引力があるからこそ、波があるのです。わかりますか。海は波ではありませんが、海がなければ波ありません。同様に、私たちはこのような感覚ではありませんが、私たちがいないければこのような感覚もないのです。あなたが生まれて来る前は、喜、怒、哀、楽はどこから生じるのでしょうか。また、あなたが一人にいる時は、自分の存在を感じることはほとんどありません。そうでしょう。それまでは全く感じませんが、誰か他の人が来た時以外、何か起こつ

て初めて、突然「私」がいることを感じ、応答し、反応するのです。

そうでなければ、私たちは朝起きてまだ目が覚めていないと、飲んでも何を飲んでいるかわからないし、食べても何を食べているのかわかりません。時には感覚もなく、一個人の存在もありません。そうでしょう。ただ感覚と、知識と、動作があるにすぎません。このように、この知識は動作を指図し、ある時は自動操縦のように動きます。そして他の人が来て、何事かが起こり、何らかの状況が生じて初めて私たちは知るので。「ああ、私がいる。彼がいる。衝突した。私たちは存在している」と。ですから、私たち個人は全く存在せず、私たちはこの個人ではなく、その「知識」なのです。つまり、私たちの存在を知り、他人の存在を知ることです。私たちはただこの体が存在しているにすぎないと思っているので、それで私たちは万物と隔てられてしまったのです。そうでなければ、私たちは本当に至る所に存在するのです。私たちは本当にみな同じで、同じ電線にすぎません。電球は違って、電線と中の電流は同じです。たとえある電球は大きく、ある電球は小さくても、同じでないとは言えません。

私のテントの中には電線が一本あって、それを多くのことに使っています。ラジオや、電話や、夜読書をするためのライトや、もっと明るいライト用に使っています。それらは二〇ワットと、一〇〇ワットと、七ワットですが、みな同じ電源です。どこで使うかによってその場所に差し込みます。その電源は電話や、小さいライトや、大きいライトの中に存在しています。

しかもみな同じです。もし、この小さいライトが大きいライトに、「あなたと私の中身は同じではありません」と言ったとしたら、これは本当におかしなことです。もちろん、その外面の明るさは違いますが、中で使用しているものは同じでないはずはありません。違うのは外側だけです。

同様に、私たち人間も万物衆生と外側の殻が違うだけなのです。内側はよく似ています。ですから、自分の外側の殻に執着して、そして「私はあなたと違います」と言っただけではありません。このことがわからなければ、みなさんは非常に無明です。最大の罪は、自分が誰かわからないことです。人から隔てることで、多くの苦痛を作り出しているのです。こうして輪廻や因果を作り出すのです。それは、私たちが自分の行いや、知っている事に執着しているからです。「私は博士だ」「私は成功してどうのこうの」「私はこんなにたくさんのかんじょうをしたが、彼らにはできない」など。このために人々は互いに衝突し、ビジネスで競い、そして復讐するのです。これはみな「彼」は「私」と同じだということがわからないからです。(拍手) そういうわけで、みなさんに教えるのは大変疲れます。こんなに簡単なのにまだわからないのです。そして、誰がマスターで誰が弟子だ、誰がこうで誰があだとか何かに執着するのです。いいでしょう。みなさんは執着しても構いません。けれども、今日私が言ったことは忘れないでください。

みなさんは自分の電球が隣の電球より美しいということに執着しています。いいです、これ

も事実です。確かにある電球は他の電球よりきれいです。あるものはより大きく、あるものは小さく、それは間違いありません。自分の外側の殻に対して喜んでいいでしょう。けれども、私たちは一体であることを忘れないようにしてください。私たちは同じ電力を使い、同じものなのです。私たちは同じものから生まれたのです。それがなければ私たちもいません。これだけは忘れないようにしてください。そうしたら、みなさんは歌を歌っても、踊りを踊っても、恋愛しても、碁を打つても、学校へ行つても、ピアノを弾いても、詩を書いて、絵を描いてもいいのです。絵を描かなくても、詩を書かなくてもいいし、詩を朗読しても、それを破つてもいいのです。(笑い) それを細かく破つてしまつても。何をしてもいいのです。ただ忘れてならないことは、私たちは本当に一体だということです。

私たちは本当に何の違ひもありません。あなたがこのことを忘れたら、多くの問題が発生し、多くの悩みが起き、多くの苦しみが生まれます。自分に影響を与えるだけでなく、他人にも及びます。悟りを開いた人にまで、苦痛を与えてしまうのです。私たちは彼にくつついて煩わせ、もらう権利のないものを求め、ここに来て聞くべきでない無意味な問題を彼と討論するのです。まるで普段みなさんが手紙に書いてくるように私に聞くのです。「私の主人が菜食をしないのです。どうしたらいいでしょう」と。菜食をしないならほっておけばいいのです。菜食をしないのは個人の問題です。あなたが菜食をしたければすればいいのです。なぜこんなことで思い

煩うのですか。トラは菜食をしないのにどうしようというのですか。ご主人もトラの仲間と思えばいいでしょう。(笑い) 宇宙ではたくさんさんの生き物が肉を食べていますが、私たちはどうすればいいのでしょうか。ご主人の外見は他の生き物とは違っても、行動が同じなら、その中の一つだと思えばいいのです。そうすれば何の悩みもありません。みなさんは家でネコを飼っても菜食をしませんし、肉を食べ、ネズミも捕まえます。私たちに何ができるでしょう。ただ相手にしなければいいのです。

目に強い刺激のある電球もあれば、柔らかな電球もあります。まぶしければ見なければいいのです。別の電球を買えばいいのです。別の物が好きだったら、別の物を使えばいいでしょう。固定されていて交換できないなら、そちらを見なければいいのです。これはみなさん自身の問題です。なぜそんなにまぶしい電球を買うのですか。(拍手) 買う前によく見て、自分はどれが好きかをはつきりすべきです。これはみなさんのでたらめな性質のせいです。まるで主婦が市場に買い物に行ったように、見たものは何でも買ってしまい、ご主人を悩ませることになります。給料は奥さんに全部使われて、時にはまだ給料を貰っていないのに、もう全部使ってしまうのです。家には物を置くために部屋をもう一つ造らなければなりません。そしてたくさんのお物を買って来ても使わないので、場合によっては毎日洗ったり拭いたりしなければなりません。さびが出るからです。たとえ一年に一回しか使わなくても拭かなければなりません。たまたま

一回だけ使って、それつきりでしまっけてしまいます。そこを「倉庫」だと言いますが、「汚物庫」と言った方が正しいでしょう。とても汚く、使い道がなく、まるでゴミと同じだからです。

同様に、時々みなさんは間違った友だちや間違ったパートナーを選びます。これはみなさんがバーゲンに行つてでたらめな買い物をするのと同じです。自分のせいであつて、物のせいにしてはいけません。あなたがいい加減に買うのは、あなたの過ちです。その物が買うか買わないかとは聞きません。その物がいい出したのではなく、みなさんが自分で間違つて選んだのですから、それに耐えなければなりません。私も同じような問題を抱えています。どんな人でも出家したければ、みな簡単に受け入れました。それは、私が出家したのはとても単純で、純粋な目的だったので、人が出家するのも同じ理想のためだと思つたからです。それでみな受け入れました。みな歓迎しました。ああ、その結果、煩わしいことが多く、今は毎日自分を責めるしかありません。けれども、どうせ万物は一体なのですから、もうそのままいいです。従つて、みなさんはどうして、私が時々神をしかるのかわかりましたね。神はあまりにも愚かなのです。時々神は本当に愚かです。ごらんなさい。あの最も愚かな人の内面にも神がいるのです。(笑い) そうです。あの小さい電球も、大きい電球もみな同じ電源です。これは電球の過ちではありません。これは内面の問題です。人間を造り出したその人の問題です。ですから、どうしてこんなに小さいのかと、その電球を責めてはいけません。そしてそれを壊してはいけません

ん。電球に過ちはありません。それは電球を作り出した人の過ちです。こういうことです。ですから、とても悩むのです。みなさんは知っていますか。私は神のことを思うと悩みます。私は本当に神をしっかりとすることもありません。けれども、神をしかる必要はないのです。わかりますか。

私たちは今どんな能力を求めているか知っていますか。「知っている」という能力を求めているのです。この「知っている」能力よりもっと高い能力があります。その能力とは「知らない」という能力です。ですから「大智慧のある人はまるで愚か者のようだ」と言われているのです。この二つの両極端のものは、見た目にはあまり大差ないように思えます。一つはとても明るい光で、その光がとても強くと、まるで仏陀の光のように私たちの目には見えません。暗い所でも私たちには光は見えません。ある時、みなさんがとても暗い部屋の中に座っていて、明るい光が見えても他の人には見えません。それは、私たちは彼らとは違う道具を使って見ているからです。とても小さい星を見る時に望遠鏡でしか見えないのと同じです。他の人は望遠鏡がないのでその星は見えません。その星が存在していないのではなく、ただその星がとても小さいだけです。私たちの光もそうです。それは非常に明るいので、私たちは肉眼で見ることができません。決して光がないわけではありません。ですから、時々暗い部屋の中で、部屋全体がとても明るい光に包まれているのを見ることがあります。けれども、他の人には見えません。たと

えご主人が側に座っていても見えないのです。ただ私たちだけに見えるのです。というわけですから、みなさんわかりましたね。二つの両極端は同じなのです。

最高の能力はまさに「知らない」という能力です。最も無明なことを「わからない」と私たちは言います。この二つは見た目にはあまり違いはありません。それで仏陀は「中道を修行せよ」と言うのです。苦しい時、思うようにならない時、私たちは何を求めるのでしょうか。私たちが求めるのは中立の能力で、それは私たちにとって最高のものです。なぜなら、私たちは他の「無明」や「知らない」という神を求めることはできないからです。「知らない」ということは、決して「無明」ではありません。それは、ちょうど私たちが一人にいる時には、あまり自分の存在を感じないようなものです。私たちが何かにぶつかって痛いと感じる時以外は、他の人が私たちをしかつたり、何かに衝突して初めて感じるのです。そうでなければ、比較するものがないので、私たちは何も知ることはありません。ちょうど男女の違いを感じていない時に、男性が現れて知るように、「あれ、違いますね」と、初めてわかるのです。

私たちが「知りたい」と思い始めた時に、その「知らない」という能力が少し動き始め、私たちは存在し始めるのです。私たちが眠っている時のように、私たちも元の状態「知らない」という所へ帰ります。ですから、私たちは何も知らないのです。私たちは夢を見ている時以外は造物主になり、何でもでたらめな物を造り出します。自分も含めてです。そうでしょう。本

当です。目が覚めると涙ぐんでいる時もあります。または、恐怖の感覚がまだはっきりと残っている時もあります。私たちの世界とよく似ています。この世界も同様に夢なのです。ですから、時には、莊子が夢を見て蝶になったのか、蝶が夢を見たのか、あなたはわからなくなるのです。時には、私が夢でみなさんを見たのか、あるいは……。そうです。私がみなさんを見ていても、みなさんを見ていないのと同じようなものです。とても不思議です。感覚が現実的ではないのです。無理に注意力をみなさんの方に集中して、無理やりそれを現実のことだと思わないと、時には私は寝ていて夢を見ているのか、夢の中で寝ているのかわからなくなります。

みなさんもたまにはこんな感覚があるでしょう。この世の中を見て、「あら、どうしてこうなのでしょう」と。夢を見ているようにぼんやりとして、ああいう強烈で確固とした感覚がないのです。そうでしょう。それは本当の物質が存在していないからです。私たちは仮に一時的で物質的な外側の殻を使って実験をしているにすぎません。潜水服を着て海の中に飛び込み、探険するようなもので、この外側の殻は私たちではありません。同様に、仕事をする時私たちは服を着て、さらにもう一枚仕事着を着ます。そうすれば、その仕事着はとも汚れますが、後でそれを脱げばいいのです。中はとてもきれいです。というのは、服は私たちの体ではないからです。さあ、私たちが一体であることがわかりましたね。(拍手)

わかったら、もう夫妻げんかはしないでください。私を煩わせしないでください。しなさいと

言われた事をすれば、生活は簡素になります。ですから、昔の人は「誰かに服従しなさい。それは最もいいことで、最も快適な生活である。悩みが生じるから意見はいらぬ」と言いました。それは何をしてもこんな具合だし、どうせ一体なのですから、しなさいと言われた事をすればいいのです。こういうことに慣れたら、私たちにはますます「自分」の意見がなくなり、ますます「自分」という存在の感覚がなくなり、エゴが消失します。そして、もつともつと理解し合い、私たちは再び一体になっていくのです。

インドではマスターに従うことをとても強調しています。さもなければ、ご主人や、お父さんや、お母さんなどに従います。本当にその人に従いさえすればいいのです。けれども、これは方法の一つにすぎず、最もいいのはマスターに指導してもらうことです。そうすれば、私たちは悟りを開くことができ、より深く理解できるのです。盲目的に服従するのはいい方法ではありません。けれども、ある人がとても献身的にマスターに服従して、しかもとても敬愛したなら、この人はとても平和な感覚を持って、エゴも少なくなります。

エゴとはどんな意味でしょう。それは感覚の奥深くに「私」が存在しているということです。「私」はこれが欲しい、「私」はあれがしたいというような。これは本当に煩わしいことです。もし、この「私」がなければ、多くの苦しみは空気や風のように漂って行ってしまい、だんだん少なくなります。ですから、最も良い方法は死ぬのを待つことです。(笑い) そうです。す

ることがないのですから。そこに横たわり、死ぬのを待てばいいのです。みな同じ電源から来ているのに、私たちにはそれを変える方法がないというなら、修行して何をするのでしょうか。

まだ修行をしたいですか。どうしてですか。（ある人が答える…修行しないと理解することができません）まあ、修行しないと理解できないのですか。変です。故意に修行したり、故意に悟りを開こうとするのも良くありません。命を懸けて悟りを開こうとしないのも良くありません。中道を修行するのが最も良いことです。自然にすることが良いのです。例えば、私たちはトイレに行かないわけにはいきません。もし、みなさんが何かをする時、トイレに行くように自然であれば、この世界には苦しみが少なくなり、自分も苦しみが少なくなります。

みなさんは、「マスター、それならあなたはどのようにして苦しんでいるのですか」と聞くでしょう。それはみなさんが苦しんでいるからです。みなさんが私の所に持って来たのです。そうでなければ、なぜ私は苦しむのでしょうか。例えば、ここには出家の弟子がたくさんいますが、本当に必要な時には誰もいません。いつもそうです。毎日弟子たちはすることがないと、私を時間つぶしの実験台にします。私のテントは拭きやすいと言ったり、私の物はきれいだと言ったり、マスターの所には加持力があると云ったりして、みなやって来ては押し合いです。弟子たちにはすることがないからです。あちこち駆け回ってもつまらないので、たまたまテントがあるから拭けるのです。私は彼女に拭かなくてもいいと言っても、一生懸命に拭きたがります。

私が休んでいる時や、誰も来て欲しくない時でも、やはり誰かが来て拭きたがるのです。けれども、私が疲れていて、誰かに拭いて欲しいと頼みたい時には誰も来ません。本当にとっても煩わしいです。ですから、私は自分で洗って、自分で拭きます。それで悩みはなくなります。

私は陽明山にいる時は、毎日自分でご飯を炊き、自分で洗濯をし、自分で床を拭きます。ええ、とても楽しいですよ。(笑い) みなさんは、お手伝いさんやたくさんの人が手伝ってくれたらいいと思っているでしょう。何て愚かなんでしょう。悩みはそこからやって来るのです。そうです。あなたは彼と一体でも、彼はあなたと一体ではないのです。どうしようもありません。(笑い) もし一人ひとりがそのことをわかっていて、とても自然に自在に生活していれば悩みはありません。わかりますか。あなたが悟りを開いた後でも、世界はあなたに悩みを与えないではありません。もつと多いのです。それで警察は犯人を捕まえるのです。警察は法律を知っていますが、犯人、強盗たちは理解しようとしません。それで煩わしいことが起こるのです。もし、強盗がみなこのことを理解すれば、警察は捕まえなくてもいいのです。悩むこともありません。これは本当に法律に違反した人を指しているものであって、間違ったという人を指しているわけではありません。ある人たちは状況に迫られたことで、この人たちは同じではありません。犯人が全部悪いとは限りません。ある人は私たちよりもいくらか分別があつて聡明です。不幸なことに、ある時ある特別な状況や環境に影響されて罪を犯したのです。

もし、私たちがある事に執着して、私はこうする、ああする、これが欲しい、あれが欲しい、あれが好き、あれが嫌いだと思えば、遅かれ早かれまた輪廻をしなければなりません。それは、私たちが万物は一体であることを忘れたからです。誰一人として自分自身の意志で何かをすることはできません。実際そうです。みな一緒に連合しているのです。ちやうど劇場のように、演劇の脚本があつて、一人ひとり違う役があつて、演出家があります。ある所では、同じ人が幾つかの役を演じることもあります。とても面白いですね。そして、その人はこの役が、その役に「あなたは誰？」と聞くのです。(笑い) 「あなたはなぜこんなふう演じるのですか。ちよつと変えることはできませんか」と聞くのです。私たちの振る舞いもこのようにとても面白いのです。ある時、ドラマを見ていて、ある人がとても凶悪に演じているだけに、私たちはその役の人を憎んで、「ああ、殺せ、たたけ。引つ張つてきて首を斬つてしまえ」と言います。その人はドラマを演じているだけなので、どうしようもありません。わかりますか。演出家がそういうふう演じるように言ったので、彼はそのように演じないとドラマになりませんし、他の役も浮かびあがつてきません。一方がとても凶悪で、一方は英雄だと、私たちはそれを比較することができ、英雄の性質を楽しむことができます。そうでしょう。もし、その英雄が人々のために悪人を排除しに行かなかつたら、私たちはどうやってその人が英雄だとわかるのでしょうか。もし、世界に何も起こらず、英雄がずっと横になつて寝ていたら、その人が英雄である

ということがわかりますか。(笑い) ですから、すべてが演技なのです。この人はあの人を助け、あの人はこの人を助けます。私もまたこの役を演じているのです。みなさんを助けるのに忙しく、みなさんはますます英雄になり、私は悪者になります。みなさんをしかったり、あれこれ言ったりします。そうしたら、みなさんはますます明るくなります。誰もがみなさんは「とても忍耐がある。とても謙虚だ。マスターに対してとても忠誠心がある。テストにパスした。きつとすぐに仏陀になるだろう」ということを知るので、ますます輝いてきます。とてもいいですね。それは比較するものがあるからです。

同様に、もし神や造物主の力や智慧が並で、何も創造しなければ、誰も神を理解することはありません。ですから、神は創造しなければなりません。これも自然の反応にすぎません。神は慈悲や博愛があるとたたえなくてもいいのです。自然にこうするのですから。リンゴの木にリンゴが実り、オレンジの木にはオレンジが実るのと同じことです。これは一種の自然現象で、木がそうしないわけにはいきません。その大智慧、または神も同じなのです。神が休みたいと思えば停止させ、やめてしまい、何もなくなります。ですから、道徳経の第一章ではこう言っています。「道可道、非常道；名可名、非常名。(道であると言葉で表現できる道は永遠の道ではない。名として言葉で表現できる名は永遠の名ではない)」。そしてその後の句は、「無名、天地之始、有名、満物之母。(名が無いのは天地の始まりであり、名が有るのは万物の母である)」

と言っています。「名が有る」とはどんな意味でしょう。神は「名」づけ始め、考え始め、自分の存在を理解し始めました。その時、万物が生まれ始めました。ですから、「名が有るのは万物の母」と言うのです。私たちはその「名が有る」から出てきたのです。私たちが「名」づけ始めた時、私たちは存在し、私たちがいるのです。どんな世界もみな存在します。ですから、私たちが眠っている時には世界は存在しません。それは、その存在に気づいていないからです。私たちが死んだ時は、世界もどうでもいいではありませんか。本当です。老子はよくわかっていますね。

本来、体験は話すべきではありません。けれども……（拍手） ちょうどこのことを話しているので、みなさんをちよつと目覚めさせたいのです。私は自分の体験により保証します。私は本当に万物は一体だということを体験しました。毎日こういう体験をしなくてもいいです。時々、みなさんはわいわいと騒ぎ、私の邪魔をするので忘れてしまいますが、私は万物が一体であることを体験しました。私は本当に蝶の中に、ネズミの中に、ネコの中に、自分の中に、あなたの中に、彼の中にあることを知ったのです。全部私です。（拍手） 誰かが私に、「私たちは一体ではありません」と言ったとしても、私は信じようがありません。わかりますか。自分自身で体験すべきです。そうすればはつきりとわかります。けれどももちろん、この世界にいる時、私はこんなつまらない職業をしていますので、人々の求めに応じざるを得ませんが、私が「道」

を知っている、このことは私自身の財産です。私はみなさんに物をあげることはできませんが、「それ」はあげられません。たとえ私が毎日、「万物は一体である。あなたは私と同じだ」と唱えたとしても、あなたは信じないでしょう。ですから、私はみなさんの要求する仕事をしなければならぬのです。私が自分で望んだのでもなく、私が理解していないのでもありません。わかりますか。

みなさんは、先生は何でも知っていると思っていますが、子どもに初歩のABCだけを教えるだけではなく、アルファベットを書いたり、子どもと一緒にABC、How are you? など暗誦したり、生徒が読み間違えたりした時、訂正したりしなければなりません。そうでしょう。間違いを見つけたいわけではなく、先生だから注意しなければなりません。自分は何でも知っているのに、どうして子どもたちはまだわからないのだろうと言うわけにもいきません。そうではありません。このようにすぐ訂正した方が子どもたちのためなのです。子どもが言い間違えたとか、正しいとかは言えないのです。それはあなたと関係ありません。あなたは正確に発音していますが、生徒が間違って発音しているのです。それで子どもたちはあなたのところに来て学んでいるのです。そこで、あなたは言わざるを得ません。もし、子どもたちがあなたの生徒でなければ取り合わなくてもいいのです。ですから、私たちがこの世界にいるうちは、やはりそれぞれの面で対応しなければなりません。けれども、忘れてならないのは、本当

に万物は一体であるということですが。もし、みなさんが私の言うことが信じられないなら、もっと多くメデイテーションをして、もっと誠実に祈らなければいけません。そうすれば、ある日みなさんもこのことを体験することができます。その時は信じないわけにはいかないのです。たとえ反対に、私が「万物は一体ではない」と言っても、私と口論するでしょう。その時はとても強く、私を殴る勇氣もあり、「マスターはでたらめを言っている」と言うでしょう。その時、私は喜んで殴られましょう。それはみなさんが完全に悟りを開いたことを表しているからです。けれども、私たちが「万物は一体である」ことがわかった時は、それはまだそれほど高い境界（きょうがい）ではありません。最も高いのは、私たちが「名が有る」という所に達した時です。そして、「名が有る」である前は、まだ「名が無い」であっても構いません。どうせ神はこのように「無明」ですから誰も気にしません。（笑い） 私たちが「名が有る」になっても面白いのです。けれども、私たちが疲れた時に、その「名が無い」所へ行って休むのも良いことです。ちやうど、私たちが時々友だちとパーティーをして、たくさんの人と付き合って遊ぶのもとても面白いのですが、ある時は遊び疲れたと感じ、とても疲れたので家に帰りたくなり、一人で自分のベッドの上で寝たくなるように、全く誰のそばにもいたくないと思ひ、自分の存在さえ感じたくないと思うのです。その時はぐっすり眠って、眠りも深く、しかもとても心地よいのです。

私たち修行者はこの世ですでに疲れてしまつて、もう遊びたくない、もうつまらないから帰つて休もうと思つています。これでこそ修行と言へるのです。これでこそ真の求道者なのです。ですから、私たちはどんな方法を使つても、人をだまして修行に來させることはできません。そして自分は大したものだと思つてはいけません。その人自身が疲労を感じ、休みたいと思つたその時に、その人自身が電源とつながるためにやつて來ます。そうでないと、どうしようもありません。ですから、人に求めることは、自分に求めることには及びません。みなさん自身に命を救う能力があり、一人ひとりみな同じです。私は、みなさんにそれをどう使うかを教えるだけで、何でもみなさんを救つたりしてはいけません。時々私たちは、誰かを引つ張つて來て印心させなければならぬと思ひ、そして何人連れて來たら、どのくらい良い事があるかと考へたりします。まるでサーカスに行くみたいに。(笑い) こんなことをしてはいけません。本人が誠心誠意に來る時だけ、その時こそ良い事があるのです。その人自身が疲れてもう耐えられなくなつたら、自分で這つて來ても懇願するでしょう。(拍手) みなさんは「人に求めることは自分に求めることには及ばない」ということを知りませんか。本当に自分で自分に求めなければならぬのです。

みなさんが真理の道を求める時は、自分自身が求めているのです。というのは、私たちが本來「道」を知つていて、「名が有る」のあの智慧を知っているからです。私たちが求める時、私

たちの智慧が知っているのです。「ああ、疲れた。もう遊びたくない」と。この智慧は私たち本人が知っているのです。それで、私たちが求めるのは自分自身に求めているのです。なぜなら、私はあなた自身だからです。あなたが私に求めるのは、あなた自身に求めているのです。私とあなたは何も違うところはありません。たぶんあなたはとても疲れきっていて、どこで自分の智慧を使っているかわからないのです。それで、私がこうすればいいと教えればすぐわかるのです。自分自身に求めなければなりません。そうすれば自分で自分を加護できます。そうです。私たち自身には大智慧があり、内面のマスターがいます。私たちは万物の母なのです。自分に求めないで、誰に祈求するのですか。マスターは幻想の枠にすぎません。私もみなさんと同じです。ですから、あなたが求める時、私はわかるのです。そうでないと、私はどうやってわかるのでしょうか。もし、私がある人と一体でなければ、あなたが何を思っているかがどうしてわかるのでしょうか。あなたがアメリカで祈求したとして、私がフォルモサにいたら、どうやってわかるのですか。これは、私たちが本当に一体であることを証明しています。(拍手)

体の証明はこんなに明らかなのに、みなさんがあまりよく理解できないのは、自分自身がいまだに多くのことに執着しているからです。「私がそんなに素晴らしいはずがない。どうして私がああ全能のパワーであるのか。私にどうして仏性があるのか。私……私は殺人者だ。私は泥棒だ。私は以前人をだました。妻が五、六人いた」と。五、六人いても構いません。みな一体

ですから。状況によるのです。わかりますか。それは前のことで、今はもう悪いことだとわかったのです。私たちは小さい頃は、あちこちに排泄してめちやくちやにしました。お母さんがおまるに座りなさいと言うのに、自分勝手にベッドの上に座ったり、またある時はおいをかいでみたりしました。(笑い) あれは、子どもの頃のことです。小さい頃のことを気にしないでどうするのですか。私たちは今大きくなりました。もう間違いをしません。それでいいでしょう。そうでしょう。お金をあげるから、小さい頃のまねをしなさいと言ってもしたくないでしょう。また、そう言うこともないでしょう。ですから、みなさんが「私」はこれをした、あれをしたと執着していると、それは自分の悩みを招くばかりで、自分にもともとある大智慧や、救世の能力を忘れてしまうのです。わかりますか。ここが違うだけなのです。

みなさんが完全に「私」の存在、「私」がこれをした、あれをしたということをおぼれたその時に、自分が誰なのかわかるのです。その時に悩みや苦しみは全部なくなります。ですから、メ Dieter ションをたくさんすれば、この「私」を洗い落とすことができます。そういった過去の記録を洗い落とします。観音でそれを洗い、それをかき消し、そしてだんだん私たちは忘れていくのです。ということ、みなさんは昨日何をしたか忘れてしまうことはありませんか。(答える…あります) 話し終えると忘れてしまいます。私もそうです。ですから、みなさんご存じのように、私は原稿を書かずにあんなにたくさん講演をしましたが、少し経ってか

ら、「何の講義をしたのですか」と聞かれても、もう全部忘れてしまっています。全部きれいに忘れてしまいました。ある時私が講演の記録を読むと、見ながら自分で笑ってしまいます。「わあ、こんな素晴らしいことを言っている。ああ、良い講義をしていること」。(拍手) 本当です。私がビデオをチェックする時も同じで、何か間違いがあるといけないと思い、ある時は朝の二時、三時まで見ます。見終わってからでないと安心して休むことができません。みなさんがニュースマガジンやビデオを待っているのです、私は急がなければなりません。たまたまとても面白い物語だと、私自身も夢中になって見ているのです。(笑い) まるで誰かが話した物語や評論を聞いているようで、自分が話したことはすっかり忘れてしまっているのです。

ですから、私たちが修行しているこの観音法門は、本当に効果があります。忘れるべきものはみな忘れてしまいます。(笑い。拍手) 忘れるべきでないものも忘れます。(笑い) けれども、実際に忘れてはならないものなど何もありません。そうでしょう。みな幻想で、みな夢です。私も幻想の一つで、偽装してみなさんに見せているのです。みなさんにチャンネルを合わせ、聞こえるためにこうしているのです。そうでなければ、この体はマスターではありません。この人はマスターではないのです。マスターはあなたの内面に、いわゆる「私」の内面にもいるのです。私たちは本当に一体です。

ですから、本当に求道心がある人はとてもまれで貴重です。そういった人たちのそばにいる

と、とても心地よく感じます。それは、その人自身がこの世の中にとっても疲れ果てているからで、そういう人は少し聞くとすぐわかり、少し話すとすぐ参加します。そうでない限り、私たちは何かの策略を使ったり、美人や美男子を使ってもくろみ、人を捕まえるべきではありません。いけません。みなさんはこんなふうになんか人を捕まえるのはいいことだと思っただけではありません。そうではありません。ですから、こう言うのです。「『真心を込めて』スプリームマスターに祈求すると、役に立つのです」と。必ず「真心を込めて」を上につけなくてはなりません。時々、自分で真心を込めたかどうか分からないこともあります。けれども、それでも効果はあるでしょう。実際とても誠実です。そうです。例えば、ある時金持ちがダイヤモンドを貧乏人に与えたとしても、貧乏人にはそれが何かかわからないので、子どもが遊ぶビー玉だと思うのです。ですから、誠実さは外面ではありません。内面のことです。けれども、時々外面にも表れてくるのです。

人が木像を拝んでいるのをごらん下さい。見てもわかるように、とても誠心誠意です。その木像を仏陀と思っています。それでも大丈夫です。自分で自分の内面と話しているからです。けれどもその人は知りません。自分の内面を仏像の肩に掛けて、そして拝んでいるのです。「南無自身のスプリームマスター」(笑い) 「南無自分自身の釈迦牟尼仏」、自分自身のです。もし、私たちが誠実でないなら、私たち「本人」は世界に対してまだ疲労を感じていないという

ことです。ですから、私たち「本人」は自分のあの本来あつた所を探し出そうとしないのです。みな「本人」が主張すべきことで、頭脳が決めることではありません。頭脳はでたらめに面白い騒いだり、美しい言葉をたくさん話したり、多くの求道の文章を述べたりしますが、けれども、もし「本人」がまだ行きたくないなら、コントロールすることはできません。車ではなく運転手が重要なのです。車がいかに良くても、もし運転手が車にガソリンを入れなかつたら車は動かないでしょう。車は運転手をコントロールすることはできませんし、あつちへ行け、こつちへ来いと叫ぶことはできません。たとえ運転手が誰かと恋をしたとしても、その車はそのことを知っているかもしれないませんが、「今日必ず恋人に会いに行かなければなりません」とは言えないのです。運転手が行きたくなければ行けません。けんかをするかもしれない。でも車にはどうすることもできないのです。わかりましたか。(拍手)



常に涅槃に在る方法

一九九二年十二月十六日 フォルモサ・屏東 三地門における英語講演

まだ何も始まっていない時、宇宙パワーにまだ何の活動も見られない時のことです。それはやがて動き出し、万物が創造され出すと、振動力を持ち光を放つようになりました。私たちはそこから生まれたのです。光と音から生まれたのです。私たちが創造されたのはその瞬間です。けれども、そこを超えると絶対的な「空」です。ですから、私たちがその「至上」の存在に祈っても、神には何も聞こえません。私たちは光と音を通して、マスターを通して祈らなければならぬのです。マスターは二つの次元の中間に存在しています。また、マスターは「至上」のものとも共に存在しています。けれども、マスターは中間にも、またそれより下にも存在していません。それで、私たちが「至上」の状態に案内できるのです。わかりますか。(拍手)

修行の初期の頃、私はあらゆる体験をしました。あまりにも多すぎて、あえて話すこともないくらいです。わかりますか。そして、今はもう何の体験もありません。みなさんが私を体験

するのです。わかりますか。私はすべての人の体験になったのです。それは「私」ではありません。もはや、体験をする「私」は存在しません。(マスター笑う) (あなたは媒介者です) いえ、私は媒介者ですらありません。もはや何者でもありません。無知になってしまったのです。(マスター笑う) たぶん、それで「聖人、賢者は愚者のように見える」と言われるのです。そうですね。みなさんは私がいればこれと助けていると言います。けれども、私には少しもわかりません。私の言っていることがわかりますか。

私たちは「至上」の存在です。宇宙の偉大な存在です。けれども、私たちの注意力はあちこちの片隅に執着しているので、本源に戻れないのです。そういうわけで、多くの人々は心を穏やかにしてサマデーに入るのが非常に困難なのです。とても知的で、人生や仕事でたくさん成功を収め、社会での地位がとて高い人は困難です。たぶん、彼らはとても一生懸命なのですが、頭脳だけで処理しようとするので、まだその頭脳を超えることもできません。彼らは、「私は誠実である」と思っています。それは単に頭脳が思っているにすぎません。それが魔のトリックです。わかりますか。(答える：はい) そうです。

頭脳はみなさんにお寺でひざまずき、あれやこれや拝むようにと言いますが、それは真の仏性や、真の全能のパワーの安っぽい代用品にすぎません。それで頭脳は満足してしまい、「ああ、私は仏陀を拝んでいる。私は忙しい。私はお寺を建てている。私は徳を積む修行をしている」

と思うのです。これらすべてが魔の、頭脳のトリックです。みなさんを忙しくさせ、頭脳だけを満足させてしまうので、みなさんはそれを超えて進むことはありません。頭脳を超えてしまふと、どんな種類の満足もありません。何も感じないので。満足というものがあることさえわからないような、完全な満足状態です。

考えたり、比較したりする時だけ、みなさんは肯定と否定、善と悪といった二つの世界にいるのです。それで、みなさんは満足しているか、いないかを感じます。もし、みなさんが満足と一体になつていたら、自分が満足していると感じますか。いいえ、感じません。目は目そのものを見ることのできないのです。太陽は自分が熱いか、輝いているかを知ることではできません。それは太陽の品性だからです。ですから、「至上」の神の品性は「至上」です。（拍手）「至上」とは比較がないことです。「至上」が良いとか、「至上」が無上であるとさえ言えません。そうです。みなさんが「至上」と言う時は、すでに関連づけ、比較しているのです。けれども、人間の言葉では無意味なことしか話せません。いつも、いろいろなことについてベラベラおしゃべりしなければなりません。比較したり、評価したり、確認したり、何もかも名前をつけたりしなければなりません。けれども、「至上」の神なら、それが真に「至上」なら、言葉で表すことさえできません。みなさんは語ることも、思い出すことも、想像することさえできません。何もないからです。わかりますか。

これは私自身の体験です。さあ、これでもうみなさんが私のことを在世の仏陀（完全に悟った存在）だと言っても、私がなぜ誇りに思わないかわかったでしょう。私がスプリームマスターの称号を受け入れた時、人々が私のことをうぬぼれているとか、エゴの塊だと言っても、全く気になりませんでした。私にとっては何でもありません。こういったことすべてを超越していただきます。（拍手）このような名称は単なるゴミにすぎません。けれども、この世界にはこれより他に良い名称がないので、それを受け入れているのです。受け入れようが受け入れまいが、全く何の違いもありません。太陽は、人々が非難しようがたええようが気にすることはできません。あるがままです。わかりますか。自身の偉大さやまぶしさなどを誇りに感じることさえありません。ただ、あるがままなのです。いいですね。（答える：はい）ですから、私たちがたええようが、非難しようが、微動だにしません。何の疑いも持ちませんし、それによって輝きを増したり、減らしたりしません。そうです。私たちがほめても、非難しても、太陽に影響は与えられないのです。

同様に、私たちはマスターを判定したり、たええたりできません。ただ、自分のやり方で、違うレベルの理解力で認識できるだけです。そうして、ゆっくりとマスターと自分が一体であることを理解するのです。私たちとマスターには何の違いもありません。同じ本源の中にいて、同じ本源から生じたのです。同じ宝物を持っています。わかりますか。今はただその宝物を使

う能力が違うのです。後になれば、たぶんもっと上手な使い方がわかるでしょう。いいですね。

それはちやうど大富豪の家に生まれた子どものようです。彼は他の兄弟たちと同等の権利と財産を受け継いでいます。同じ家族で、同じ権利を持ち、同じ宝物があるのですが、今は幼くてわかりません。成長した兄はよくわかっていて、その使い方をよく知っています。そういうことです。いいですか。(答える…はい) いいでしょう。その子ども同士の違い以外の何ものでもないのです。そういうわけで私はわかっていますが、みなさんはまだわからないのです。知っているかもしれませんが、知らないと思っっているのでしょうか。あるいは、本当に謙虚すぎて、自分の偉大さを受け入れられないのかもしれませんが、まあいいでしょう。好きなことをしてください。いいですね。みなさんがそれを受け入れても受け入れなくても、使っても使わなくても、自分の宝物を誇りに思っても気にしなくても、それはみなさんの権利です。いいですね。ですから、私は決して急いで人々に教えを広めたり、全世界の人をこの道に信服させようとしたりしません。それはみな彼らの権利だからです。彼らが心から望んでいるなら、それを見出す方法を発見するでしょうし、そのために全力を尽くそうとするからです。彼らがそれは取るに足らないものだと思うなら、それでもいいのです。それは彼らの宝物です。わかりますね。(答える…はい) どちらでもいいのです。

ですから、たとえみなさんの中の誰かが私に、「私たちはあなたと比べたら、あまりにもレベ

ルが低すぎます」などと言っても、私は「それはあなたの感覚にすぎません」と言います。みなさんは自分をだましているのです。けれども、みなさんが自分をだますゲームに興じているうちは、私には何も言うことがありません。そうです。けれども、みなさんが本当に自分の智慧や偉大さを知りたいと思うなら、内在の声を聞くことです。自分自身の直感の声を聞きなさい。「適切な時に何をすべきか」を聞きなさい。自分の先入観や社会的習慣や判断にだまされたり、曇らされたりしてはいけません。内面に耳を傾けることです。常に内側に向かうよう努め、何が起きていて、何をすべきか知るように努めることです。

というのは、みなさんはわかっているながら、何回も反対のやり方です。それでこう言います。「ああ、こうすればよかった」と。そうですね。(答える…はい) そうです。それは、その時みなさんが内在の本性や真実とつながっていないから起こったのです。どうすべきかを教えてくれる、音なき声とつながっていないからです。

ですから、みなさんが静かになればなるほど、内側へ入って行けば行くほど、ますます賢くなつていきます。何をすべきかを知るからです。それがわからなければ、うまくやることできません。まだ、終わりまでやり遂げなければならぬことがあるのに、失敗に終わってしまいます。そうすると、みなさんは生まれ変わってやり直さなければなりません。それが自分を理解するか、しないかの差です。そういう理由で私たちは輪廻するのです。それで、私たちは

何度となく生まれ変わらなければなりません。何をすべきかということに耳を傾けなかったからです。仕事を終えていないので、それを学びに、あるいは、やり遂げるためにやって来たのです。ですから、そこが輪廻の始まりです。魂は学ぶために輪廻しなければなりません。

みなさんはすべてわかっていると私は思います。あるいは、おそらく私はすべてを理解しているでしょう。みなさんに話をする時、私はとてもはつきりしています。わかりますか。（答える…はい）それに関して議論の余地は全くありません。自然に話が出て来ます。みなさんの理解レベルに応じて出て来るからです。時にはこのようにとてもはつきり話せることもあります。が、話せない時もあります。それはみなさんがそれを受け入れられない時です。みなさんが私の話の流れも阻むので、私も話したくないのです。その時は話せないということではありません。

子どもと同じで、成長したらさまざまな宝石やおいしい食物も与えられますが、幼い時はミルクだけです。ですから、みなさんがリトリートや私に会いに来る時は、ただ座るだけでなく、お菓子やキャンディー、物語や歌などのお楽しみといった、あらゆる種類の楽しいことでもいい用意されています。子どもたちと同じで、母親に会いに来る時はお互いに愛でいっぱいです。そのついでに母親からいい物ももらうのです。こういったことは、ただついでのもので、それがあってもなくても、お互いに愛し合っていることには何ら変わりはありません。それが

真実です。わかりますか。(答える…はい) いいですね。

ですから、体験があらうがなかるうが、みなさんはここ数日は楽しく過ごし、涅槃にいたのです。そこが私たちの目的地です。この思い出を生涯ずっと持ち続けていけば、みなさんはいつも涅槃にいらなくなります。少なくとも死ぬ時には涅槃にいます。最後の瞬間の思いはとも重要です。不幸せなことばかり考えていると、地獄へ行くでしょう。(笑い) そうです。マスターのことや、マスターとともに過ごした幸福や至福を思っていたら、あつという間に涅槃に行くでしょう。それが秘訣です。わかりますね。(答える…はい) それがマスターと一緒にいることの良いところです。内面でも外面でも、肉体的にも精神的にも、両方の面において一緒にいることです。

ですから、いつもマスターと一緒にいなさい。いつもこのリトリートを忘れずにいなさい。そうすれば何の問題も起きません。みなさんはすべてを超越するのです。それですべての問題が小さく見えます。すべてのものを超越するので、問題がおもちゃのように見えます。すべてのものを超えていくのです。人生での全テストに首尾よくパスしていきます。それは、みなさんがこの幸福を覚えているからです。それはずっと持続するでしょう。たぶん、永遠にあるかもしれません。



老子、莊子と天国の音楽

一九九三年二月二十八日 フォルモサ・台北国父記念館における中国語講演

一人ひとりにみな無限の福報があります。もしみなさんが、私にあると言うのなら、みなさんにもそっくりの福報があります。ただ、それを使うのを忘れてるので、マスターがいて、弟子がいるのです。そうでなければ、私たちは平等で何の違いもありません。そのため、私たちはメディテーション（座禅）の修行をしなければなりません。メディテーションにはたくさん方法がありますが、なぜ私たちは観音法門を薦めるのでしょうか。それは古くからこの法門だけが私たちを最高の境界（きょうがい）へ連れて行くことができ、私たちの持っている最も偉大なパワーを理解させてくれるからです。釈迦牟尼仏は「他の方法も使っていますが、それは便宜的なものにすぎません」と言いました。その意味は一時的に使ってもいいけれど、究極ではないということです。

ここ数日間、私は老子、莊子、孔子の本を読んでいます。小さい頃にもこれらの本を読みましたが、今読んでみると違っています。彼らも内面の光と内面の音について述べています。昨夜、

忘れないようにと思って、一晚中本を読んできました。私が選んだ部分を今みなさんに読んであげましょう。聞きたいですか。(拍手) 観音法門は新しいものではありません。古くからあらゆる国にマスターがいましたし、観音法門の修行者がいました。私たちは今中国(フォルモサ)にいたので、私は古代中国人が修行をしていた、いくつかの証明をしましょう。

「莊子」の本にはこう書かれています。齧缺という人が、被衣という人に『道』とは何ですか」と聞きました。すると被衣は「あなたの座っている姿勢が正しくて、しかも自分の注意力を『一』のところ、すなわち『天』あるいは『道』に置くと、天上の平和がやってきます。その時、あなたは集中力を保ち続けなければなりません。そうすれば道と一体になります。その時、神があなたの内面に宿るのです。あなたは、神があなたの内面に住んでいることを知ることができます。あなたは道の中にいるのです。その意味は、私たちは道と一体になったということです。あなたがこの境界(きょうがい)に到達すると、内面は喜びに満ち溢れ、とても幸せで、まるで生まれたばかりの子牛のように、とても天真爛漫に周囲を見ていて何も要求しません」と答えました。これはメデイテーションについて教えているのです。私たちが印心する時も、このようにメデイテーションについて教えます。

けれども、私たちは本を読むだけでは悟りを開くことはできません。本には法脈のパワーがないからです。これはみなさんも知っている通り、母の愛について書かれた本が子どもを満足

させられないのと同じです。それは母親の愛は本からは得られないからです。ですから、本当の母親か、または母親の代わりの人がいて私たちを愛するなら、書かれていますことからだけではつかめないものを感じ取ることができるのです。みなさんわかりますか。(拍手)やはり「莊子」の本の中で、莊子は引き続き、「ある人がとても一生懸命修行をした時、神または天上の光が現れる。どんな人でもこの光があり、この光を見た時、本人を見た、自分を見た、と言う。内面の修行をする人や、本性を修行する人は、自分の最高のパワーを得ることができる。彼が最高の内在のパワーを得た時、彼の人間の品性は彼から離れ、そして天上の品性が彼について行き、彼を助け、人間の品性に入れ替わるのです」と言っています。

私は、「莊子」の中で彼が老子はあたかも一匹の龍のようだと述べているのを覚えていきます。ありますか。彼は、「老子はそこに座って、まるで死体のように少しも動かないが、私たちは彼を一匹の龍のように感じた。そしてとても神聖で静かなあの境界(きょうがい)に、雷のようなどとても大きな音が噴き出し、そしてそれは空から降りて来たか、地下深くから湧き上がったか、それとも天地が合わさって作り出されたかのようだ」と述べています。私たち観音法門の修行者は、莊子のこの二つの段落を読んで、彼が何を言っているのかわかりますか。(聴衆答える…わかります) 内在の光と天上の音について語っています。いつも、莊子はそのいわゆる天国の音楽についても語っています。もし、私たちが観音法門を修行していなければ、とても

わかりにくいです。それは私たちが身をもって体験していないからです。

いわゆる「天国」の音楽とは何でしょう。私たち観音法門の修行者は、全くどんな本も読まなくても、自分が身をもって体験しているのです。天国の音楽、天国の光がわかります。私たちには本当にあります。天国に行つてから見るのではなく、どこに座つても見えます。私たちはもともと万物や、道と一体だからです。もし、私たちが身をもって内在の光を見たり、内在の音を聞いていなかったら、本当に道と一体であることはわかりません。また多くの個所で触れていますが、例えば、別の章にはこう書いてあります。ある人が雛七に「天国の音楽とは何ですか」と聞きました。彼は「天国の音楽ですか。それはまるで一万もの楽器が一万の方角から音を出しているようです。けれども、どんな楽器も必要としません」と答えました。私たちはこう聞くと不思議に思うでしょう。どうして音楽なのに楽器がいらないと言うのでしょうか。観音法門を修行していたら、不思議だとは思わないはずですが。私たちには時々天国の音楽が聞こえて来ますが、そばで楽器を弾いている人は全くいません。また多くの個所で、彼はずっと天国の音楽について述べています。みなさんは帰つてからゆっくり読んでください。ここでみなさんに、昔の修行者が残したいいくつかの記録を紹介します。

列氏のような修行者も何人かいました。彼らも荘子と同時代の人です。彼は大体荘子と同じ程度に道を修行したマスターです。彼は「私は九年修行した後、私の心身は完全に自在になつ

た。何か語ろうとすれば、とても自由に語ることができて、何の障害もない。私は何が良いか、何が悪いか、何が成功か、何が失敗か、どれが自分のものか、どれが彼のものかわからない」と言いました。彼の言っている意味は区別がないということです。彼はすでに自由自在の境界（きょうがい）に達していました。彼はまた「あらゆる内にあるもの、外にあるものはみな変わった。以前と全く違う」と言いました。彼は「不思議だ。私の目は耳に変わった。まるで耳と同じで音が聞こえて来る。そして、私の耳は鼻に変わったように、においをかぐことができる。そして、私の鼻はまるで口と同じだ。何の器官という区別もない」と言いました。そして、彼は「私の骨と筋肉は全部消失した」と言いました。その意味は、彼の体が存在していないと感じたということです。彼は続けて「私は自分の体がどうやって歩いているかわからない。どこの上を歩いているのかわからない。風が私の上で吹いているのか、私自身が風の上にいるのかもわからない」と言いました。これはどんな境界でしょう。私たち観音法門の修行者はよくこういう境界に達します。その意味は、私たちは本当に全く肉体の存在を感じない、ということです。私たちがよく修行して、少したつと常にこういう境界に達します。たとえば、私たちはまだあまり修行していなくても、印心の時にも、こういう境界に達することができます。でも、それぞれがみな達するのではなく、当然一人ひとり、それぞれの違う境界に達します。けれども、この列子が述べたような境界に達する人もいます。

私たちがもし修行も、メデイテーションもしなければ、そして自分が身を持って体験しなかつたら、このような本は私たちにはなじまないでしょう。そうでしょう。中国語で書いてあるので、私たち中国人は小さい頃から大学までみんな読んでいました。語られている本当の意味がわからないのです。多くの人は、どうして内面に音楽や光があるのか、どんな天国の音楽があるのか、と考えて誤解するのです。もしかしたら、外面の音楽と間違えているのかもしれない。そしてカラオケに行つてしまえますが、外面の音楽も良いところはあります。時には、私もピアノやハーブを弾くのが好きです。とても気持ちいいと思います。仕事に疲れて、重圧感がある時に気晴らしに弾くと、とても心地よく感じます。当然、これは内在の音楽と比較することはできません。でも、内在の天国があるからといって、外在のものを全部捨てなくてもいいでしょう。私たちはやはり普通の正常な生活を送るべきです。今までに観音法門を修行した人がいることが信じられますか。まだ信じられないのなら、私はもう一つの物語を読んであげましょう。

子癸という人が女偶という人に「あなたはそんなに年をとっているのに、なぜ肌は子どものようにきれいなのですか。どうしてですか」と聞きました。女偶は「私はすでに道を得たからです」と答えました。彼はとても傲慢ですね。(マスター笑う) 私たち、道を得た人はこう言いますか。(答える…言いません) こう言いませんか。「あなたは道を得ましたか」と人に聞か

れたら、あなたはどうか答えますか。聞かれたら言ってもいいですよ。聞かれなければもちろん言うことはありませんが、人に聞かれたら答えないと失礼になります。そうでしょう。また、人に「道を得ましたか」と聞かれて、あなたが「得ていません」と答えたら、どうなりますか。嘘をつくことになります。(マスター笑う) やはり正直に答えればいいでしょう。傲慢ではなく、ありのまま話せばいいのです。この人は「自分は道を得ました」とあんなにきっぱりと言だけ言いました。その後、続けて子癸に説明して、「卜梁倚という人がいました。彼は天才でした。けれども彼は道を得ていなかったのです。彼はまだ完璧なところに達してなく、まだ完璧な人にはなっていないませんでした。けれども、私は彼に完璧な人になれる方法を教えてあげました。三日間教えると、彼はこの世を放棄することができ、七日以後、あらゆる外面の世界は彼の邪魔をすることもなく、彼は外在の煩惱と妨害から離れました。九日以後、彼自身の存在さえもなくなりました。その時、彼は太陽の境界(きょうがい)が見えました」と言いました。

ごらんなさい。太陽を見たのです。私たち観音法門の修行者は、太陽の境界を知っていますか。(答える…知っています) 知っていますね。どこにありますか。(答える…内面で見ます) 内面で見ます。そうです。もう禅問答に加わる必要はありません。もし、見えたらもうしなくてもいいです。彼はその太陽の境界が見えた後、続けて修行しました。そして、彼は万物と一体の境界を得ました。もう過去、現在、未来を区別することはありません。その後彼はさらに

もう一つの境界（きょうがい）に達しました。その境界では、生まれることもなければ、死ぬこともありません。その時彼は生まれて来ても本当の生ではなく、死んでも本当の死ではないことがわかりました。その時、彼は何事も普通に処理し、どんなことも受け入れられました。それは、神が自然に手配して彼に与えたものは何でもすべて受け入れるという意味です。生まれて来た万物はみな滅亡し、その後、新しい生命が誕生するのです。大変混乱している世界の中で平和が得られた時、その時私たちは道を得るのです。彼の言っている意味は、私たちにはこの世界がとても混乱して見えても、実際は乱れているのではなく、私たちにはこの世界が多くの苦痛や破壊の状態であるように見えても、実際はこういう事は本当の滅亡ではないということです。

普段、私は講義に行く時、原稿を用意しません。でも、昨晚は眠れなかったので、本を読んで研究しました。中国人は読書が好きで、私のような外国人の話を信じないかもしれませんが。ですから、中国人を引き合いに出したのです。さあこれで、みなさんは観音法門を修行していた人がいたことを信じますか。（答える…はい）いいですとも、少なくとも修行とメディテーションは役立つことを信じてください。まだ、禅宗の歴代の祖師もみなメディテーション（座禅）をしていたことには触れていませんが、莊子も老子もみな修行しました。メディテーションとはどんな意味でしょう。私は昨日、みなさんの電波―質問を受け取りました。それで私は

昨日、みなさんの内面の質問の答えを少し書いたのです。メデイテーションするということはどういう意味でしょう。私たちがそこに座っていればいいということではなく、私たちの内在の智慧をつかむ方法を知るべきです。通常私たち普通の人はみなメデイテーションができません。みなさんはメデイテーションしていると思いますか。(聴衆答える…はい) 毎日メデイテーションしていただけますね。メデイテーションをするという意味は、決してそこに座っていなければならぬのではなく、私たちの注意力をどこに集中するか、またはどんな問題に集中するかということですよ。

ある人が禅問答に加わるのは、分散しているパワーを全部一カ所に集中させるためです。それを啓発して使います。それでみなさんが普段メデイーションするのは、メデイーションと言うべきではなく、探究するとか、何かを研究すると言ってもいいでしょう。私たちが研究をする時、私たちは注意力のある所に置きます。普段私たちの生活の中で多くの困難があったり、多くの問題があつたりすると、その時私たちはすべて精神をその問題に集中して解決しようとしします。その時やはりメデイーションをしていると言えます。聞いていてわかりますか。すなわち何かを探究しているのです。私たちが深く探究すると、突然答えを得ます。私たちは一つひとつ探究し、一生かけて多くの方法でたくさんのかを探査します。それもメデイーションをしていると言えます。けれども、私たちはただ片隅に座っているにすぎず、重要など

ころには座っているではありません。もし、私たちが中央に座っていれば、多くの個所をコントロールでき、このように一つひとつを処理する必要はないのです。

世界のほとんどの人は、メディテーションする時はただ一つの問題しか探究しません。ですから、彼らが成功しても、ただそのことだけなのです。精神を全部私たちの智慧のセンターに集中すれば、あらゆる答えが簡単に得られて、多くの問題が自然に解決できます。今まで、私たちは注意力を一つの問題にしか集中しなかったので、その問題の答えしか得られませんでした。しかも時には答えさえ得られるかどうかかわからないこともありました。それは私たちが間違った所を修正したからです。ちょうど花に水をやる時と同じで、根のところに水をやると吸収でき、木は大きくなります。根は自然に水を吸い上げて、それが木の葉や枝すべてに行きわたります。もし、一枚一枚の木の葉に水をやったとしたら、正しいですか。(聴衆答える…だめです) そう、わかりましたね。

同様に、なぜ私たちはメディテーションの修行をしなければいけないのでしょうか。それは私たちの世界の問題は根から解決しなければならぬからです。私たちの体、私たちの生活はまるで一本の木のようです。根に水をやれば、木全体が元気になり、一枚の葉っぱや一本の枝に水をやらなくてもいいのです。それは時間の浪費になるばかりでなく、良い結果が得られませんが、それで昔から私たちの世界の人はとても忙しいのです。ご存じのように、毎日十数時間、

二十時間働き、時には食事や睡眠も忘れるほどです。私たちの世界はまだこのような状態なのです。科学技術面は前に比べて良くなりましたが、他の面はあまり良くなっていません。たとえこっちは良くなってもあつちの方は悪いとか、科学技術面が良ければ道徳面が欠けているとか、道徳面が良ければ科学技術面が遅れているのです。この国が良くても他の国は良くないとか、この国が平和であっても他の国では戦争をしているのです。私たちの世界はいまだに好ましい水準には達していませんし、完全な平和ではありません。世界には不幸せな人がたくさんいます。盗みや略奪など暴力的なことがまだたくさんあります。不幸せなことや苦しいことがまだたくさんあります。それは私たちのほとんどが葉っぱに水をやり、根に水をやっていないからです。ですから私たちは修行しなければならないのです。

私たち一人ひとりの内面に智慧のセンターがあります。そこからあらゆる命令を下し、世界や自分の生活をコントロールして、私たちの周囲の問題を処理します。智慧のセンターがどこにあるのかを知っていて、そこに注意力を集中すると、どんな所も見通すことができます。家に全体のスイッチがあれば、そのスイッチを入れると家中の電気がつかまります。そのスイッチを使わずに、個々のスイッチを入れてもいいのですが、いつかそのスイッチは壊れてしまい、もう一つ買ってくることになります。スイッチを作る工場が少し儲かるのはいいのですが、さもないければ何の役にも立ちません。同様に私たちの内面にも全体のスイッチがあるのです。私た

ちが全体のスイッチを入れると、他のスイッチも入り、とてもうまく処理できます。

ある人たちは私に、「私たちは一日中メデイテーションをして、この世間のことをほったらかしにしてもいいのですか」と聞きました。(聴衆答える…いいけません) いいですよ。どうしていけないのですか。釈迦牟尼仏は座ってばかりでした。何かしましたか。彼は本来国王になるべきだったのに、国家を放棄して、菩提樹の下に長い間座って、何事にも関与しませんでした。みなさんはいけないと言うのですか。みなさんは仏陀を誹謗するのですか。へえ、大胆ですね。いいですか。いけませんか。(聴衆答える…いいです) いけません。(マスターと聴衆一斉に笑い出す) いけません。あの時彼は悟りを開いていなかったもので、そうしたのです。私たちは一日中座ってはいけません。私たちは中道を修行したほうがいいのです。わかりますか。そうでなければ一人ひとりがみな全世界を放棄して、仕事を全部ほったらかして、菩提樹の下に座っていたら、全世界も平和になるでしょう。(笑い) この意味は遅かれ早かれみな死んでしまい、飢え死にし、子どもも生まれず、私たち自身滅亡し、そうすれば平和になり、もう誰も戦争をしなくなるということですよ。それでもいいでしょう。でも、私はこれは理想ではないと思います。

この世界はすでに存在し、そして地球はこのように素晴らしく、不可思議で、何千万劫(一劫は何千億年に相当する)に一つしか探し出せないほどの惑星ですし、しかも、このように緑

豊かで、たくさんのものが成長し、人も住めるようになりました。これは長い長い間の成果で、ようやくこのようにきれいな惑星になったのです。私たちはすでにここに住んでいるのです。自殺すべきではありません。私たちはこの世界を美しくできますし、仕事もできます。しかも修行もできます。なぜ修行しなければいけないのでしょうか。それは私たちが修行しなければ、全体のスイッチを探し出せず、多くの問題をどう解決するのかわからず、完璧には解決できないからです。今、私たちのこの世界は前と比べるとずいぶん良くなりました。それはさまざまな時代に、多くの修行者がいたからです。中国にマスターがいなくても、インドにマスターがいたり、ドイツやギリシャにマスターがいました。それで、多かれ少なかれ世界の片隅から天国の光が照らされ、私たちの世界は完全な暗やみにならなかったのです。けれども、完全な理想にはなりません。それは、すべての人がそれぞれ修行をしているのではなく、一部分の人しか修行していないからです。まだ多くの人は修行していません。修行している人は他の人を手助けすることができませんが、修行していない人は自分さえ助けることはできません。しかも他人の邪魔をし、この世界を煩わせるのです。この世界は幻想だということを知りながら、私たちがその幻想から目覚めないうちは、やはり修行する必要があります。私には思いません。そうでなければ、つらいことがたくさんあります。誰かが私たちに無理やり修行しなさいと言うのも、誰かのために修行するのでもありません。

私たちの世界に人材は少なくありません。多くの人はある面では専門家ですが、成功しない時もあります。時には飛行機が爆発したり、汽車が故障したり、車が壊れたり、ということを目にします。それは私たちがいくら素晴らしくても、聡明で天才であっても、ただ私たちの智慧の一部分を使っているにすぎないからです。私たちが本源で使うと、智慧全部が私たちのものになり、何をしてもうまくいきます。私自身、身をもって体験しました。私は子どもの頃、とても頭がよかったそうです。私の先生から聞いたのですが、毎月一位か、二位の賞状をもらっていました。三位になると私の父は眉をしかめました。私が三位になるはずがないと思ったのです。でも、だからといって、私は何をしても順調にいくとは限りませんでした。子どもの頃、あんなに頭が良かったにもかかわらず、私は何をしてもそんなに順調ではありませんでした。観音法門を修行してからは、何をしてもうまくできるし、さらに良くなり、さらに鋭く、はつきりとわかり、さらに速く、とてもてきぱきと何をすべきかはつきりとわかるようになりました。また私の弟子も同じで、よく修行して境界（きょうがい）が高くなると、彼は私の思うように物事ができて、大衆に利益をもたらします。もし、彼があまりよく修行していなければ、レベルも低く、振動力も比較的遅く、彼のする事はいつも物事を壊すことになります。彼は誠心誠意に手助けしようとはしますが、何かをすると、大衆の大事な事を妨げたり、私の仕事の邪魔になつたりするのです。

時には、ある人たちは何かをする時、順調なこともあれば、そうでないこともあります。彼らは前世で一時期修行したかもしれませんが、まだ完璧なところまで修行していないのです。彼に智慧がある時は何事もよくできますが、下の境界（きょうがい）に落ちると、うまくできません。それは彼の智慧がまだ安定していないからです。彼はまだ内面の全体のスイッチを完全につかんでいません。時にはわけがわからないうちに全体のスイッチに触れたり、またそのスイッチを切ったりするので、ある時は良くて、ある時は良くないのです。私たちの弟子も同様で、私も経験したことがあります。ある弟子は修行してしばらくすると、突然物事を鋭敏に処理するので、信用して他の事を任せると突然うまくできないのです。これは彼の智慧が足りないからで、私たちはこれをパワーが足りないと言います。それである時は良く、ある時は良くないのです。ですから、私たちは修行者はいつも修行を続けなければいけません。その後私たちが智慧を全部とらえたら、私たちの仕事はいつでも順調に運び、毎日良く、いつも良く、どんな問題も起きないので。

修行が完全に良くなった人でもまだ問題が起きるのでしうか。ありますか。言つてごらんなさい。（聴衆答える…あります）どうしてですか。（ある人が答える…他人の影響を受けます）そうです。それで釈迦牟尼仏が在世の時、弘法に行き、人に困惑させられ、暗殺されそうになりました。イエス・キリストもはりつけにされました。また多くのマスターが傷害を受けまし

た。これはみなこの世界に妨害されたからです。それは修行をしている人が少なく、修行をしていない人が多いからです。私は修行をしていない人を良くないとは言っています。そうは言っていない人はいません。私はみなさんが良くないとは言っていない人はいません。私たちが修行をしないと、苦しいことがあります、しかもどうしてこんなに苦しいのかもわからないのです。もし、この苦痛の状態から解放されたのなら、私はみなさんに修行することを提案します。それだけのことで。もし、この苦痛に耐えられるなら、修行する必要はありません。違いはそこにあります。わかりますか。けれども、修行した後も、私たちは自分を大したものだと感じません。というのは、私たちがまだ修行をする前は、多くのもがきや苦痛や問題に直面し、その答えがわからず、方法を探して問題を解決しようと思うのです。私たちは修行という方法を探し出し、その後私たちはずいぶん良くなったと感じます。ますます良くなり、私たちはこの方法を他の人にも紹介してあげたいと思うのです。それは、世界中できつとまだ多くの人が以前の私たちと同様に苦しみ、もがいていることを知っているからです。そういうことです。

けれども、ある人はやはり修行したくないのです。彼は自分の生活がなかなか良いと思いい、多少のもがきも関係ないと思いい、この世界に何千年もとどまっても構わないと思いいています。実際、私たちが修行してもしなくても、みな同様に内面には道があり、無上のパワーがあります。みなさんはマスターの功德は計り知れないと言いますが、みなさんの功德はさらに計

り知れないのです。というのは、内面に私たちはそっくりの財産があるからです。どのような方法でそれを証明すればいいのかわかりませんが、私ははっきりそうだとわかっています。ただ私たちの使い方が違うので、それで一人ひとり違うのです。私たちは観音法門を宣伝しようとは思っていません。ただ私たち仲間が修行した後は、みなとても不可思議な利益を得たので、他の人たちも好むかもしれないと思い、提供しているのです。そうでなければ、昔はこの法門を学びたいと思ったら、ありとあらゆる困難を乗り越え、山を越え川を渡り、マスターについて何年もの苦行をしなければならなかったのです。その後マスターはあなたに教えるかもしれない。私たちの時代は変わりました。ですから、そのようなことをしなくてもいいのです。さつき私が言ったように、釈迦牟尼仏が修行していたようにしてはいけません。彼個人は関係ありません。私たちと同じではありません。私たちは自分の子どもや妻を見捨てることはできません。彼が妻を見捨てても、彼は王子ですから国中が面倒を見てくださいました。私たちが妻や子どもを見捨てたら、誰が面倒を見てくださいるか。やはりだめです。彼を手本にして、そっくりなことをしてはいけません。

私たちの生活は世間の人と同じです。ただ、私たちの智慧は同じではないのです。それは良いことです。もし、あまりに奇妙な修行をして、人と同じではないと思わせたなら、彼らも恐れるでしょう。この時代に誰がすべてを放棄して、菩提樹の下に座っていることができるでしょう。

う。しかもフォルモサには菩提樹がとて少なく（笑い）、一人ひとりが一本の菩提樹を探すとすると、戦争になるでしょう。いいです。私たちは菩提樹の下に座らなくても構いません。私たちは家の屋根の下に座ればいいのです。それでも同様に悟りを開くことができます。これは私たちの弟子たちが証明できます。私たちの弟子の多くは在家者で、出家者は少数です。けれども、私はそれを重視しません。出家、在家は私から見ればみな同じです。重要なのは、あなたの内面の境界（きょうがい）であり、修行がどこまで進んだかということです。あなたの外面の衣服が、あなたと他の人とを区別するものではありません。修行は功德、努力、智慧によるもので、外面によるものではありません。昔から多くのマスターが言っています。みなさん、法華経を見てごらんさい。その中で観音法門の修行について述べています。そこに梵音、海潮音、超世界の音、雷の音、音楽など多くの音が紹介されています。光については、金色の金光、黄色の黄光、白色の白光などを紹介しています。先ほど莊子でも紹介しました。また聖書の中にも書いてあります。神の声は雷鳴と同じ、海水の音と同じなど、神が現れた時はまるで炎のようで、とても大きくて、とても明るいなどと紹介されています。

ですから、重要な点は、私たちが観音法門を修行すると、本当に利益を得られるということです。自分に利益をもたらすだけでなく、国家全体をも助けます。そして私たちの世界を淨化します。これまでに、この時代ほど、多くの人が観音法門を修行した時代はありませんでした。

ですから、ごらん下さい。私たちの世界はますます良くなりました。多くの非常に過激な、非常に強硬な主義さえ倒されてしまいました。私たちは戦争をする必要はありません。今まで私たちが最も恐れていたのは、こういった主義が互いに衝突することでした。違う主義の強国が互いに私たちの世界を破壊するのを恐れたのです。彼らがいくつかのボタンを押すと、私たちの世界全体がなくなります。私たちはそれを恐れたのです。そうでしょう。数年前は大変恐れましたが、今は割合安心していきます。世界がますます平和の境界線に近づいているように見えます。あまり遠い所を見なくても（拍手）、現在のフォルモサ（台湾）を見てもわかるように、大変快適になりました。私が出来たばかりの頃と比べるとずいぶん良くなりました。私はそう思います。そうでしょう。（聴衆答える…そうです）私は新聞やテレビを見ていませんが、そう感じました。また中国大陸の方もますます良くなっているようです。そうでしょう。まだ私たちの好むようにはなっていないませんが、前よりは良くなりました。ゆっくり待ちましょう。

この世界の速度はとても遅いのです。ですから、みなさんは時には忍耐力が足りなくなるのです。みなさんが短気な性質だからではなく、世界があまりに煩わさせるからです。何をしても多く挫折があり、多くの事が思うようにならず、しかも成果は大変遅いのです。今はずいぶん速くなりました。けれどもまだ遅いのです。例えば、私たちが聡明なオーナーか、社長だとしても、部下や使用人があまり聡明でなく、協力してくれなければ、私たちは毎日を痛め

ます。そして、みんながあの人はいかんしやく持ちだと言います。実際はそうではありません。もしかすると、彼があまりにも聡明すぎて、仕事をてきぱきと速く処理しすぎたので、周りの人はそれに協力できず、ついていけなかったのかもしれない。ですから、彼は挫折を感じ、多くのパワーや時間を浪費したのです。浪費した時間で他の事ができませんし、浪費した活力で他の所を助けることができません。ですから、この世界では本当に勇気と忍耐が必要です。

私はみなさんの気持ちがよくわかります。オーナーであったり、社会的責任があったり、地位があったりすれば、多くの挫折に遭います。以前、フォルモサの役人の女性が、私の所に来て涙を流しました。彼女はかなり地位の高い役人でした。彼女の名前は言いませんが、彼女は私に、「マスター、どうしてですか。私は前世でどんな間違ったことをしたのかわかりませんが、現世で何をしてでも障害があり、妨害され、何をしてでも大変困難なのです」と言いました。私は「大変困難だから、あなたに任せたのですよ。もし簡単なら、他の人でもできるでしょう」と言いました。彼女はたぶんわかったでしょう。彼女には才能があり、道徳があり、政府に信用され、私たち人民にも信用されています。けれども、彼女には多くの苦勞や苦痛があり、仕事をする時スムーズに運びませんでした。高官になって、とても輝かしい地位だから良いとは限りません。背後の苦しい心の内が私たちにはわからないのです。

私たちが普通の人なら、あまり重圧はなく、自分と家族のためのお金を稼げばいいのですが、

これもまた危険があります。それは私たちに重圧がなく、苦痛を感じないので、修行しようとしなからず。もっと良い境界（きょうがい）を知りたいとは思わないのです。私たちの世界があまりに平和で、生活があまりに平凡だと、私たちは水準を上げようとしません。ですからこれも危険です。ある人たちはとても裕福で生活がとても順調で、とても快適な生活をしているので、もっと良い境界のことを考えなくなります。この両方ともあまり良くありません。

たとえ福報があるように見えたとしても、私たちにとっては良くないのです。私たちが金持ちでも修行をしたいと思うなら、それは私たちが以前に多くの智慧があつたことを表しています。長い目で見れば、金銭と人生は永久に存在するものではありません。私たちの生活がいかに快適で裕福であっても、ある日離れなければなりません。このような財産や快適な生活は、ある日私たちが離れていきます。その日がいつなのか私たちにはわかりません。

もし、私たちが内面にまだどんなすごいパワーがあるのか、才能の中でまだ使っていないものがあるのか、宇宙にまだどんなときれいな、もっと快適な、さらに永遠の境界があるのかを知りたいと思ったら、観音法門やメデイーション（座禪）の法門を修行しなければなりません。

この世界に未練を持っている人たち、この世界に満足している人たちは、当然修行に興味は持たないでしょう。けれども、私はみなさんをちよつと目覚めさせなければなりません。この世界は当然永遠ではありません。戦争がなくても、天災がなくても、他の苦痛がなくても、病氣

の苦痛がなくても、私たち自身はある日死んでしまいます。先ほど私たちは列子の本を読みました。彼はあの不生不死の境界（きょうがい）に達したと言いました。それなら私たちはなぜ修行しなければならぬのでしょうか。それは彼の境界、彼の体験であつて、私たち自身は達していないからです。私たちは、生はやはり生、死はやはり死で苦しみます。もし、観音法門を修行して解脱できれば、生死は私たちにとつて違ったものになります。私たちは生まれなければ生まれ、死にたければ死にます。宇宙のどこかに住みたければ、そこにとどまることができ、とどまりたくなければ、別のところへ行きます。比較的自由です。たとえこの世界にとどまつたとしても、あまり自由ではありません。アメリカに行きたくても、どこかへ行きたくてもそんなに簡単ではありません。そうでしょう。例えば、私がフォルモサにとどまることもそう簡単ではありません。私は明日たちます。つきましては私はみなさんに感謝します。ここ数年来、大変お世話になりました。私に良くしてくださいました方にお礼を申し上げます。私に対して誤解や、良くない印象のある方には私も申し訳ないと思つています。この世界では通じ合うことがとても難しいのは、これが原因です。

毎回私が外国へ行くと、またフォルモサに帰つて来ることができかわかりません。いつ帰つて来られるか、また人々の前で公にこのような修行のことを話せるかわかりません。ですから、ついでにみなさんに感謝の意を表します。（拍手） 私はフォルモサにとどまりたいとは思

っていませんが、縁があるようで、フォルモサに来てから今までずっと住んでいました。私はフォルモサの人々が好きです。とても好きです。(拍手) みなさんは純粋な感情で、しかも仕事に努力して、とても頑張っているからです。内面の智慧をもっと補うと、みなさんは誰にも負けないだろうと思います。その意味は、どんな人も、みなさんフォルモサの人に勝つことはできないということです。ですから、私たちが観音法門を修行するのは、自分が解脱するだけでなく、この世界にいる時にこの智慧を使って少しでも世界を助け、私たちの地球を美化するためなのです。フォルモサの人が修行するとさらに素晴らしくなります。私はもっと好きになりますよ。けれども、そうしたらもっと煩わしいことになります。私はまた戻って来なければなりませんから。(拍手)



自分自身を許しなさい

アメリカ・カリフォルニア フレモントヒンズー教寺院における英語講演

一九九三年十一月二十五日

みなさんとお会いできる機会に恵まれたこと、さらに今日、神に奉獻できることに感謝します。もともと、この「無上の神」はどんな名前で呼んでも構いません。私がここに来られるように押し進めてくださったすべての方々に感謝しなければなりません。さもなければ、私は何もしなかったでしょう。(マスター笑う) 講演や集いの機会があるたびに、私は何度も感謝しています。その時自分が何か正しい事をしていると感じるからです。このような仕事を私に依頼したり、促したりしてくれる人がいなければ、私は何もしないでしょう。本当です。それに何とも思いません。つまり、このような仕事をしなくても自責の念にかられたり、残念に思ったりしないということです。

こんなに素晴らしい仕事なのに、どうしてしたくないのかわかりません。なぜだかわかりません。けれども、講演のたびに素晴らしいと感じるのです。わかりますか。私がしなければな

らない事は素晴らしい事だと思うのですが、その後もう一度しようとは思わないのです。それでも、誰かに講演するように促されれば、感謝して講演を行うのです。どうしてこうなのかわかりますか。おそらく私の怠慢のせいでしょう。(笑い) 実は私は自分のことをあまり理解していません。人はよく、「あなたが悟りを開いているマスターなら、自分自身がわかっていないはずだ」と言います。けれども、私は理解していないことを認めます。(マスター笑う) 家で寝ていることも同様に楽しいのです。(マスター笑う) ですから、私は本当に理解していないのです。けれども、ここに來たら幸せで感謝します。ベッドへ入って寝る時も幸せで感謝します。けれども、ここに來るよう私を促してくれたみなさんに心から感謝します。自分がほんの少し役に立っているようで、ただとてもうれしく、とてもいい気持ちです。

また、寺院も役に立ちます。無上の神に祈り、素晴らしい一日を共に過ごすことができます。それとも、みなさんは昼食を食べに來ただけですか。(笑い) 違いますか。私は勘違いしていますか。みなさんは神のために來たのですか。そうですね。(聴衆答える…そうですね) いいでしょう。それなら、みなさんは後で昼食を食べる資格があります。(笑い) 確かに、精神的な食べ物が必要れば、たとえどんな食べ物も食べても心身を満たすことはできません。ですから、たくさんごちそうを食べ、ビタミンを摂っても、私たちはやはり空腹だったり、病気にかけたり、時には心配事に煩わされ消化不良になることもあるのです。バカヴァアッド・ギーターの

中に、「まず、食べ物を神に供養してから食事をすれば、とても栄養があり、加持力で満たされる」とあります。けれども、食欲を満たすために食べられているなら、大変な間違いです。不満が多くなり、時には心配事や消化不良などが起こるでしょう。実際、バカヴァッド・ギーターの本にはもっと強調して書いてあります。「まず神に供養しなければ、あなたの食事は罪になる」と。こう言っているのは私ではなく、クリシュナですよ。(マスター笑う)

食べ物のことだけでなく、あらゆることに関して同じことが言えます。みなさんはバカヴァッド・ギーターを知っていますか。これは五千年ぐらい前の、古代インドの智慧の経典です。当時のスプリームマスタークリシュナによる講義です。彼は黒人で美しく、人々に敬愛されていました。(マスター笑う) 他のインド人同様、彼の皮膚の色は褐色ですが、みんなが「ハート・ブレイカー(胸が張り裂けんばかりの人)」と呼ぶほど、彼は美しくハンサムでした。彼が立ち去るたびに、みんなとても悲しがったのです。(マスター笑う) どこに行っても人々は彼を敬愛し、崇拜し、供養し、狂ったように彼の後を追いかけてきました。彼にはおよそ一万六千人もの奥さんがいたそうです。インド人は時々誇張することがありますが(マスター笑う)、それでも、きつと多くの弟子がいたのでしょう。本当の奥さんではなくて弟子です。ほとんどが女性だったと思いますが、たぶん彼がハンサムだったからでしょう。そう聞いています。私はその時いませんでしたが。いたかもしれないませんが、忘れてしまいました。(マスター笑う)

バカヴァッド・ギターには、マスタークリシュナの教えが記載されています。この本にはたくさん智慧と手引きがあり、今でも私は時々見ています。その本はとても美しく、大変集約されていて、智慧に満ちあふれていて明解だからです。読むと時には慰められ、安らいだりします。あなたがこの本を本当に理解し吸収できたら、智慧の経典として素晴らしい傑作であると思うでしょう。過去のほとんどのマスターはインドの教えと関係があります。ですから、インドとバカヴァッド・ギターは言うまでもありません。例えば、チベットの偉大なヨギであるミラレパをご存じですか。彼は鉢とバカヴァッド・ギターしか持っていないませんでした。さて、その本には「食べる前にまず食べ物を神にささげるべきである」とだけではなく、「生活の中で行う何事も、無上の聖霊にささげなければならない」と書いてあります。そうすれば、私たちはどんな善悪の因果応報も受けません。というのは、良い結果も悪い結果も、私たちがこの物質世界に縛り付けるからです。時々私たちは感情を抑えきれず、良くないと知っていないから腹を立てます。そうすると、怒りが収まった後も長い間非常にすまなく思うのです。

けれども言うておきますが、自分自身を許してください。どんな状況であつても自分自身を許してください。行ったことすべてを神に預けて、どういう結果であれ素直に従うことです。というのは、いずれにせよ、私たちはこの肉体でも、その行為でも、この世で何かをしているのでもないからです。たとえそうだと、私たちが行為者だとしても、それでも自分自身を

許さなければなりません。私たちが間違いを犯したり、怒り、貪欲さ、情欲などの習慣をコントロールできなくても、自分自身を許しなさい。これは状況によるからです。本当にこのようなものを必要としているのは、真我や魂ではありません。ですから、私たちはいつも繰り返し努力して、最終的に自分自身を許さなければなりません。というのは、私たちの内面は神、最高の智慧なのです。私たちが叱ったり、非難したり、ぞんざいに扱ったりしてはいけないのです。わかりますか。もし自分自身に腹を立てるなら、習慣、つまり、私たちが積み重ねてきた習慣だけを非難すべきです。あるいは、状況に罪をなすりつけることがあっても、最高の智慧、真我を非難しないでください。なぜなら、真我は決して間違いを犯さないからです。

このような社会にいと、何かをした時、時々どうしても怒りたくなることがあります。それは必ずしも私たちのせいというわけではありません。ほとんどはそうではありません。時々私たちはどんなことにも腹が立ちます。例えば、あなたは会社で気が合わない人と一緒に働いているとします。あなたがいくら言ってもわかってもらえなかったり、わかっていても違うことをしたり、彼はますますあなたを怒らせます。あなたは何度も彼を許しますが、彼はやはり同じことをします。非常に小さい事でも、私たちがいららさせるのです。ですから、心や肉体を超越したものが存在していることを知るの、とても良い事です。この体は土、水、鉄などの鉱物だけで構成されています。そうですね、私たちの体内の鉄は二、三本の釘を作れるく

らいですが、みなさん知っていますか。(マスター笑う) そして、水、土、おそらく火もあります。生命の火によって体は温かくなるのです。

頭脳は何で成り立っているのでしょうか。それはただ良い情報、悪い情報を収集したものにすぎません。ちょうどコンピューターのように、あなたがどう入力しようと、キーを押せば同じものが出来来ます。ある修行仲間はシンセサイザーを持っていますが、彼がプログラム入力した様々な旋律は、後からカセットテープで再生することができます。私たちの大脳もコンピューターと同じです。新品のコンピューターと同様、私たちが情報を記録し始めるまでは、もとも空っぽで、完全に白紙の状態でした。私たちは、時には良い情報を、時には悪い情報を記録します。良い情報を記録すると、それを利用したい時には良い情報が表れます。私たちがまたま悪い情報を記録したら、もちろん表れるのは悪い情報です。

ですから、今、私たちがメデイテーションをしたり、神に向かって祈ったり、聖典を勉強したりしているのは、考え方やライフスタイルを入力し直しているだけのことです。入力し直したものが良い考えで、良いライフスタイルなら、表れる結果はきっと良いでしょう。少なくとも前ほど悪くないでしょうし、最悪ではありません。たとえ、まだ私たちが毎日良くない情報を記録してしまっても、前に比べれば少ないはずで、そうでしょう。というのは、私たちは良い情報を記録し続けるからです。例えば、私たちはメデイテーションをして、神の名に集中

し、神のパワーに集中し、そして、私たちを通して神のパワーを得ます。私たちは喜び、美、善に満たされるので、たとえ悪い情報が来ても入る場所がなかったり、小さくなったりするのです。毎日メデイテーションをすると、神からの強力で善良なパワーは私たちの心や魂を傷つける情報を弱めたり、完全に無くしたりできます。ですから、私たちはメデイテーションをしたり、聖典を読んだりしないわけにはいかないのです。

ほとんどの人は聖典を読むのが好きではありませんが、どうしてでしょう。それは、読んでも理解できないからです。教会や寺院の多くの聖職者が、若い人や最近の人は聖典を読むのを好まないと不平を言っているそうです。それはほとんどの聖典はあまりにも奥深く、高尚すぎて、現代人や一般の世俗の人にとっては理解しがたいからです。けれども解決法が一つあります。まず、理解力を開発すべきです。そうすれば、聖書や他の経典を理解でき、あなたが手に入れたどんな書籍でも理解できます。以前、私は聖書やバカヴァッド・ギター、経典、老子などの内容がよくわかりませんでした。孔子、老子の本を読んでも、少しわかっただけで、今のように深く理解できませんでした。ひとたび理解能力を開発すれば、智慧は再び使うことができ、多くのことがわかるのです。

ですから、もし経典が理解できないなら、まず悟りを開くべきです。悟りとはあなたの理解能力を開発することです。天国の光、神の光は私たちが知りたいどんなことにも光を放ち、理

解させてくれるのです。というわけで、今も大学で学生に様々なメデイテーションを教えている所があります。少なくとも彼らの乱れた心を落ち着かせることができます。彼らがより良いメデイテーション法を知っていれば、その場所、すなわち智慧のドア、理解する能力を開くことができるので、彼らにとって非常にいいことでしょう。ですから、メデイテーションをしている多くの大学生は、勉強したい内容をマスターするのは簡単なことだとわかり、学校での成績はいつも良いのです。これは今では誰もが知っていることです。

どうして輪廻するのでしょうか。真我のことがわからないのに、真我の入れ物だけを次から次へと追求しているからです。例えば、海水は一体ですが、海水をコップの中に入れて密封したら、コップの中の水は海水から分離されてしまいます。でも、コップが割れたら中の水は再び海水と一体になります。コップの中の水がコップに執着したら、このコップが割れてもまた別のコップを探すので、コップの中の水は永遠に海と分離されてしまいます。同様に、私たちの真我は永遠にこの肉体の中にいるわけではありません。決してそうではありません。私たちの真我はどこにでも存在しているのです。それは一面に広がっていて、この体は自分の一部分を含んでいる場所や物の一つにすぎないのです。ですから、私たちがこの肉体の制限をなくせば、私たちは全体と一体になります。出て行くために体を壊す必要はありません。(マスター笑う) 出て行く方法があります。例えば、コップの中の水が出て行くために、コップを壊す必要はあ

りません。穴さえあればコップはそのまま、水もコップの中に入ったままで、同時に水は絶えず流出でき大海と通じ合えるのです。

同様に、私たちの「コップ」である肉体は、ここに穴がありますが、今はふさがっています。生命の水である魂を肉体の中に保っておくために穴はふさがれたのです。けれども、私たちはそれを開けられます。コップはみんなこんなふうになんてできていますね。（マスターがコップを取る）でも、底に穴があれば、プラスチックのカバーをします。そうですね。菓のビンにはこんなものもあります。プラスチックか何かでできた小さなふたを開ければ、私たちは内部とつながります。この肉体という道具を保ちながら、全宇宙とつながることのできる場所があります。それがつまり第三の眼であり、智慧の在りかであり、魂の在りかです。

もし、何らかの方法でそれを開けたとしたら、自分自身の根気強さや、解脱を渴望するパワーによって、あるいはマスターを通して開けたとしたら、至る所に遍在している全宇宙と、至上の神とたちまち通じ合えるのです。神のパワーはこの体に存在するだけではなく、空気の中にも存在しています。すべての場所、草や木の葉の一枚一枚、万物の一つひとつの中に存在しているのです。経験ある指導者がいれば、比較的簡単に開けられます。その人はすでに全宇宙のパワーとつながっていて、とてもパワーがあります。それは個人のパワーではなく、全宇宙のパワーを使うからです。彼はすでに宇宙全体のパワーとつながっているのです。ちょうどコ

ツプの中の水のように、それはコップの中にあるのですが、穴から海といつもつながっているのです。まだコップの中にあっても、新鮮な水が絶えず出たり入ったり入ったりできるのです。ですから、マスター、悟りを開いた人はこうなのです。印心を受けた人は底が押し開けられて、外とつながった人です。そして、マスターはすでに宇宙のパワーをはっきりと理解している人です。

私たちはみな宇宙のパワーを持っているのですが、このパワーを理解しているのはマスターだけです。それはちょうど二人の人が同じように父親から遺産をもらった時のように、そのことを知っていて、遺産がどこにあるのかを知っている人は使えますが、遺産をもらっても、それをどこかに置いていたり、どこにあるのかわからなかったら、その人は使えますか。使えませぬね。私たちも同様です。自分の持っている宇宙のパワーを使える所を知っていれば、私たちも自分自身のマスターになり、自分の運命のマスター（主宰者）になれます。そればかりか、同時に多くの人を導いて、人々を彼ら自身の運命のマスター（主宰者）にすることが可能です。たとえ私たちが同様に偉大だとしても、自分の偉大さを理解していなければ時間の浪費です。ですから、私たちはこの秘蔵の宝物を探しに何度も何度も帰って来なければならぬのです。それを見つけた時、私たちの旅はようやく終わります。とても簡単なことです。

私たちがこの世に来た目的は、この忘れられた宝物を見つけるためです。見つかるまで決してあきらめないのです。私たちが決して人生に満足しないのは、今私たちが持っているものよ

り良いものがあるということを知っているからです。どういうわけか、私たちは自分が決してこの器、つまりこの肉体だけではないことを知っています。というのは、死んだ後は体はまだあるのに動くことができませんし、何もできません。人を愛することも、口を開くことも何もできません。つまり、私たちはこの肉体ではないということです。生きている間はその肉体の中に何かがあり、体を動かしたり働かせたりしているのです。死ぬとそれは体から離れるので、私たちはこの肉体という道具を全く動かせなくなりそうです。私たちは心の奥では少しはわかっています。私はわかっています。みなさんがわかっているかどうかわかりません。(笑い) わかっていますか。みなさんはわからなければなりません。

時々、時間がある時、特に困難な時、誰とも一緒にいたくなく、ただ一人で座っていたいと思うのはこのためです。そうすると、あなたは自分がだんだん良くなるのを感じます。時々静寂の中に何か、私たちを慰める何かがあると思うのです。私は観音法門を知る前はこうでした。以前はよく祈っていました。釈迦牟尼仏やイエスに向かって祈っていました。聞こえない人がいてはいけないと思って、自分が知っているすべてに祈りました。時々私はクリシュナに向かって祈りました。ヒンズー教の神です。(笑い) 実際は、ヒンズー教の神はいません。神だけがいるのです。ただ、神は時々インド人とか中国人として現れるので、私たちはヒンズー教の神とか中国の神と呼ぶのです。実際はそういうものはありません。

観音法門を知る前、私は深い悲しみに打ちひしがれた時、ただ一人で深く深く祈りました。大声で祈ったのではなくて、心の中で本当に嘆きました。その時、何かが私を引き上げているように感じ、とても慰められ穏やかになり、何一つ心配がなくなりました。この時、生命を超えるものが存在するということを認識したのです。それはいつもそこにおいて私たちの話を聞いているのです。

多くの人は祈っても感応がないと言いますが、それはあまり深く祈らないからです。けれども、とても悲しい時には多くの感応があります。その時私たちは本当に敬虔になっっているからです。幾重もの偽装を突き抜け、偽りの自分も突き抜け、どういうわけか、一時的に真我と通じ合うのです。その時こそ感応があるのです。でも言っておきますが、私たちはこうするためには深い悲しみを待つ必要はありません。それではあまりにも心に受ける傷が大きすぎます。もっと良い方法があります。私たちの心が悲しみに沈んでいない時に修行をするのです。この方がいいのです。

死ぬ前に修行した方がいいのです。そうすると、私たちにとつて死はまるで一つの部屋から別の部屋に行くようなもので、問題ありません。私たちは永遠に出歩くことができます。私たちはコップ自体を壊して海全体とつながることができます。または、壊さなくても別のコップを探して、他の人を満足させたり助けたりできます。例えば、あるマスターは人類を助けた

めに何度も人間に生まれ変わりますが、中には天国や涅槃をただ楽しむだけで、下界に下りたがらないマスターもいます。あるマスターは今まで一度も人間に生まれ変わったことがなく、そうするつもりも全くありません。あるマスターは、苦しんでいる子どもたちを助けるために何度も何度も人間に生まれ変わります。というのは、神の子どもたちは偉大な宝物を持つていますが、どのように使うのかわからずに、非常に貧困で惨めな状況に陥っているからです。

インドでは、人々はマスターを大変尊重しています。神よりも崇拜していますが、理由はこういうことです。「マスターと神が今一緒に現れたら、私はマスターだけを尊重して、神のことは気にしない」と彼らは言います。(マスター笑う) ただこれはマスターに対する尊敬と感謝のようなものです。実際、彼らは神がいるからこそマスターを崇拜し、マスターがいるからこそ神を崇拜しているのです。マスターがいなければ、彼らは真の神の存在を知ることはいらないのです。そうです。神のパワーがなければ、マスターにも何の価値もありません。

マスターであるかどうかにかかわらず、私たちはみな神から来ています。神のことを知っている人がマスターであり、マスターでない人は神のことをまだ知らないだけです。けれども、彼らにもやはり神がいて、同じ所から来ています。私はコツプの海水の話をしました。印心の時に底が押し開けられ、私たちは多かれ少なかれ、いずれにせよ、わずかの時間、神と通じ合うことができます。自分たちは神と一体であり、隔たりがないということ完全に理解

するまで、私たちは毎日このようにし続けるのです。

さて、印心した人が理解していることはたくさんありますが、言葉で表現するのは難しいのです。私も同じです。私に求める人がいなければ、私は全く神のことを考えないでしょう。わかりますか。というのは、神はいつでもただ私のまわりに、また内面にいるからです。ですから、私は神のことを考えもしません。神のことを話したり、神を恋しがったり、もはや神を探し求めたりしません。ただ、みなさんの求めに応じて、私は神について、またはそのような話をします。時々、神のことを話すのが本当に困難な時があります。おそらく、私があまり講演やそのたぐいのことをしたくないのもそのためでしょう。なぜなら、私はどこにいても、何をしても満足しているからです。印心した人のほとんどはこうです。彼らは印心するとすぐにこのような満足感を得て、永遠にそうあり続けます。

けれども、宝物を見つけたことに気づくのに、しばらくかかる人もいます。なぜでしょう。それは、彼らのカーテンが他の人より厚いからです。つまり、私たちは知的に理解したことや、現世で蓄積したたくさん知識に妨げられ、そしてそれに執着してしまうからです。というわけで、私たちが誇りにしているこのような知識、博士の学位、何々博士、何々の地位という肩書きより、自分が偉大であるということを忘れてしまっているのです。私たちはこのようなものより、世界中のどんな国王より偉大です。時々私たちはこのエゴにさえ気づくことができず

に、エゴの中、つまり魔の網のわなに捕まってしまうのです。もっとたくさん修行しなければ、私たちは気づくことさえできません。修行すればするほど、私たちは自分の習慣、収集したゴミと無意味な考えに妨げられていることがわかるのです。

同様に、私たちは毎日の仕事やこの世の知識で頭がいっぱいで、自分はこんなにたくさん、あんなにたくさん知っていると、自分ももっと偉大であることを忘れていきます。私たちはそれ以上のことを知っています。このようなことも含まれていますが、それ以上のことを理解していません。偉大なパワーや偉大な智慧はそのようにとても大きく、とても偉大で、とても広大です。私たちはこの偉大な智慧を使って、例えば、医学や法律の知識などといった「世の中の知識」をほんの少し理解して、そして、それに執着してしまいます。すべての智慧を使って、知識の片隅に注意を払うだけで全体を忘れるのです。わかりますか。そういうことです。

自分は何々先生、何々博士だと、自分がすでに立派な人だと思っています。私はみなさんのことだけを話しているではありません。「私たち」と言うのには、私自身も含まれているのです。私たちは、自分はこんなにたくさんわかっているとか、自分は美しいとか、この博士号や、あれこれ持っているかと思っています。実際、そんなに多くのこの世の知識のためだけに注意を払い、私たちの偉大な智慧の九九、九九九九…%も無駄にできてしまっているのです。最終的に私たちに何もありません。なぜなら、これらは無常のものであり、つまり、知識は必ず変化

するからです。私たちは医学上の定義や医薬品の多くは、すぐに時代遅れになるとわかっていきますし、他の新しいものに取って代わられることもわかっています。また、人類の意識が高いレベルへ発展するにつれて、科学の真相も常に変更され、削除され、別の理論に何度も取って代わられています。ですから、私たちがこの世界から、あるいは頭脳の分析力から、どれだけの知識を得ようと問題ではありません。全体的なことは決して得られず、宇宙のほんの少しのことしか得られません。まるでコップの中の水が、自分が大海であることを知らずに、コップはこんなに大きいと自慢しているようなものです。わかりますね。コップの水も大海とつながれば大海になります。私の話をわかっていただけたと思います。

質疑応答

Q マスター、どうしてクリシュナムルティは「ゲルと宗教はつえである」と言い、そして、彼は弟子のつえになるのを拒んだのですか。

マスター（以下M） 彼に聞けばよかったですね。私には他の人の教理についての責任はありません。人それぞれ独自の見解と哲学を持っています。おそらく、彼は「もしあなたがあまりに宗教の教理や師に執着するなら、障害者となり、つえが必要になる」ということを言っているでしょう。この点について彼は正しいです。師やマスターはあなたが頼るためだけにいる

のではなく、彼らから体験と智慧を得て、最終的にあなたは自分自身で歩くのです。いいですか。多くの場合、本当の師はこのように弟子に教えるのです。わかりますか。

でも大丈夫です。そうであっても、弟子は自分がまだ成長していないと感じるなら、修行の初期の頃はマスターに祈ることができません。後に成長したら、自然にマスターは必要なくなるのです。例えばこうです。誰でもまっすぐに歩けるとは限りません。例えば、私は足が弱いので、時々傘を支えにして歩くことがあります。私の足が大丈夫な時は傘は必要ありません。ある人は、時には生まれつき事故で身体障害者になってつえを必要とします。彼にとつては当然のことですが、あなたは彼を蹴って「自立できなくなるから、つえを使つてはいけない」と言えますか。わかりますか。(答える：はい)

ですから、私はこのようにきつぱりと「マスターやグルあるいは宗教は人に対して絶対に良くない」とは言えません。ある人にとつては必要です。そうですね。あなたがマスターを必要としないなら、それはそれでいいのですが、もしマスターを必要としているなら、必要がなくなるまでしばらくそのままでもいいでしょう。ですから、私は極端な教理は話さないので。私の見解では、宗教はまた多くの人にとって利点があります。少なくとも宗教を信仰すれば、多くの人は道徳的な生活を学び、神を畏敬し、因果の法則を畏敬するのでより良くなります。私は真実を話しています。ただし、宗教が究極のものではないことを知ることです。わかります

か。そうです。究極ではないのです。例えば、肉体のマスターは究極のものではありません。でしょう。究極のものはマスターやみなさんの内面にあるのです。マスターを通じて、みなさんは究極を見つけることができます。これは良いことです。もしあなたがまだ見つけていないなら、マスターに頼って助けてもらうことができ、しばらくあなたを連れ歩くこともできます。そうすれば、あなたは歩けるようになります。これもいいのです。すべてを捨てるのは極端なやり方ですね。そうではないですか。(拍手)

Q 人類は地球上でどのくらい生存していますか。

M おや、私は指を使って計算しなければならぬですね。(笑い) みなさんはどれくらいか知っていますか。ただでさえ毎日忙しいのに、どのくらいか知る必要がありますか。それは、とてもとても長い間です。輪廻している人もいれば、解脱している人もいるし、ある人は何度も戻って来ます。あなたが計算したくても難しいですね。何千万劫(一劫は何億年に相当する)としか言えないのです。

Q あなたから印心を受けたら、他の教義やマスターなどは放棄しなければならないでしょうか。もし印心しなくてもあなたに祈ることができますか。そして加護を得られますか。

M あなたの先生や教理を放棄すべきではありません。すでに言いましたが、宗教も同様です。宗教も捨てるべきではありません。例えば、私は印心しましたが、いまだにバカヴァッド・ギーターや聖書、仏教やその他について、また、いろいろなマスター、過去のマスターについても話します。ですから、私はどんなことも捨てていません。ただ、過去や現在、おそらく未来のさまざまなマスターの智慧や知識で自分をさらに豊かにしているだけです。未来のマスターはまだこの世に下りて来ていないので、高い境界（きょうがい）で出会えます。けれども、メデイーションで彼らに会ったり、学んだりできます。ですから、失うものは何もなく、ただ得るだけなのです。いいですか。印心を受けず、いわゆるスプリームマスター・チンハイに祈っても、私は彼女があなたを助けるかどうか知りません。祈る時にぜひ彼女に聞いてみなくてはいいけませんね。（笑い） 助けるかもしれないし、助けないかもしれません。それはあなたの誠心誠意さとカルマによります。

Q マスター、私はメデイーションをする時、ここに集中し続けることができません。注意力が散漫になって、雑念もたくさん出てきます。集中し、メデイーションを良くするためにどうすればいいですか。

M 印心している人の質問ですか、それとも印心していない人の質問ですか。それによって、

私の回答は違ってきます。どなたがこの質問をしましたか。(司会者…あなたは印心していますか)(その人が答える…印心しています) 共修会に行かなければならない理由はそこにあります。集合したパワーは私たちを援助するからです。とはいえ、時間もかけなければなりません。ある人はすぐ集中できますが、少し長く時間がかかる人もいます。先ほど言いましたが、このことについても自分自身を許すことです。世の中の状況は私たちが落ち着いてメデイテーションをしたり、静かにものを考えたりするのに適していませんが、それでも何度も試みることで、この世では修行するのが難しいので、神の加護のパワーが幾重にもあるのです。ですから、私たちが一歩進めば、マスターのパワーは百歩歩いて私たちを助けるのです。

もし天国で修行するなら、これほど利益はありません。あなたが天国で修行したいなら、もつと時間がかかります。例えば、地球で一日修行するのは、天国で百日間修行するのに相当します。こういうわけで、天人や天国の衆生は人間に生まれ変わりたがっています。それは修行が早く進むからです。ここでは、修行を阻害するさまざまなパワー、例えばカルマ、逆境、天災、戦争、苦しみ、幸福などがあるからです。これらはまるで私たちを鍛錬してくれる猛火のようです。この炎は私たちを、自分たちやこの世に役立つ強い道具となるように鍛えるのです。

ここで修行すると仲間を助ける機会があるので、より多くの功德があります。家であなた一人がメデイテーションをしても、あなた一人の功德にしかありませんが、あなたの努力や雄弁

な話術により、例えば、あなたが百人もメデイテーションできる場所を提供するなら、あなたは自分の功德に百人分以上の功德を加え、さらに百倍早く進歩します。わかりますか。それとも、あなたがさらに百人も印心を受けに連れてくれば、これらの功德もまたあなたのものになります。結局、私たちはみな一体なので、功德ということに関していえば、より多くの人と結びつくと、自分がより広大に、偉大になるのです。数学的な論法ではこういうことです。

ですから、ここでの修行は天国よりいいのです。天国ではみな快適に過ごし、のんびりしているのに、彼らには集中することを強いる背後からの刺激がないのです。というわけで、お話ししたように、深い悲しみや絶望の時に、祈りやメデイテーションは良くなります。その時あなたはもつとマスターを思い出します。そして、「マスター、どうか、どうか、どうか…」と言うのです。(笑い) その日はいつもより明るい光、強い音などといった良い体験があります。感覚も良くなり、神にも近づいたと感じます。ですから、たとえ困難があつたとしても、この世で修行するのは非常に良いことなのです。

私は多くの修行仲間が一生懸命修行しているのをうれしく思っています。何人かの人はセンターに来てただ見回しているだけですが、みんなが目を閉じているので、彼らもいつまでも見回していたりはしないでしよう。彼らは恥ずかしく思い、その後目を閉じて、そして外のきれいな女性を見る代わりに、内面にあるものを見るのです。ですから、お寺やセンターは非常に

良い場所です。人々はそこに集まり、一緒に神を思うという一つの事だけに集中します。このように非常に役に立ちます。ですから時間をかけてください。あなたはしばらく見回していてもいいですが、飽きたら目を閉じてみんなと一緒にメデイテーションしましょう。いいですか。

頭脳は常にコントロールしにくいものです。それで毎日修行をしなければなりません。そうでなければ、私は「印心すれば、すぐ仏陀になります。もう何もすることはありません」とみなさんに言うでしょう。そうですね。つまり、私たちの習慣があまりにも長く続いていたため、数千年、あるいはそれ以上続いたため、現世の人生でこういったことをきちんと整理するのは容易ではないからです。けれどもそうする価値はあります。それとも、ここでさらに千年もこんなことを続けていたのですか。いいでしょう。それも面白いです。ですから、私が見なさんに少し長く、二時間半あるいは三時間くらいメデイテーションをなさいと言うのはこういうわけなのです。というのは、最初の二十分はもがきの段階で、ただ続けてメデイーションすれば、二十分後には落ち着いてきます。三十分経てば楽しくなり、四十分後にはあなたはいなくなってしまうでしょう。(笑い)

Q 人類は何のためにこのように作られたのですか。宇宙の他の天体にも人類に似た生命体が存在していますか。

M はい、他の天体にも人類が存在しています。人類は何のためにこのように作られたのかは、私にはよくわかりません。あなたは上がって行って、創造主に聞くべきです。私は神に尋ねたことはありません。私はいろいろな質問はしません。私は物静かな人です。(マスター笑う) いいですか。

Q 自分の生命や周囲の環境を放棄したいと強く願った時、どのようにすれば、苦しみや苦痛の感情から抜け出す適当な時期がわかるでしょうか。けれども、私たちには執着している人々がいるので、それを見抜くのが非常に難しいのです。また、生命それ自体が、単に自分自身や、見捨てられない、愛する人より重要なものだとして理解するのも困難です。

M 先ほども言ったとおり、ただ自分自身を許して再度挑戦してみることです。ある状況では自分をコントロールできますが、別の時には自分自身をコントロールしなくなったり、できなかったりします。いずれの場合も、その瞬間あなたにとって良いと思うことを行えばいいのです。いいですか。あまり感情的に悩まないでください。それはただ海面の波にすぎません。これは海の過ちではありません。風のせいです。地球が自転しているので波が発生するのです。ですから、波を発生させ、船舶や人々に面倒をかけているなどと言って、海はいつまでも自分を責めることはできないのです。彼自身にもどうしようもないのです。彼女あるいは彼自身避

けることができませぬ。海は彼と言いますか、彼女と言いますか。

司会者 好きなように呼んでください。

M 全くわかりませんが、彼女にしましょう。なぜなら私は「チンハイ（清海）」ですから。

チンハイ（清海）とは清浄な海という意味です。実は、ヒンズー語でチンハイは、「Vishudananda（ヴィシユータナンド）」と言います。私はより多くのアメリカ人を引き付けるため、これから名前をインド風に直すべきだと思っています。（マスター笑う）ある日、アメリカ人の弟子の一人に言われました。「アメリカ人はみんなインド人の先生だけが好きなので、あなたは多くのアメリカ人を引き付けることができませぬよ。引き付けるのは、ベトナム人やアジア人だけです」と。ですから、私は「いいですよ。名前を変えたほうがよさそうですね」と言いました。彼は「ところで、あなたにはインド名がありますか」と聞きました、私は「ありません。ヴィシユータナンドです」と答えました。（マスターと聴衆笑う）これは私のインド名です。どんな名前でも「アーナンダ」のように、ダ、ダ、ダがついているのです。（笑い）インド風に聞こえます。（拍手）今から私を「ヴィシユータナンド」と呼んでもいいですよ。「アーナンダ」「ヴィシユータナンド」、とてもインド人っぽく聞こえるでしょう。

Q どうすれば、毎日の生活の中で内在の平和や至福に到達できますか。

M ゆっくりです。印心後、神からの智慧や平穩や恩恵を受ければ受けるほど、生活はますます平和になります。ただし、それはあなたがマスターにならない場合だけです。もしあなたがマスターになりたいなら、私はあなたに平和な生活を約束できません。ただ弟子でいるだけなら、すべてのことは完璧です。(マスター笑う。聴衆拍手)

Q 親愛なるマスター、私はいつもしたくないのに同じ間違いをします。内面に善と悪の二人の自分がいると感じています。どうすれば間違いをしなくなりますか。

M そうですね。たぶん、あなたは人生でのバランスの取り方を学ばなければならないのかもしれないかもしれません。実際、私たちはずっと良い人でなくてもいいのです。でなければ、自分が壊れてしまうでしょう。そうではありませんか。サーカスの綱渡りが綱の上を歩くのを見たことがあるでしょう。時には左に傾いたり、時には右に傾いたりします。わかりますか。こちらに傾く時もあるが、次にあちらに傾いたりもします。彼がただまっすぐに歩いていたら落ちてしまいます。とにかく、人生にはいつでも二つの面があります。つまりプラスとマイナス、幸福と苦悩です。時には私たちは一方へ偏ってしまうことを避けられません。それは大丈夫です。自分自身を許して、できれば再挑戦しましょう。うまくいかなくても自分を許してください。いいですね。

あなたが良くないと思っっている習慣に対抗するために、正反対のことをしてみることもできます。例えば、あなたは普段とてもけちで、人にものをあげたくないとしたら、今、人に何かあげるよう自分に強制してみるのです。欲しいと思うたびに、代わりにあげるのです。そうすれば、次からはあえてもらいたくなくなります。というのは、欲しいと思うたびに損をしてしまふからです。(笑い) 例えば、もしあなたが一ドル欲しいなら、人に二ドルをあげるよう自分に強いるのです。そうすれば、次からはあえてもらいたいとは思わなくなるでしょう。あるいは、もし、あなたが普段奥さん以外の女性を見るのが好きなら、そうしたいと思うたび、家に帰って奥さんを見ることにするのです。すると、次からは飽き飽きして、それ以上見たいと思わなくなります。このようにしてみたらどうでしょう。(拍手)

Q ある宗教は「世界の末日はすぐ来る」と言っています。この真意は一体どういうことでしょうか。

M そのように言っている宗教はありません。

Q キリスト教だけですか。

M 何ですか。キリスト教がそう言っていますか。

Q つまり聖書にそうあります。

M 聖書には私たちが二千年に滅亡するとは書いてないでしょう。ただ世界の滅亡に関するいくつかの啓示が書いてあるだけです。けれども、それは一個人の体験にすぎません。私たちの中にもこういった体験をしている人がいます。あなたが過去の壊滅の状況に迷い込んだとしたら、それはあなたが以前、前世で見たものですが、今あなたはそれを見て、現在の地球の状況だと思ひ込むのです。それは真実ではありません。あなたが見たのは他の銀河、他の天体の壊滅だったかもしれないのに、この世のことだと勘違いしているのです。あるいは、時には過去のことを見たのに現在だと誤解したり、はるか遠い未来のことを見たのに、時間を間違えて現在だと思ってしまったります。多くの予言が当たらないのはそういうわけなのです。

最近、キース地方のある人が世界の末日を予言しましたが、彼女は三、四回訂正しました。おそらく金曜日のはずでしたが、金曜日は休日だったので日曜日になりました。けれども、その日曜日になっても「世界の末日」は来ませんでした。(拍手) でも、心配しなくてもいいのです。自分が死んだ時が世界の末日なのです。ですから、この世を去る日のために準備してください。この世を去る時、死神とはなく、神と同行できるように準備しておきましょう。そうでなければ、その時が世界の末日になるのです。

Q 慈悲と集中とはどんな関係がありますか。

M 集中とは注意力を一つの所に向けることで、慈悲とは他人を愛することです。慈悲は同情心があること、他の衆生や動物や人々を愛することです。彼らを傷つけることを嫌い、必要な時に彼らを助けたいと思うのです。それが慈悲です。集中とはメデイテーションをする時の注意力を集める、その度合いです。

Q 宇宙に向かって心を開けば、智慧や知識が得られ、どんな本でも理解できるとおっしゃいました。私の質問は、もし生まれつきそれほど聡明ではなかったら、どのようにすれば心を開いて宇宙の知識を理解することができるかということです。私にとって、新しい知識を学ぶのは大変なことで時間もかかります。以前私は専門家になる勉強をしようとしたしましたが、全くダメでした。良い方法を教えてくださいませんか。

M 学校で学ぶことができないければ愚かである、というわけではありません。あなたには勇氣が不足していたかもしれないし、または良い先生、良い友達、良い環境に恵まれなかったのかもしれないし、根気が足りなかったのかもしれないかもしれません。ある人は上達が早いのですが、ある人は少し遅いこともあります。だからといって、あなたが愚かで頭が悪いとは言えないのです。自分の偉大な智慧を知らないことこそ、本当に愚かであると言えます。（拍手）ですから、私はあなたに印心をお勧めします。自分の偉大さを理解してください。そうすれば、あなたは多

くのことを理解できるようになるのです。というのは、私の話はすべて大げさで、余計なことだからです。自らの体験がなければただの広告にすぎません。コップの中のオレンジジュースはとてもおいしいし、栄養もあるし、あなたの体にも良く、多くのビタミンCが含まれ、飲むと渴きを癒すことができるなどと、いくら私があなたに話しても、あなたが飲まなければ無意味です。しゃべりすぎです。一番いいのはとにかく飲むことです。つまり、悟りを開くことです。(拍手)

Q 私は途方にくれています。あちこち探しましたが、家がどこにあるのかわからないのです。つまり、自分の本来の姿や自分のやるべきことが何なのかわからないのです。どうすればこの地上で家を見つけることができるでしょうか。

M 悟りを開くことです。家は非常に近くに、あなたのそばにあります。あなたの皮膚より近くにあります。けれども、光がなければあなたには見えないのです。どんなに近くにあっても、暗やみの中では物を見るできません。あなたは感じるかもしれないので、見えないので光が必要です。神の光はあなたの探しているものすべてを明るくすることができます。家も含まれます。けれども、これは大変抽象的な話です。あなたは自ら体験しなければなりません。このような体験は印心後、修行の努力の結果によるものです。修行の方法を知り、その通りにし

て、そうすれば日々理解していくのです。

Q 大昔から現在に至るまで、宗教の教えや過去のマスターたちがいたにもかかわらず、なぜこの世界は良くならず、かえって悪くなったのでしょうか。

M それは、過去のマスターたちはあなたを教えられないからです。あなたは在世のマスターを探さなければなりません。その人はあなたの質問に答えることができ、またあなたを助け、あなたの手をとって天国に連れて行けるのです。私たちには人と人とのつながりが必要です。それも、過去の人とはありません。過去の美人がいくらきれいでも、あなたと結婚することはできません。彼女はあなたの子どもを生むこともできないし、生きている奥さんに感じる愛情をあなたに感じさせることもできないのです。

Q 私は原理キリスト教会でこう教わりました。私たちは神だけに向かって祈り、神以外の、イエス、聖母マリア、天使、どんな人であっても、あるいは、どんな事に対しても祈ってはいけない。神がイエスの父であり、宇宙の創造者であるからだ。それでは、なぜ人々はマスターとしてあなたに、また、他のマスターに対して祈るのですか。

M わかりません。それは彼らの問題です。(マスター笑う) さっきある人が私に聞きました。

「印心はしたくないが、つまり、直接神と接触したくはないけれど、スプリームマスターチンハイに祈ることができるのか」と。そうしたら私はどうすればいいのですか。ええ、もし彼女が祈って感応があれば、祈り続けるでしょう。けれども、私はいつも印心して直接神とつながり、神に直接祈ることを勧めています。これが一番良い方法です。けれども、ある人はこの方法ではなく、二番目の方法を選択します。それは比較的簡単な方法です。菜食もせず、二時間半のメデイテーションもせず、戒律も何もなく、ただ利益だけを得たいので、彼女は何かを与えてくれる人なら誰にでも祈るのです。たぶん、彼女はイエスや仏陀に祈っても何も助けてくれないので、スプリームマスターチンハイに祈ったのです。スプリームマスターチンハイに祈ると助けてくれるので、彼女はまたずっと祈り続けるのです。人々はみなこのようにご利益が好きなのです。ええ。(拍手) その真相は、在世のマスターは私たちの祈りに応えられるということなのです。

けれども、マスターが往生した後も人々はマスターに祈り続けます。なぜなら、彼らは両親や祖先からこうするように教えられているからです。このように祈り続け、在世のマスターと過去のマスターとの違いを忘れてしまうのです。彼らは過去のマスターに祈り続け、時にはマスターは助けてくれないと責めるのです。実際は、あなたがどんなマスターに祈る時でも、それは神に祈ることと同じなのです。わかりますか。というのは、マスターは神とつながってい

るので、マスターに祈ることはつまり神に祈ることなのです。マスターの内面には神以外の何があるのでしょうか。あなたはチンハイに祈っていると思っただけですか。チンハイとはいったい誰でしょう。彼女を思う時、その彼女とは誰ですか。いったい何ですか。彼女の体には神だけが存在しています。他には何もありません。ですから、あなたが彼女に祈ると、彼女は神とつながり、あなたは神に祈っていることになるのです。わかりますか。(拍手)

司会者 質問者は、正当な理由により両親を別れさせたが、それが間違っているかどうか、知りたがっています。というのは、両親の一人はもう一方がメデイーションの修行をすることをお許しなかつたからです。彼が知りたいのは、彼の行為はカルマになるかどうかです。そして、彼がこの法門を修行すると、離婚させた過ちを正すことができるかどうかです。

M 気にしないでください。自然の成り行きに任せましょう。あなたの両親に関することで悩まないでください。時間が経てば事情も変わるでしょう。もし、時機が来ないうちに、あなたが強制的に問題を解決させようとしたら、トラブルのもとになりますし、時にはもちろんカルマになるのです。

Q マスターはコップの中の水と海水は同じだけれど、エゴがコップの中の水と海水を離して

いるとおっしゃいましたが、メデイテーションをするということは、コップの底に穴を開け、コップの中の水と海水が互いに混ざり合うことなのでしょうか。

M それは印心するという意味です。そうですね。印心によつて通路を開ければ、水は絶えず流れ込んだり、流れ出たりできます。それで、コップの中の水は海水で、海水はつまりコップの中の水なのです。毎日メデイテーションすれば、コップの水は絶えず流れ出たり、流れ込んだりして新鮮です。ですからコップの水は腐ることはないのです。

Q どのようにメデイテーションすべきですか。

M 好きなようにして構いません。もしわからなければ、印心に来てくださればお教えします。いいですか。実際、みなさんはどんな質問も私に聞く必要はないのです。というのは、多くの回答を得られても、それが何の役に立つのですか。一番いいのは悟りを開くことです。その後すべての回答がわかります。あるいは、どんな回答も全く必要ない境界（きようがい）に到達できるのです。その時、いろいろな好奇心や何でも知りたいたいという願望から自分自身を永遠に解放することができます。その時すべてのことを知ります。必要なことは何でもたちまち知り、必要がないことも知ります。ただし、内面においてなので、私たちはそれを使うことがないのです。わかりますか。

Q 主人はひどい皮膚病にかかってもう八年経ちます。私は彼をとて愛していて、多くの方法を試みました。医者に診てもらったり、薬、宗教、メデイーションをしたりしました。彼の病気の治癒を望んでいます。彼を見るたびに涙がこぼれてきます。さらに困ったことに、私はこのように悲しい時、別の男性を思い始めてしまいました。私はひどい人間であり、忠実な人間ではないのでしょうか。どうしたら自分の心と悲しみを治せますか。

M いいえ。あなたが悪いのではなくて、状況が良くないのです。病気になったら、まずはそれを受け入れましょう。そして次にそれを治療する方法を考えましょう。きつと治療方法はあらずです。最も重要なのは、最高のパワーに助けられるように祈らなければならないことです。けれども、ただ祈るだけではなく、深く祈りましょう。時には病気は過去のカルマ、過去の行為の報いだからです。私たちは過去に間違つたことをしたり、他人の容貌について何か言つて傷つけたりしました。ですから、今、この結果を受け取らなければならないのです。けれども、しばらく経つてカルマが消えると状況は好転し始めます。皮膚病を治療する方法はたくさんあります。私は非常にひどい皮膚病の人をたくさん見てきましたが、治療方法はあります。あなたはまだ良い治療法を見つけていないかもしれないので、もっとたくさん方法を探さなければなりません。もしくは、ご主人に自分でメデイーションをするか、自分自身で祈るよう

に伝えてください。

私は印心によってあなたやご主人の病気が治るとは保証できません。私は物質的なことで私たちの団体に人々を引き付けて勧誘したくないからです。そうしてもあなたを解脱させることはできないからです。すべてを与えてくれる神を求めると、私たちはまだ物質に執着しているからです。いったん、本当に神を求めれば、神は与えてくれるでしょう。物質だけを望むなら神は与えることもありますが、そうでないこともあります。それが問題なのです。

インドにこういう物語があります。自分のものをすべて国民にあげるのが好きな国王がいました。彼は宝物を全部並べて、みんなに何でも好きなものを持って行っていいと言いました。人々はダイヤモンド、黄金、秘蔵の宝物、骨董の杯などをもらって喜んで家に帰りました。一人の少女だけは何も望まずに、まっすぐ国王の方に歩いて行き、「あなたも贈り物ですか。(笑い) 私はこの贈り物だけが欲しいのです」と言いました。もちろん、国王は大変驚き、そして幸せでした。彼が与えたものでなく、自分のために自分を望んでくれる人がいたことが。国王はもちろん彼女と結婚しました。こうするとすべては彼女のものになりますね。違いますか。(笑い) そうですね。(拍手) このような話をご存じですか。他にも証明できる物語があります。

シヴァ神の物語ですが、みなさんはシヴァ神をご存じですか。ところで、シヴァ神はここにいますか。(マスターが後ろを見る) ええ、そうです。あの半月と三叉ほこが彼の印ですね。

シヴァは過去のマスターの一人です。破壊の神と思われていますが、実は否定のパワーを破壊

するのであつて、人々を破壊するではありません。ある人々は誤解して、彼が破壊するのを恐れて、絶えず果物やケーキを彼に供えるのです。(マスター笑う) 彼は以前ヒマラヤで深くメデイテーションをして、決して目覚めることがありませんでした。ずっと。彼をかき乱すものは何もありませんでした。これはインドの伝説です。本当かどうかわかりませんが、私はただこの物語によって神のパワーについてお話ししています。

彼はずっとヒマラヤで深くメデイテーションをして、決して動くことがありませんでした。けれども、天上の神たちは彼に奥さんがいないので血統を継ぐことができず、彼のような神聖かつ純潔な血統を伝承できないことを非常に心配していました。というのは、彼は非常に神聖だったので、神たちは彼のような後継者を望んでいました。ですから、天上の神たちはとてもきれいなパールヴァティーという名前の一人の仙女を遣しました。彼女は美しく、その姿はすべての男性を虜にするほどでした。けれども、彼女はシヴァを動揺させることはできませんでした。彼女は彼のそばで踊ったり、できる限りいろいろなことをやってみましたが、彼はメデイテーションから覚めず、かき乱されることはありませんでした。とうとう、彼女は飽き飽きして反対側の山に行きました。より遠い山を選びメデイテーションをすることにしたのです。彼女はこう言いました。「こんなことは、全く無意味なことだわ。私は神を思つてメデイテーションし、解脱して恒久の喜びを得ることにしましょう。感情がなく、つまらない石のような男

性を追い回すより、そのほうがずっとましだわ。(笑い) それに、私はこんなにきれいなのに、彼はびくともしないんだから」

彼女はうんざりして、いらいらして、怒ってカイラス山に行きました。この山は最も有名で、インドの信仰よると最も神聖な山です。その山は非常に高く、近くにはマンサルア湖というきれいな湖がありました。彼女はここにとどまり、メデイテーションをして、しばらくすると至福の境界(きょうがい)を得ました。突然、シヴァは深いメデイテーションの中で自分をかき乱す何かを感じました。ある非常に強い女性のエネルギーが彼をかき乱したのです。かき乱したのではないのですが、かき乱したのかもしれない。むしろ彼にとっては心地よく感じ、また少し興奮しました。彼は第三の目を開いてちらつと見てみました。「わあ、あそこに美人がいるぞ」。それがロマンスの始まりでした。後はおわかりですね。これはつまりメデイテーションのパワー、神のパワーなのです。神さえも動かすことができます。わかりますか。最も禁欲的なヨガでさえ興奮させるのです。(マスター笑う) ええ、みなさんが夫を手に入れたいと思つたら、これはよいアドバイスになるかもしれないですね。(笑い) 実際、望まなくても得られるのです。

パールヴァティーは彼を誘惑するためにあらゆる努力をしましたが、うまくいきませんでした。それは、彼女がエゴや所有欲、世俗的な考えなどの限られたパワーでそうしたからです。

けれども、彼女が神聖になると、彼女の魅力は別物になります。なぜでしょう。シヴァの振動力は非常に神聖で、彼のレベルはとても高いからです。彼女が世俗的な振動力とエネルギーでシヴァを誘惑しても、彼は下りて来られるでしょうか。わかりますか。相手を引き付けたければ、少なくともその人と同等にならなければなりません。

実際はこういうことです。以前は魅力がなくても、印心後、しばらくメデイテーションすると、突然魅力的になる人がたくさんいます。ご存じのように、肉体的な魅力とは限らないのですが、人々は引き付けられます。ただ好きになって近づきたくなります。これはあなたの振動力、つまり、あなたの内面にある神の愛のエネルギーによるものです。あなたはそれを隠すことはできません。それが放出されて磁石のように人を引き付けます。なぜなら、彼らに内在する魂もまた神のようなものだからです。ですから、人々がマスターに引き付けられるように、彼らはあなたに引き付けられます。けれども、それは「つえ」というわけではありません。それは「高等な本性」に引き付けられる「本性」なのです。しばらく経つと、彼らはそれら二つのものが一体であるとわかります。ですから、いったい、つえを持つ人はいるのでしょうか。誰かに頼る人はいるのでしょうか。ですから、これは実際、「マスターと宗教はつえである」という質問に対する回答にもなるでしょう。状況によります。よろしいですか。それではお昼にしましょう。(拍手)

印心—観音法門

スプリームマスターチンハイは真理を知りたいと心から望む誠実な人々に、印心を通して観音法門を伝授しています。中国語の「観音」とは音の振動を観るという意味で、この法門には内在の「光」と「音」の双方を観ることが含まれています。こうした内なる体験は、古代より世界中のさまざまな宗教的文献やスピリチュアルな文献に何度も述べられてきました。

聖書には「初めに言(ことば)があつた。言(ことば)は神と共にあつた。言(ことば)は神であつた」(ヨハネ1:1)と記されています。この言(ことば)が内在の音であり、ロゴス、シャブド、タオ、音流、ナム、あるいは天上の音楽などとも呼ばれています。マスターチンハイは「それはすべての命あるものの中で振動し、宇宙全体を支えているものです。この内なる旋律はあらゆる傷を癒し、あらゆる望みを満たし、あらゆる世俗の渇きを癒すことができます。それは非常に全能であり、愛そのものです。なぜなら、私たちはこの音から創られているので、交流すると心に平安と満足感をもたらされるのです。この音を聞くと、私たち個人のすべてが変わり、人生観が大きく変わります」と述べています。

内在の光と神の光とは、「悟り」という言葉で呼ばれる同じ光を指しています。その光の強さ

は、かすかな光から何百万個の太陽の輝きにも及ぶものです。内在の光と音を通して、私たちは神を認識するのです。

観音法門の印心は秘密の儀式とか、新しい宗教に入るための式典といったものではありません。印心の間に内在の光と内在の音のメデイテーション（座禅）について特別な注意事項が指示されません。そしてマスターチンハイがスピリチュアルな伝達をします。この最初の神聖な体験は沈黙の内に行われます。あなたのためにこのドアを開けるのにマスターチンハイがその場にいる必要はありません。このスピリチュアルな伝達は法門にとって欠くことのできない重要な部分です。マスターの恩恵なくして、方法それ自体何ら利益をもたらすものではありません。

印心の最中に即座に内在の音を聞くことができたり、内在の光を見ることができたりするため、「即刻開悟」と呼ばれます。

マスターチンハイは、さまざまな背景や宗教を持つ人の印心も受け入れます。現在信じている宗教を変える必要もなければ、信仰を変える必要もありません。組織に入ることを要請されることも、現在の生活にそぐわない方法で活動するよう求められることもありません。

しかしながら、ビーガン（完全菜食）になることが求められます。生涯を通してビーガンを貫くことが、印心を受けるために必要な条件なのです。

印心は無料で提供されます。

印心を受けたあとで課せられることは、毎日觀音法門のメデイテーション（座禪）をするこ
とと五つの指針を守ることだけです。指針とは、あなた自身と他のあらゆる生き物も傷つけない
ようにするための指標となるものです。こうした実行が最初の悟りの体験をより深く、より
強くしていくことでしょう。そして、結局は、あなた自身が最も高い悟りのレベルに、また神
性に達するのです。日々の修行を怠ると、悟ったことをまったく忘れてしまい、普通の意識レ
ベルに戻ってしまいます。

マスターチンハイの目的は、私たちに自力で成し遂げることを教えることです。ですから、
私たち誰もが自分でできる法門を教えているのです。何の小道具も、装置もありません。マス
ターチンハイは追隨者や崇拜者、弟子を求めているわけではありません。会費制の組織でもあ
りません。お金や贈り物を受け取らず、礼拝されることも望みません。そうしたことをする必
要はまったくありません。

マスターチンハイはあなたの日々の生活においての誠実さと、聖人へと向上したいというメ
デイテーション（座禪）の修行の誠実さだけを受け入れるのです。

五つの指針

- 一 殺生をしない
ビーガン（完全菜食）を守ること。肉類、乳製品、魚介類、家禽類
- 二 嘘をつかない
卵（有精卵、無精卵も）は食べてはいけない。
- 三 盗みをしない
- 四 邪淫をしない
- 五 酒を飲まない
酒類、麻薬、タバコ、ギャンブル、ポルノ、過度の暴力映画や書物、
テレビゲームなど、心身に悪影響を与えるものは用いないこと。

出版物の紹介

日々の生活において、私たちの霊性の上昇と靈感を得るために、スプリームマスター チンハイの教理の貴重な出版物を、書籍、ビデオテープ、音楽カセット、DVD、MP3、CDとして入手できます。

出版されている書籍、テープに加えて、インターネットで多種多様なマスターの教理に、無料でアクセスできます。例えば、いくつかのウェブサイトでは、頻繁に発行されているニュースマガジンを紹介しています。(下記の「観音ウェブサイト」をご覧ください) 他のオンライン出版物はマスターの詩、霊性を鼓舞させる甘露法語、ビデオ、オーディオの講義もあります。

更に広く、出版物が供給されていて、現在インターネットから入手できます。マスターの紹介の小冊子「即刻開悟の鍵」(80カ国語以上)です。どうぞ、下記のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sb.godsdirectcontact.net/> (Formosa) (U.S.A.)

<http://www.direkter-kontakt-mit-gott.org/download>(Austria)

書 籍

即刻開悟の鍵 スプリームマスター チンハイの講演集

オウラック語 (1~15巻) 中国語 (1~10巻) 韓国語 (1~11巻) タイ語 (1~6巻)
英語 (1~5巻) インドネシア語 (1~5巻) 日本語 (1~4巻) スペイン語 (1~3巻)
モンゴル語 (1,6巻) ドイツ語 ポルトガル語 ポーランド語 フランス語 (1~2巻)
ハンガリー語 チベット語 スウェーデン語 フィンランド語 (各1巻)

即刻開悟の鍵 問答集 スプリームマスター チンハイの問答による講演集

オウラック語 韓国語 (1~4巻) 中国語 インドネシア語 (1~3巻)
英語 (1~2巻) 日本語 フランス語 ドイツ語 ポルトガル語 ポーランド語
ロシア語 ブルガリア語 チェコ語 ハンガリー語 (各1巻)

即刻開悟の鍵 特別編 1993年 世界講演ツアー

1993年スプリームマスター チンハイ世界講演ツアーの講演集 全6巻

英語 中国語 (各1~6巻)

即刻開悟の鍵 特別編 禅七 1992年フォルモサ三地門、禅七での講演集

英語 オウラック語

即刻開悟の鍵 マスターと弟子の往復書簡

中国語 (1~3巻) オウラック語 (1~2巻) 英語 スペイン語 (各1巻)

即刻開悟の鍵 神奇感應 中国語 オウラック語 (1~2巻)

マスターが話す「物語」

中国語 英語 オウラック語 日本語 韓国語 スペイン語 タイ語

生命を彩るために 靈性の教理精選集

中国語 英語 オウラック語

神はすべての面倒を見る スプリームマスターチンハイによる智慧の漫画集

オウラック語 中国語 英語 日本語 フランス語 韓国語

光輪がきつすぎる！ スプリームマスターチンハイ 悟りの笑い話集 CD付

中国語/英語

気軽に修行する秘訣 中国語 英語 オウラック語

平和への道 神と直接つながる

1999年スプリームマスター チンハイ ヨーロッパ講演ツアー講演集 英語中国語

神と人間と 聖書物語からの洞察

この特別な選集は、様々な機会にマスターが話された13話の聖書物語が含まれている

中国語 英語

健康を理解するー自然な正しい生き方に戻る

英語 中国語

I Have Come To Take You Home マスターの特別な講義の引用集

英語 ドイツ語 ポーランド語 韓国語 オウラック語 イタリア語 ハンガリー語
インドネシア語 ブルガリア語 フランス語 チェコ語 トルコ語 スペイン語 中国語
ギリシャ語 アラビア語 ルーマニア語 ロシア語 モンゴル語

甘露法語1 マスターによる永遠の智慧の宝石

中国語／英語 韓国語／英語 日本語／英語 ドイツ語／フランス語
スペイン語／ポルトガル語

甘露法語2 マスターによる永遠の智慧の宝石

中国語／英語

スプリームキッチン1 世界のベジタリアン料理集

英語／中国語 日本語訳(別冊) オウラック語

スプリームキッチン2 家庭料理集 英語／中国語

音楽を通して、平和な一つの世界を ロサンゼルスでの慈善コンサートの

インタビューとミュージカル作品集 中国語／英語／オウラック語

スプリームマスター チンハイ 芸術創作集 中国語／英語

セレスチャルクローズ集(6) 英語／中国語(1~6巻)

ドッグ イン マイライフ1, 2

マスターが彼女の犬の仲間について愉快的な実生活を出版 2冊の本は500ページ
オウラック語 英語 中国語 日本語 韓国語 スペイン語 ポーランド語 ドイツ語

バード イン マイライフ

美しいイラスト集 マスターは動物の霊性世界を開かせる秘密を示す

英語 中国語 オウラック語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語 ロシア語
インドネシア語 アラビア語

気高い野生動物

マスター自ら愛情込めて撮影した写真によって構成 美しい詩、素晴らしい写真が
満載 奥深い記録物語の中で彼女の湖畔探索を話し、動物の友が生まれ持つ気高
い品性について啓示

英語 中国語 オウラック語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語

セレスチャルアート

セレスチャルアートは作者が真実と徳、天上の美を反映するため、スピリチュア
ルな視点から芸術創作を解き明した卓越した作品集です 読者はスプリームマ
スターチンハイによるアートの無限の世界へと招待され、神の共鳴を通して引き上

げられます詩人としての奥深い感情、画家としての精妙な筆使い、デザイナーとしての独自のアイディア、そして音楽家としてのロマンチックな心に、深い感銘を受けます。何にもまして靈性の師としての智慧と慈悲心とを祝福と共に知るでしょう 中国語／英語

危機から平和へ

オウラック語 中国語 英語 オランダ語 韓国語 フランス語 ハンガリー語 インドネシア語 日本語 ノールウェイ語 スペイン語 スウェーデン語 タイ語 ポルトガル語ポーランド語 ロシア語 ルーマニア語

Thoughts on Life and Consciousness

Dr. Janez 著 中国語

The Real Love

英語／中国語

詩 集

<書 籍>

沈黙の涙 マスター著作の詩集

ドイツ語／フランス語 中国語／英語 オウラック語 英語 スペイン語 ポルトガル語 韓国語 フィリピン語

無子詩 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

胡蝶の夢 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

過去の足跡 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

懐かしき日々 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

Pebble and Gold マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

失われた思い出 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

世紀を超えた愛の人 マスター著作の詩集

オウラック語 中国語 英語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語 スペイン語

真実の愛 中国語 英語 MP3

沈黙の涙・珍重版 中国語 英語 MP3 MP4

<CD&DVD>

時空を超えて(オウラック語の歌唱) MP3 MP4

A Touch of Fragrance (著名な歌手によるオウラック語の歌唱) MP3

That and This Day(オウラック語の朗読) MP3

夜の夢(オウラック語の歌唱) MP3 MP4

T-C-L Please(オウラック語の歌唱) MP3

Please keep Forever(オウラック語の朗読) MP3

スプリームマスターチンハイ 歌曲集 英語 オウラック語 中国語 MP3

愛の歌 (名曲を英語で歌唱 オウラック語創作歌曲を歌唱) MP4

珠玉の詩 (著名なオウラック語の詩から オウラック語の朗読) MP3 MP4(1&2)

黄金の蓮 (オウラック語の朗読) MP3 MP4

スプリームマスター チンハイの美声を通して、Thich Man Giacの美しい詩の世界に誘う 黄金の蓮、さよならの2曲を朗読

Ancient Love (オウラック語の朗読) MP3 MP4

過去の足跡 (オウラック語の朗読) MP3(1, 2 &3) MP4 DVD (17 カ国語字幕)

A Path to Love Legends (著名なオウラックの詩 オウラック語の朗読)
MP3 (1, 2 &3)

*A Path to Love Legends、Ancient Love、時空を超えて、夜の夢、Please keep Forever、That and This Day、過去の足跡、珠玉の詩、黄金の蓮、T-C-L Pleaseは、彼女自身曲をつけ、歌唱している

音楽カセットテープ&CD

マスターから私たちへの音楽の贈り物は、琴、琵琶などの伝統楽器で演奏された、仏讃、詩、オリジナル曲が含まれます。多くの音楽曲や講義はカセットテープやCD共に入手できます

仏讃 CD1、2、3(メディテーション 仏讃)

Holy Chanting Hallelujah

マスターの作曲による作品集 CD1 -9 オリジナル曲はdulcimer ハープ、
ピアノ、中国琴、電子ピアノなどで演奏されています

私たちへの連絡方法

スプリームマスター チンハイ インターナショナルアソシエーション

中華民国 36899 苗栗西湖郵政九號信箱

P.O.Box730247, San Jose, CA95173-0247, U.S.A

スプリームマスターテレビジョン

E メール: Peace@SupremeMasterTV.com

Tel: 1-626-444-4385 / Fax: 1-626-444-4386

書籍部

E メール: divine@Godsdirectcontact.org

マスターの出版物を各国言語に翻訳してくださる方を大歓迎いたします

ニュースグループ

E メール: lovenews@Godsdirectcontact.org

S.M. セレスチャル社

E メール: smclothes123@gmail.com; vegan999@hotmail.com

Tel: 886-3-4601391 / Fax: 886-3-4602857

<http://www.smcelestial.com> <http://www.sm-celestial.com>

スピリチュアルインフォメーションデスク

E メール: lovewish@Godsdirectcontact.org Fax: 886-946-730699

スプリームマスター チンハイ インターナショナルアソシエーション出版社

フォルモサ・台北

E メール: smchbooks@Godsdirectcontact.org

Tel: 886-2-23759688 / Fax: 886-2-23757689

<http://www.smchbooks.com>

オンラインショップ

Celestial Shop: <http://www.theCelestialShop.com>

Eden Rules: <http://www.EdenRules.com>

ラビングハット インターナショナルカンパニー

Tel: 886-2-2239-4556 / Fax: 886-2-2239-5210

Eメール: peace@lovinghut.com

<http://www.lovinghut.com/tw/>

観音Webサイト

神と直接繋がる…スプリームマスター チンハイI.A.の観音Webサイトにリンクしてください

<http://www.godsdirectcontact.org.tw/eng/links.htm>

こちらから各国語の観音Webサイトにアクセスできます。また24時間放送のネットTV「SMTV」「芸術と霊性」などの番組をご覧いただけます。各国語の「即刻開悟の鍵」小冊子のダウンロード、「ニュースマガジン」の購読、電子版をダウンロードができます。ライン上で閲覧もできます。

スプリームマスターテレビジョン

スプリームマスターTVは主にポジティブな番組を放映するチャンネルで、新しい霊的視野を提供し、あなたの人生を充実させます。24時間放送の「スプリームマスターTV」は次のWEBサイトをご覧ください。

<http://www.suprememastertv.com>

《即刻開悟の鍵》各国語の小冊子 無料ダウンロードサイト (80カ国語)

<http://sb.Godsdirectcontact.net>

<http://www.direkter-kontakt-mit-gott.org/booklet>

即刻開悟の鍵 4

作 者 スプリームマスター チンハイ
翻 訳 日本翻訳グループ
出 版 社 スプリームマスター チンハイ
インターナショナル アソシエーション出版社
住 所 福爾摩沙台北市中正區忠孝路一段 72 號 8 樓16
(郵便番号 100)
初 版 2004 年 12 月
第 2 版 2016 年 7 月 (ebook)

The Supreme Master Ching Hai ©2007~2016

著作権者 スプリームマスター チンハイ

ISBN 4-902276-05-4

* 出版社の同意の上、本書の内容の転載は歓迎します



9784902276053

ISBN4-902276-05-4

C0010 ¥2000E



1920010020005

私たちスプリームマスター チンハイに学ぶ者は、究極の真理を探究するなかで、苦難を経験してきました。ですから、私たちはもともと内在している智慧を目覚めさせ、この真理を認識させる最高の法門を教えしてくれる、完全に開悟した在世のマスターをみつけることが、どれほど困難でまれなことを理解しています。そして、この法門は古代よりあらゆる真のマスターたちによって教えられてきたのです。この法門を実行することで、深い利益が得られることを体験してきた私たちは、一世での魂の永遠の解脱を心から望んでいる真の探究者や、人生や生死、精神修行や真理に関するさまざまな疑問の答えを見いだそうとしている人々の手助けとなるよう、スプリームマスター チンハイが世界各国で行った講演集をここに贈ります。